

14.2
96



始



大正八年十一月

大正七年度事業報告

第十七卷第壹册

高知縣水產試驗場

142-96

第一章 鯉漁場探檢並海洋觀測……………一頁

一、趣旨

二、經過

三、結果

四、日誌

第二章 鮪漁場探檢並海洋觀測……………五頁

一、趣旨

二、經過

三、成績

四、日誌

第三章 海洋觀測……………三頁

一、趣旨

二、經過

三、方法

四、結果

目次

I、氣象狀態

II、水溫

(一) 分布狀態

(二) 水溫示度ノ變化

(三) A B C D E F 点ニ於ケル水溫ノ變化

III、比重

(一) 分布狀態

(二) 比重示數ノ變化

(三) A B C D E F 点ニ於ケル水溫ノ變化

III、浮游生物

第四章 漁況通信……………五頁

一、趣旨

二、方法

三、漁況

鯉漁況

大正 9. 6. 17 内交

第五節 鮪漁況
第五章 珊瑚新礁探檢……………壹頁

- 一、趣 旨
- 二、經 過
- 三、探檢方法
- 四、結 果

第六章 立切網鯧蓄養試驗……………七頁

- 一、趣 旨
- 二、鯧蓄養池ノ状態
- 三、設 備
- 四、各年度試驗ノ概況
- 五、立切網耐久力試驗
- 六、蓄養材料ノ購入並放養
- 七、飼 養
- 八、沖合ニ於ケル立切網蓄養鯧ノ耐久力試驗
- 九、蓄養鯧ノ供給
- 一〇、放養後ノ減耗
- 一一、結 論

第七章 有用海藻蕃殖指導……………二頁

- 一、趣 旨
- 二、指導方法
 - (一) 石花菜蕃殖法指導
 - (二) 海羅蕃殖法指導



大正七年度事業報告 第十七卷 第一冊

第一章 鯧漁場探檢並ニ海洋觀測

一、趣 旨

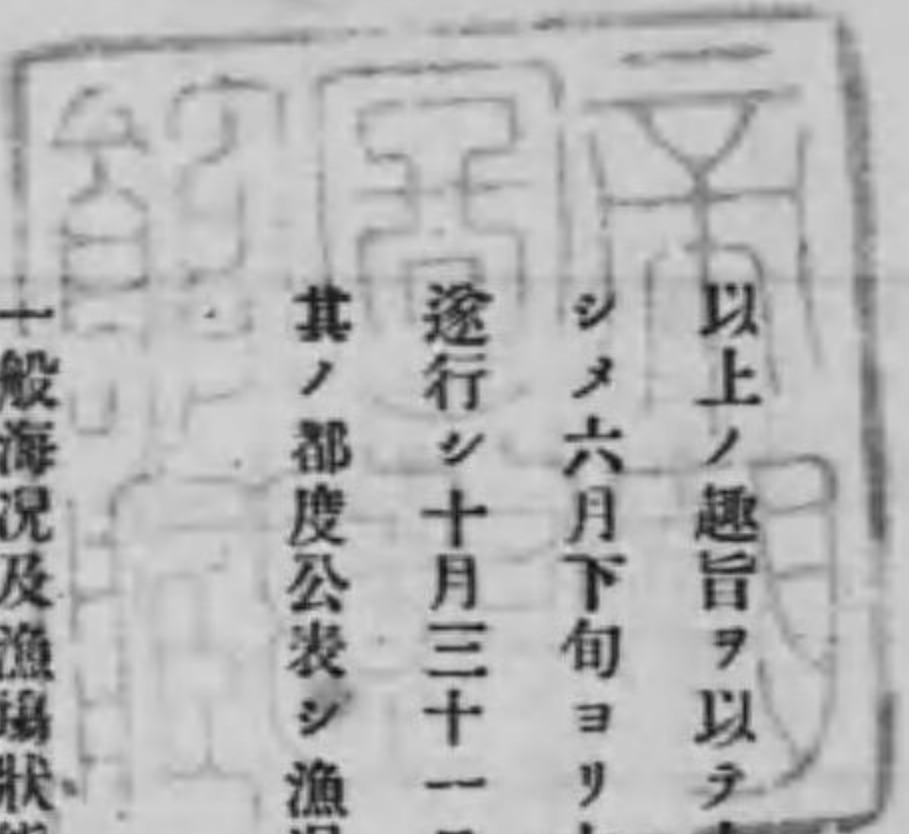
本場所屬漁船高鵬丸ヲ以テ廣ク本縣海洋ノ狀況ヲ調査シ、鯧群ヲ搜索シ竿釣ヲ試ミ群ノ大小、餌付ノ良否一般漁場ノ趨勢並ニ最適漁場ヲ指示シテ當業者ニ通報シ縣下鯧漁業者ヲ誘導シテ漁業ヲ適切ニ遂行セシムトスルニアリ

二、經 過

以上ノ趣旨ヲ以テ大正七年四月十九日ヲ以テ着手シ六月二十五日マテハ本場漁船高鵬丸ヲ引續キ本縣沖合ニ出動セシメ六月下旬ヨリ七月上旬、八月上旬、九月七旬ヨリ中旬ニ亘リ約一週間ノ豫定ヲ以テ高鵬丸ヲ出動セシメ以テ事業ヲ遂行シ十月三十一日鯧漁期ノ終ラムトスルト共ニ終了セリ此間本事業ノ爲海洋觀測ヲ行フコト五回ニ及ヘリ其ノ結果ハ其ノ都度公表シ漁況報告編集ノ準據トセリ

三、結 果

一般海況及漁場状態ヲ調査觀測シ尙魚族去來集散ノ關係ヲ究メ以テ其都度或ハ漁場探檢并漁況報告トナシ或ハ海洋觀測并ニ漁況報告トナシ或ハ至急ヲ要スル場合ハ符字電報通信報告ニ依リ縣下各當業者并ニ主要漁村ニ周知セシメ鯧釣漁業者ヲシテ縣下全般ノ鯧漁況及海洋状態ノ變化ニ伴フ關係トヲ知悉セシメ頗ル良好ノ效果ヲ舉ケ當業者ヲシテ常ニ高鵬丸ノ出動スルヤ其ノ歸還報告ヲ鶴首相待ツノ状態ニ在ラシメタリ如斯縣下沖合ノ海洋状態ノ變化ト鯧鮓等重要魚族ノ去來集散ノ關係ヲ益々開明スルニ於テハ數年ナラヌシテ漁況ノ豫報ヲ爲シ得ヘキヲ信セラル果シテ然ルノ曉ハ現在ノ偶然的漁業ハ化シテ必然的漁業ト進ミ當業者カ事業經營上享受スヘキ福利ヤ蓋シ甚大ナルモノナルヤ明ナリ



四、鯉魚場探檢並ニ海洋觀測日誌

高 鵬 丸

自四月十九日
至十月三十一日

二

月日	天候	漁場	漁具	漁具 使用回数	海面 温度	比重 測定	比重	潮流 速度方向	餌料ノ 種類	漁獲 水深	漁獲 種類	漁獲 數量	平均 重量	價額	摘 要
四月十九日															本事業施行ノ準備ニ着手ス
廿一日	B.C. 1														午后一時海洋觀測ノ爲出帆ス 午后二時上ノ加江港ニ到着シ碇泊ス 午前十時上ノ加江ヲ出帆シ海洋觀測ニ從事セシニ午後五時五十分ニ至リ天候危急トナリシカハ清水港ニ向ヒ七時三十分全港ニ投錨ス
廿二日	R 2														荒天休港
廿三日	C 2														荒天休港
廿四日	B 1														午前六時三十分清水港ヲ出帆シ海洋觀測ニ從事ス
廿五日	C 1														午前八時西郡沖合ノ觀測ヲ了セシニ再ヒ天候不穩トナリシカハ全十時清水港ニ入ル
廿六日	R 2														荒天休航

月日	天候	漁場	漁具	漁具 使用回数	海面 温度	比重 測定	比重	潮流 速度方向	餌料ノ 種類	漁獲 水深	漁獲 種類	漁獲 數量	平均 重量	價額	摘 要
五月一日															全上
廿七日	B.C. 2														午前六時三十分出帆足摺崎沖合ニ向フ 午前六時五十分足摺崎南沖合八十哩ノ地点ニ達シ觀測中採水器捲揚器破損シ巴ムナク須崎ニ向フ
廿八日	C 1														途中觀測ヲナシツテ午後零時三十五分須崎港ニ歸還ス
廿九日															須崎港碇泊
卅一日															全上
五月二日															全上
三日															全上
四日															全上
五日															全上
六日	B.C. 1														午後七時須出港出帆野見港ニ於テ餌料ノ積ミ込ミヲナシ全十時野見港出帆探檢ニ向フ

三

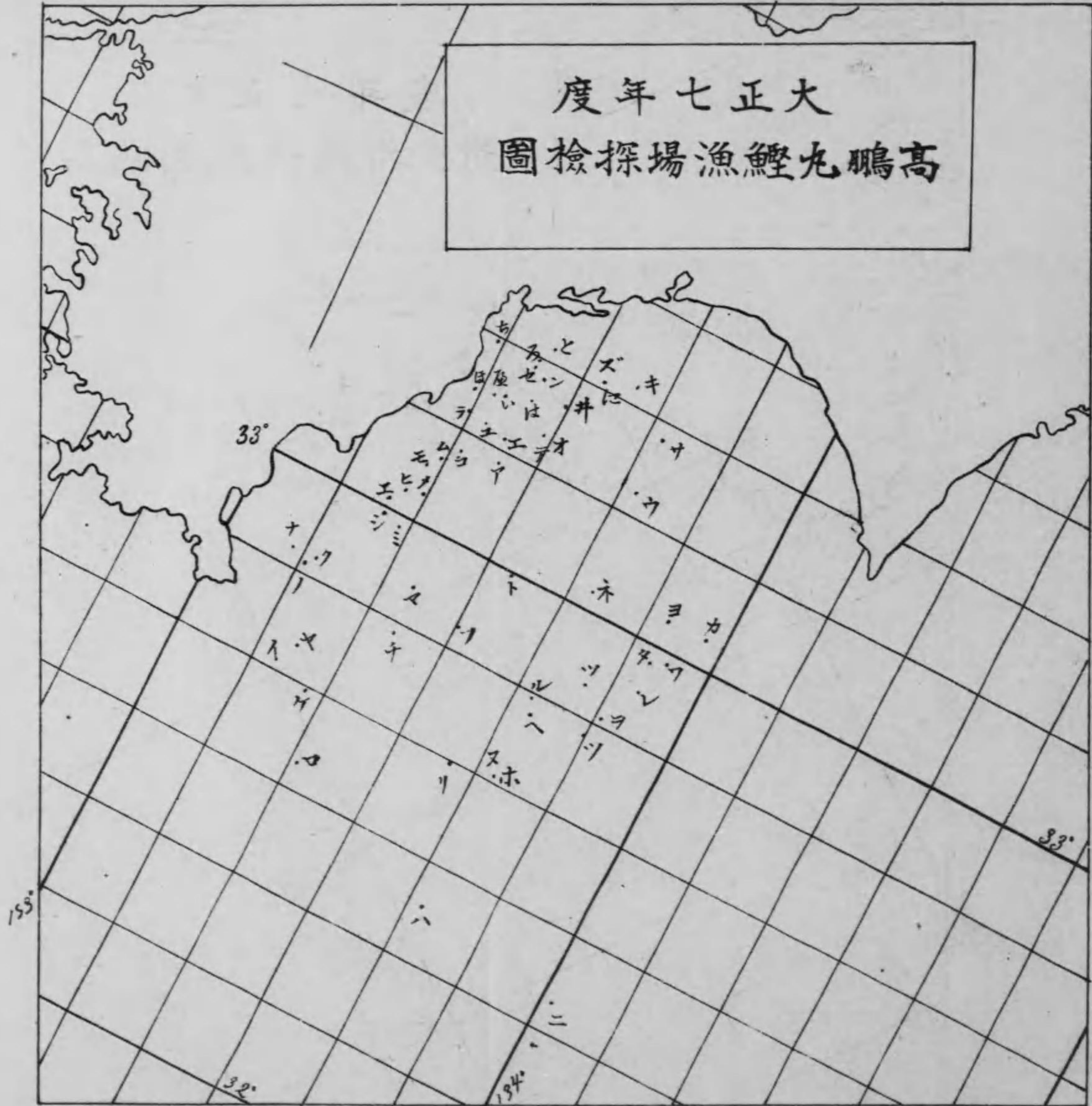
十六日	十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日	七日
	C.R 0	C		R.D 2	R 2				BC 1
	ユキサア	テ エ		コフケ	マナク				ノオ
	NOON P.M.1-00	A.M.5-30 A.M.7-00							A.M.5-00 A.M.6-00
	1	1		1					1
	21.5			22.0 22.3 21.9	22.1				22.3 23.0
	21.5	21.5							26.7 27.3
	21.8 18.2	21.7		22.6 22.9	22.8				23.25 23.00
	23.5 23.846	24.0		24.30 24.95 24.63	24.1				
	全	さびな 表層		さびな 表層	さびな				さびな 表層
	全	かつた		かつた					かつた
	二四	二四		一八尾					一六三
	七五 九、六四	八〇 八七〇 八七〇		五〇 一三、七〇					? 一三、六〇
須崎港碇泊	午前三時出帆正午十二時「ユ」ノ位置ニ於テ歸還ス	午前四時出帆五時三十分漁場ニ達ス全七時約獲ヲ終全八時三十分須崎港ニ歸着ス	須崎港碇泊	午前三時三十分出帆「ケ」ノ位置ニ於テ「ニ」位置ニテ釣獲シ須崎港ニ歸ル	午前一時二十分須崎港ヲ出帆途中「カ」ノ位置ニ於テ「ニ」位置ニ會スルモ餌ニ付カス午後一時西風ニ雨ヲ伴ヒ釣獲ノ見込ナキヲ以テ全四時三十分下ノ加江港外ニ碇泊ス	全上	全上	須崎港碇泊	午前零時四十分須崎港出帆全五時「ラ」ノ位置ニ於テ「ニ」位置ニ會シ之ヲ釣獲シ午後二時二十分須崎港ニ歸還ス

六日	五日	四日	三日	二日	一日	六月	卅一日	卅日	廿九日	廿八日
		日 C 1	日 C.O 0	日	日	日	日 R 2	日 B 1		
		# A ナ ウ ラ								
		P.M.0-30 P.M.1-00								
		1								
		21.8								
		17.9								
		26.1								
		さびな 表層								
		かつた 鋪子								
		七尾 六								
		? 六八、八七〇 五、五〇〇								
全上	須崎港碇泊	午前四時十五分船員病氣ノ爲須崎港ニ轉針シ九時歸着シ全九時三十分須崎港方沖合ノ漁場ニ向テ午後零時三十分「ナ」ノ位置ニ於テ「ニ」位置ニ會シ之ヲ釣獲ス其他魚群ヲ索クセントモアラヌ午後九時須崎港ニ歸還ス	午後十一時三十分漁場探検ノ爲足摺崎沖合ニ向テ出帆ス	全上	須崎港碇泊	午後九時十五分須崎港出帆餌料積取ノ爲龍港ニ向テ午前零時三十分龍港ニ碇泊ス	天候危急トナリ「ナ」ヲ以テ午後一時龍港ヲ出帆シ須崎港ニ避難ノ爲歸還ス	全上	全上	

二十九日	二十八日	二十七日	廿六日	十日	九日	八日	七日	六日	五日
					日 C 1	日 C.O.R.U 2	日 B 1	日 B 1	日 B.C. 2
全上	全上	須崎港碇泊	本日ヲ以テ珊瑚新礁探検事業ヲ終了ス	本日ヨリ再ヒ珊瑚新礁探検ニ従事ス	全上	全上	全上	荒天休航	午後三時四十分西部方面ヲ了スルヤ海上怒濤アリテ船体動搖甚シク遊離ノ爲清水港ニ向テ午後六時入港投錨ス

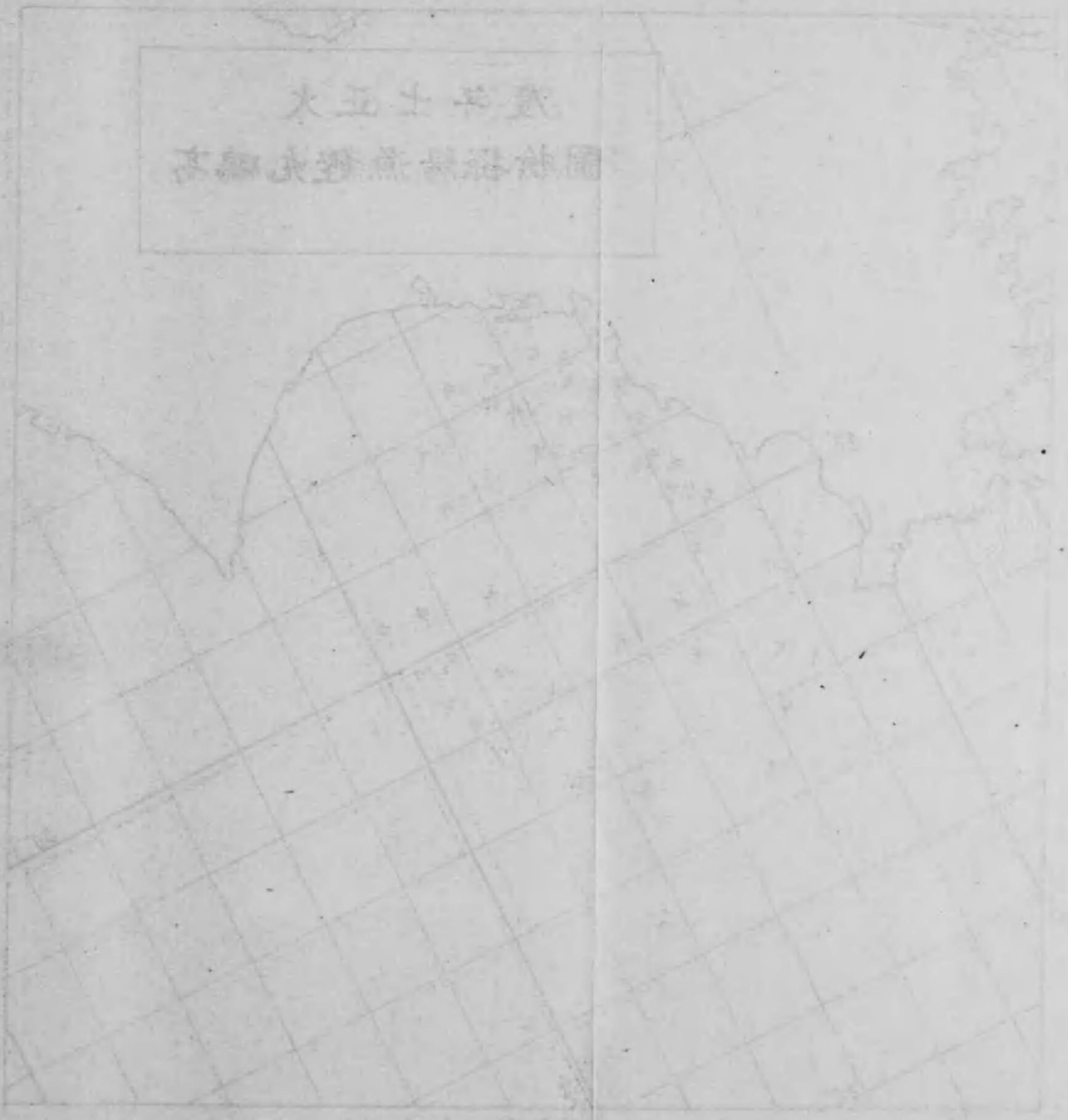
四日	三日	二日	一月	八月	卅一日	十三日	十二日	十一日	十日	九日	八日
日 B.F. 1											
海洋観測ノ爲午前八時十分出帆足摺崎沖ヨリ幡多郡西部沖合ニ向テ	全上	荒天休航	須崎港碇泊海洋観測ノ準備ヲナス	事業施行ノ關係上本日ヲ以テ珊瑚新礁探検ヲ一時中止ス	本日ヨリ珊瑚新礁探検ニ着手シ該事業ノ準備ヲナス	全上	全上	全上	全上	全上	須崎港碇泊

大正七年
高鵬丸鯉魚場探檢圖



日	二十九日	二十八日	二十七日	二十六日	二十五日	二十四日	二十三日	二十二日	二十一日
全上	全上	全上	潮江港碇泊	機關特別検査及船体定期検査ノ爲午前九時三十分須崎港發浦戸潮江ニ向ヒ午後一十五分着	全上	全上	全上	全上	須崎港碇泊

(附記) 十月七日須崎港ニ歸還シ爾後十月中須崎港ニ碇泊ス



第二章 鮪漁場探検並海洋観測

一、趣旨

漁船高鵬丸ヲ本縣下沖合ニ出漁セシメ鮪漁場探検ヲナシツ、海洋観測ヲ行ハシメ其結果ト一般漁況トニヨリ海況ト漁場變遷推移ノ關係トヲ攻究シ、尙漁期各時期ニ於テ高鵬丸ヲ以テナシタル鮪延縄試漁ノ結果ニヨリ漁場ノ範圍、性質、厚薄等ヲ探究シ其時期ニ於ケル最モ良好ナル漁場ヲ一般營業者ニ通報シ其便宜ヲ計リ併セテ該漁業ノ根本的研究ヲ遂ケントスルニアリ

二、經過

前述ノ趣旨ヲ以テ別紙漁業表ノ通り大正七年十一月十一日着手シ一月廿九日迄ハ高鵬丸ニテ本縣沖合鮪漁場ノ海洋状態ノ變化ノ調査及鮪延縄試漁ヲ行ヒ其後ハ二月初旬及三月中旬ニ於テ約九日間宛高鵬丸ヲ出動セシメテ事業ヲ遂行シ三月下旬ヲ以テ終了セリ

此間航海日數六十八日海洋観測ヲ行フコト五回合計点數百二十三点ニ及ヒ延縄ヲ行フコト八回枝繩九本付延縄二十五鉢ヲ以テ鱧二十四尾鮪四十一尾鱈一尾ノ漁獲アリ

三、成績

鮪漁業者ニ對シテ當時好適ノ漁場ヲ通報シ同時ニ縣下全般ノ漁況及ヒ之カ海洋状態ニ伴フ變化ヲ知ラシメ頗ル良好ノ結果ヲ擧ケ得タリ

四、鮪漁場探検並ニ海洋觀測日誌

高 鵬 丸

自十一月十一日
至三月二十日

月日	天候	漁場	漁具	漁器	海面	比重	流速	餌料	漁獲	種類	数量	平均重量	物價	摘要
十一月十一日	B	1-2												海洋觀測ノ爲メ午前十時須崎港出帆午後五時清水港入港
十一月十二日	C	0-1												午前八時五十分清水港出帆全沖合ノ觀測ヲナス
十一月十三日	C.R.G	1												海洋觀測續行セシモ荒天トナリタル爲メ午前十時半清水港入港
十一月十四日	R.C.B	1												荒天休業
十一月十五日	C.B	i												全 右
十一月十六日	B.C	1												午前七時五十分清水港出帆海洋觀測續行
十一月十七日	O.C	0-1												海洋觀測續行
十一月十八日	R.C.B	1-3-2												正午頃ヨリ西風強烈トナリタル爲メ觀測中止午後十時半須崎港入港

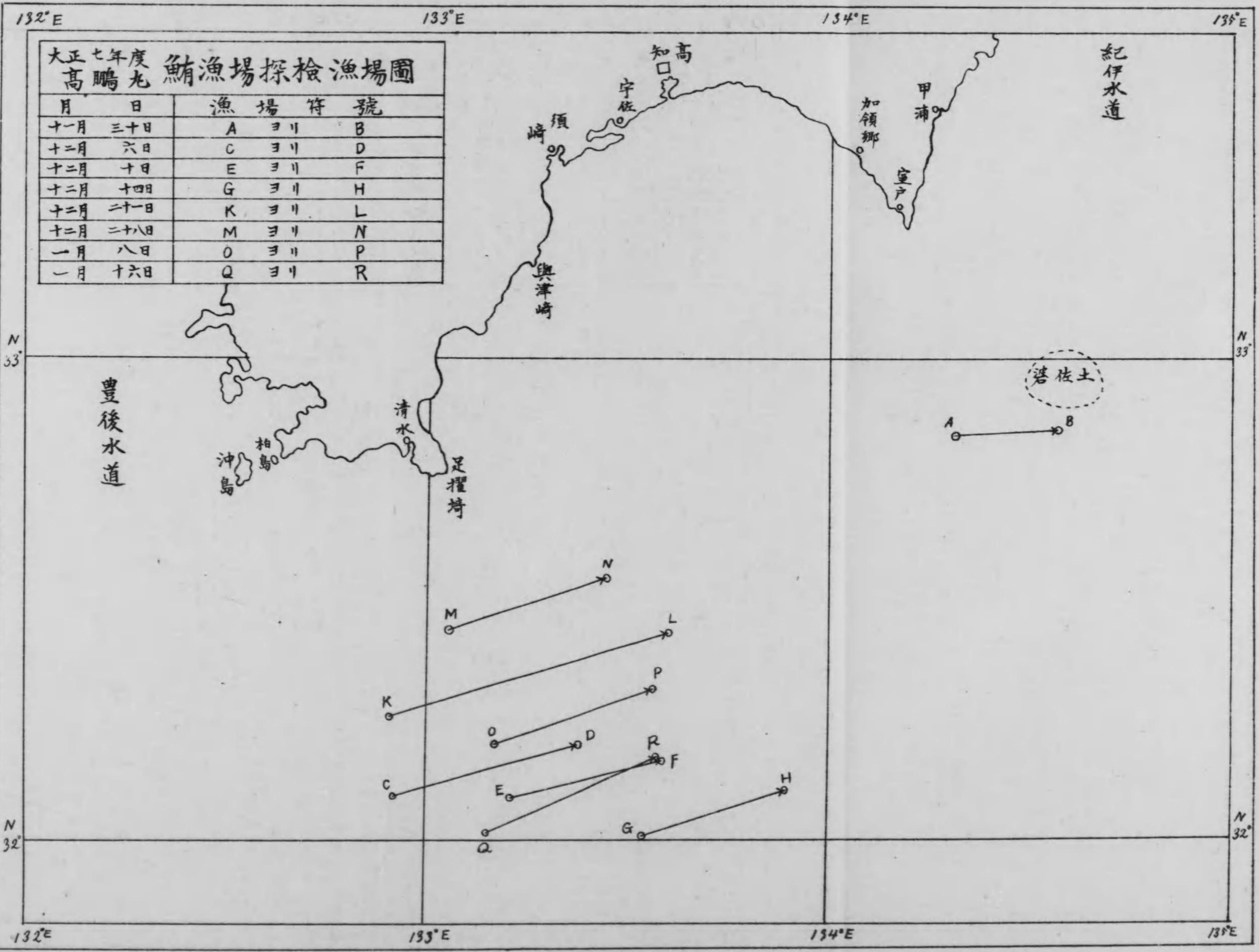
月日	天候	漁場	漁具	漁器	海面	比重	流速	餌料	漁獲	種類	数量	平均重量	物價	摘要
十一月廿一日	B	1												午前六時須崎港入港
十一月廿二日	C.R	2												午前四時室戸港出帆室戸岬ヨリ南々西二十里ノ點ニ到着セシモ東北風ノ烈シキ爲メ午後二時半室戸港入港
十一月廿三日	B	2												全 右
十一月廿四日	B	1												西南風浪激烈ナル爲メ休業
十一月廿五日	C.R	1												鮪漁場探検ノ爲メ午前十時半須崎港出帆午後四時半室戸港入港
十一月廿六日	B	1												午前五時室戸港出帆全十一時Aニ達シ投網シ午後七時十五分揚網須崎港ニ向フ
十一月廿七日	B.R.G	1-3												午前一時二十分須崎出帆全九時十分清水港入港
十一月廿八日	O.G	1												午前五時清水港出帆全十時Cニ到着投網午後五時ヨリ降雨午後八時揚網終ル清水ニ向フ
十一月廿九日	B.R.G	1-3												午前三時十分清水入港
十一月三十日	B.C	1-2												風浪烈シキ爲休業

廿九日	廿八日	廿七日	廿六日	廿五日	廿四日	廿三日	廿二日	廿一日	廿日
B.C 1	C 1-2	C 2-1	B.C 1	C.R 1-2	B 1	B 1	R 1	C.R 1	C 1
	M,N							KL	
	8h20m							11h	
	1							1	
	M21°4 N21°6							K22°2 L 22.0	
	M25878 N26620							K2596 L2601	
	N/E 2.5							E3/4N 3.1	
	め ち か F 25							め ち か F 25	
	らひ らかし							め き ら な ば ち	
	一一 尾 尾							一一二 尾 尾 尾	
午前九時十分須崎入港	午前八時半清水出帆全十一時Mニ達シ投錨午後五時半揚錨終ル	午前六時半清水出帆全九時天候不良トナシ爲メ歸港ニ向ヒ午後一時半清水入港	天候不良ノ爲メ清水港碇泊	午前六時半清水港入港	午後九時十分須崎中航途中天候不良ノ爲メ清水ニ向フ	午前九時十分須崎中航途中天候不良ノ爲メ清水ニ向フ	午前八時半下知假泊 全 十時潮江投錨	午前八時半下知假泊 全 十時潮江投錨	全 右

十九日	十八日	十六日	十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	九日
R 1	R 1	C.B 1	B 3-1	R.C 1-2	C 1	C 1	G.R 3	C.G.R 1-3	B.C 1
				GH				E-F	
				8h30m				9h50	
				1				1	
				G22°.2				E22°.8	
				G2638				E 25848	
				E				B/N	
				め ち か F 25				め ち か F 25	
				しふ い ら				め き ら な ば ち	
				一八一四 尾 尾 尾 尾				一 三 尾 尾	
午前四時清水入港雨天ニシテ風浪激キ爲メ休業	午前四時清水入港雨天ニシテ風浪激キ爲メ休業	午後四時十分須崎港入港	午後二時十分須崎港入港	午後二時四十分須崎港入港	午前十一時室戸崎通過午後七時浦戸港入港	午前七時須崎港出帆海津製錬ヲ初ム	午前七時須崎港出帆海津製錬ヲ初ム	午前六時三十分清水出帆全十一時半Eニ到着投錨午後九時三十分揚錨終清水ニ向フ	全 右

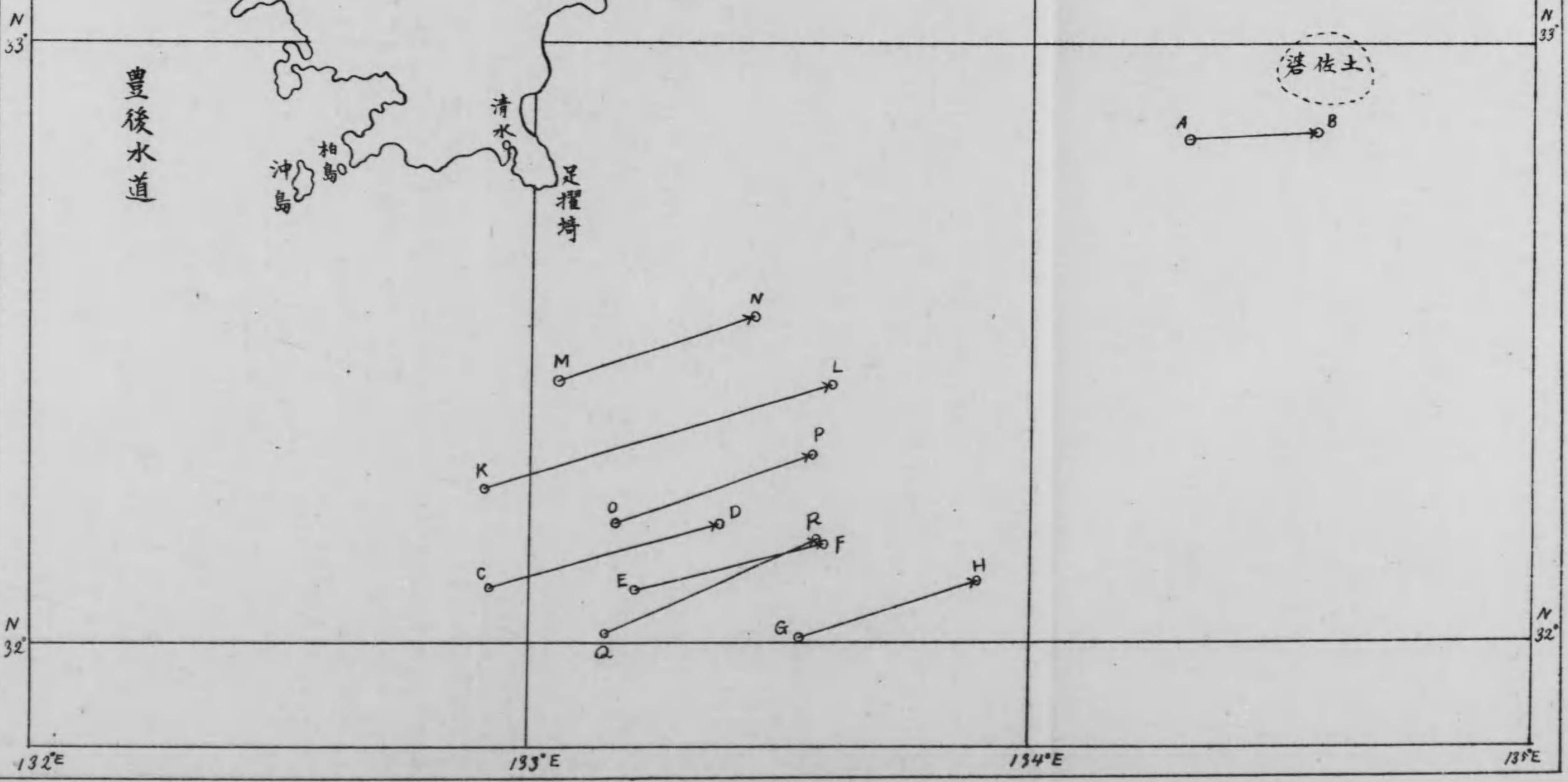
十三日 C.B 1-2	十三日 R 1	十三日 C 2-1	十二日 B.C 1-2	八日 D 1	七日 C.R 1-2	六日 B.C 2-1	二月五日 B 2-1	十八日	十七日	十六日 B 1
										QR
										11h5m
										1
										Q21°
										Q25972
										ENE 2,3
										めざか
										ふんば
										かほち
										一〇尾 一七尾 一尾
										一四尾 一七尾 一尾
										一〇貫 一四貫 一貫
										一〇貫 一四貫 一貫
										一〇貫 一四貫 一貫
										一〇貫 一四貫 一貫
午前九時清水港出帆	午前九時清水港出帆	午前八時二十分室戸港出帆	午前十一時半須崎港出帆 午後七時四十五分風浪激シキ為メ清水港碇泊	午前十一時半須崎港出帆 午後九時二十分室戸港碇泊	午前十一時半須崎港出帆 午後九時二十分室戸港碇泊	午前九時須崎港出帆 午後八時四十分天候不良ノ為メ清水港入港	午前九時須崎港出帆 午後八時四十分天候不良ノ為メ清水港入港	午前十一時清水港出帆	午前十一時清水港出帆	午前八時半清水港出帆 午後二時半Qニ達シ投錨午後十時四十分揚錨初メ

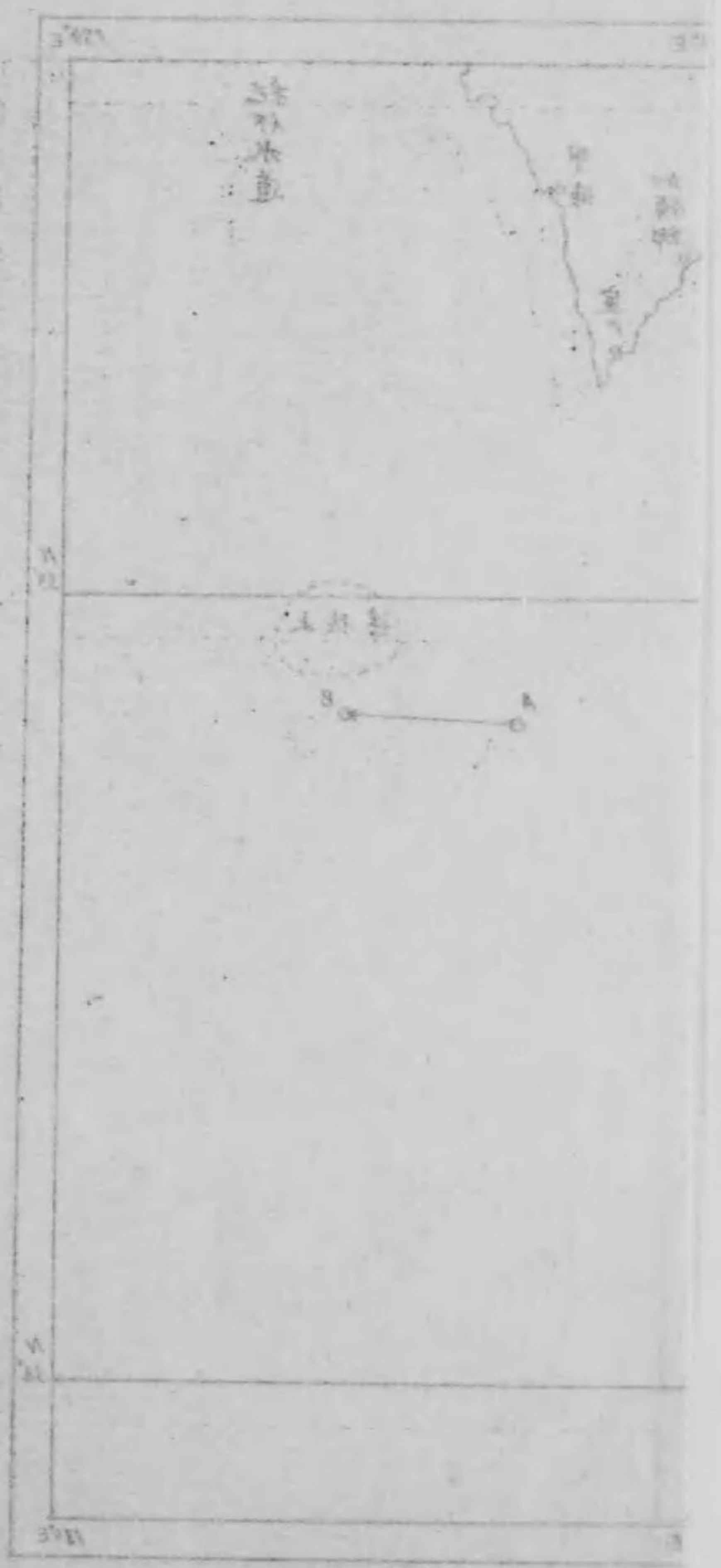
十五日	十四日	十三日	十日	九日 C 3	八日 C 1-2	七日 B 1	六日 B 2	五日 B.C 0-3	一月四日 B 2-1
					O-P				
					8h30m				
					1 O21°2 P21°2				
					Q25975 P26057				
					E/N 2,3				
					か F 25				
					ふんば かほち				
					一四尾 一七尾 一尾				
					一四貫 一七貫 一貫				
					一〇貫 一四貫 一貫				
					一〇貫 一四貫 一貫				
					一〇貫 一四貫 一貫				
					一〇貫 一四貫 一貫				
荒天休業	荒天休業	午前十一時半須崎出帆 午後七時五十分 再須津入港午後九時須津出帆全十時四十分清水入港	午前十一時半須崎出帆 午後七時五十分 再須津入港午後九時須津出帆全十時四十分清水入港	午前十一時半須崎出帆 午後七時五十分 再須津入港午後九時須津出帆全十時四十分清水入港	午前八時半須津出帆午後二時〇二到 投錨全八時揚錨終ノ高知ニ向フ	午後二時半須崎港出帆全七時五十分 餌料買入ノ為メ須津港入港	午前九時半須崎港入港	午後一時十分潮江出帆 午後二時初メ全六時五分潮江入港 午後一時十分潮江出帆 午後二時初メ全六時五分潮江入港	午後三時十五分須崎出帆 全六時五分潮江入港 午後三時十五分須崎出帆 全六時五分潮江入港



大正七年度 鮭魚場探檢漁場圖
高鵬九

月	日	漁場符號	
十一月	三十日	A	B
十二月	六日	C	D
十二月	十日	E	F
十二月	十四日	G	H
十二月	二十一日	K	L
十二月	二十八日	M	N
一月	八日	O	P
一月	十六日	Q	R





第三章 海洋観測

一、趣旨

本場所屬漁船高鵬丸ヲ以テ廣ク本縣沖合ニ出動セシメ主トシテ沖合漁業ノ漁場ノ範圍内ニ於テ海流潮流ノ方向、水温分布ノ状態、海水比重ノ變化、浮游生物ノ種類並ニ分量、水色、透明度、海水中酸素酸素ノ含有量其他海上ニ於ケル氣象状態ヲ定期的ニ精細ニ觀測シ海洋状態ノ變化ヲ詳カニスルト共ニ鯨鮪漁場探檢並ニ漁況通信ト連絡シテ魚族ノ去來集散ノ理法ヲ研究シ漁業ノ根底的研究ヲ進メ偶然的漁業ヲ必然的漁業タラシメンコトヲ期ス

二、經過

昨年度海洋観測ニ繼續シテ一年度間ヲ左表ノ通り配置シテ前後九回ノ観測ヲナシ其都度之カ結果ヲ公表セリ

經過表

回	期	日間	日數	航海時間	航程	観測点数
第一回	自四月二十日	至四月二十八日	九日	六八時	四〇〇哩	二八點
第二回	自五月二十五日	至五月三十一日	十日	一〇〇時	五八八哩	四〇點
第三回	自六月二十七日	至七月七日	十一日	一〇一時	六五〇哩	四四點
第四回	自九月十八日	至九月十八日	十五日	九〇時	五二四哩	二八點
第五回	自十一月十八日	至十一月十八日	八日	一一〇時	五九七哩	三九點
第六回	自十二月十三日	至十二月十四日	二日	一六時	八三哩	七點

第七回	一月五日	一日	一二時	四〇哩	四点
第八回	自二月十三日至二月十五日	九日	六八時	四七〇哩	三九点
第九回	自三月十二日至三月十九日	八日	七九時	四五五哩	三四点
合計	七三日	六〇二時	三八〇七哩	二六三點	

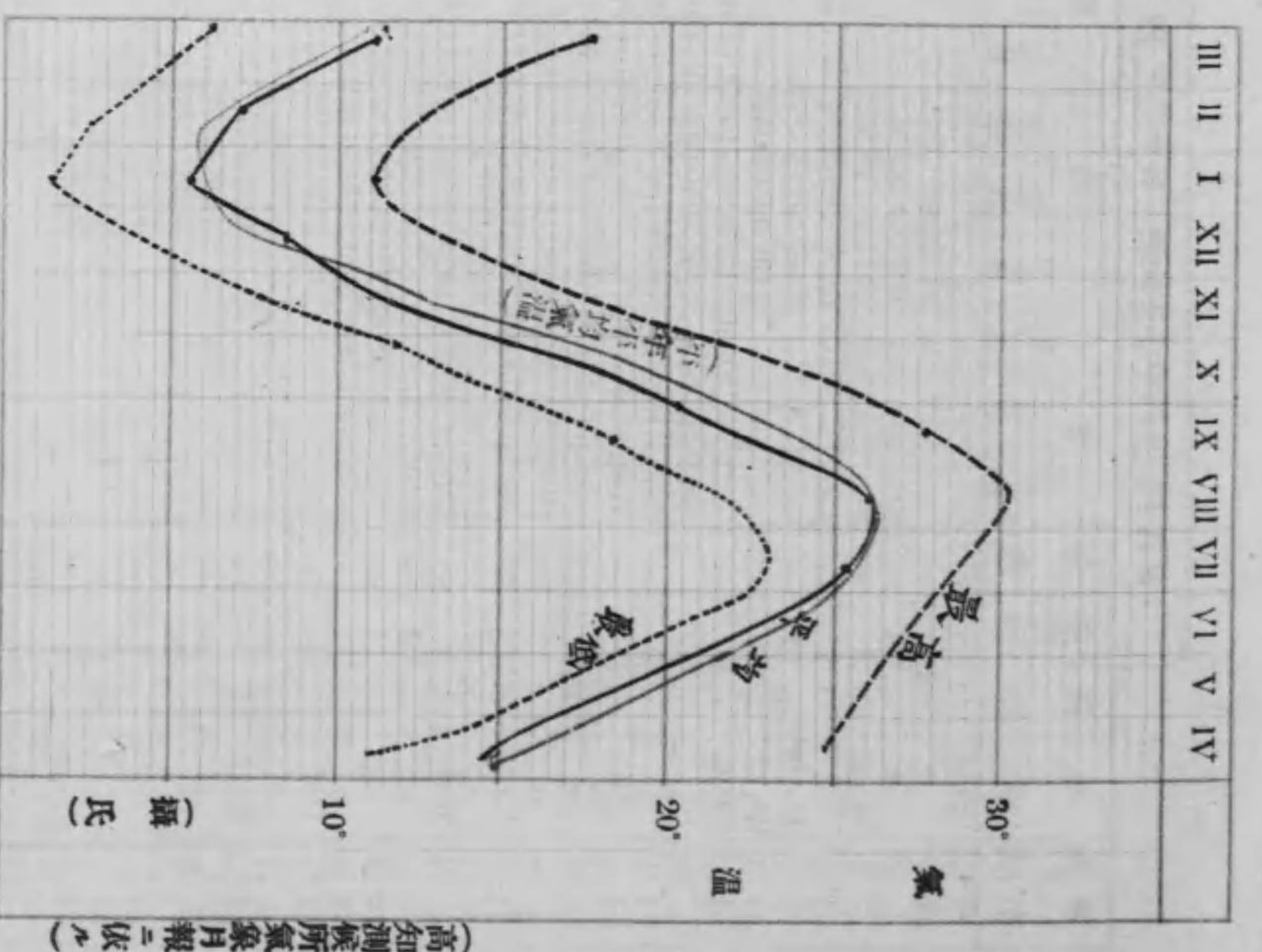
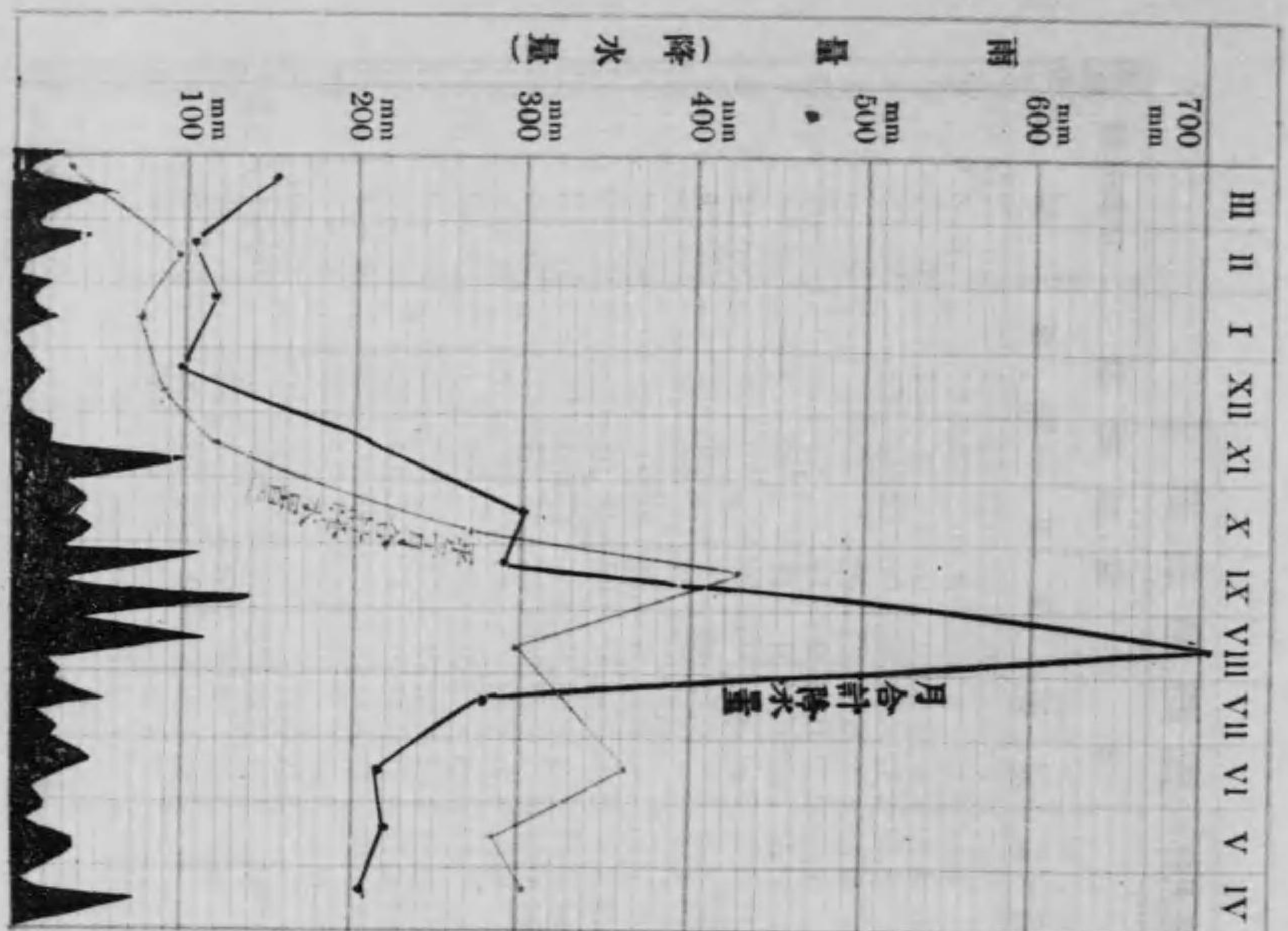
三、方法

観測ノ方法ハ表層、二十五尋層、五十尋層、七十五尋層、百尋層、百五十尋層ノ六層ニ於テ「ルーカス式」測深器ニヨリ二重筒式採水器ヲ以テ採水シ直チニ水温ヲ測リ其水ハ番号ヲ付セルビール瓶ニ入レ陸上ニ運ヒテ後赤沼式比重計ヲ以テ比重ヲ観測ス尙各観測点ニ於テハ透明板ヲ以テ透明度ヲ計リ水色計(八色)ヲ以テ水色ヲ計リ表層浮游生物採集器ヲ以テ浮游生物ヲ採集シ其種類ヲ観測セリ

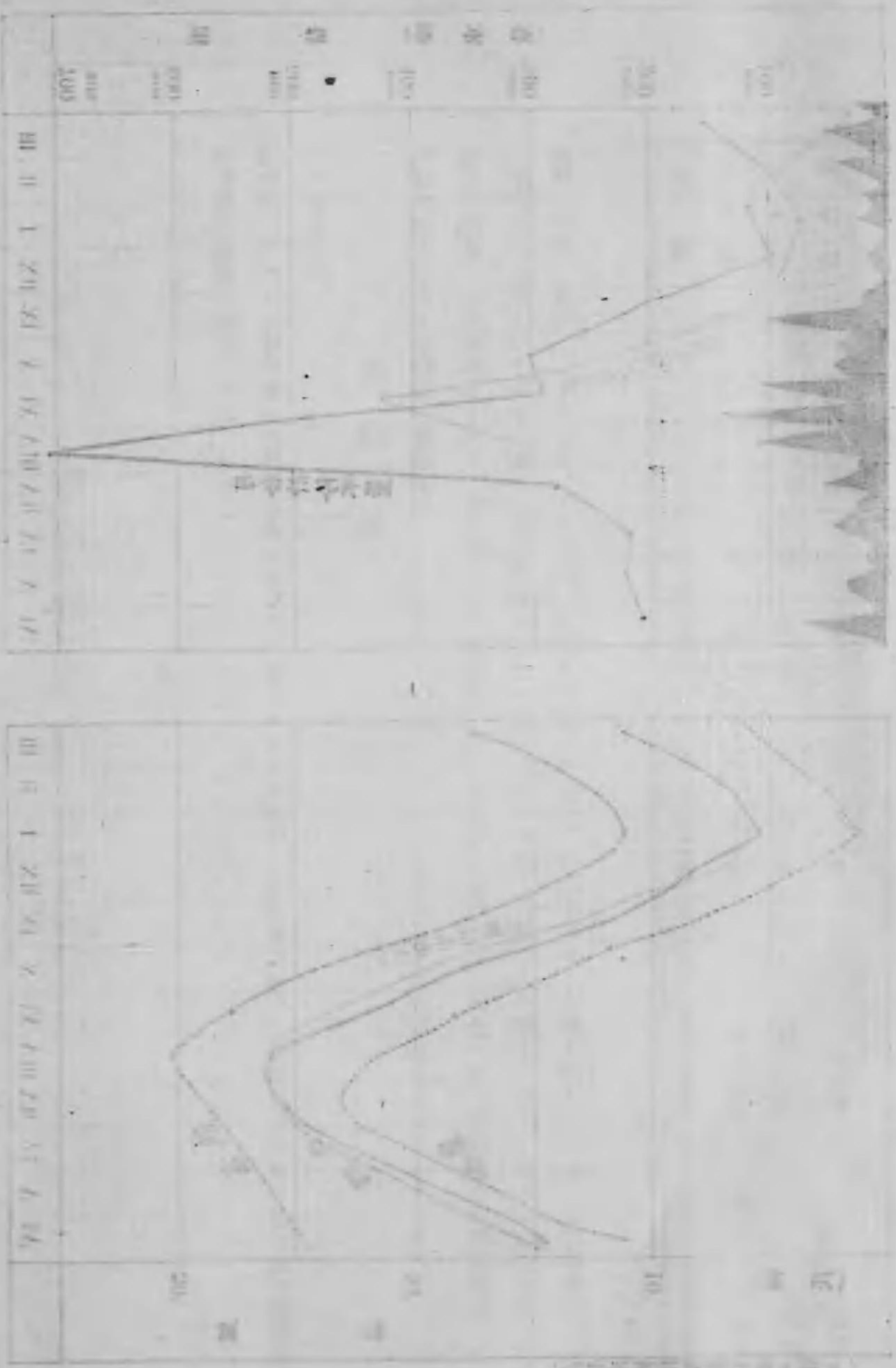
四、結果

I 氣象状態

観測中ニ於ケル氣象状態ハ別紙観測表記載事項ノ通りニシテ本縣下一般氣象状態ハ高知測候所氣象日報ニ依リ気温並ニ降水量ヲ摘録シ圖示スル事トセリ



(高知測候所氣象月報ニ依ル)



海洋観測表 (自大正七年四月二十日 至大正七年四月二十八日)

観測番号	観測時日	観測位置	水						比						水色	透明度	天気	風向	風力	気温	気圧				
			表層	三層	五層	七層	九層	十層	表層	三層	五層	七層	九層	十層											
1	21	A 11-15	33	18-15	33	16-0	0	17.5	16.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
2	"	P 0-28	"	19-45	"	8-30	0	20.1	17.9	15.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
3	"	" 2-0	"	15-0	"	0-0	0	20.6	18.9	16.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
4	"	" 3-49	"	10-15	"	32-50	45	19.3	17.2	15.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
5	"	" 5-39	"	3-45	"	39-15	15	20.0	17.4	15.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
6	24	A 7-25	32	53-45	"	41-0	0	18.0	17.6	15.8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
7	"	" 8-35	"	46-30	"	41-0	0	17.9	16.6	15.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
8	"	P 2-45	"	36-10	"	36-30	30	17.6	16.6	15.8	14.8	12.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
9	"	" 4-30	"	23-45	"	17-20	20	17.5	16.8	15.8	14.8	13.2	11.0	2627	2636	2617	2650	2613	2596	—	—	—	—	—	
10	"	" 6-15	"	30-45	"	17-45	45	18.6	17.0	15.6	14.7	13.4	11.9	2627	2610	2617	2626	2613	2622	—	—	—	—	—	
11	"	" 9-25	"	38-0	"	32-13	13	18.6	16.8	14.9	13.1	11.9	10.7	2616	2633	2617	2607	2633	2607	—	—	—	—	—	
12	25	A 0-3	"	42-31	31	50-0	0	18.5	18.2	15.7	14.9	13.2	11.6	2637	2607	2627	2631	2617	2607	—	—	—	—	—	
13	"	" 3-0	"	50-15	32	8-0	0	18.6	16.8	14.7	14.0	12.8	10.6	2637	2634	2649	2622	2627	2620	—	—	—	—	—	
14	"	" 5-52	"	58-45	32	25-10	10	18.6	17.6	15.0	14.9	13.0	11.5	2637	2651	2637	2617	2625	2621	—	—	—	—	—	
15	"	" 8-0	"	57-0	"	36-15	15	18.7	17.4	14.9	—	—	—	2634	2631	2631	—	—	—	—	—	—	—	—	
16	27	" 9-50	133	11-50	"	25-50	50	18.8	18.5	15.5	14.7	13.2	11.3	2617	2651	2641	2629	2606	2603	—	—	—	—	—	—
17	"	P 0-25	"	20-0	"	15-0	0	18.6	18.4	16.0	15.0	13.4	12.1	2632	2637	2621	2625	2627	2617	—	—	—	—	—	—
18	"	" 3-0	"	29-40	"	1-0	0	21.6	17.8	17.3	16.0	15.5	13.4	2617	2630	2629	2639	2637	2613	—	—	—	—	—	—
19	"	" 6-5	"	39-0	31	48-0	0	21.8	21.6	20.9	20.1	19.4	—	2644	2635	2642	2621	2656	2639	—	—	—	—	—	—
20	"	" 8-20	"	55-45	"	50-45	45	21.6	21.6	—	—	—	—	2620	2622	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21	"	" 10-55	"	55-30	32	0-0	0	21.6	21.6	—	—	—	—	2624	2614	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22	28	A 1-20	"	0	"	27-30	30	18.6	18.6	13.6	—	—	—	2614	2620	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
23	"	" 4-0	"	54-45	"	46-0	0	18.6	18.6	—	—	—	—	2625	2631	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24	"	" 6-35	"	55-15	33	3-0	0	18.5	18.3	—	—	—	—	2631	2620	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25	"	" 9-45	"	44-30	32	11-40	40	17.9	17.3	—	—	—	—	2612	2634	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
26	"	" 10-20	"	33-15	33	16-0	0	18.4	17.7	—	—	—	—	2632	2614	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
27	"	" 11-0	"	27-45	"	17-30	30	18.2	16.9	—	—	—	—	2604	2619	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
28	"	" 00 N	132	19-10	"	20-20	20	17.8	—	—	—	—	—	2631	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

深度一尋ハ六呎、透明度一尋ハ曲尺五尺、比重Cl5ニ換算シタルモノ (以下全シ)

海洋觀測表 (自大正七年十一月十一日 至大正七年十一月十八日)

Table with columns: 觀測時日, 觀測位置, 水, 比, 重, 水色, 透明度, 天候, 風向, 風力, 氣溫, 氣壓. Rows 1-28.

Table with columns: 觀測時日, 觀測位置, 水, 比, 重, 水色, 透明度, 天候, 風向, 風力, 氣溫, 氣壓. Rows 29-39.

海洋觀測表 (自大正七年十二月十三日 至大正七年十二月十四日)

Table with columns: 觀測時日, 觀測位置, 水, 比, 重, 水色, 透明度, 天候, 風向, 風力, 氣溫, 氣壓. Rows 1-7.

二十五尋層以下ニ於テハ表層ト大差ナシト雖モ西部方面沖合ニ冷水卓越セルヲ見ル

五月末 表層ニ於ケル最暖部位ハ足摺崎南々東二十四五哩附近ニアリ冷暖兩水接觸部ハ東微北ノ方向ヲ取り從テ暖水帶ハ中部ニ於テ其ノ東側ニ侵入シ其ノ西側ニ冷水卓越セリ

西部方面ニ比シ東部方面ハ冷水帶卓越シ、冷暖兩水接觸部ハ東部室戸崎南々東五十哩附近ニ於テ東微南ノ方向ヲトレリ二十五尋層以下各層表層ト大差ナシ

六月末 表層ニ於ケル最暖部位ハ足摺崎南々東五十哩附近ニアリ冷暖兩水接觸部ハ同崎南東二十五哩附近ニテ東北ノ方向ヲトレリ、沿岸水帶ハ前月ニ似テ中部方面東側ニ於テ著シク暖水ノ卓越ヲ見、西側ニ於テ依然冷水ヲ存シ、東部方面ハ西部方面ニ比シ冷水帶卓越セリ、二十五尋層以下ハ略表層ト相似タルモ七十五尋層以下ハ中部方面ノ暖水帶ノ卓越ヲ認メス

九月初 表層 最暖最冷三度ノ差アルノミニテ殆ント變化ナシ、冷暖兩水帶接觸部明ラカナラス、二十五尋層以下ト水温變化平調ニシテ冷暖兩水接觸部明ラカナラスト雖モ表層ニ比シ沿岸ヨリ沖合ニ到ル水温ノ變化多シ

十一月中 表層ニ於ケル最暖部位ハ足摺崎南々東二十七八哩附近ニアリ、水温ノ變化少ク冷暖兩水帶接觸部明ラカナラス沖合水帶西部方面ニ接觸シ且ツ中部土佐海灣内ニ侵入シ東部方面ニ冷水帶卓越ス、二十五尋層以下大略表層ト同シ

二月初 表層ニ於ケル最暖部位ハ足摺崎南々東二十哩附近ニアリ冷暖兩水帶接觸部ハ此附近ニテ東ニ走リコレヨリ東ニ行クニ從ヒ東北ノ方向ヲトル、中部土佐海灣内ニ於テハ西側ニ冷水帶卓越シ、東部方面ハ西部方面ニ比シ冷水帶卓越セルヲ見ル、二十五尋層以下大略表層ニ同シ

三月中 表層ニ於ケル最暖部位ハ足摺崎南々東十六七哩附近ニアリ、冷暖兩水帶接觸部ハコレヨリ東ニ走ル暖水帶ハ西部方面ニ於テ陸岸ニ接近シ東部方面ハ沖合ニ離隔ス、冷水帶ハ東部方面ニ於テ著シク卓越ス中部土佐海灣内

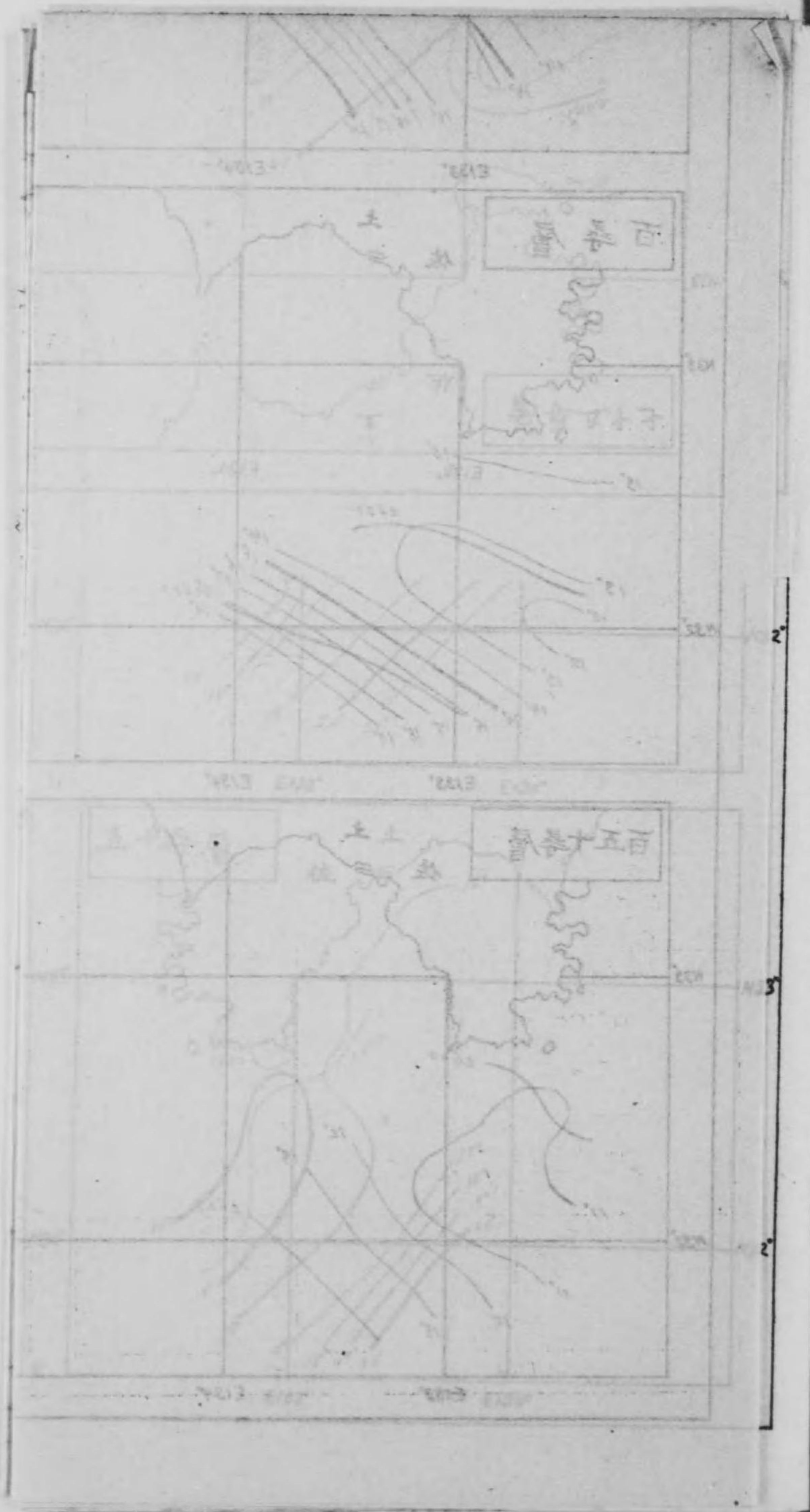
東側部位ニハ暖水ノ一部侵入セルヲ見ル、二十五尋層以下表層ニ大差ナシ

ロ、一ケ年間ノ變化狀態

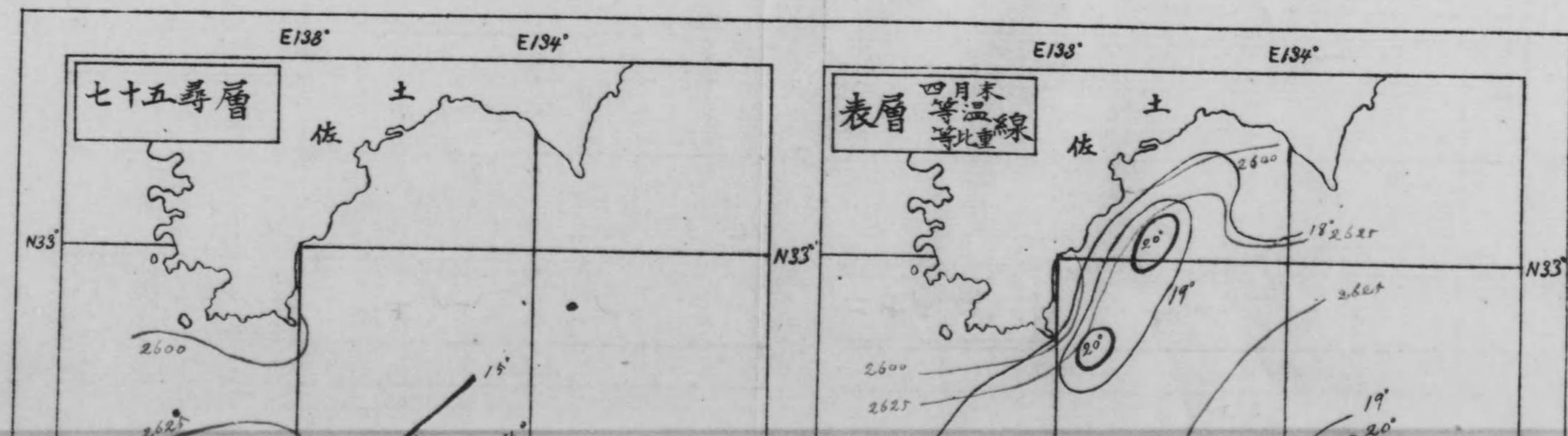
以上ノ結果ヲ通シテ之ヲ見ルニ冷暖兩水帶接觸部最モ陸岸ニ離隔シタルハ四月末ニシテ足摺崎南々東五十哩附近ニアリ其後五月六月ト漸次陸岸ニ接近シ九月ヨリ十一月迄ハ冷暖水温ノ差少ク接觸部分明ナラス

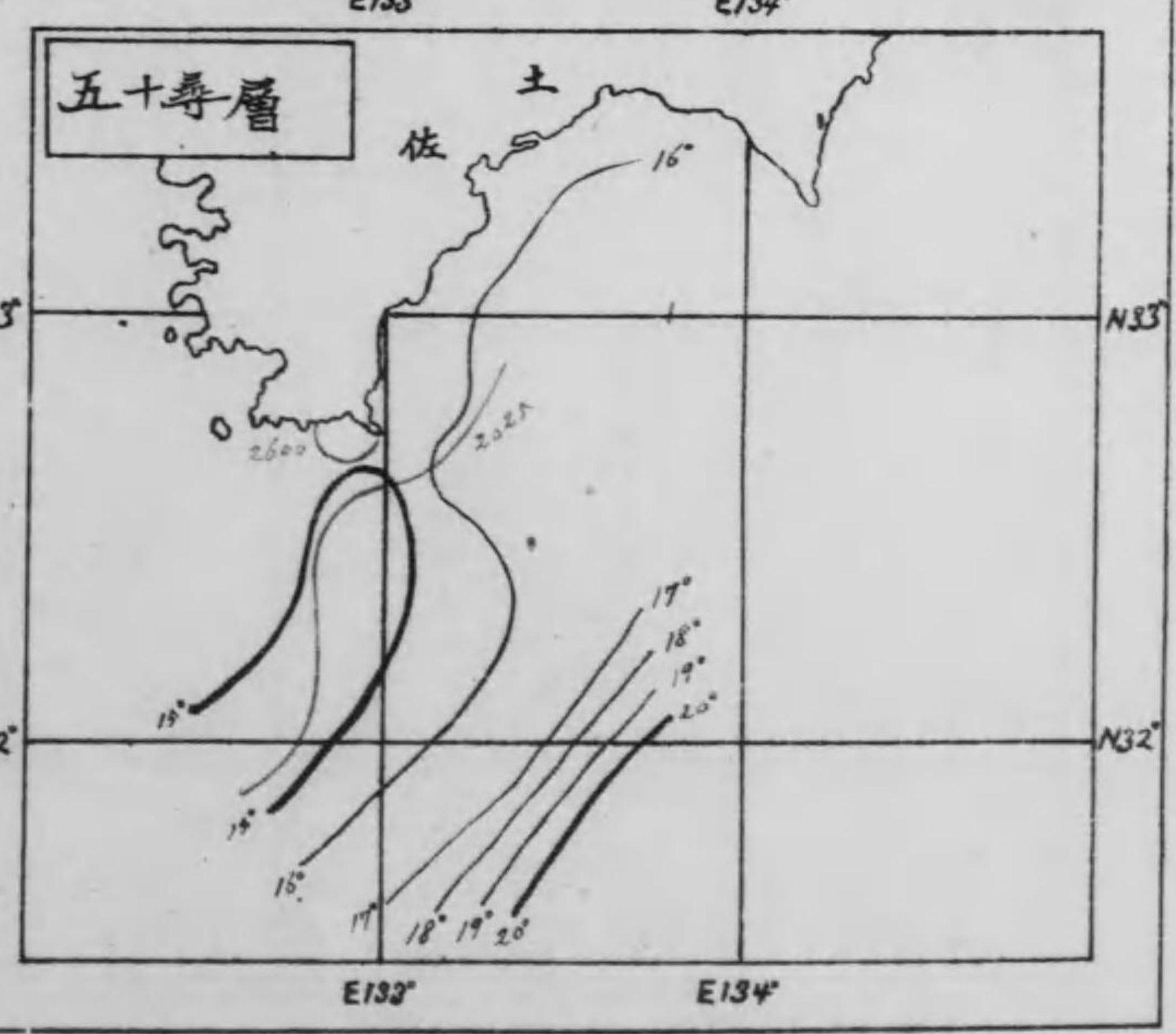
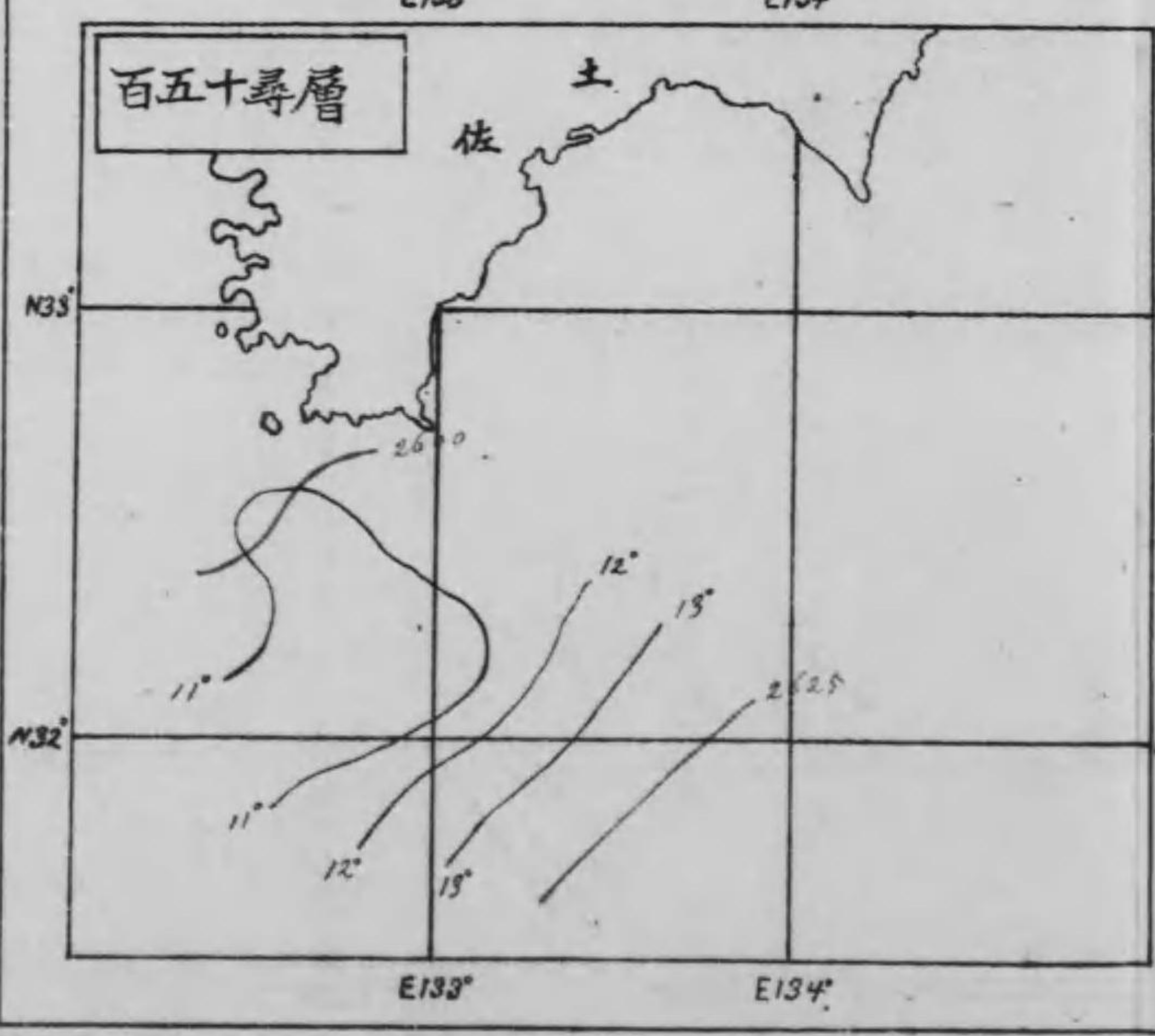
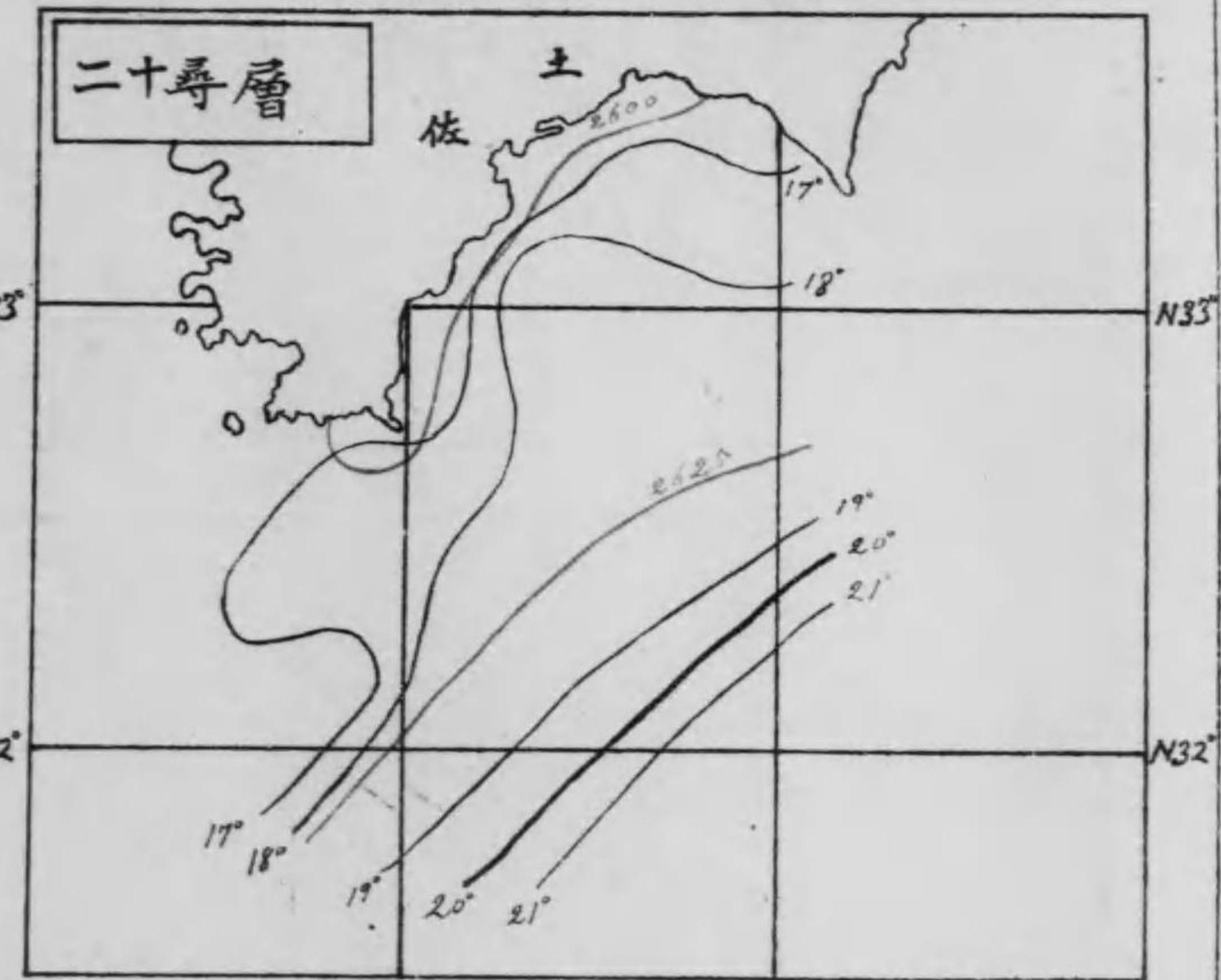
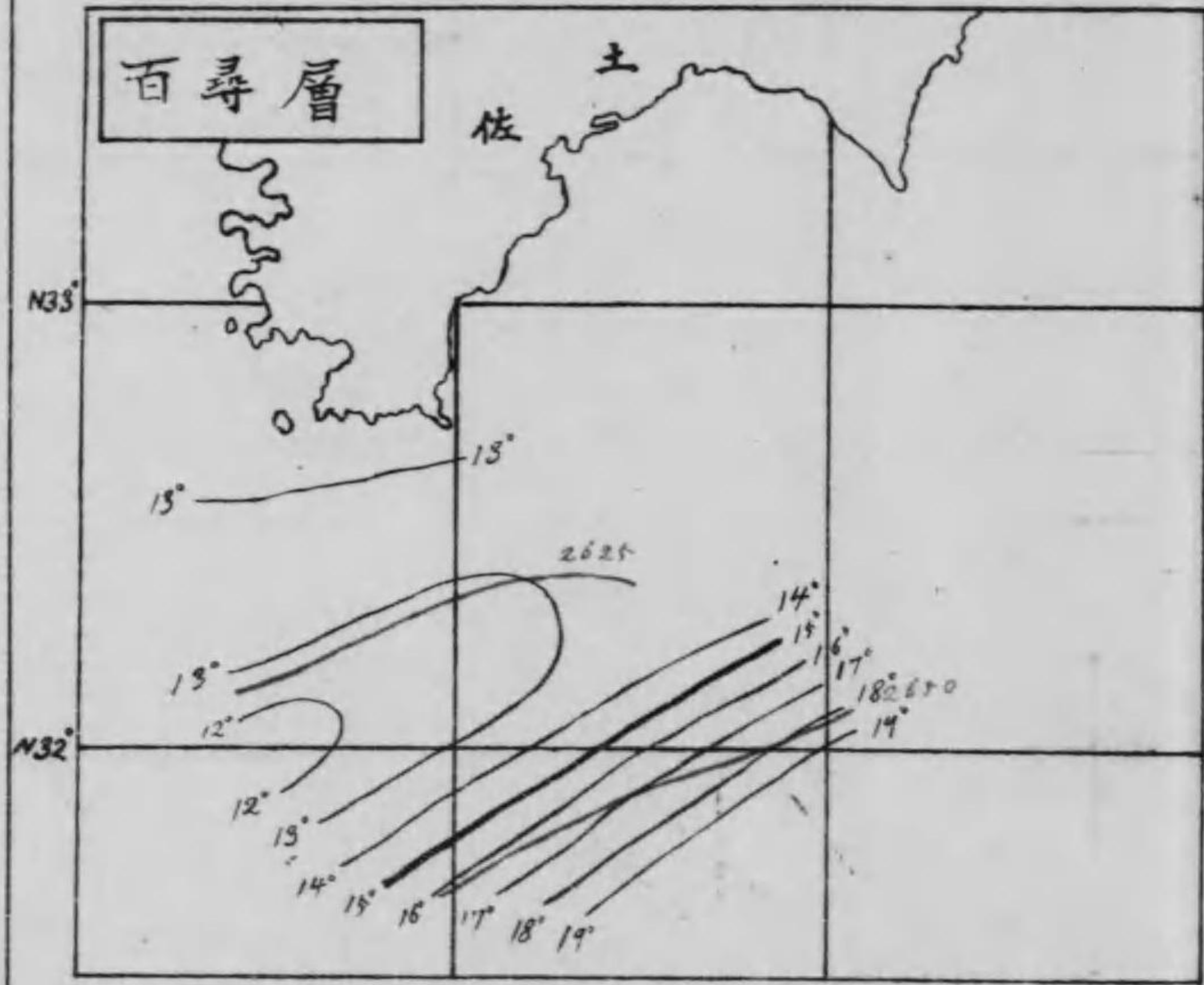
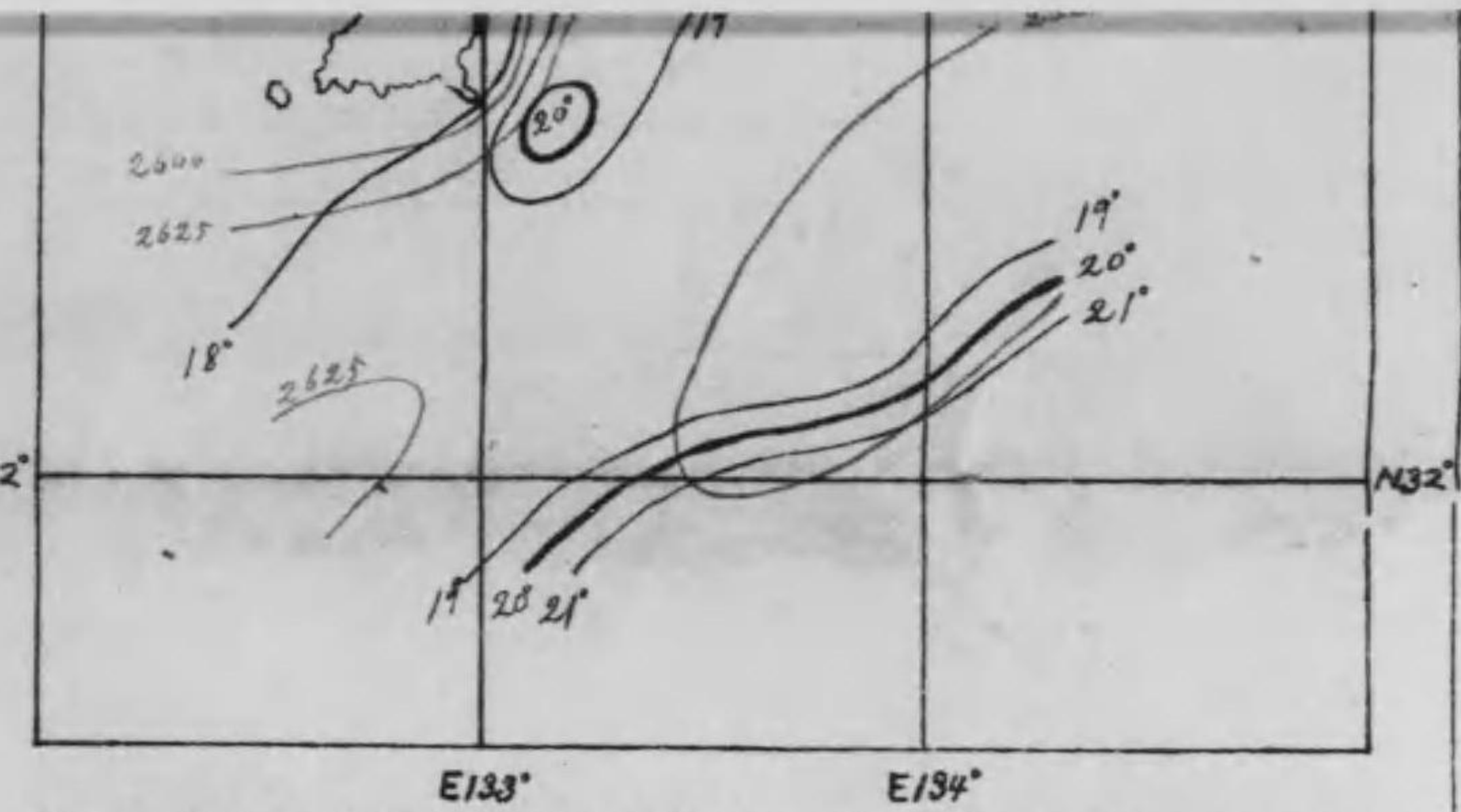
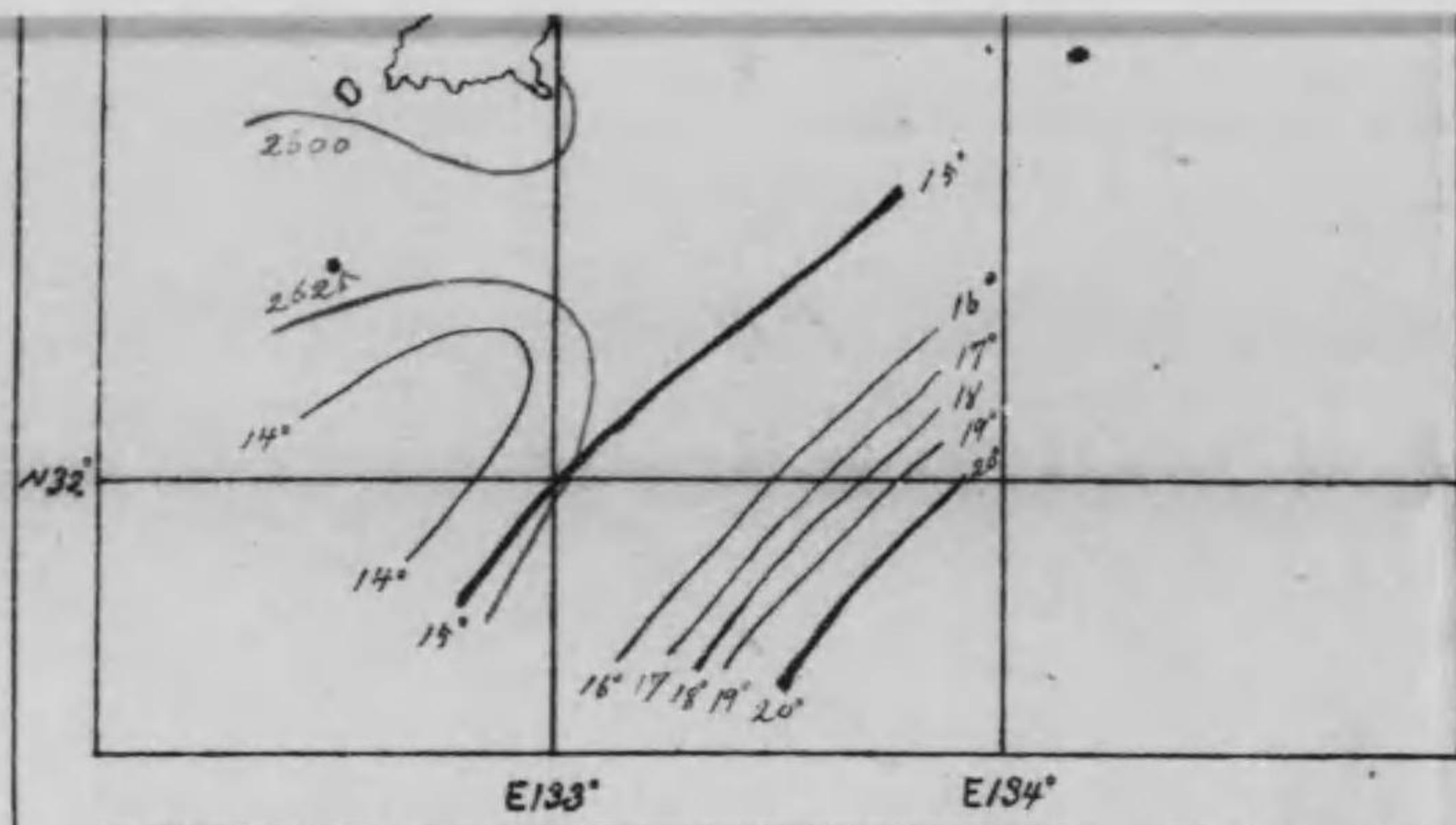
二月三月ニ於テ足摺崎南方十五哩乃至二十哩附近ニ存在シ居タリシ事ヲ知ル、其接觸線ノ方向ハ陸岸ニ離隔シタル場合ハ東微北乃至東北ノ方向ヲトリ、陸岸ニ接近シタル場合ハ足摺崎沖合附近ニ於テ東微北乃至東微南ノ方向ヲトリ東スルニ從ヒ東乃至東北ニ變セルヲ見ル、然レトモ室戸崎沖合ニ於テハ多クノ場合東乃至東微南ノ方向ヲトレリ

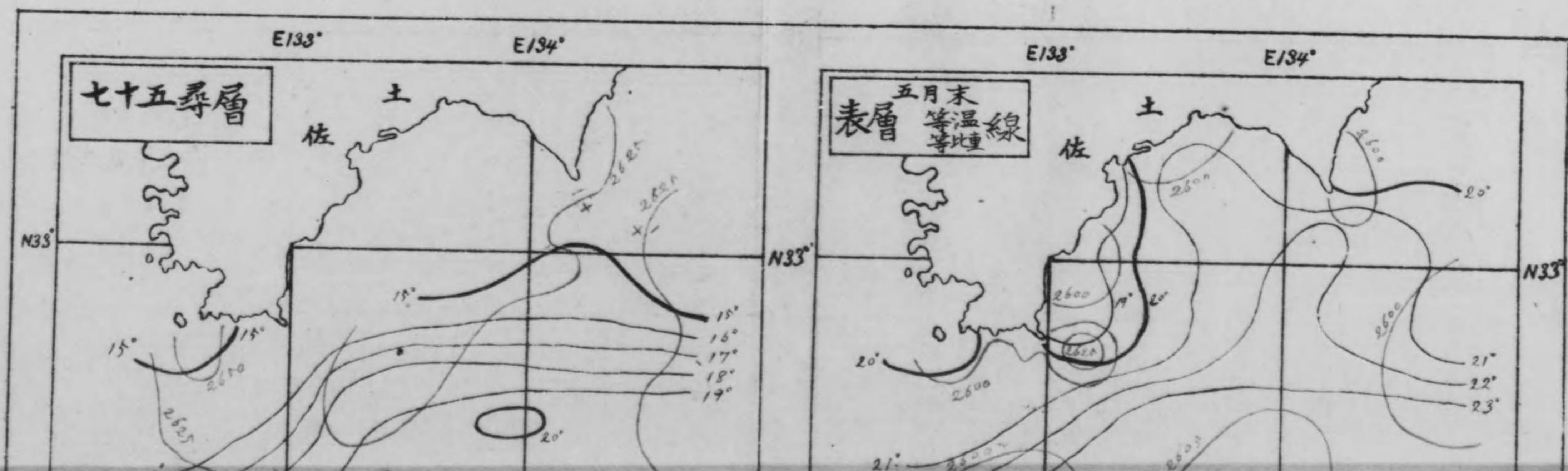
西部方面ノ冷水帶卓越セルハ三月四月五月ニ於テ甚シク東部方面ノ冷水帶ハ周年通シテ存在セルヲ見ル、而カモ同方面ハ西部方面ニ比シ冷水帶廣ク三月四月ノ如キハ室戸崎南方五十哩附近ニ到ル範圍内ニ存在シ且ツ中部土佐海灣内ニ深ク侵入セルヲ見ル、中部土佐海灣内ハ四月ニ於テ西側ニ暖水部ヲ存シ、五月ハ暖水部ハ東ニ偏シ西側ハ反ツテ暖水部トナリ六月迄右ノ狀態ヲ持續セリ、九月ヨリ十一月迄ハ全部暖水部ニシテ二月三月ハ東側ハ暖水西側ハ冷水卓越セリ

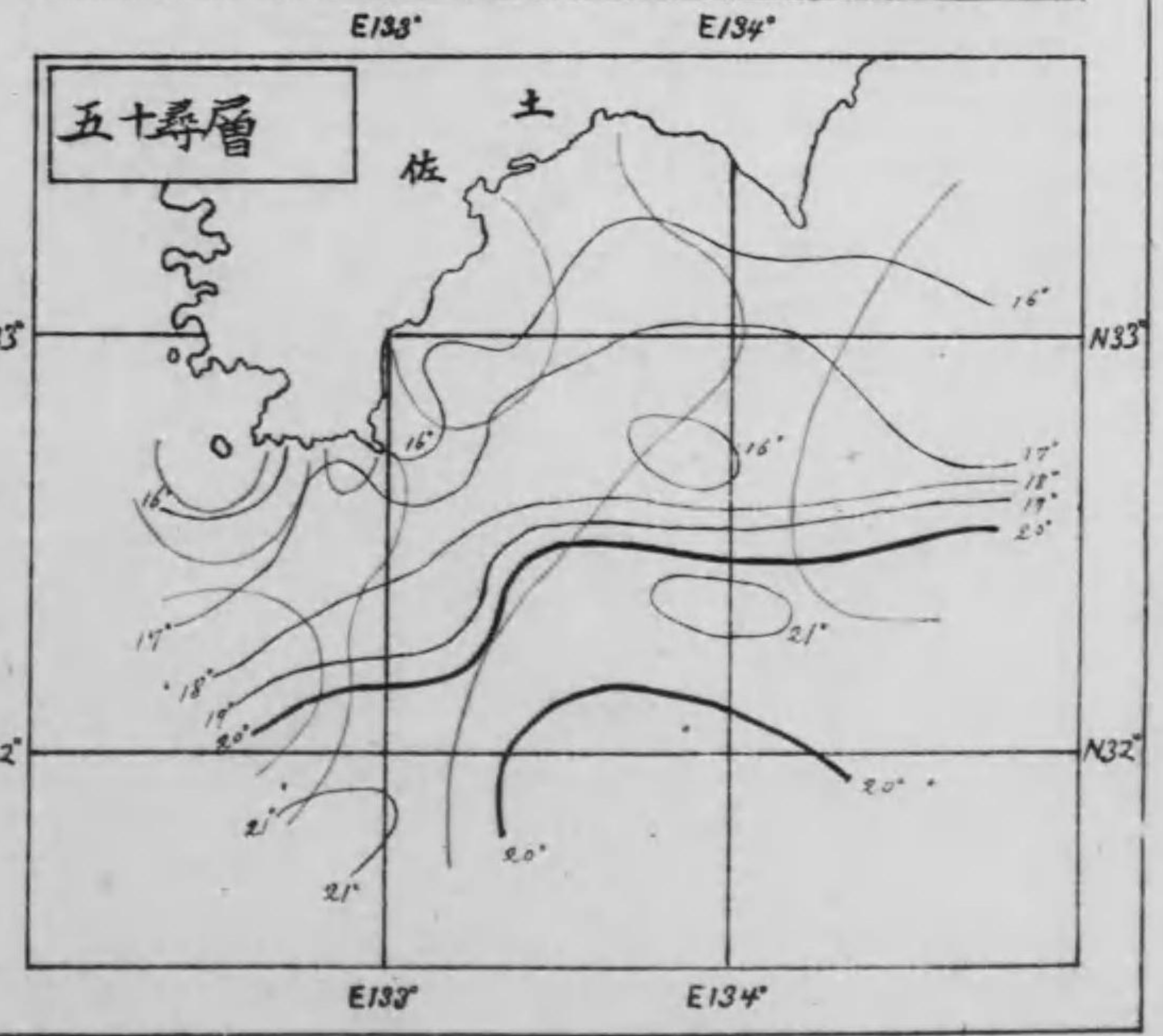
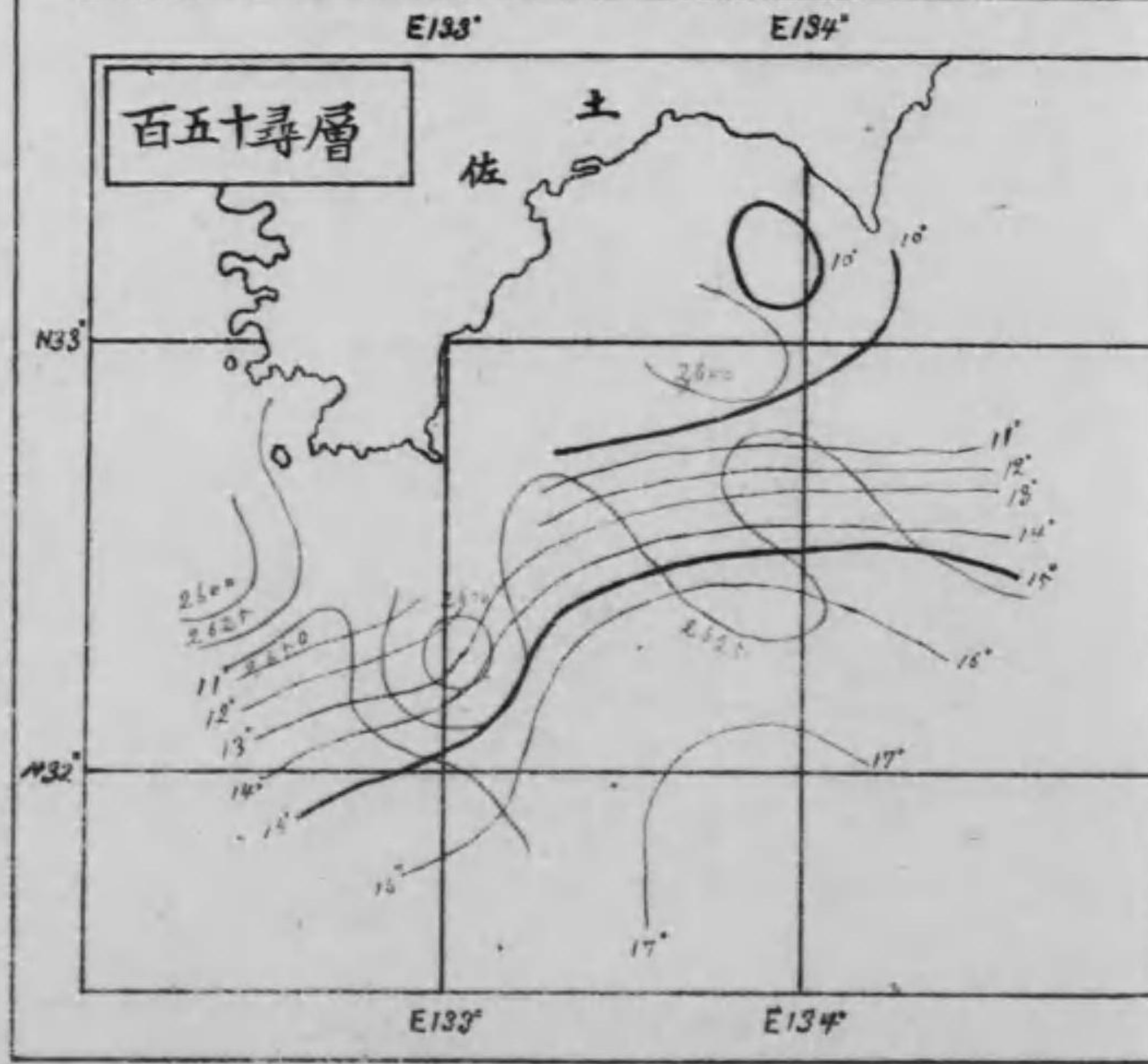
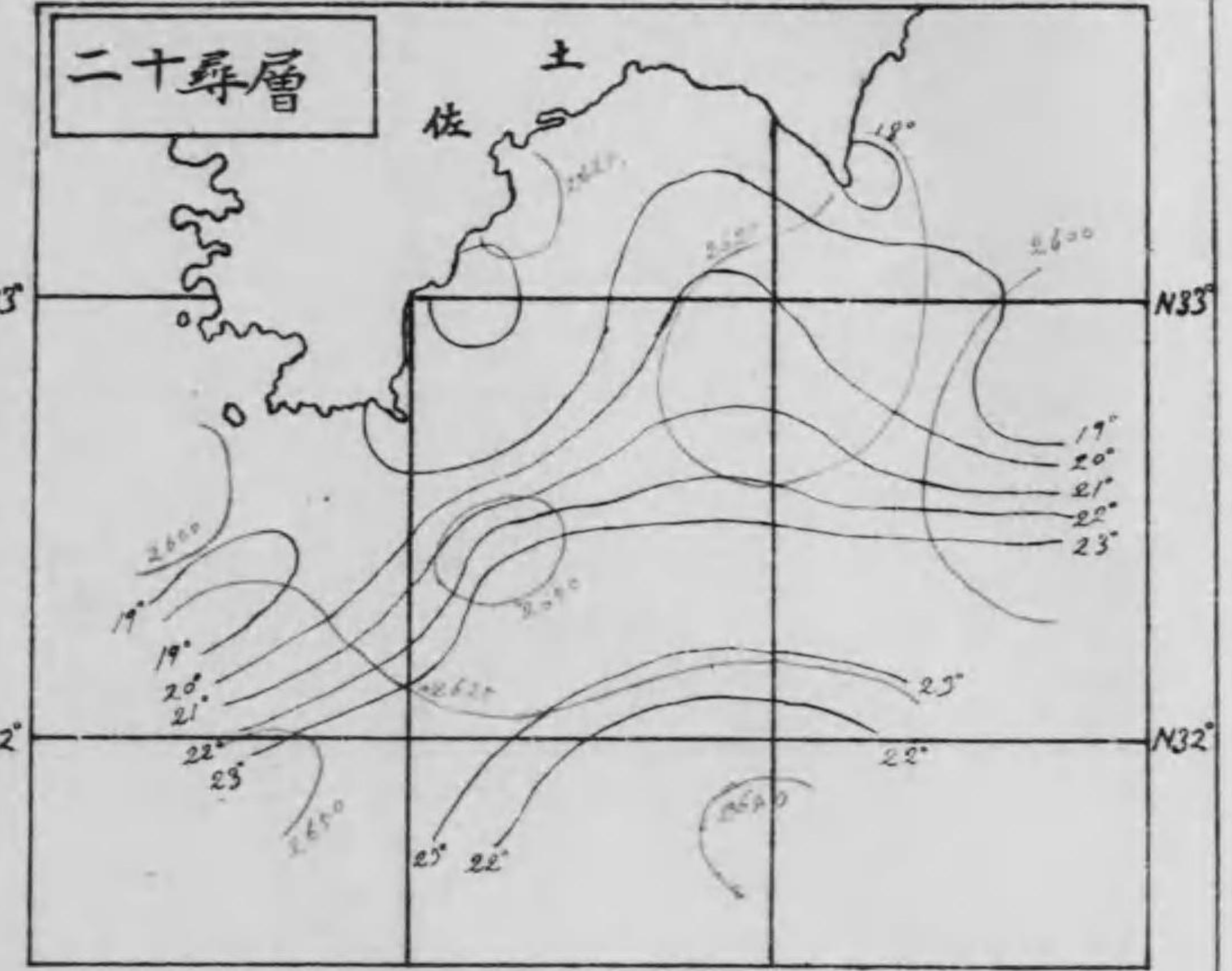
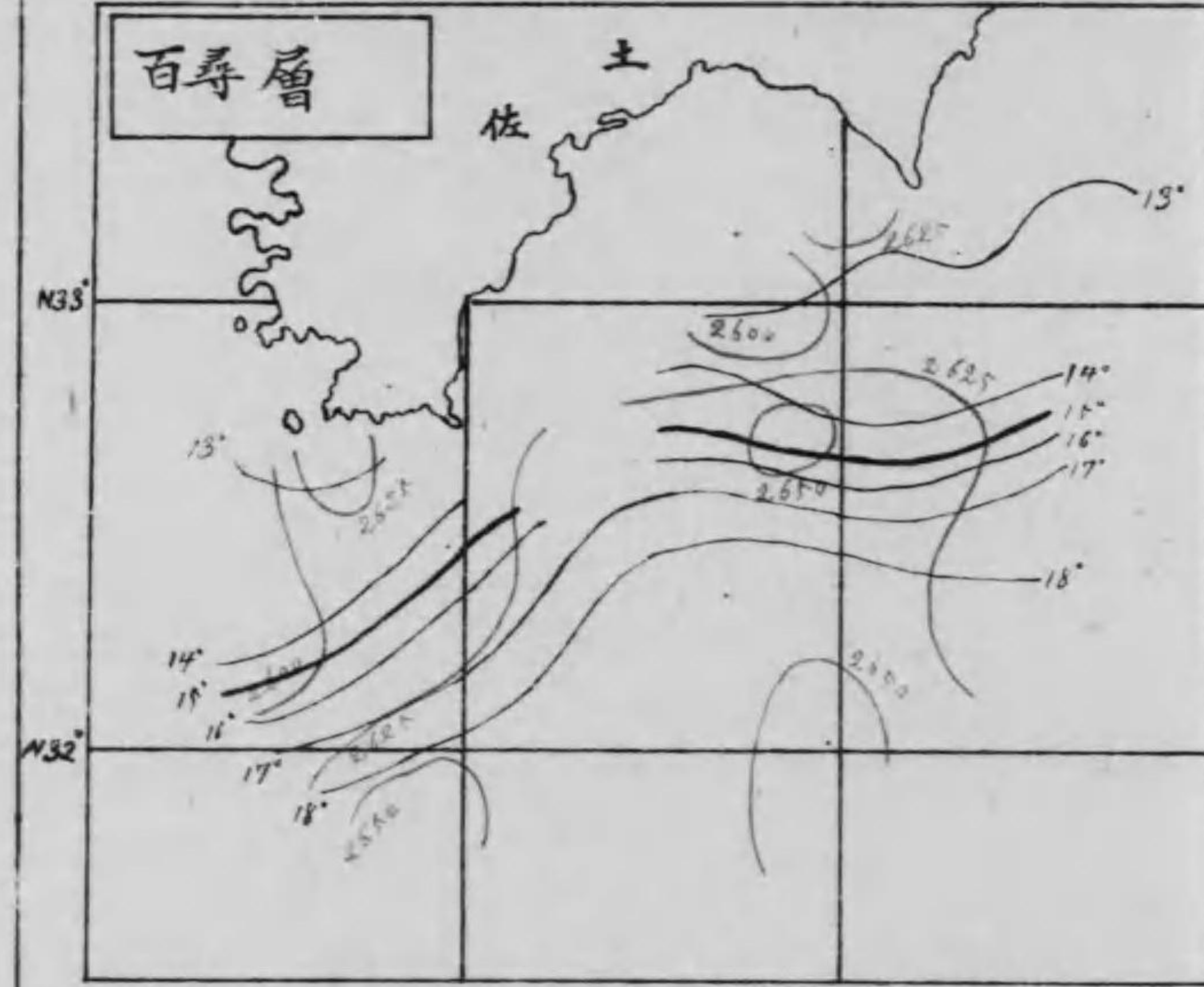
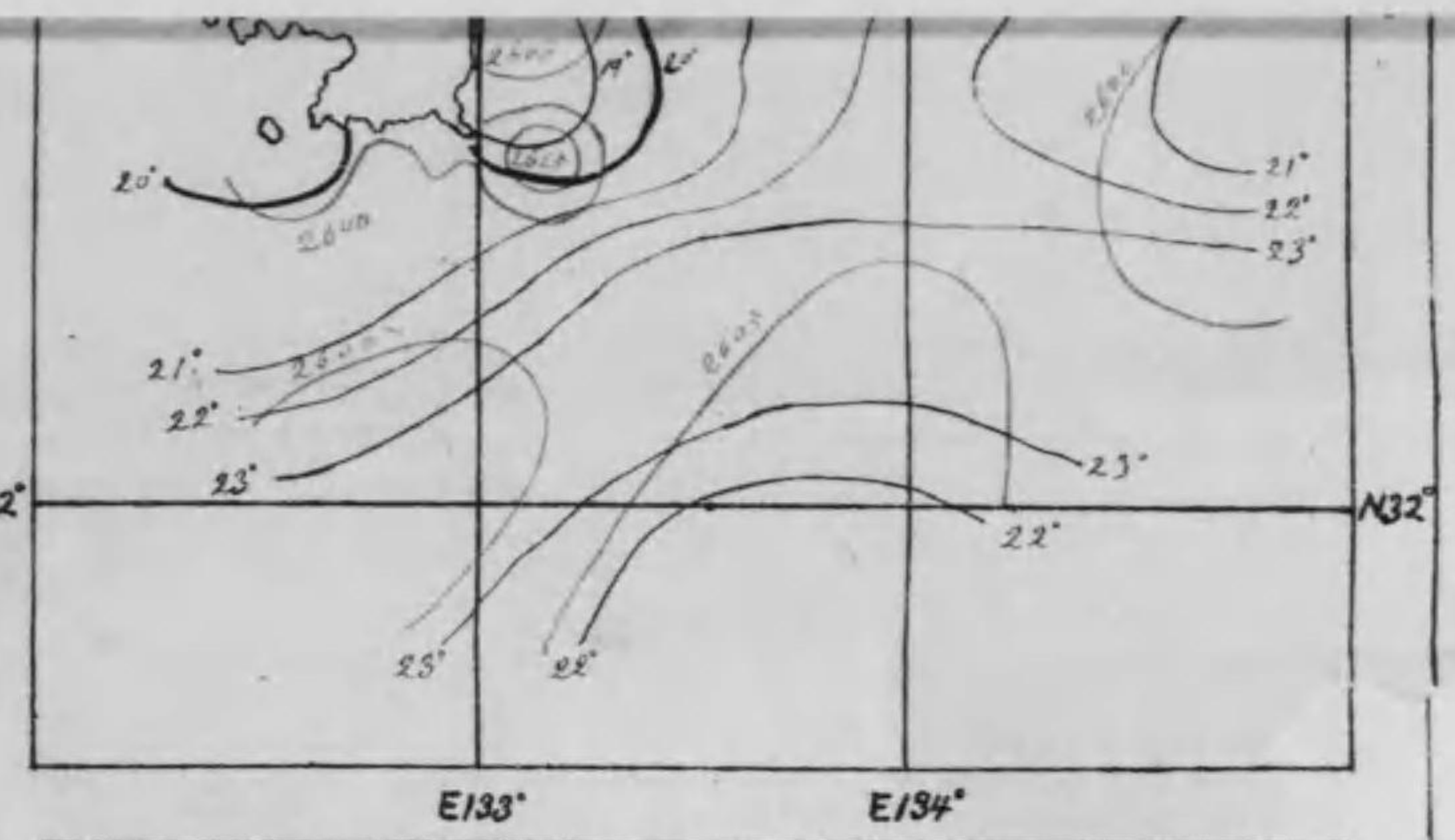
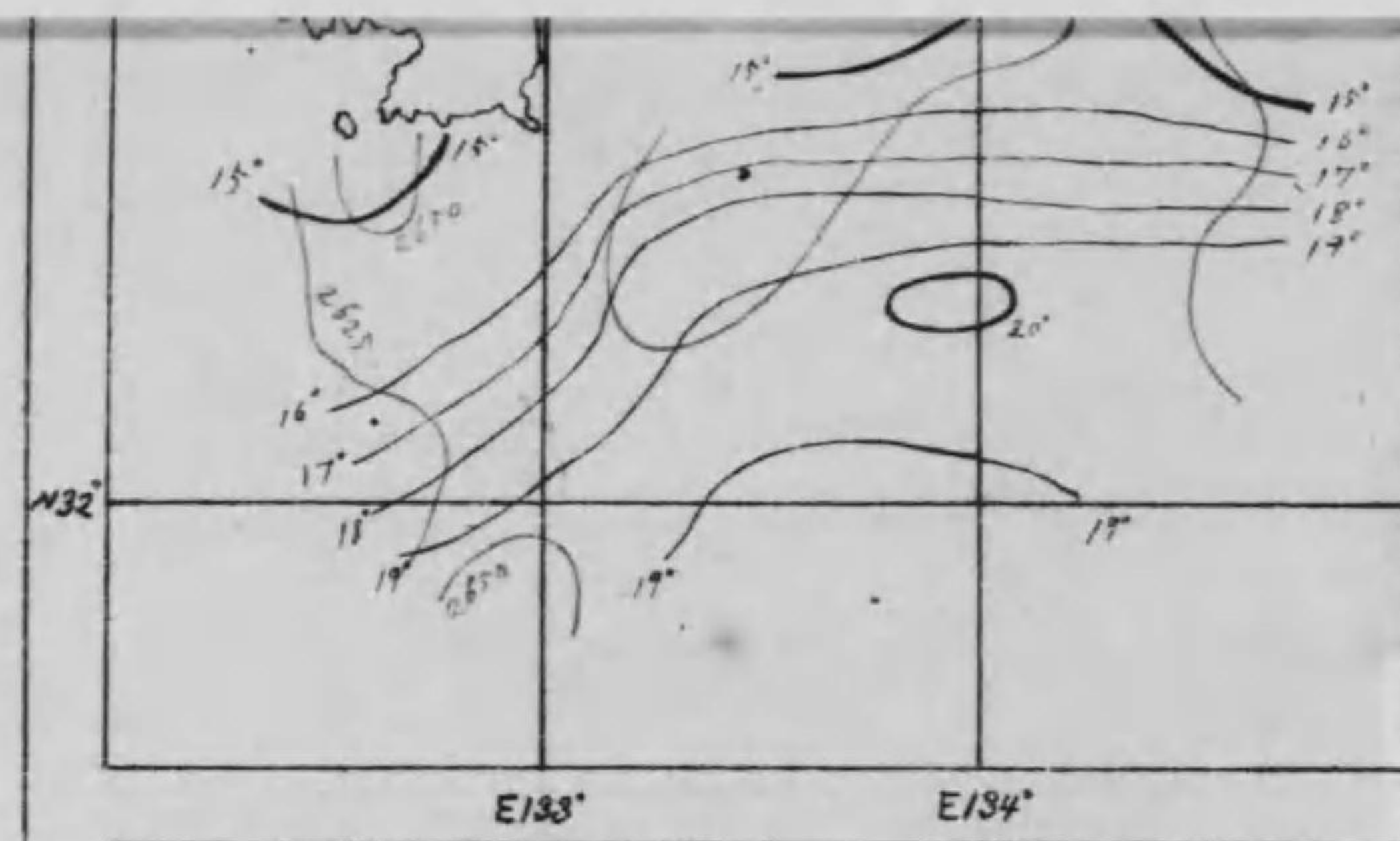


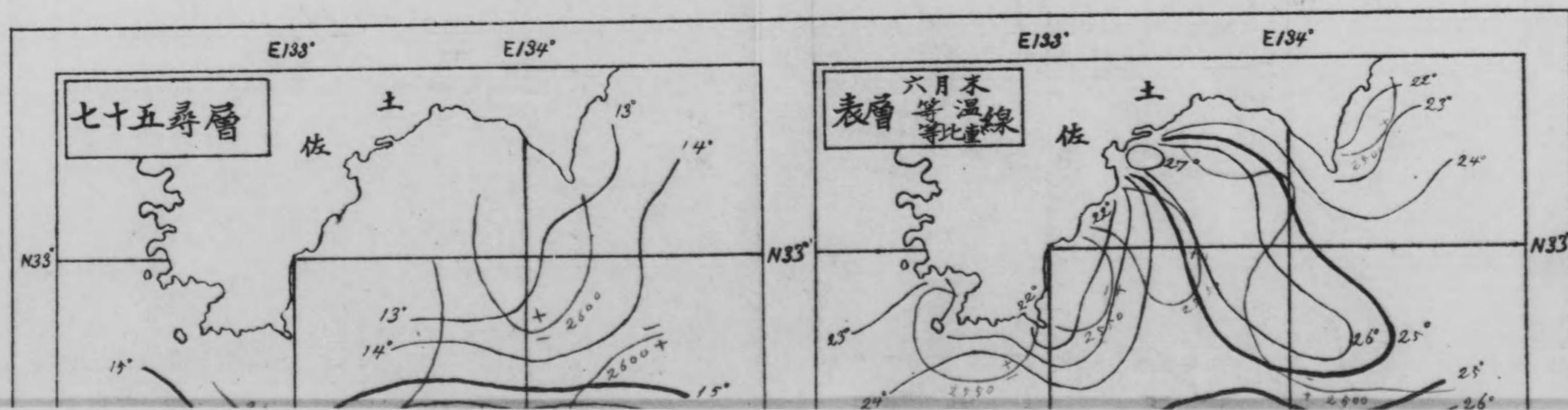
This page contains a large block of text, which is extremely faint and illegible. The text appears to be organized into several columns, but the characters are too light to be read. There is a prominent dark vertical smudge or stain on the right side of the page, which may be obscuring some of the text.

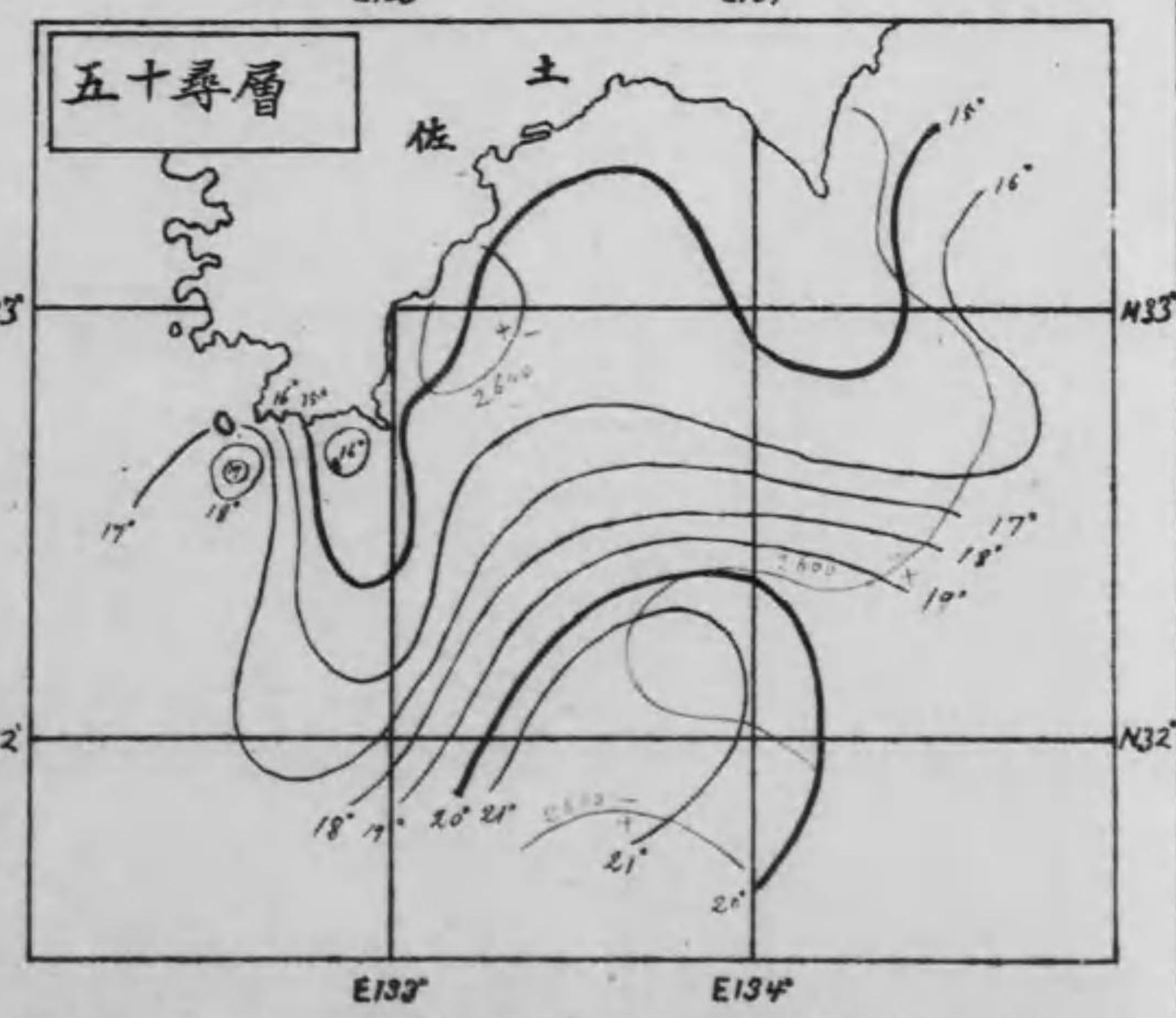
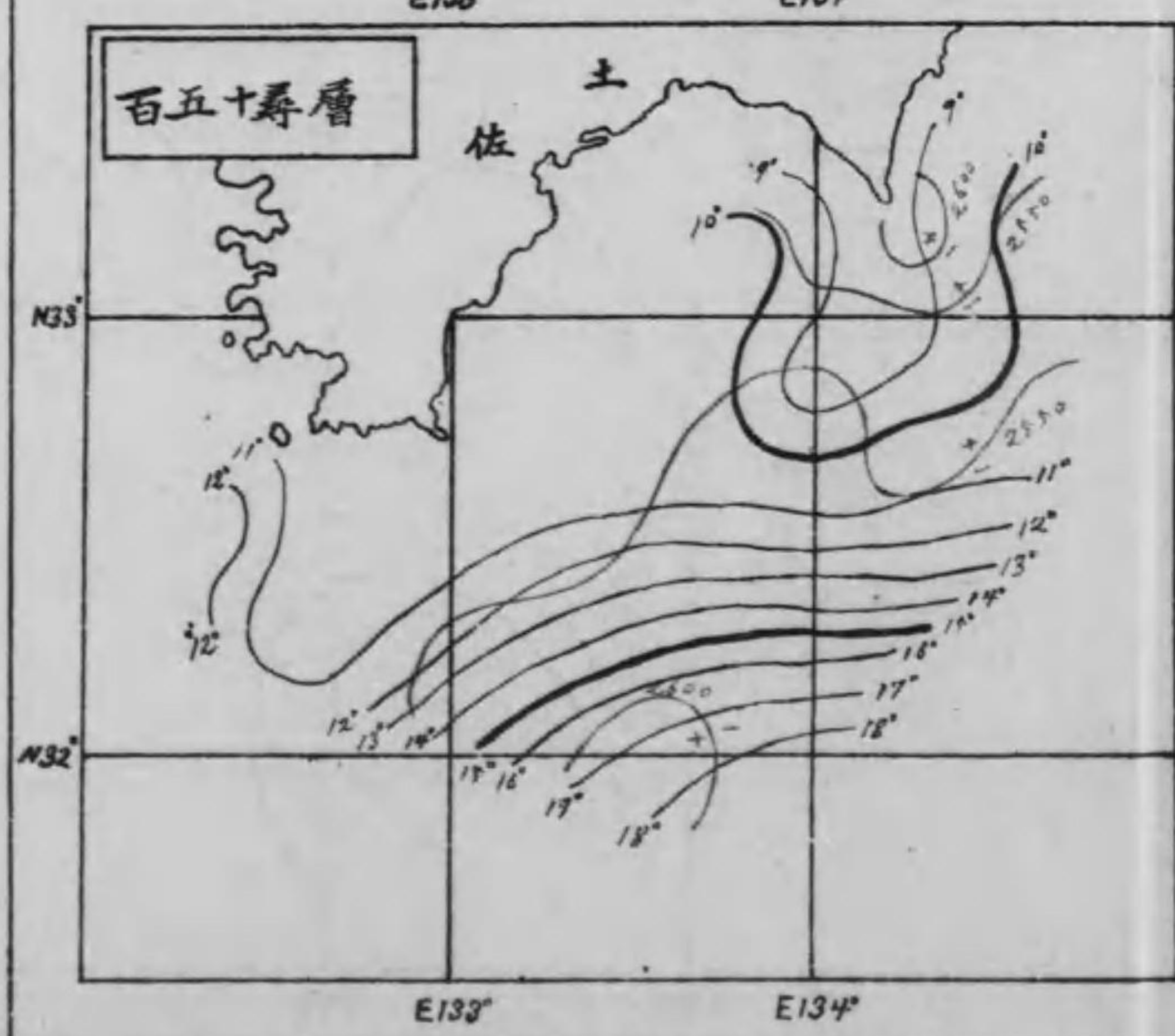
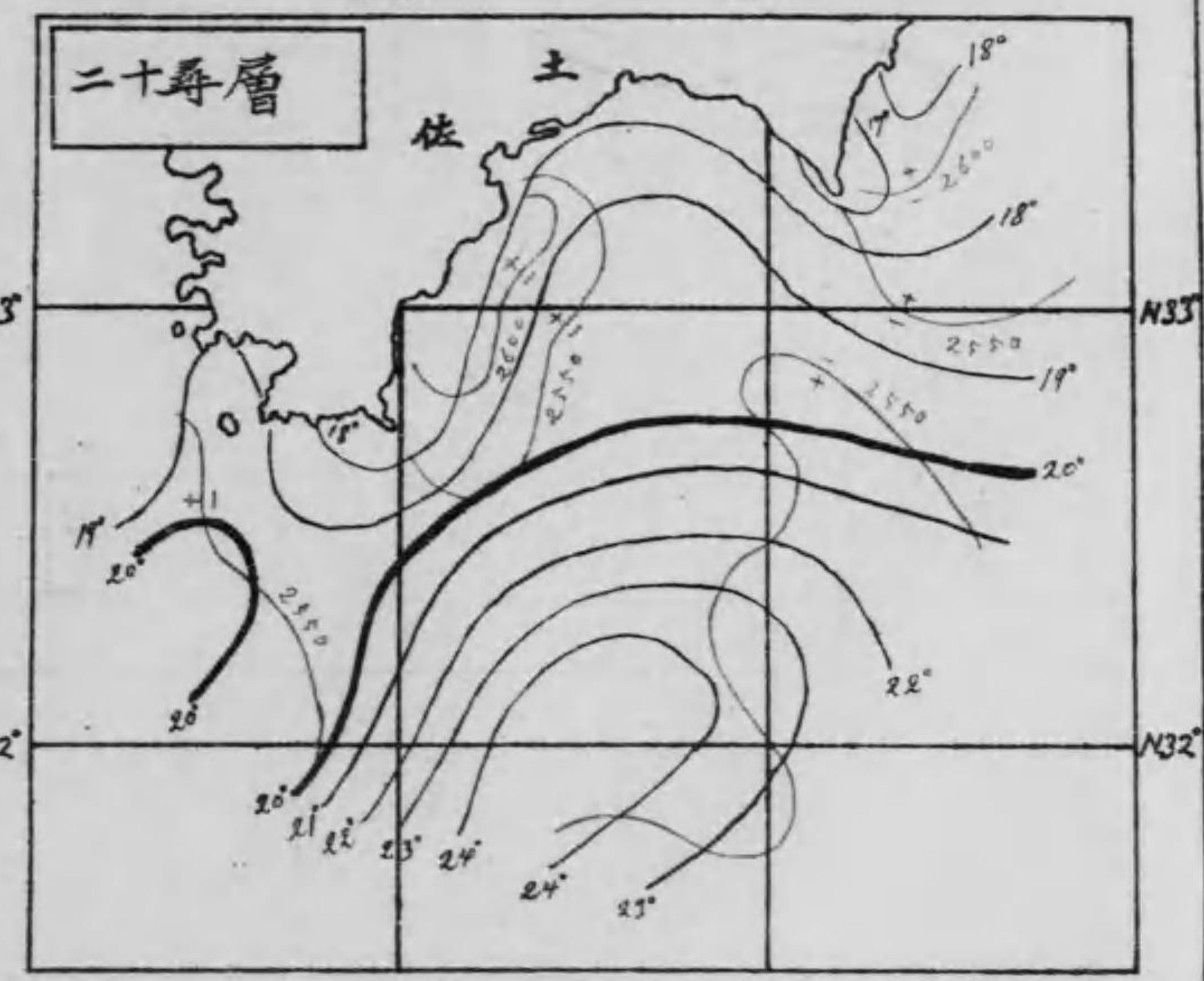
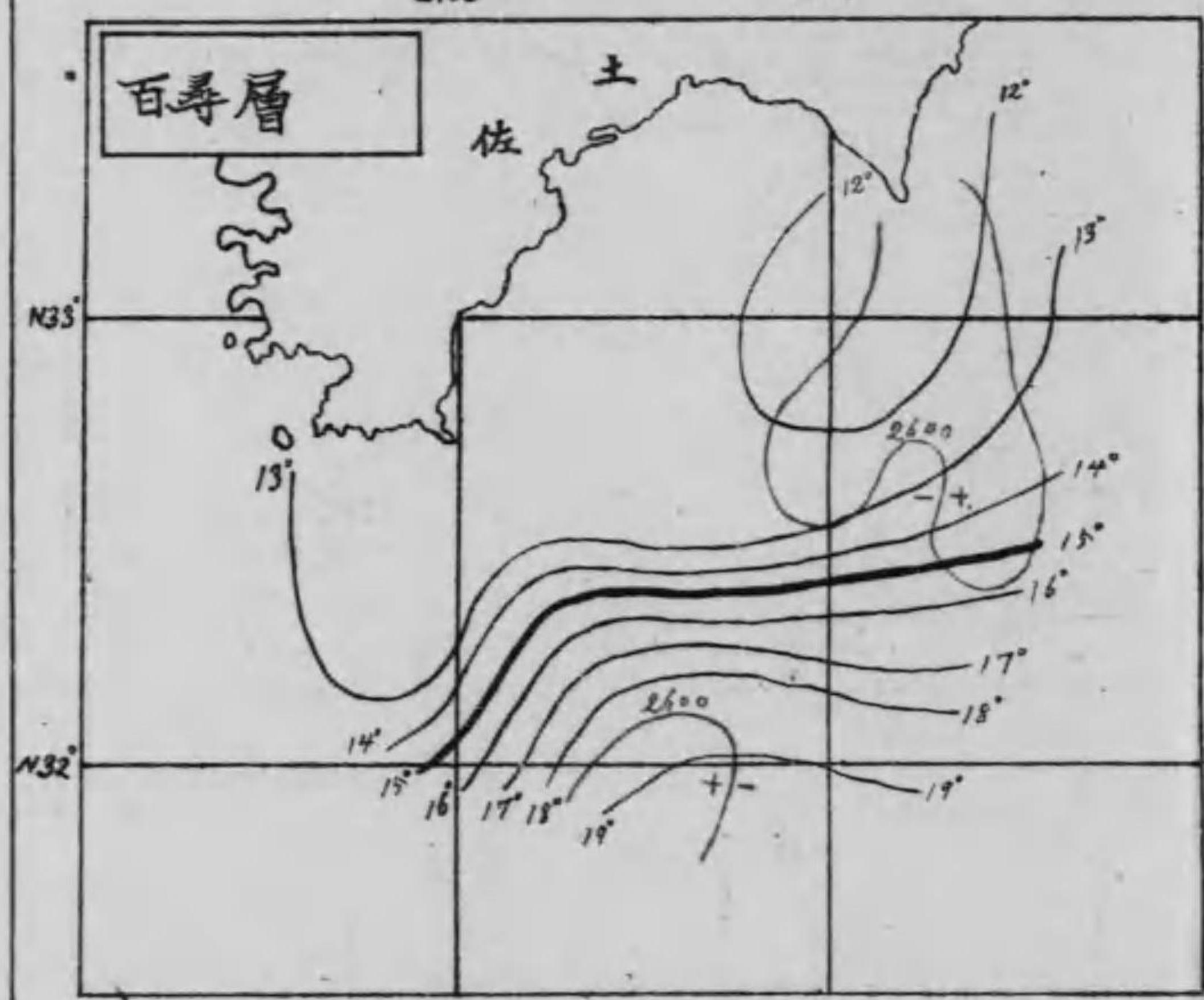
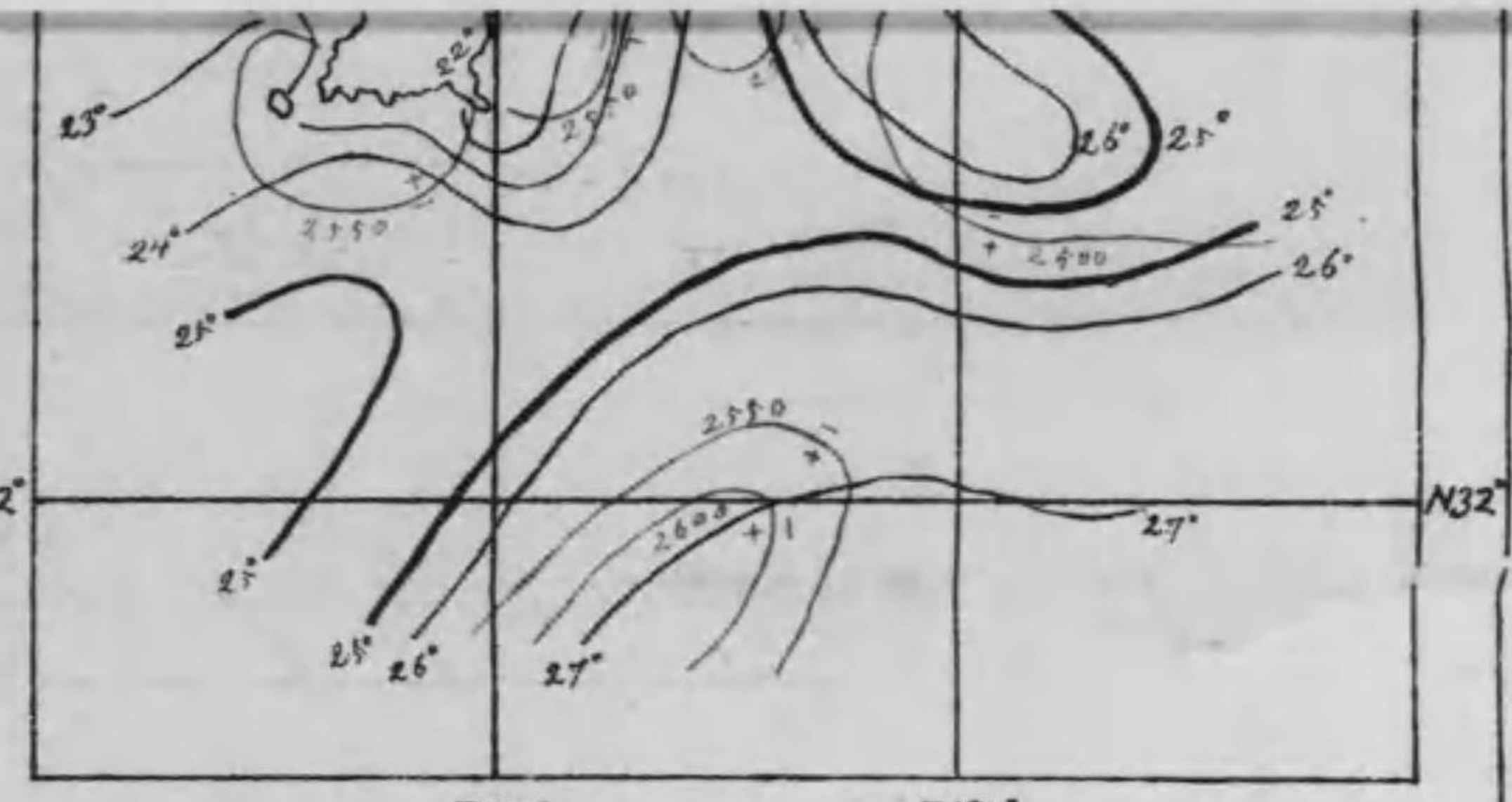
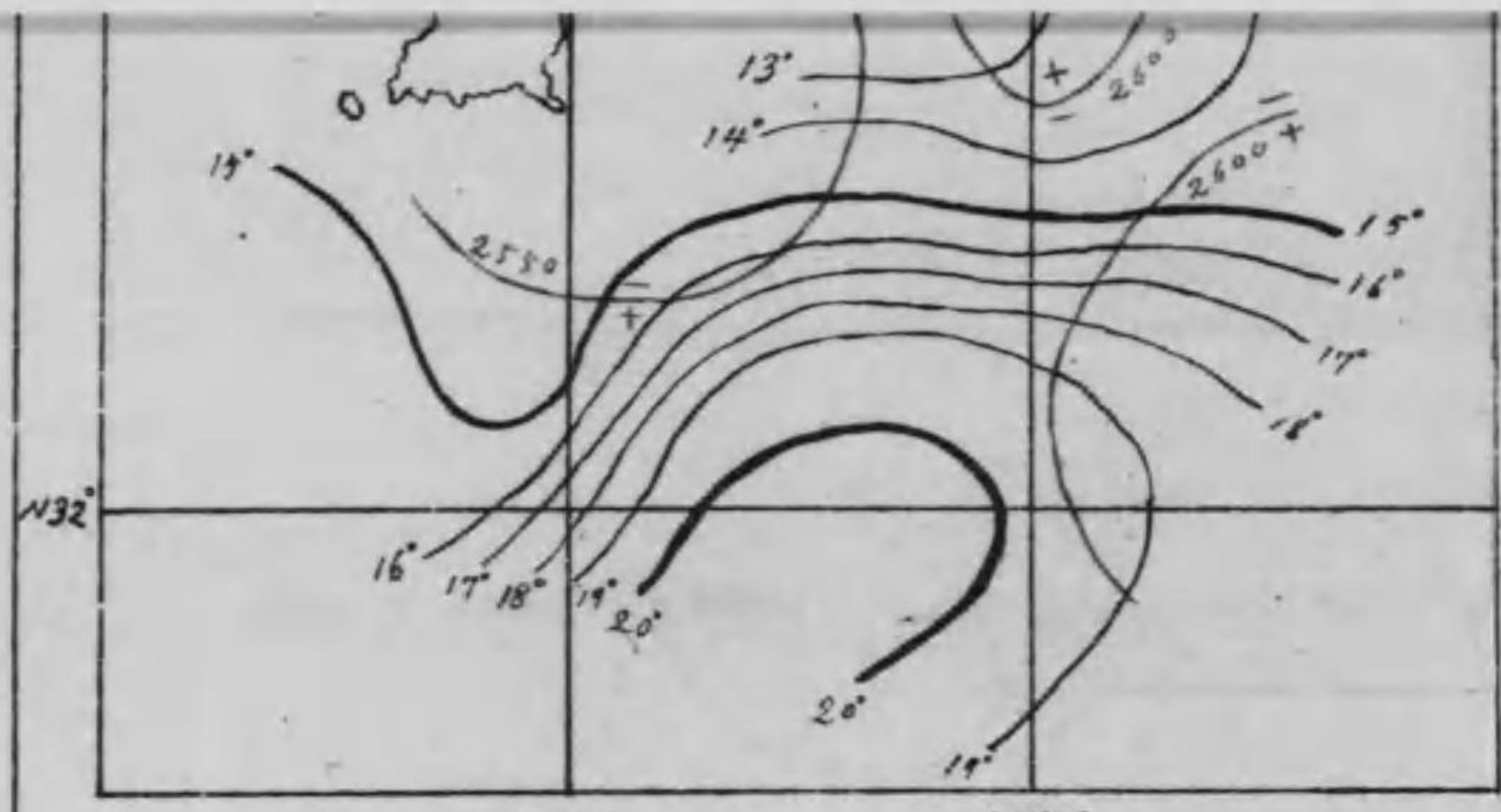




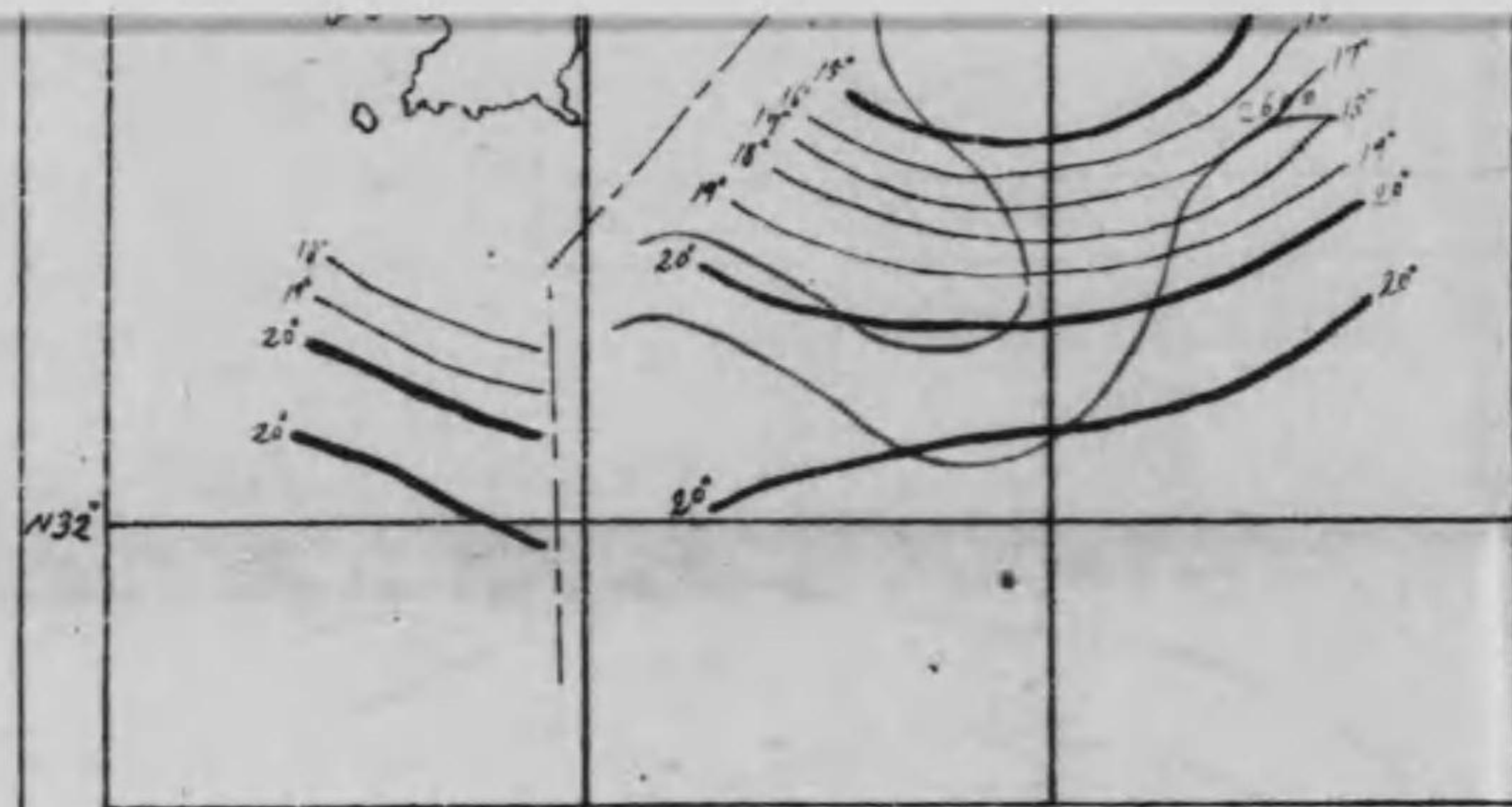




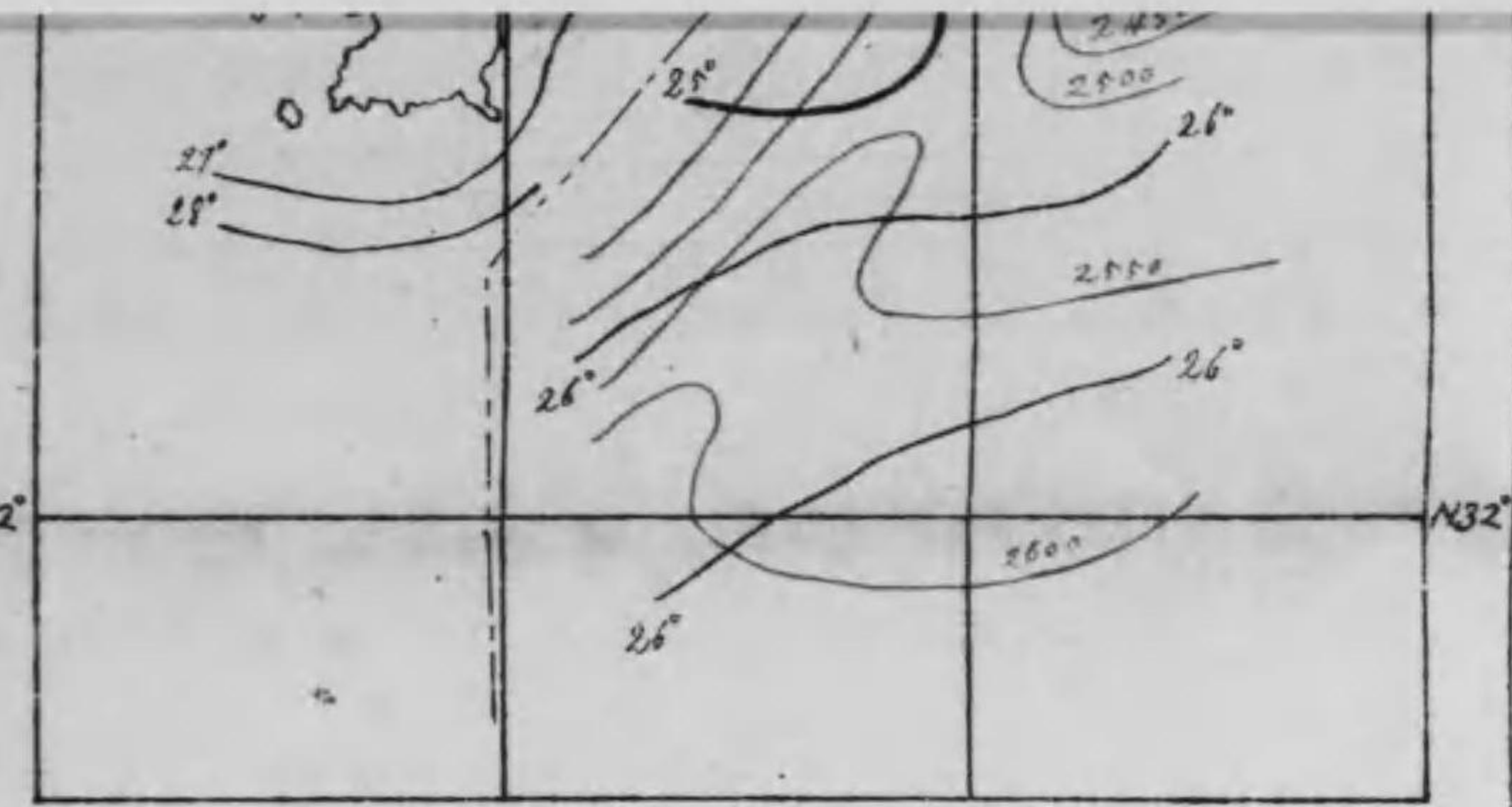




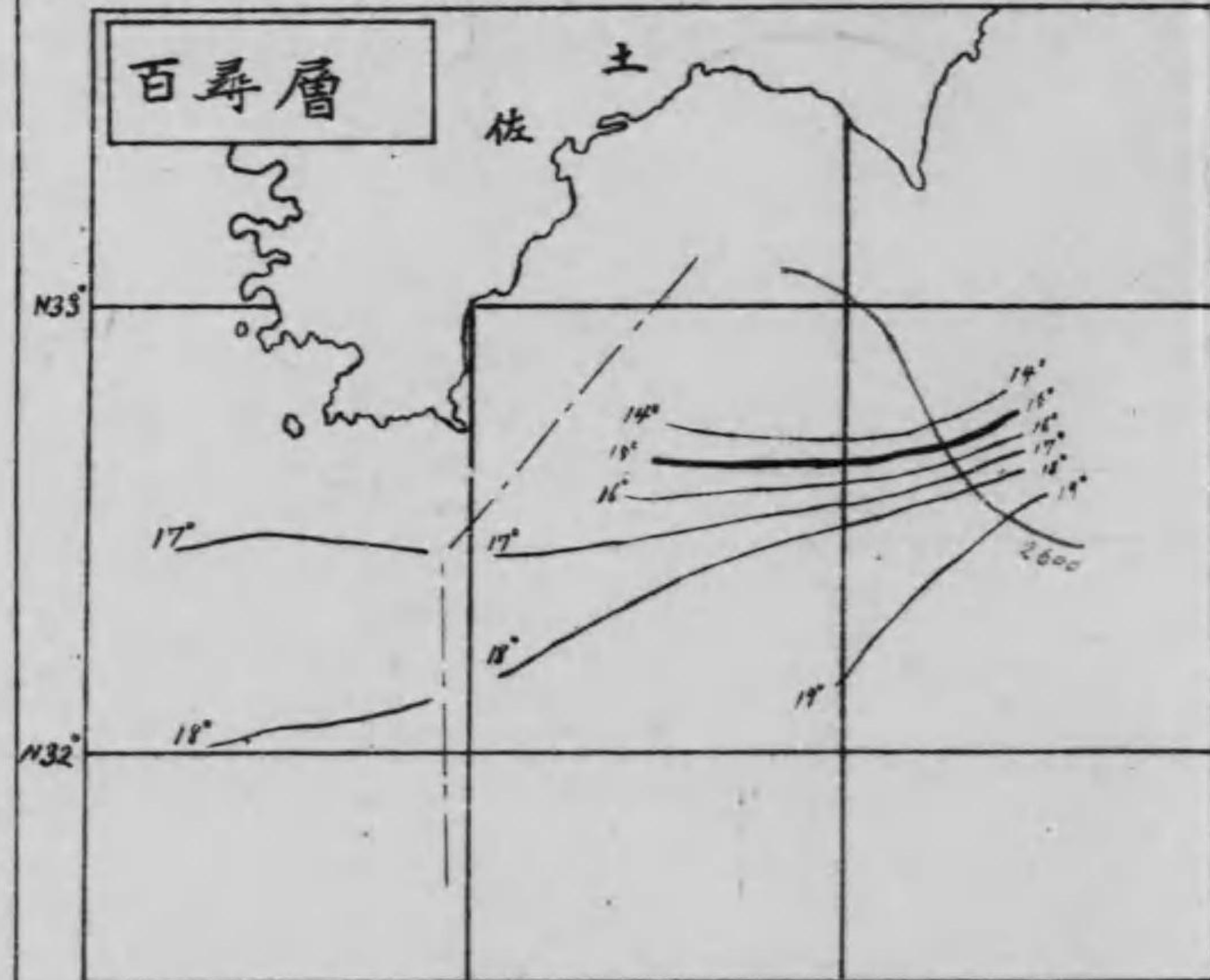




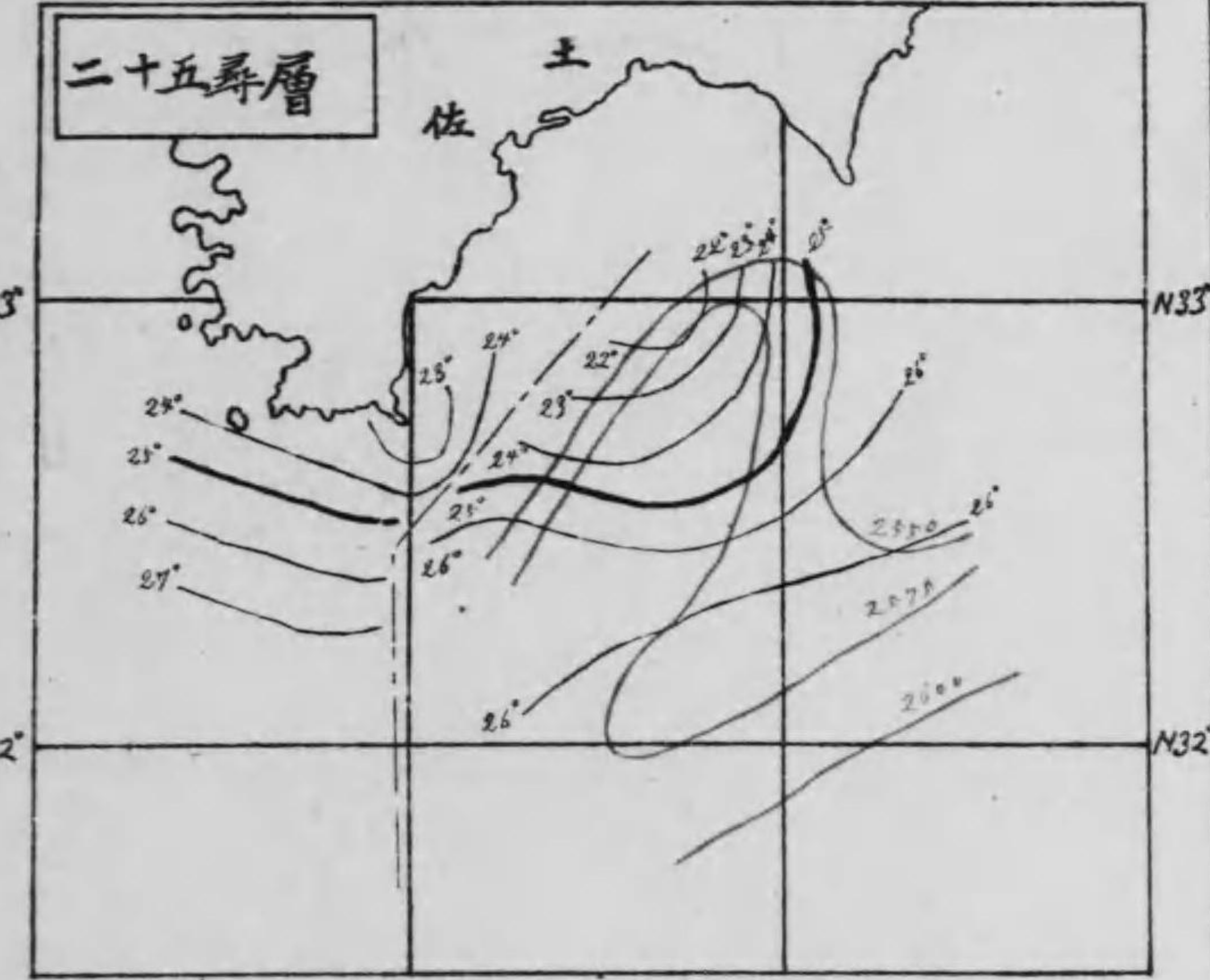
E133° E134°



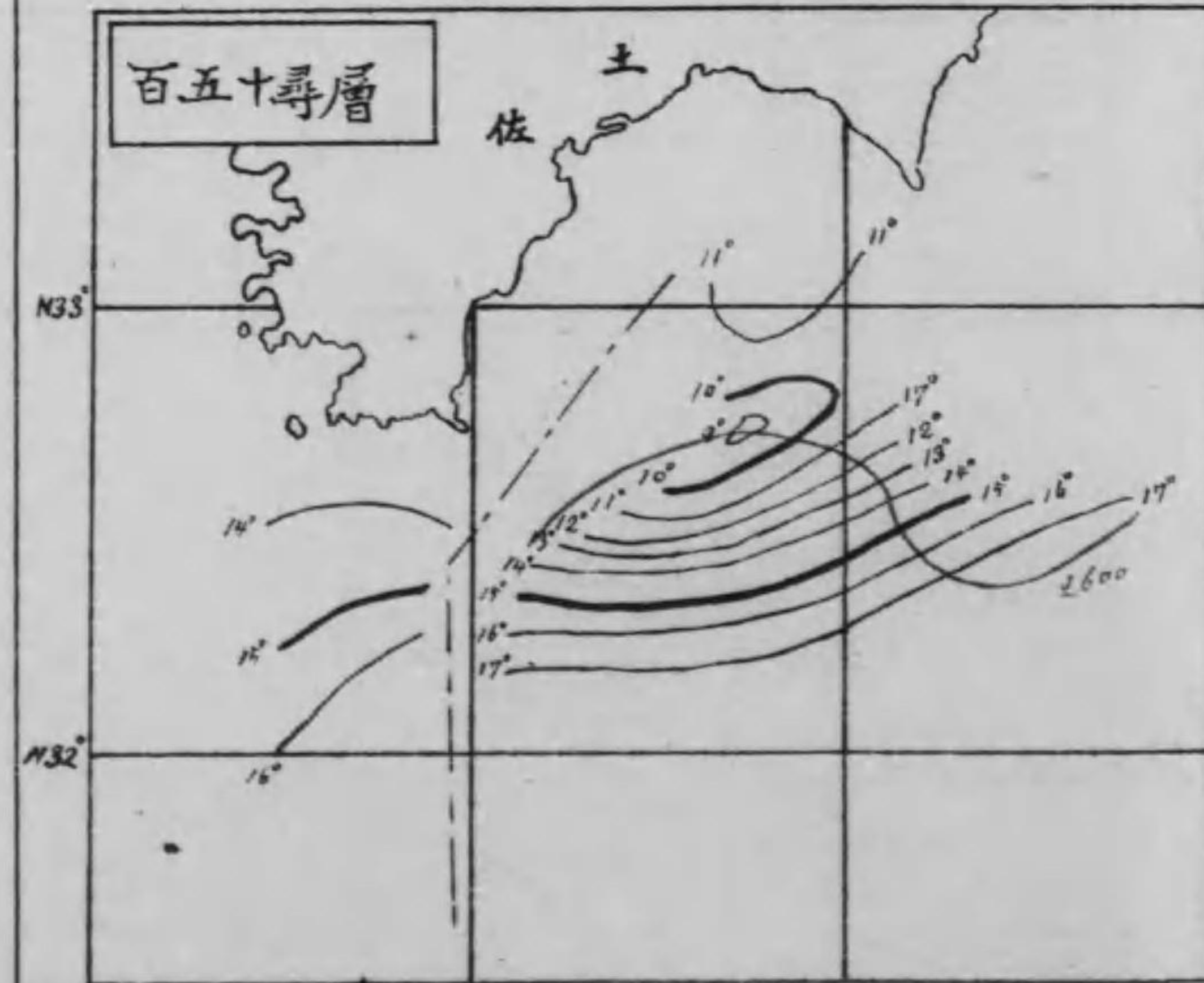
E133° E134°



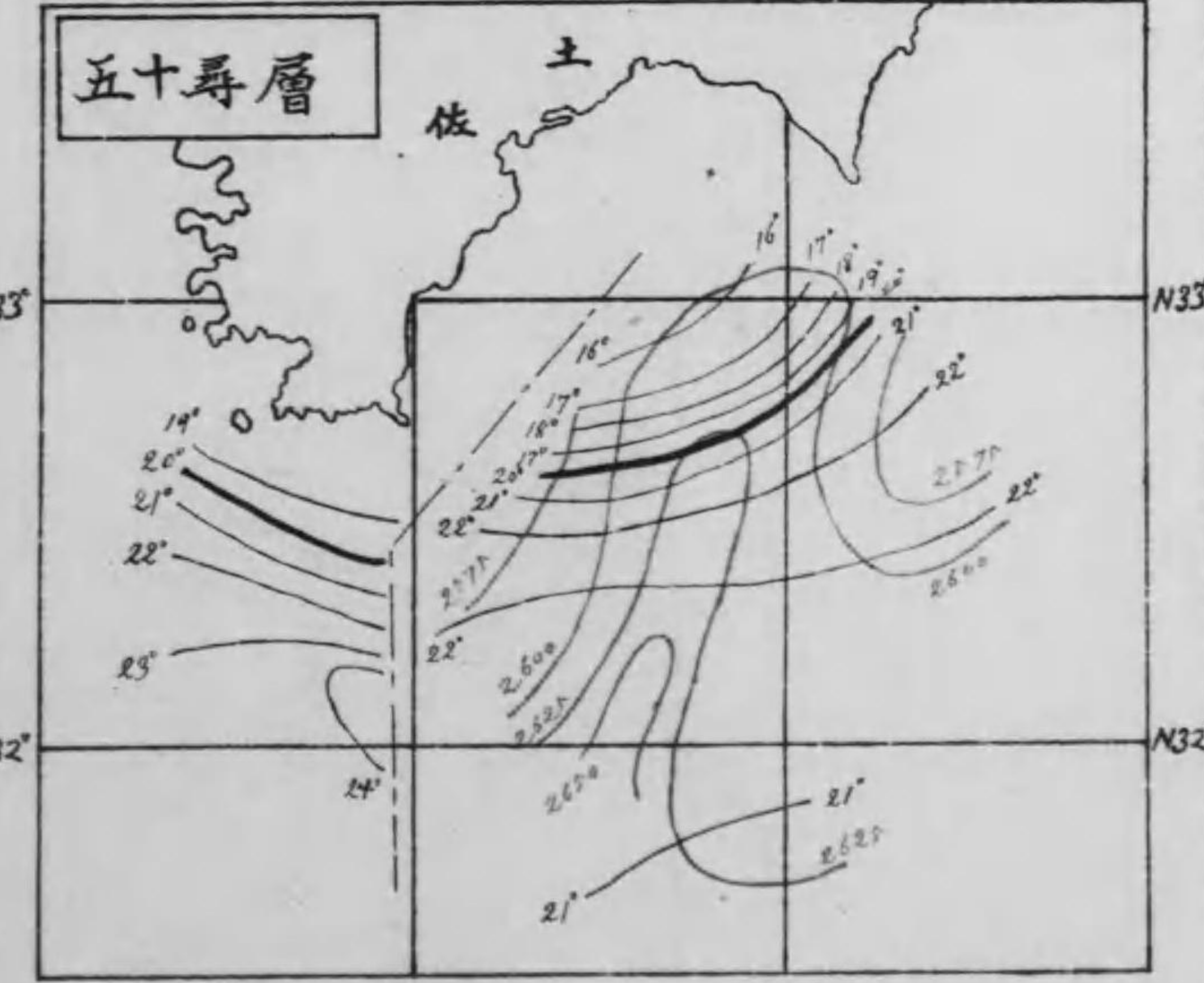
E133° E134°



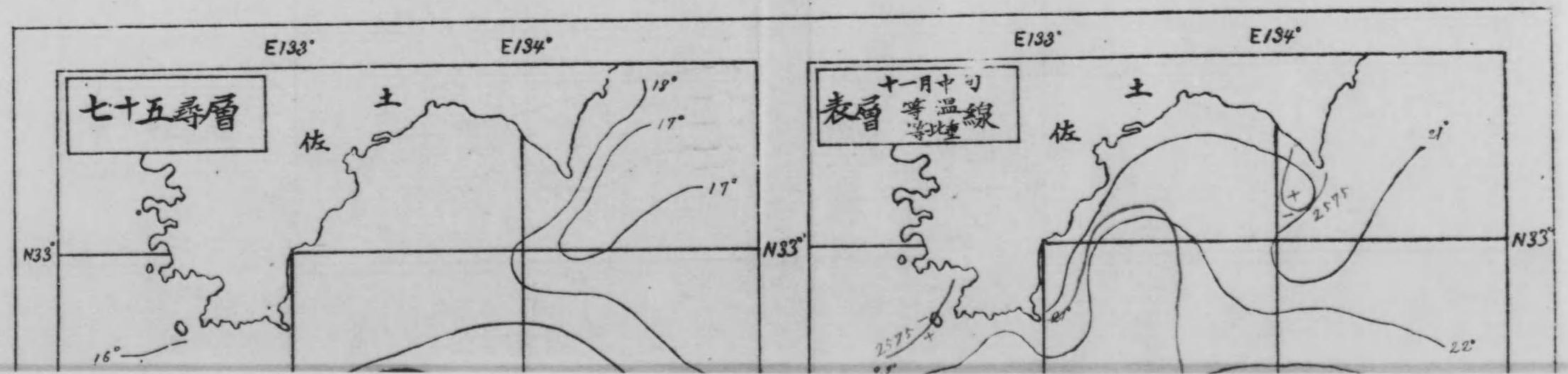
E133° E134°

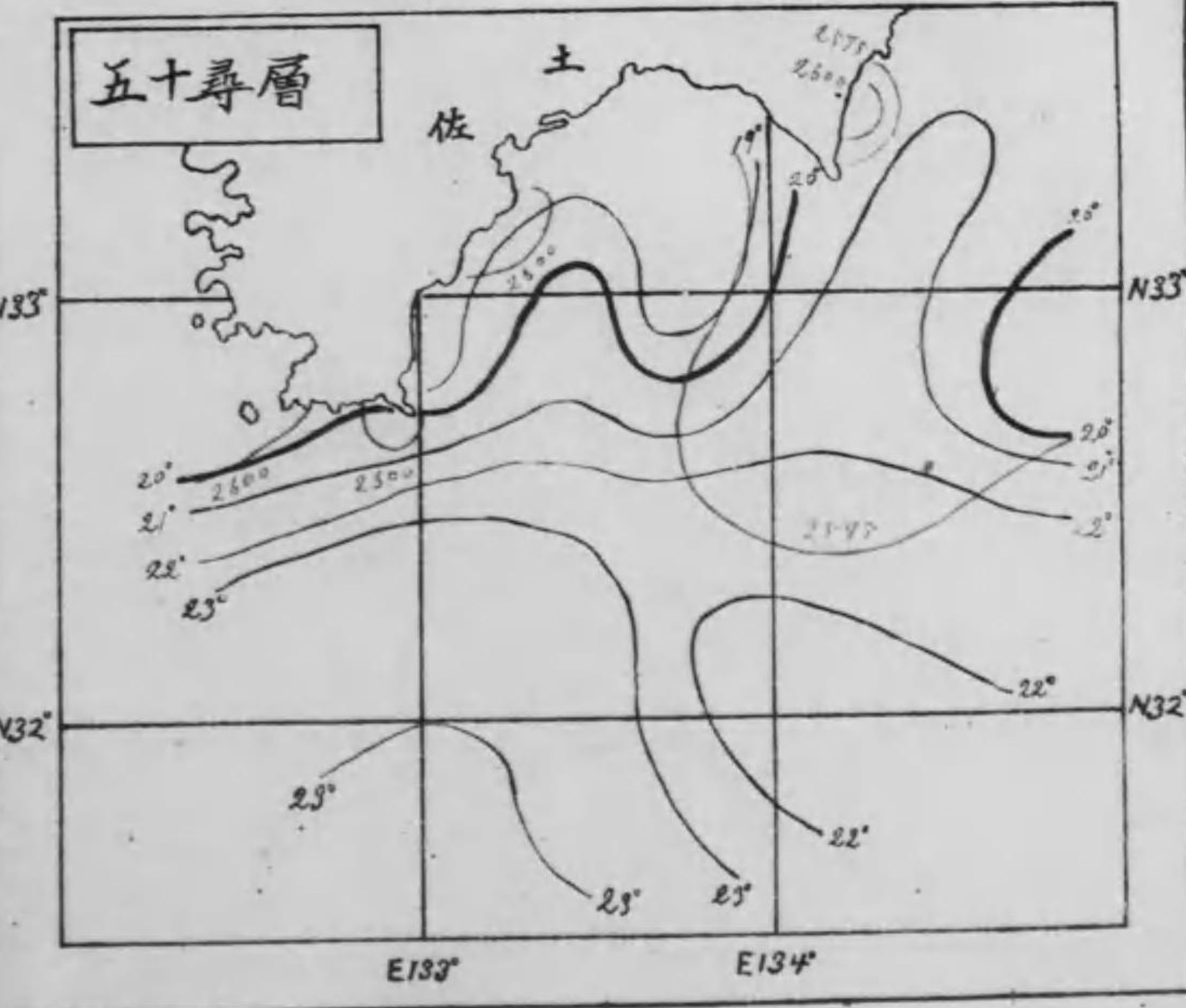
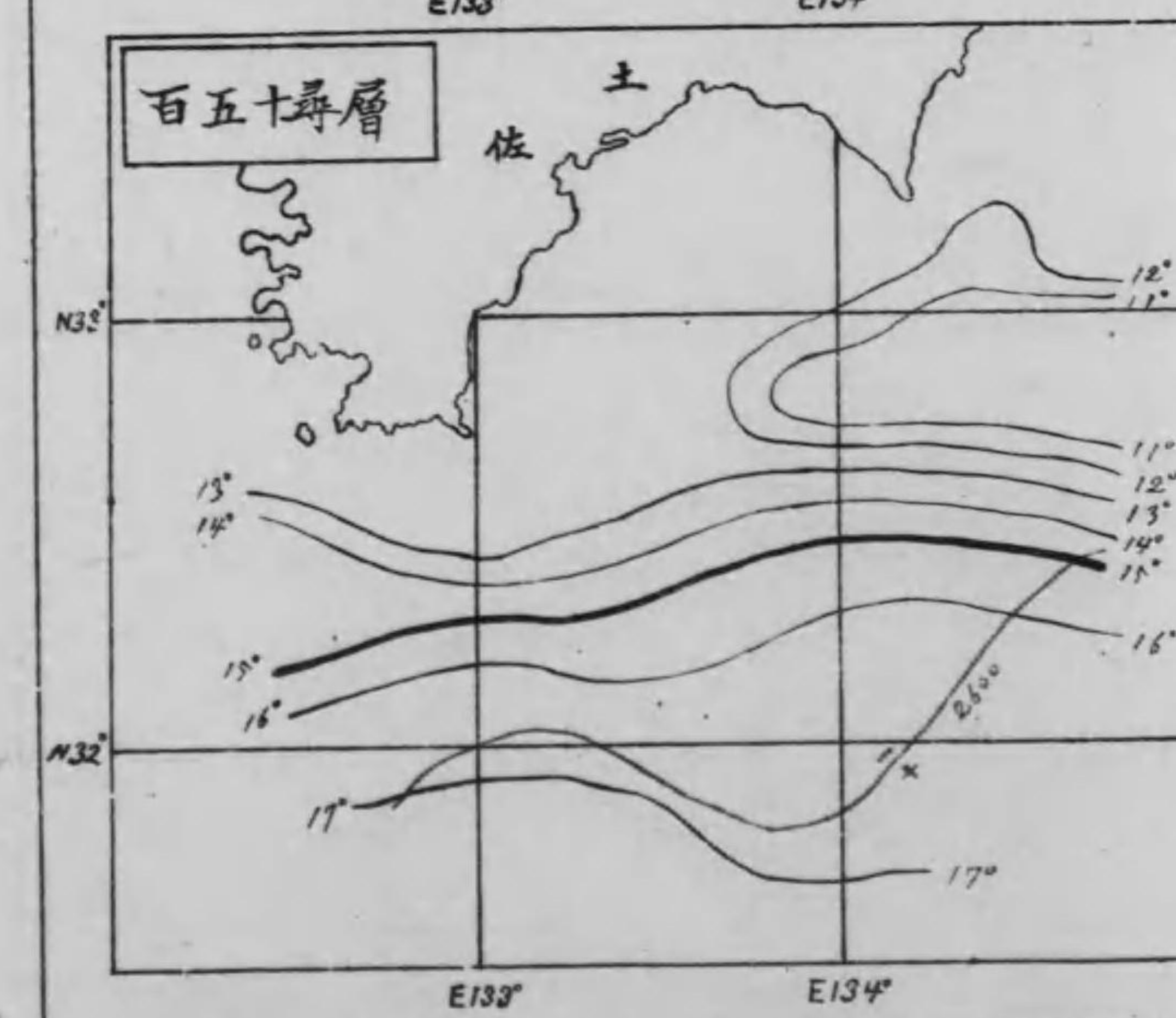
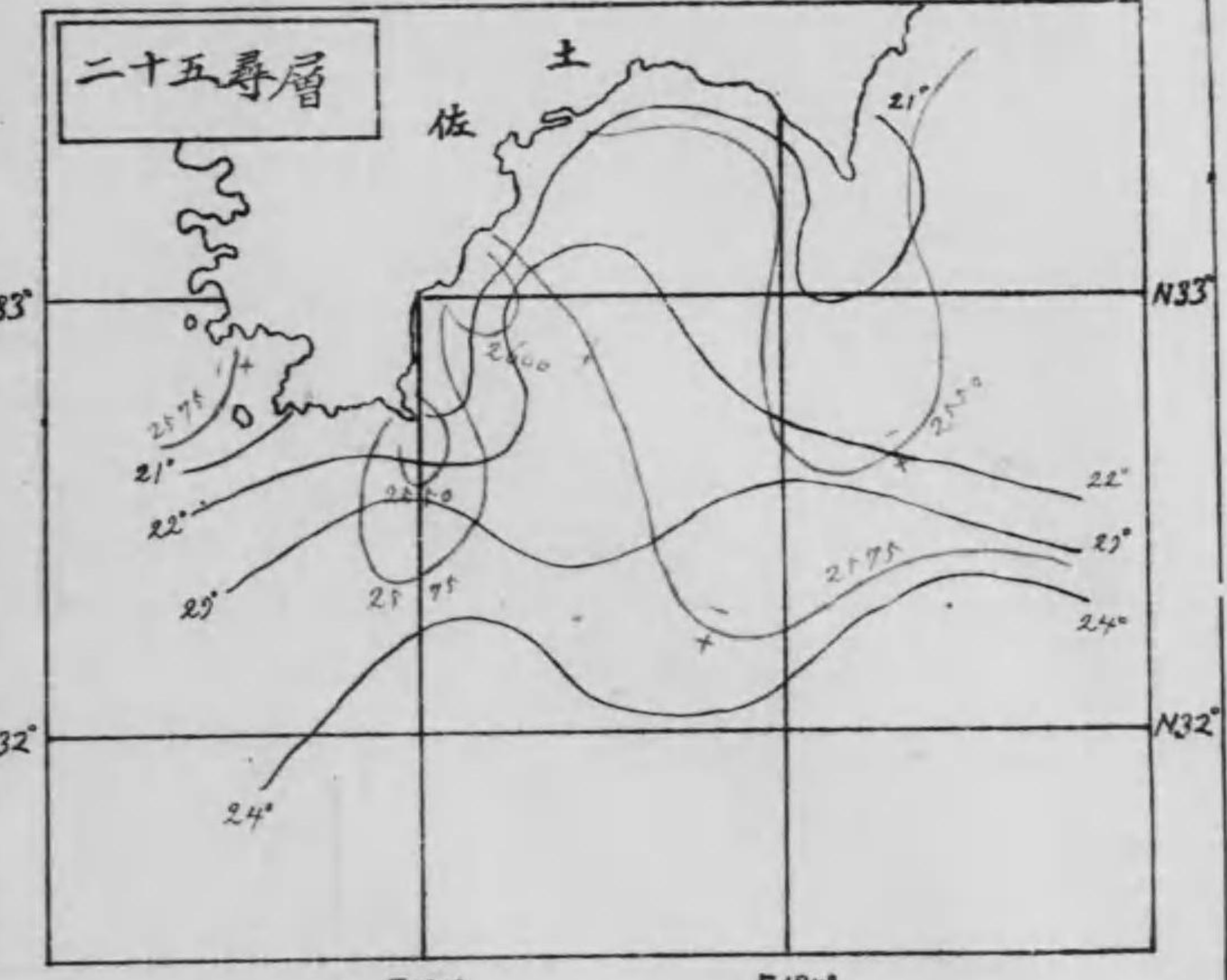
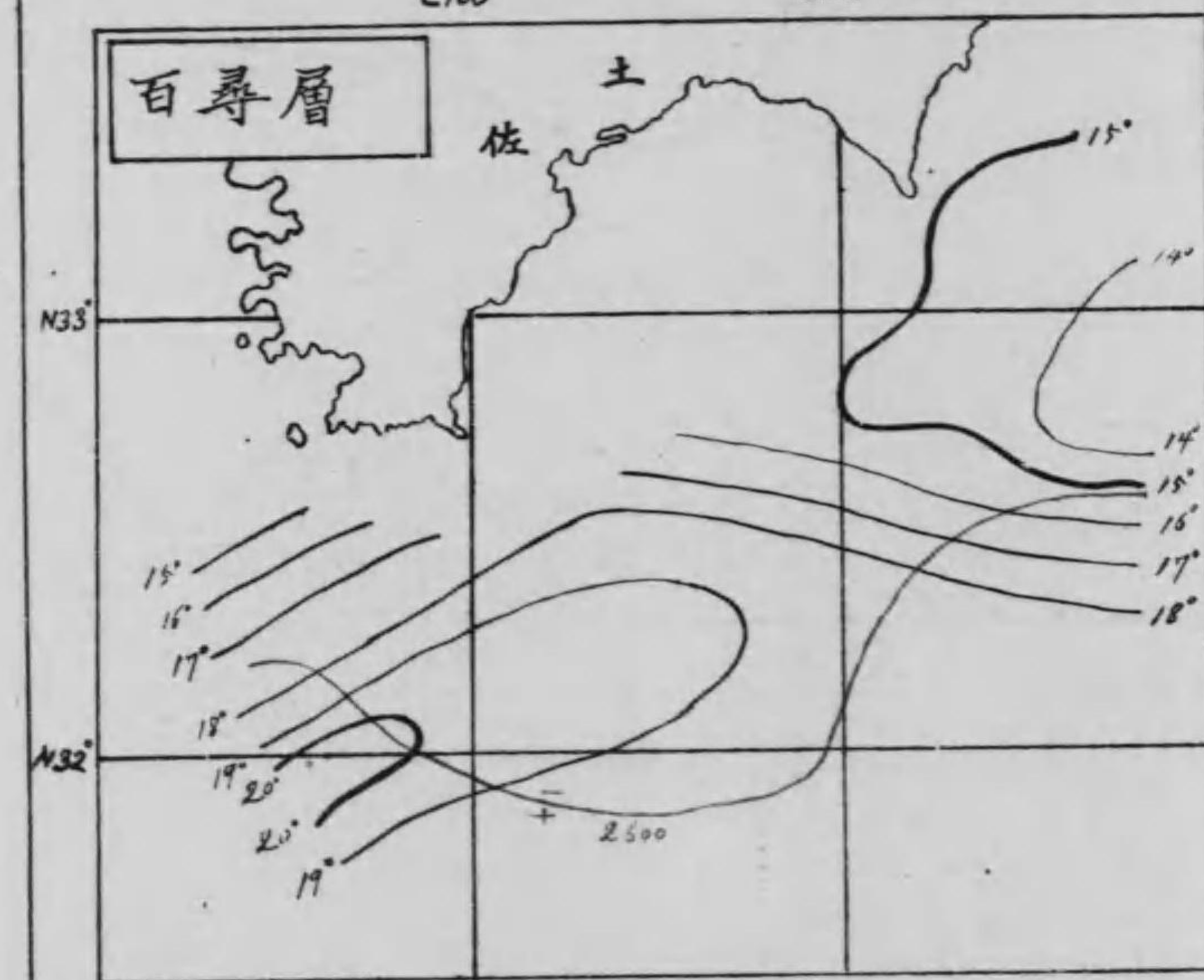
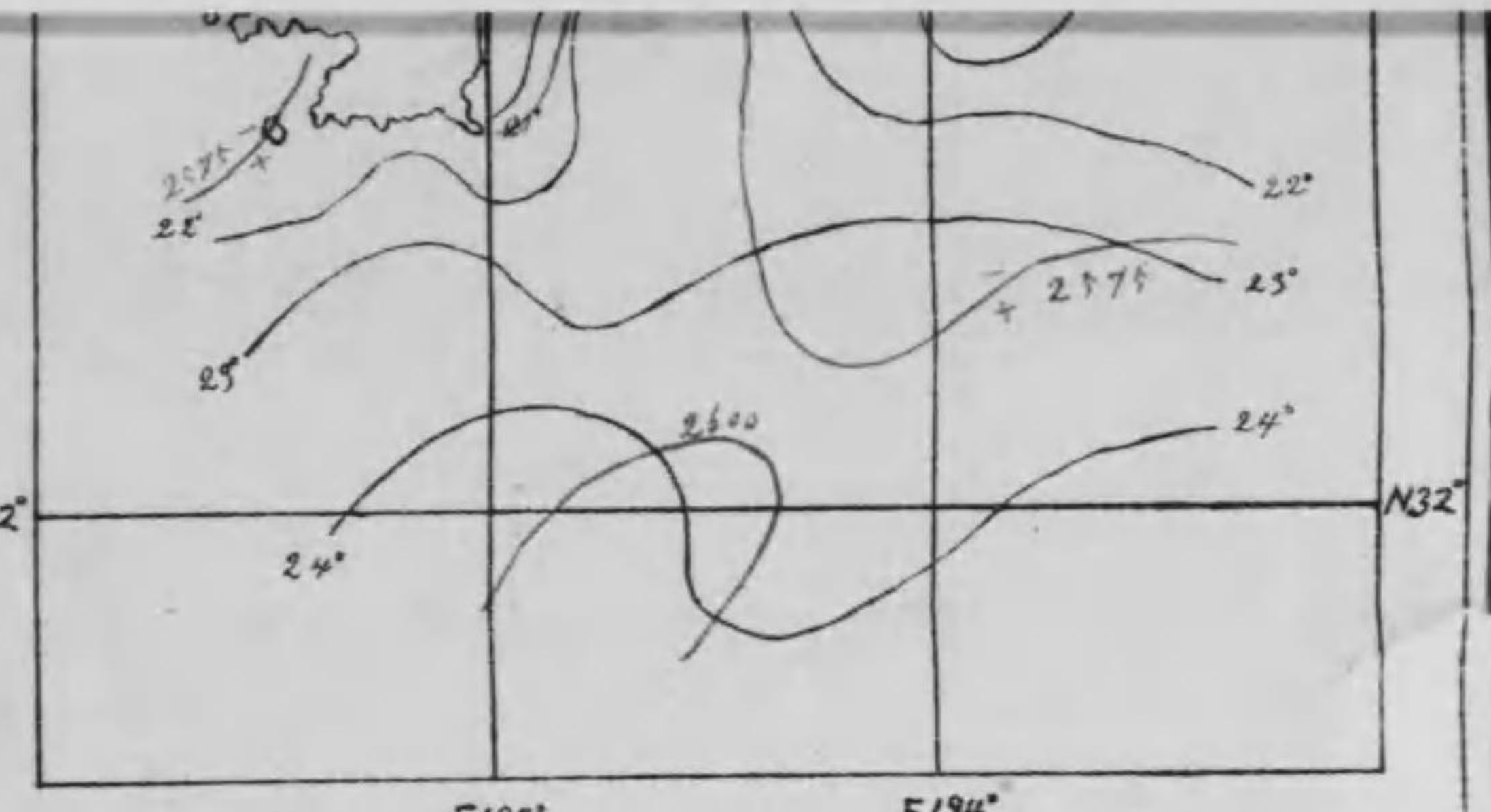
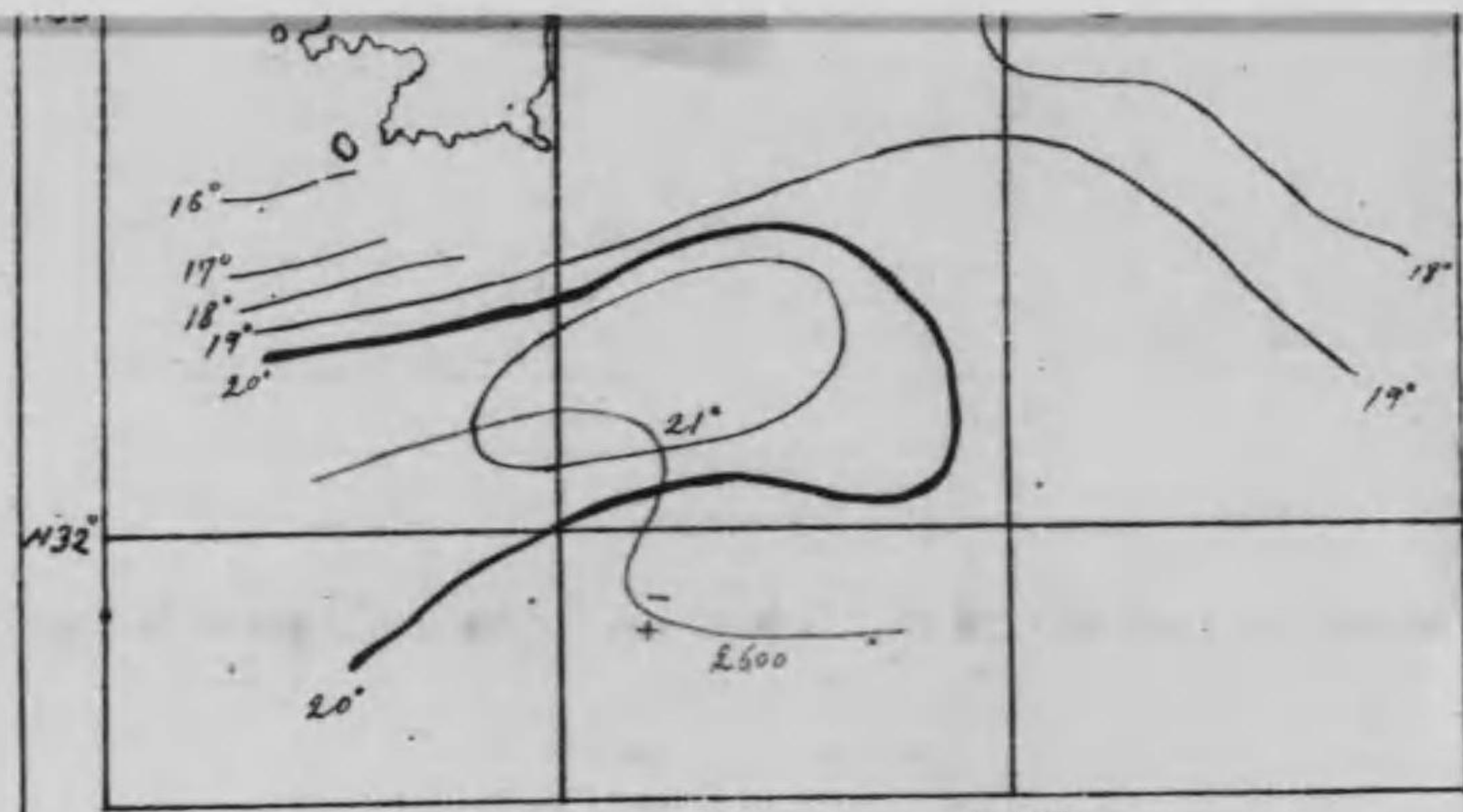


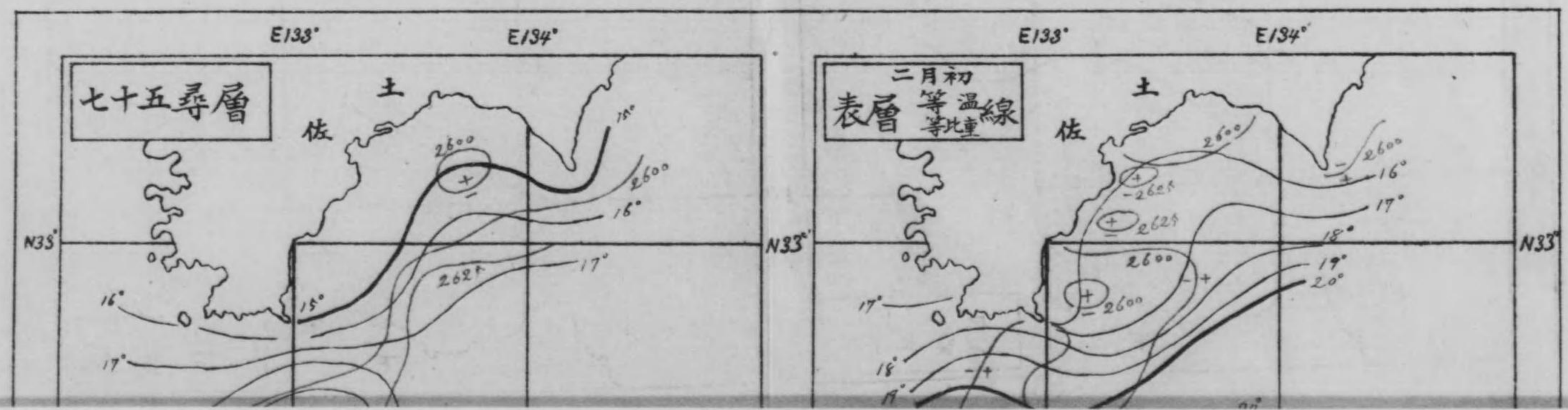
E133° E134°

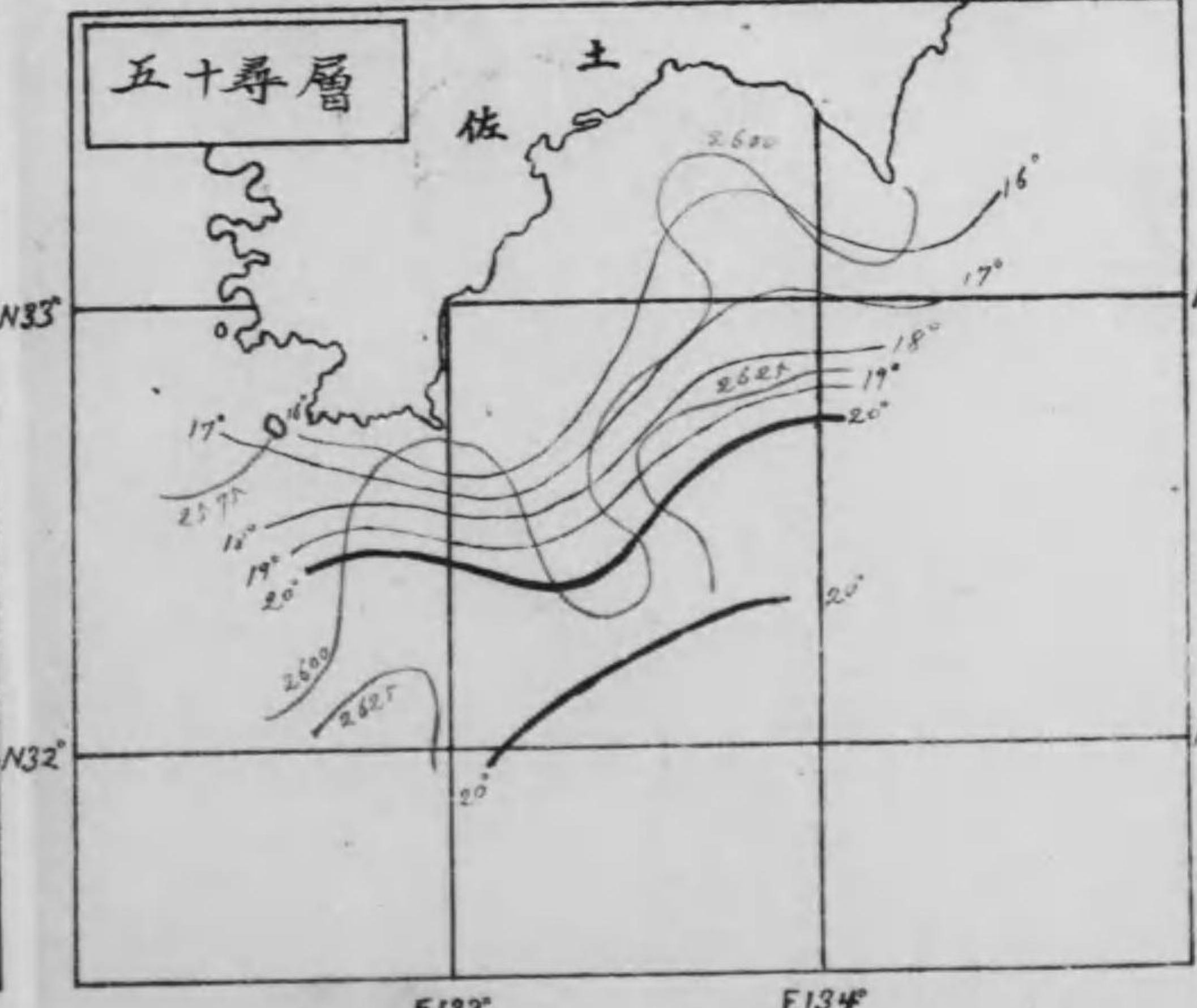
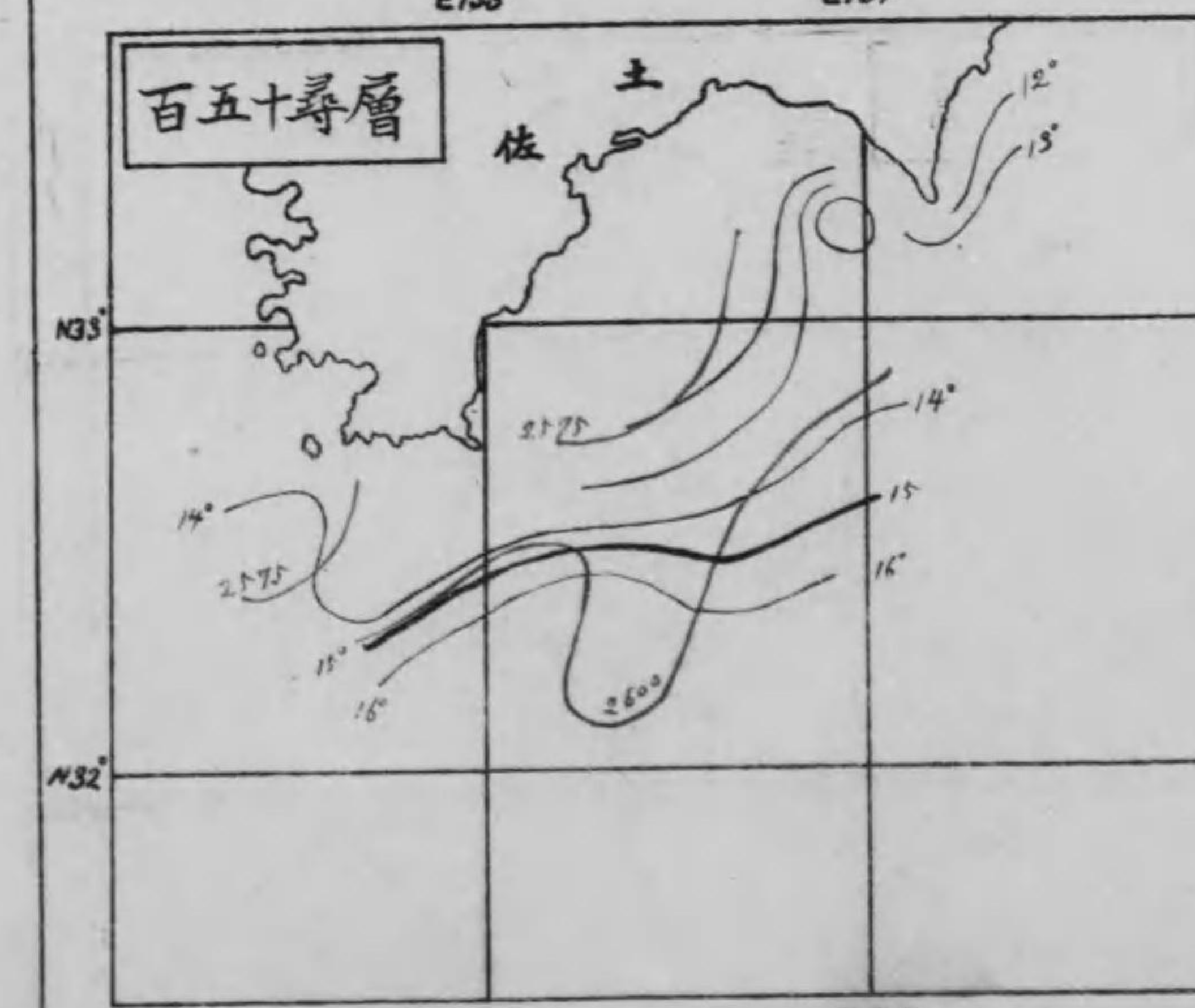
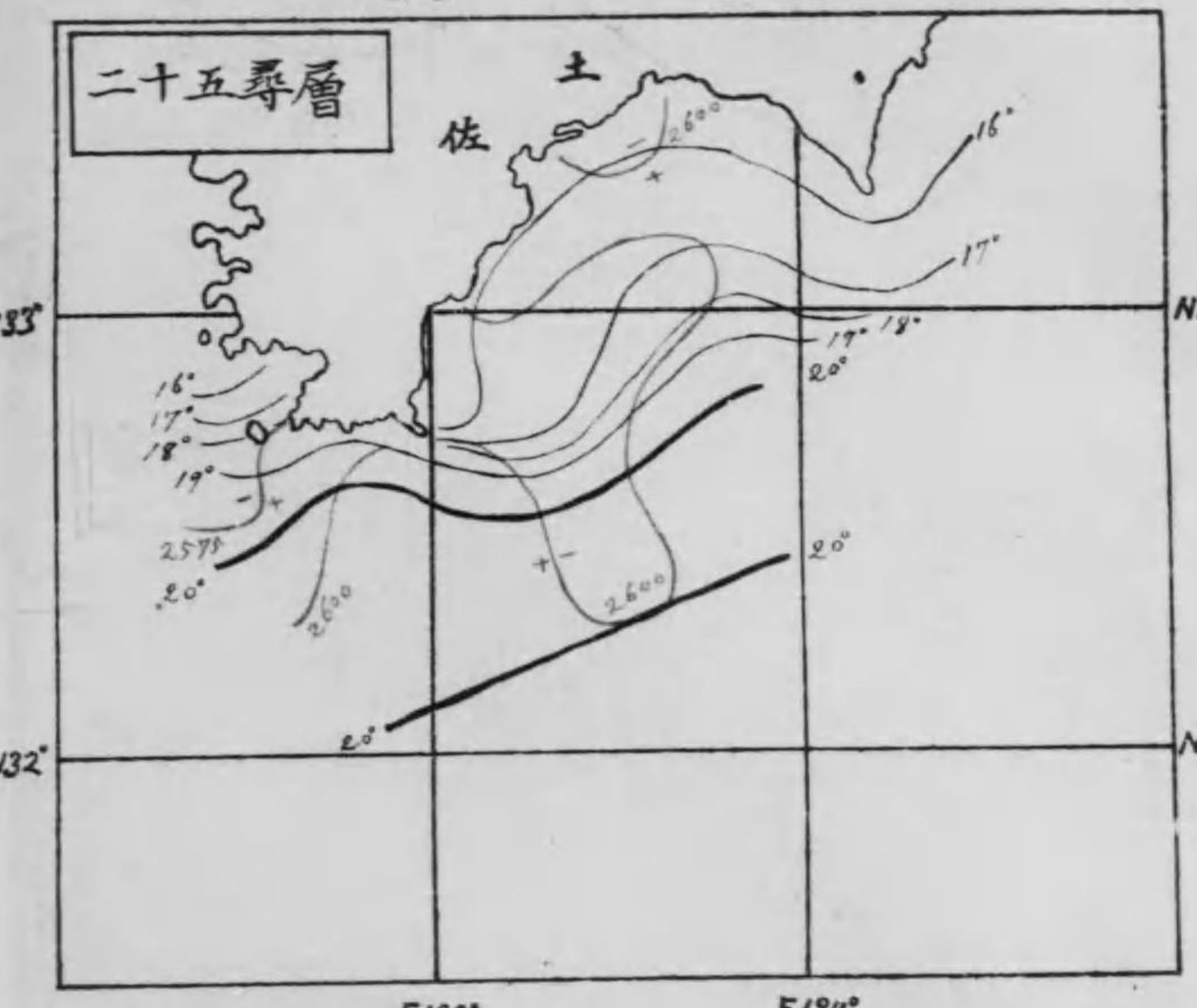
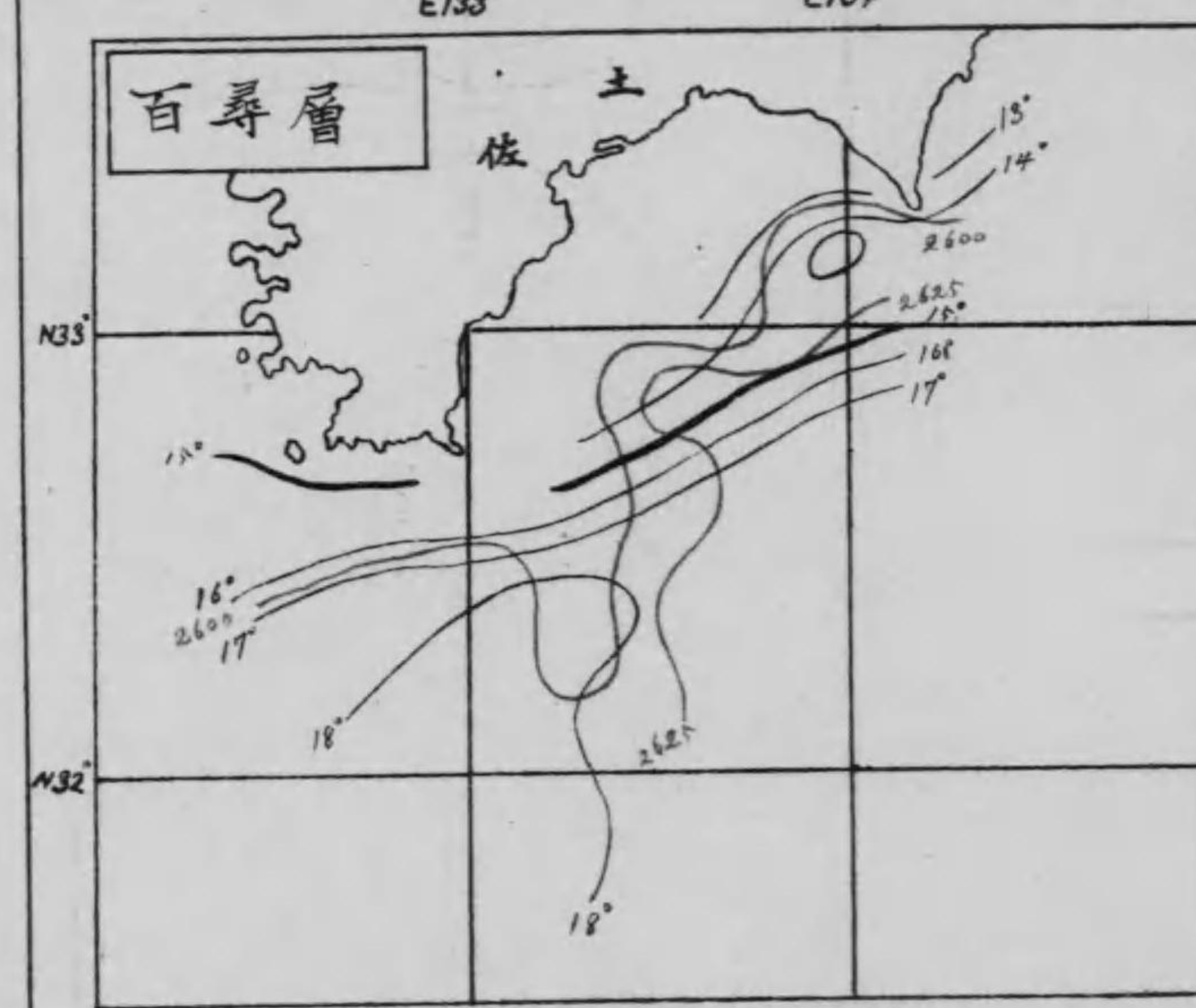
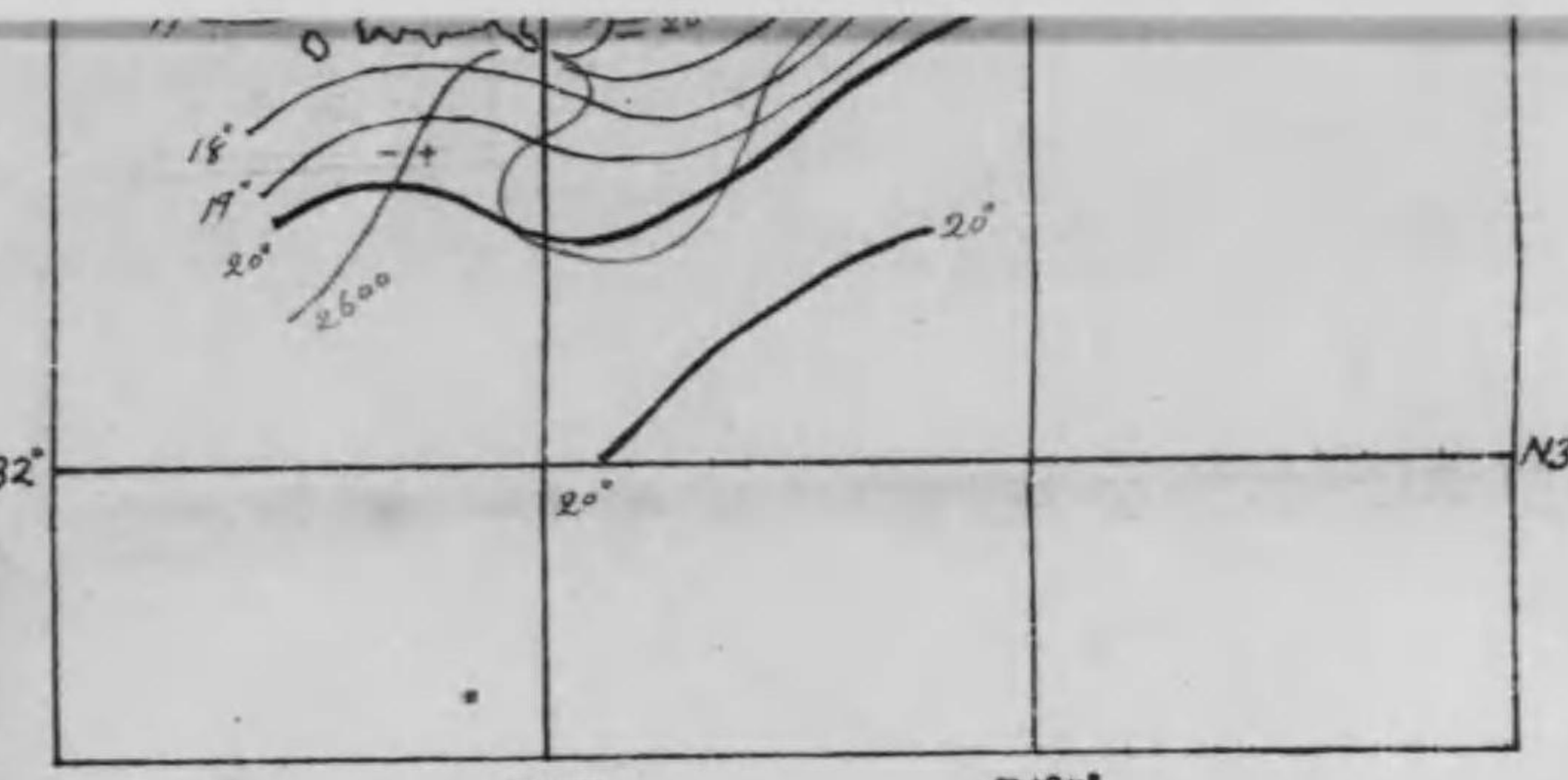
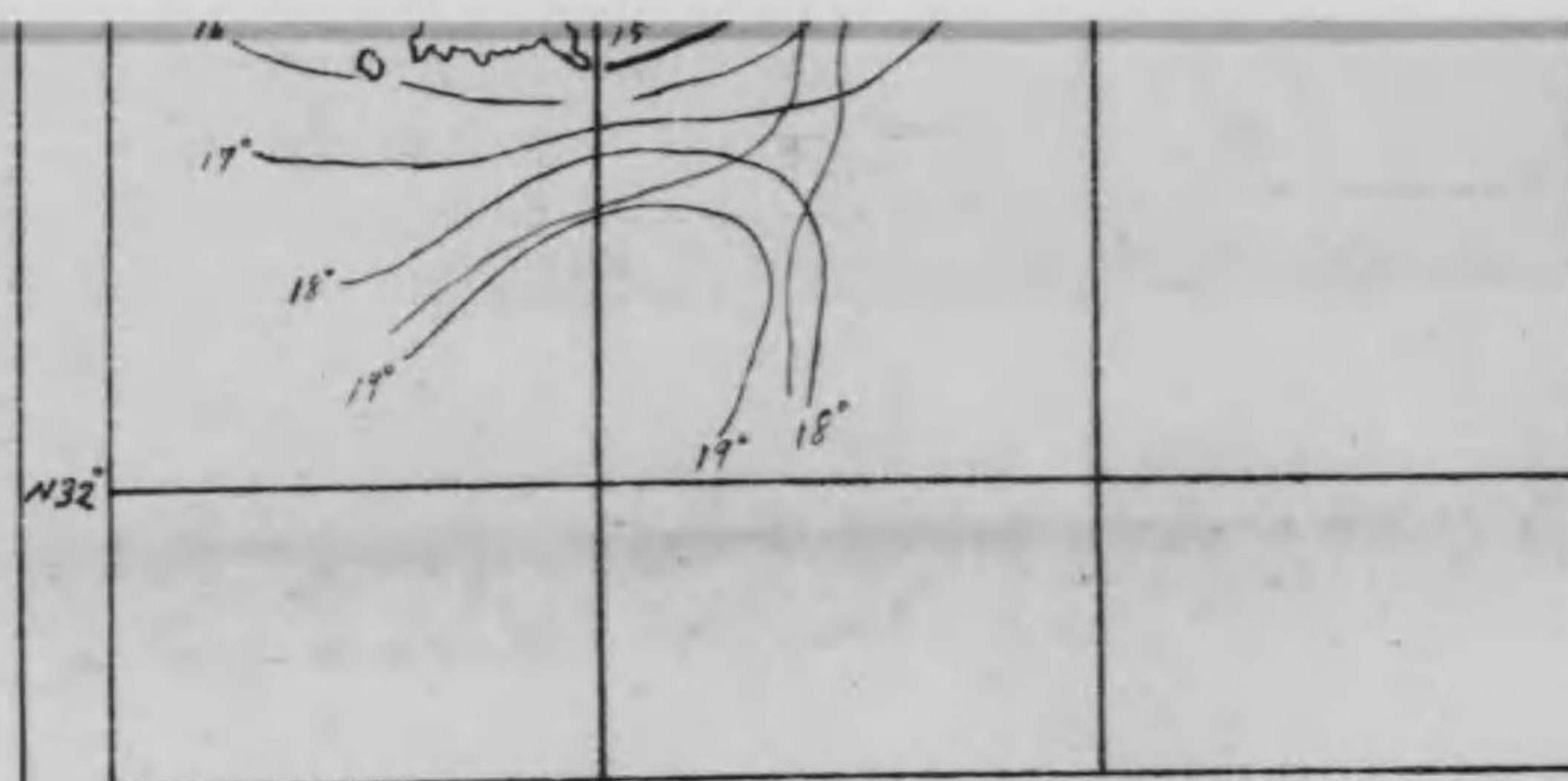


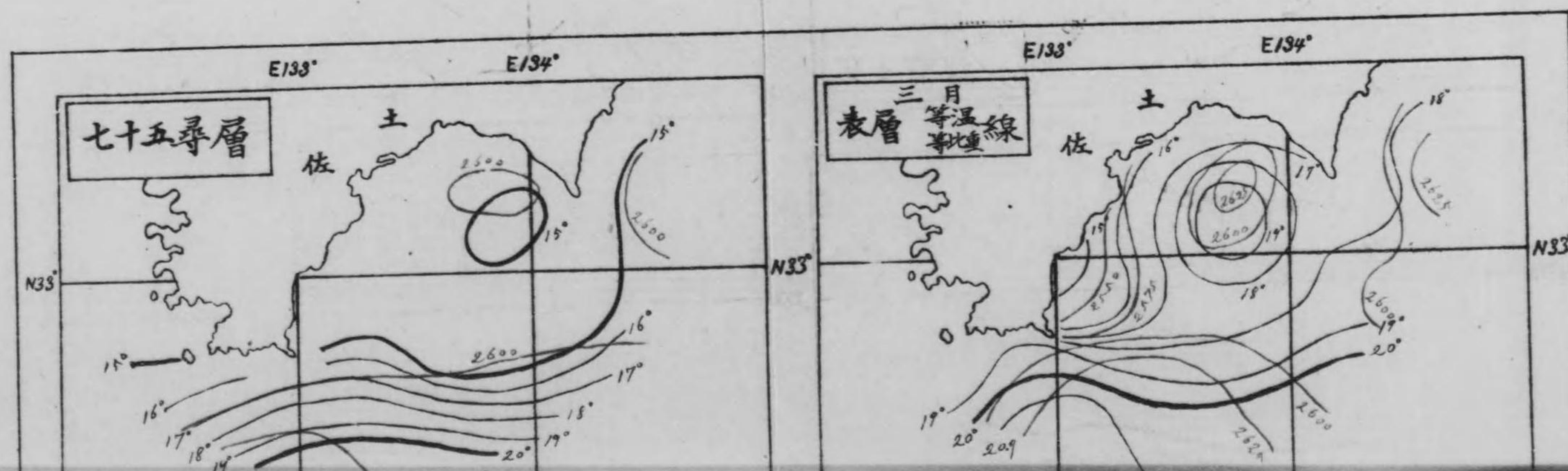
E133° E134°

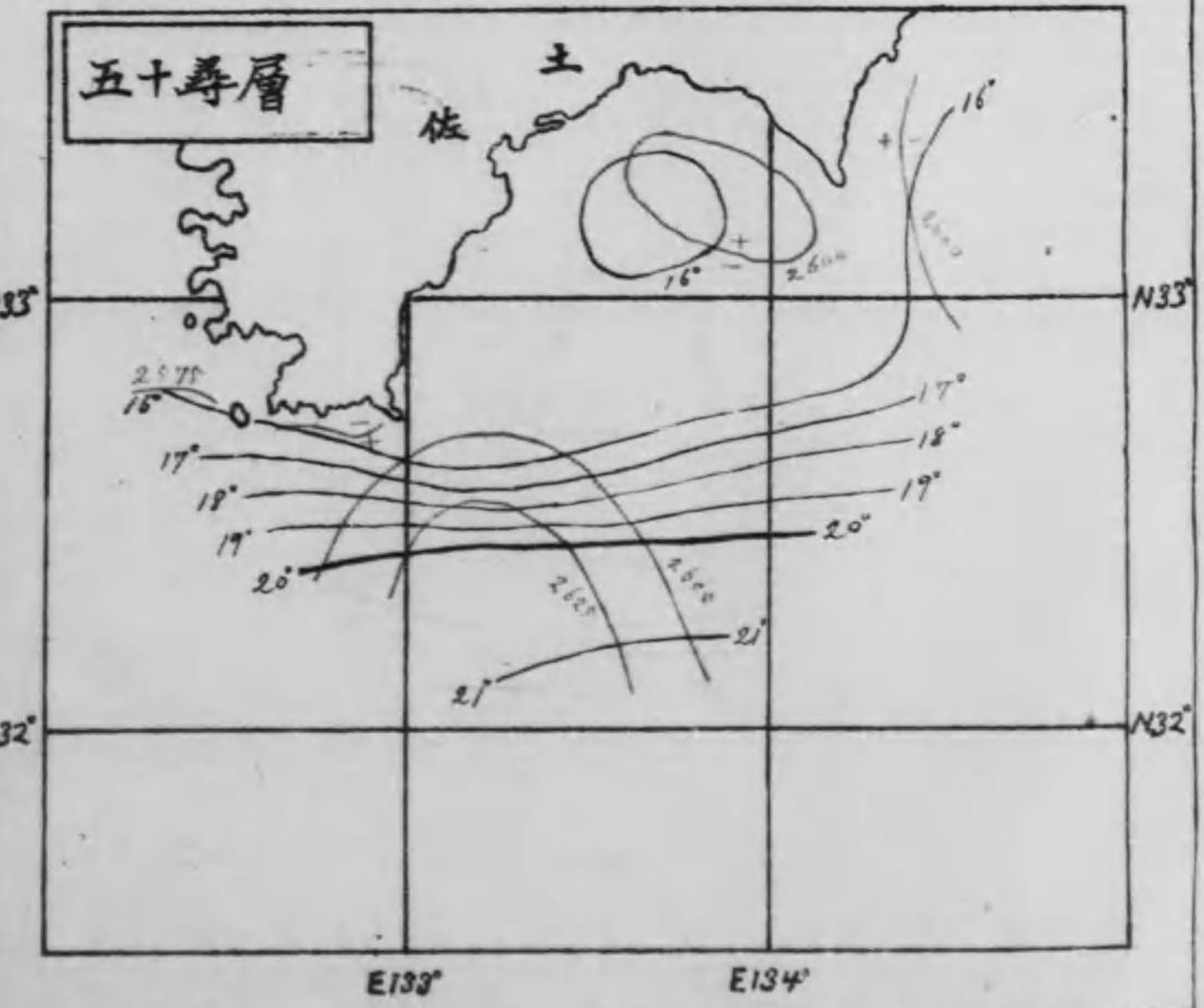
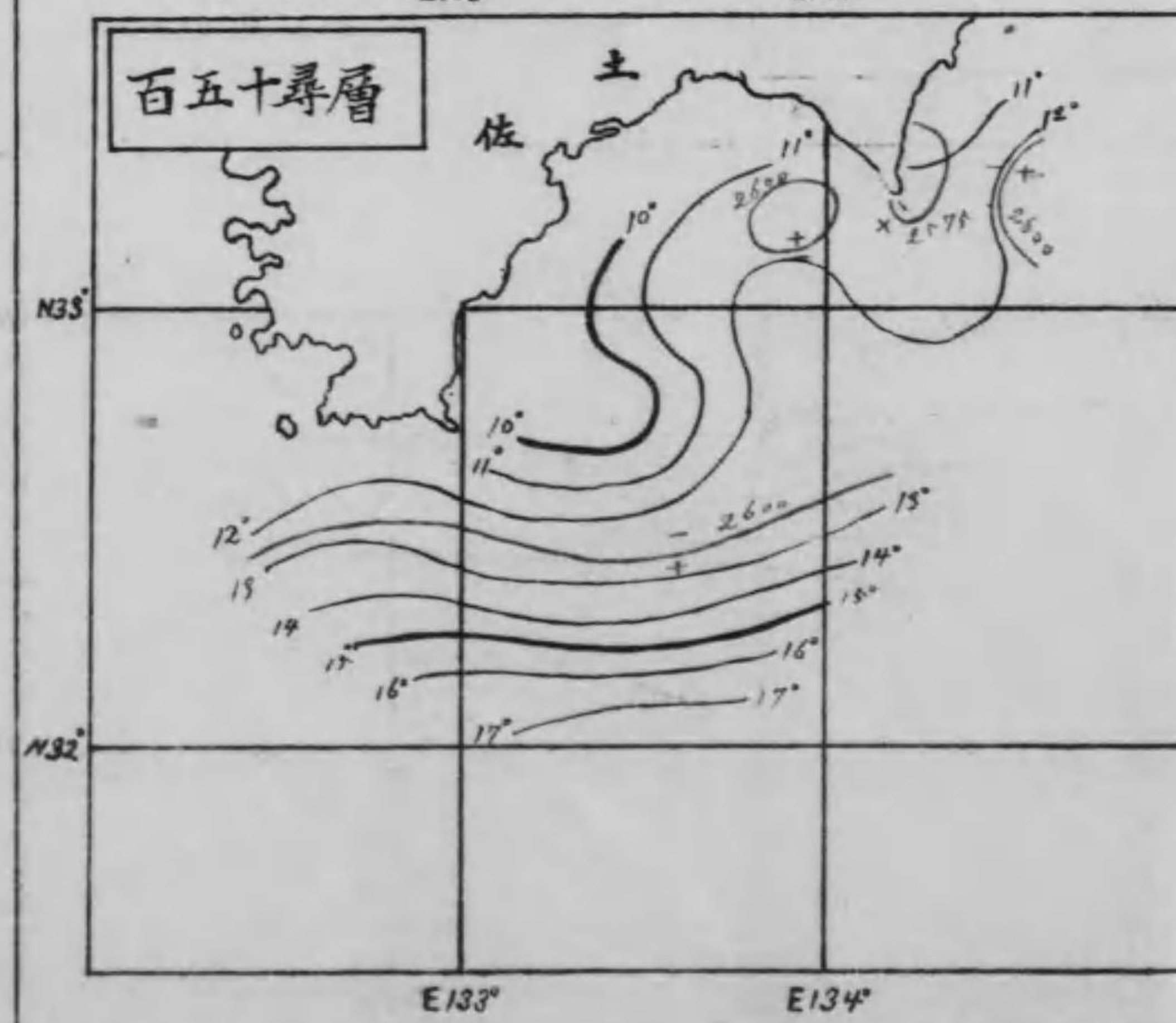
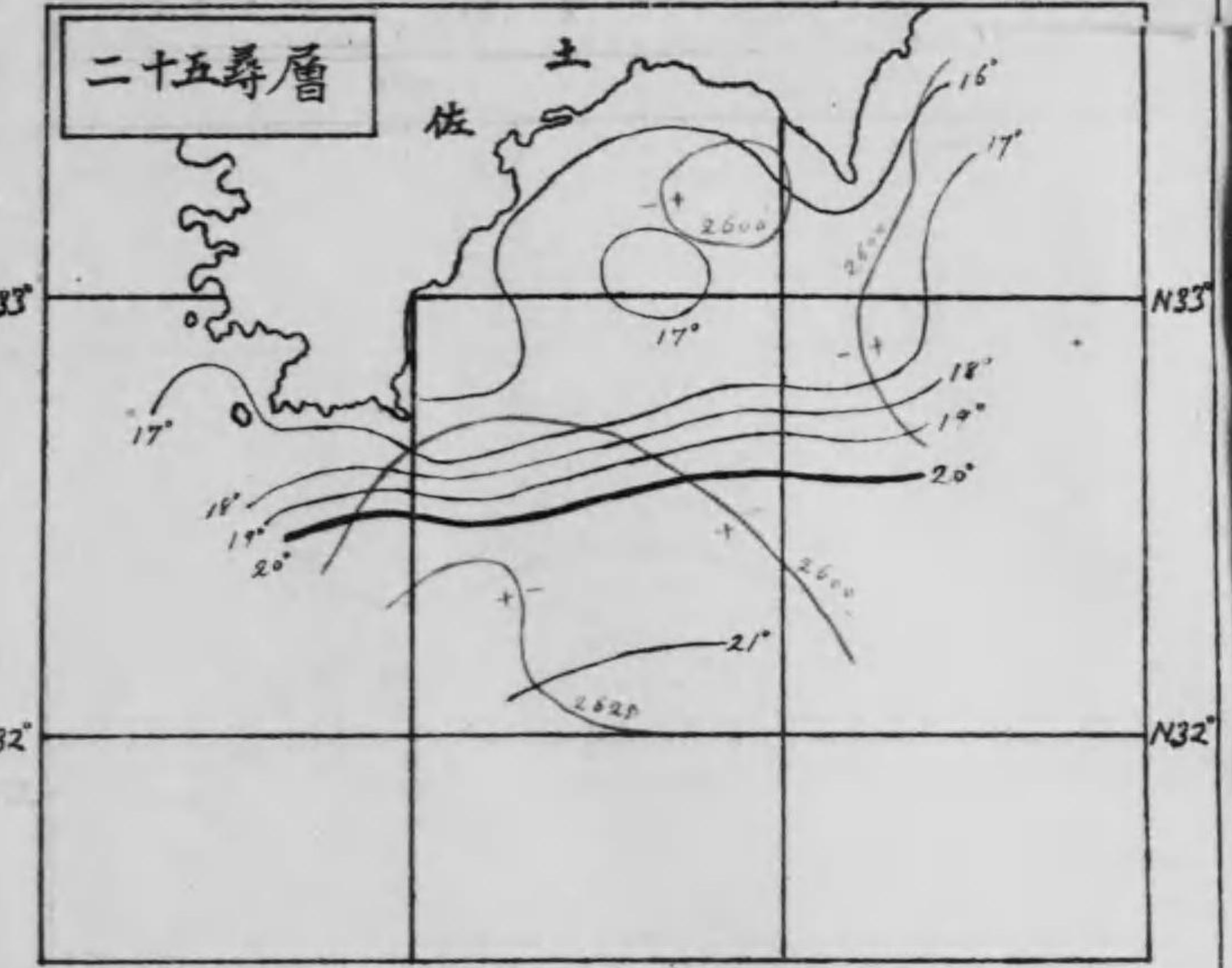
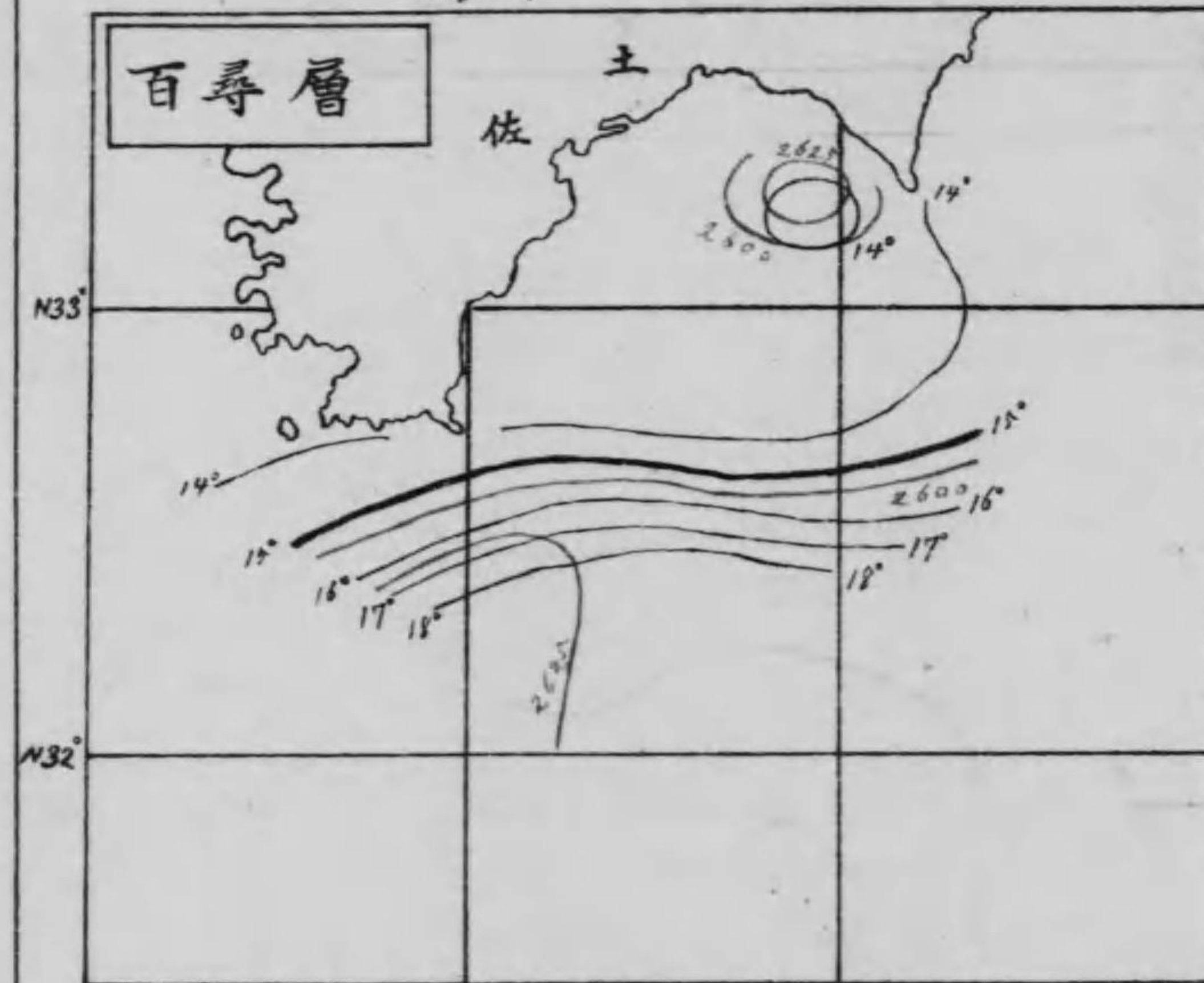
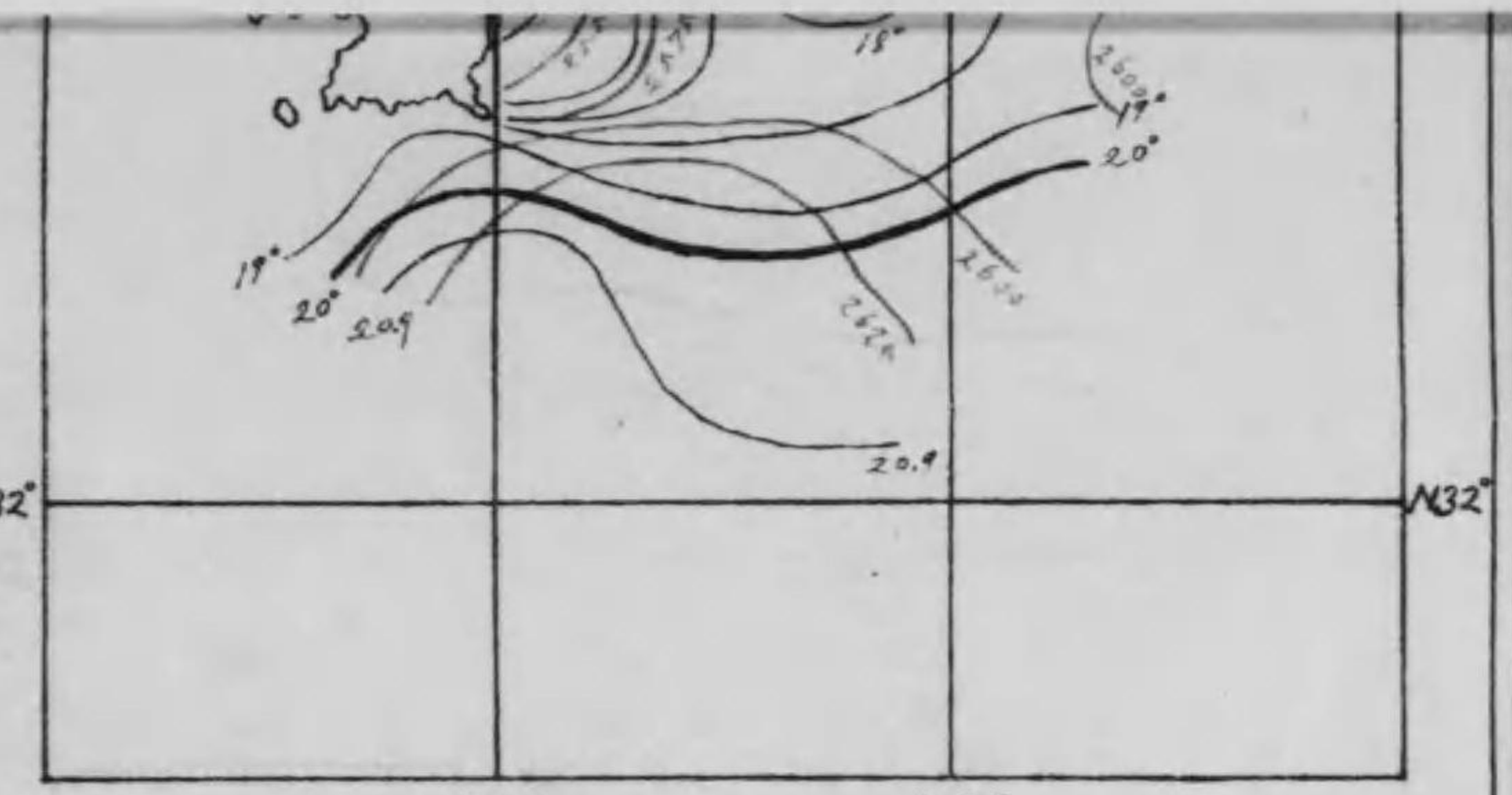
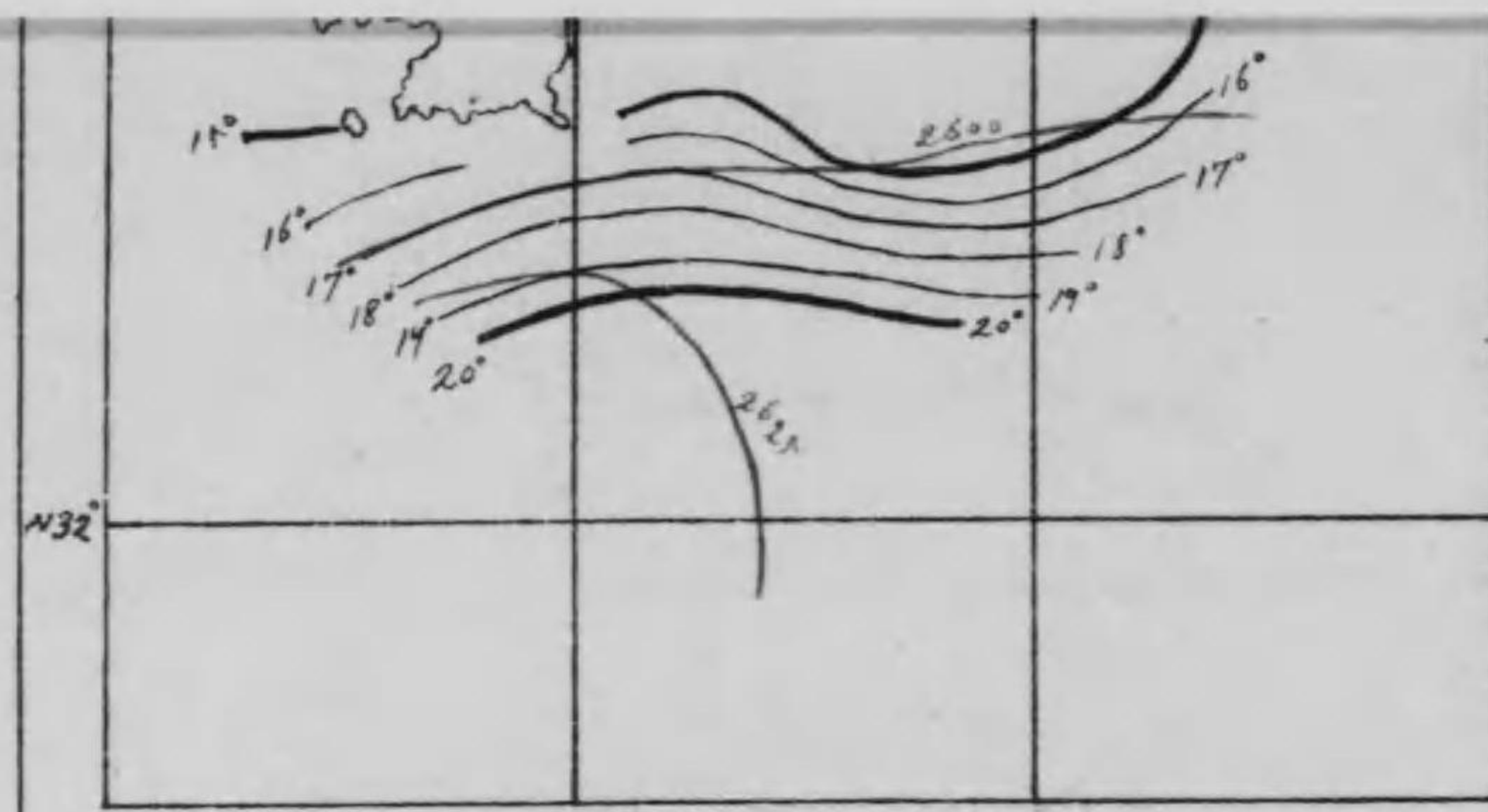


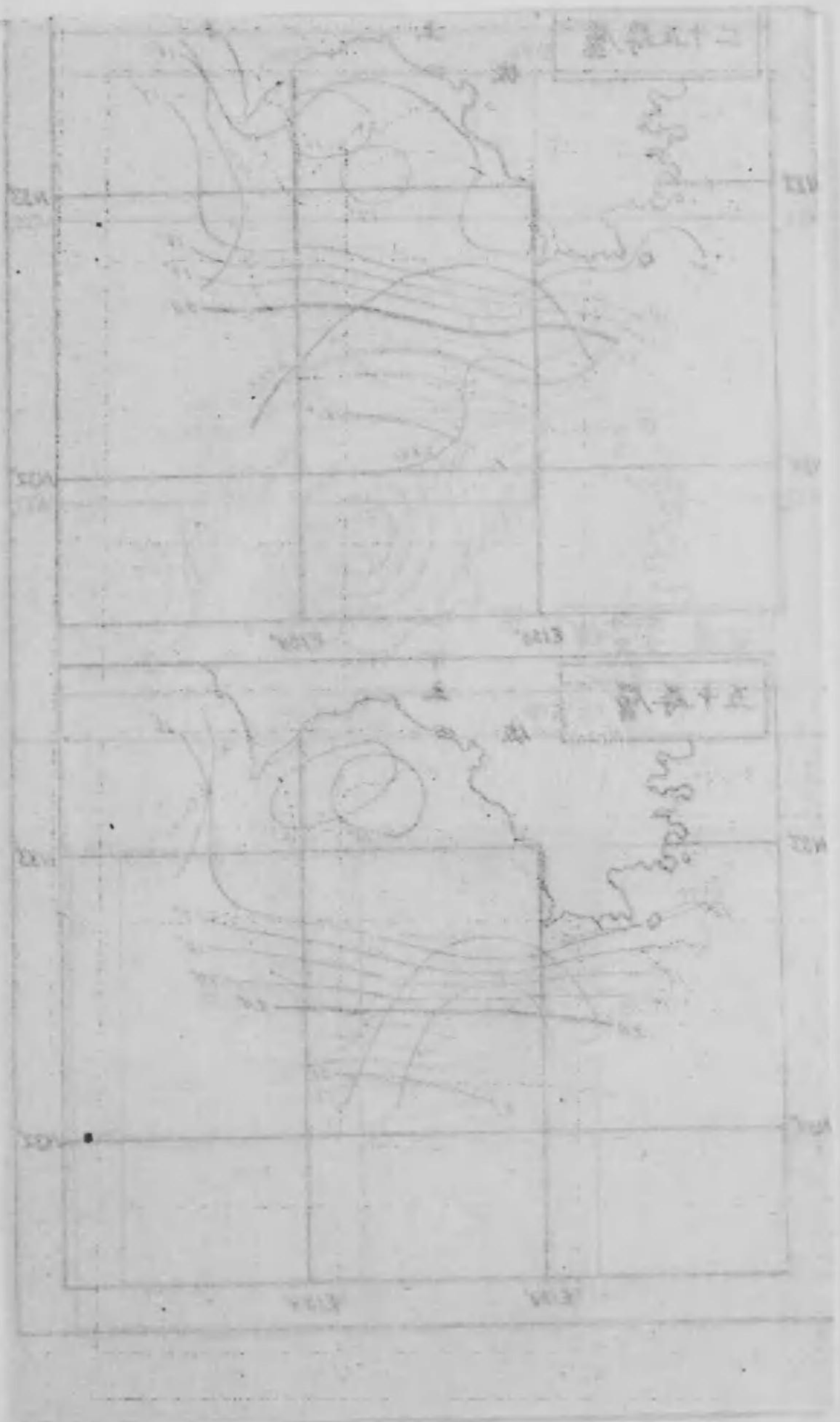












3. 垂直分布状態

本縣沖合ノ水温垂直分布状態ハ便宜上圖ニ依ル第一線第二線第三線ヲ定メ各線上ノ表層ヨリ百五十尋層ニ亘ル断面圖並ニ各層ニ於ケル觀測平均水温ヲ以テ研究セントス

1. 各月毎分布状態

四月末 第一線ニ於テ距岸四十湊附近迄ハ表層二十五尋層間ニ於テ變化少ク、二五尋層ト五〇尋層ノ間ニ於テ變化著シク約四度ノ低下ヲ見ル、尙距岸五十湊附近ヨリ沖合ハ表層ヨリ百尋層迄大ナル變化ナク百乃至百五十尋層間ニ於テ約六度ノ低下ヲ見ル

然レトモ各層平均水温ハ二十五尋毎ニ一度乃至二度ノ差ヲ以テ低下セリ

五月 第一線ニ於テハ表層二十五尋層間ニ於テ變化少ク二五尋層五十尋層間ニ變化著シク約三度ノ低下ヲ見ル、第二線ニ於テハ五十尋層迄ハ二十五尋毎ニ各二度乃至三度ノ低下ヲ見ル各層平均水温ハ二五尋層ト五〇尋層ノ間ニ於テ著ク低下シ二度四ノ差ヲ見五〇尋層ト七五尋層ノ間ニ變化少ク〇、七度ノ差ヲ見ル

六月末 全部ニ亘リテ表層ト二十五尋層トノ間ニ於テ著シキ温度ノ差アリ、就中土佐海灣中部以東ニ於テ最モ著シク最大七度ノ差ヲ見ル二十五尋層ト五十尋層ノ間ニ於テハ上層ニ比シ其差少シト雖モ土佐海灣中央部以西ニ於テハ此間ニ最モ差多ク最大四度ノ差アリ五十尋層以下ハ著シキ變化ナシ

九月初 全部ニ亘リテ表層ト二十五尋層トノ間ニ著シキ變化ナク二十五尋層ト五十尋層トノ間ニ於テ最モ變化多ク最大六度ノ差アリ

五十尋層以下著シキ變化ナシ

十一月中 全部ニ亘リテ表層ヨリ五十尋層迄ハ著シキ變化ナク、五十尋層ト七十五尋層トノ間ニ於テ變化最モ多ク最大四

度ノ低下ヲ見ル

七十五尋層以下著シキ變化ナシ

十二月中 第二線ニ於テ表層ヨリ五十尋層迄ハ著シキ變化ナク五十尋層ト七十五尋層ノ間ニ於テ變化多ク最大四度ノ低下ヲ見ル、七十五尋層以下著シキ變化ナシ

一月初 第二線ニ於テ五十尋層ト七十五尋層ノ間ニ於テ變化多ク最大三度ノ差ヲ見ル其ノ上層及下層ニ於テハ著シキ變化ナシ

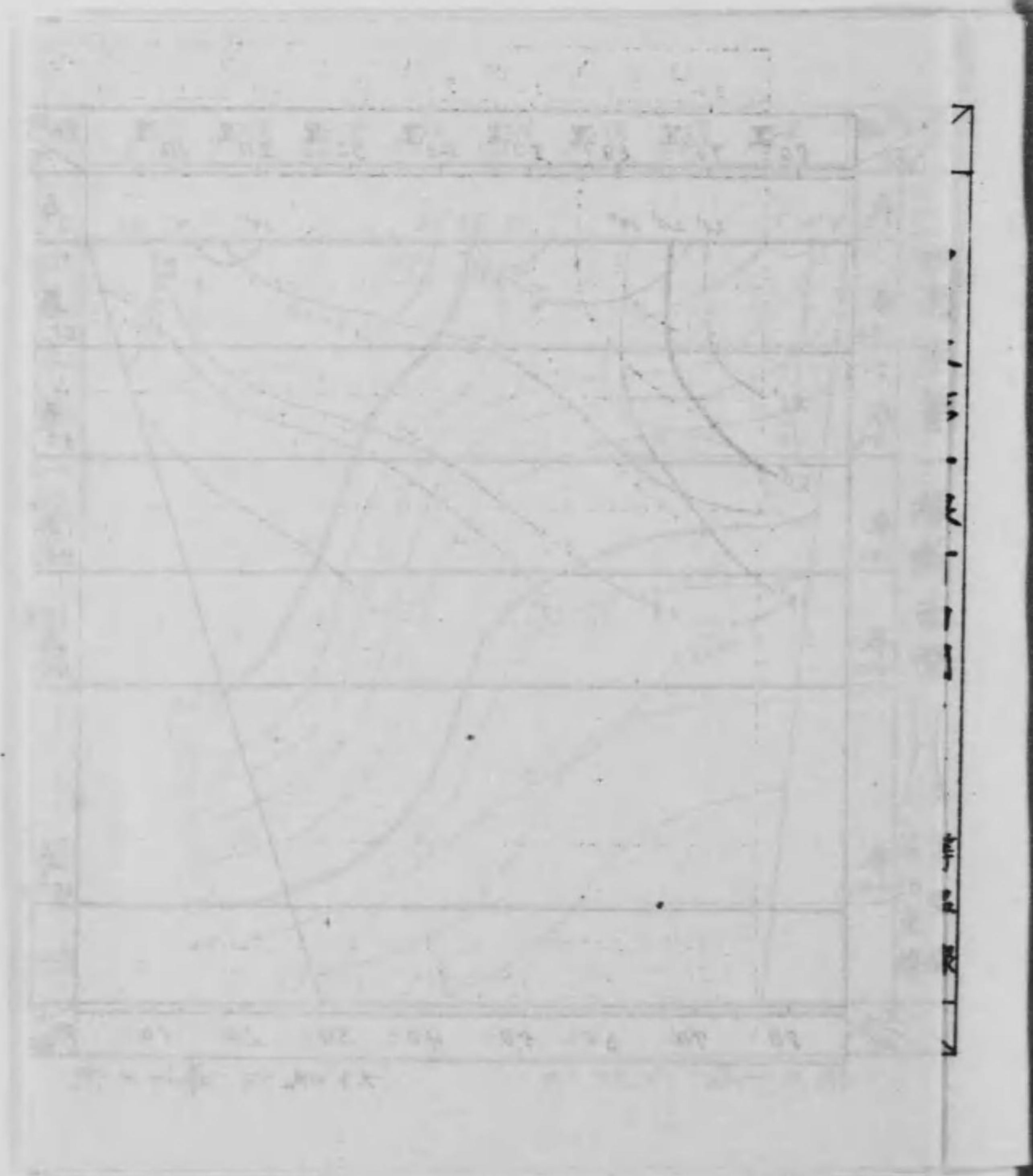
二月初 全部ニ亘リテ表層ヨリ五十尋層迄ハ著シキ變化ナク五十尋層ト七十五尋層ノ間ニ於テ變化多ク最大三度ノ低下ヲ見以下各層共著シキ變化ナシ

三月中 第一線ニ於テハ表層ヨリ百尋層迄殆ント著シキ變化ナク百尋層ト百五十尋層ノ間ニ於テ最大四度ノ低下ヲ見ル尙同線距岸四十湮附近ニ於テハ二十五尋層乃至五十尋層ニ於テハ表層ヨリ〇、二度高温ナル部位存セリ、須崎沖三十湮附近ニ到ル迄ハ表層ト二十五尋層ノ間ニ於テ約二度ノ差ヲ見ルモ其他各所各深度ニ於テ著シキ變化ヲ認メス

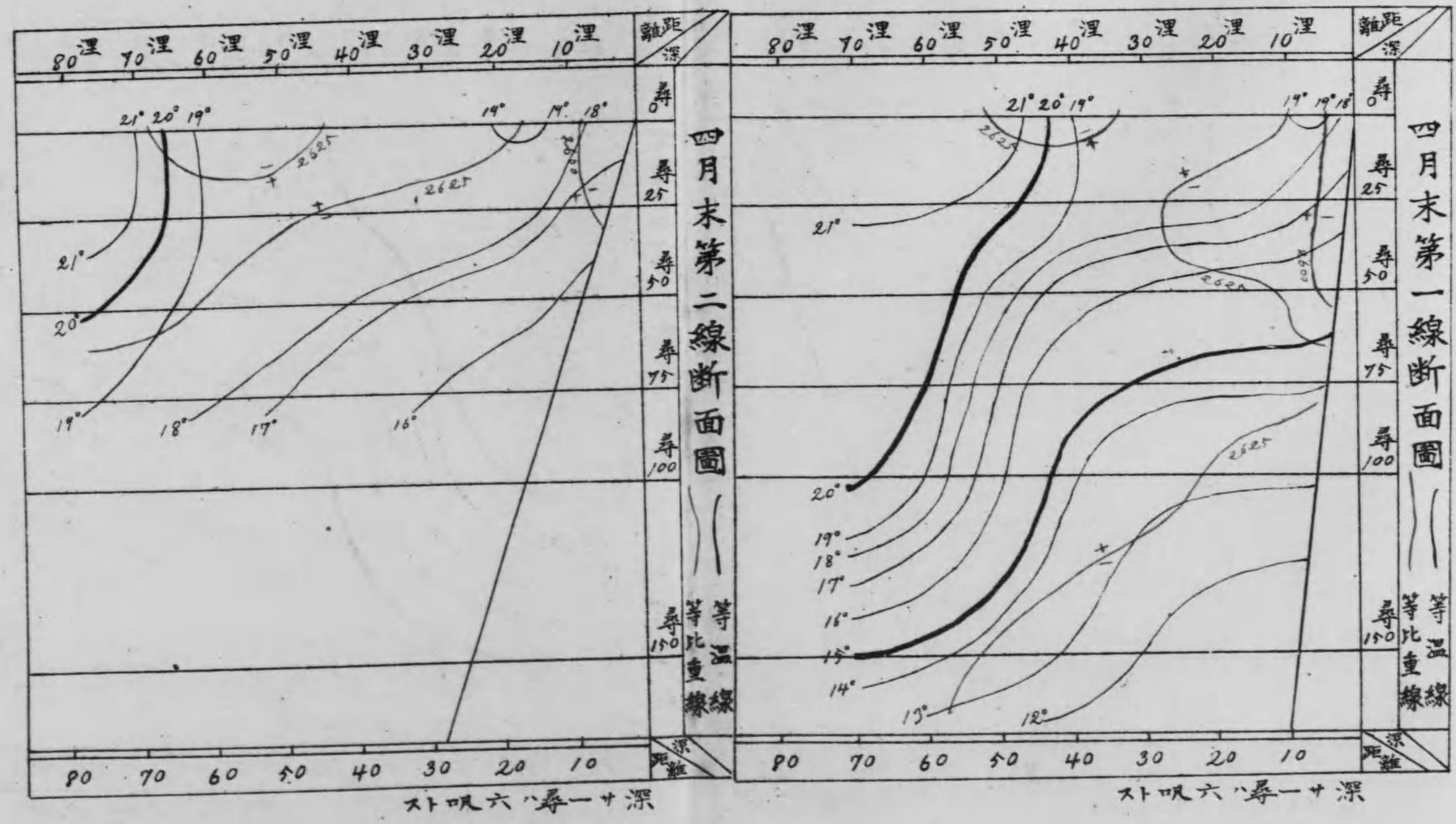
ロ、一ケ年間ノ變化狀態

以上ノ結果ヨリ見ルニ垂直的水温ノ變化多キハ表層ヨリ七十五尋層ニ亘ル間ニシテ就中二十五尋層ト五十尋層ノ間ニ於テ最モ著シ各月ノ觀測結果ニヨリ各深度ノ平均温度ニ依リ比較スルニ七十五尋層以下ニ於テハ各月共水深ニ依ル水温ノ低下率ハ概ネ一定セルヲ察セラレ七十五尋層以上ニ於テハ月ニ依リ著シク相違アルコトヲ知ラル

本年ノ觀測ニヨル各層ノ年平均水温ニ最モ近キハ五月及十二月ニ於ケル平均水温ニシテ、五月ヨリ十二月迄ハ表層乃至七十五尋層間ノ水温ノ變化多ク、九月ニ於テ最モ著シ之レ表層著シク高温トナリタル結果ナリ、四月並ニ十二月ヨリ三月迄ノ各月ハ比較的水温ノ變化少ク特ニ二月ニ於テ表層ヨリ七十五尋層マテ殆ント變化ナシ

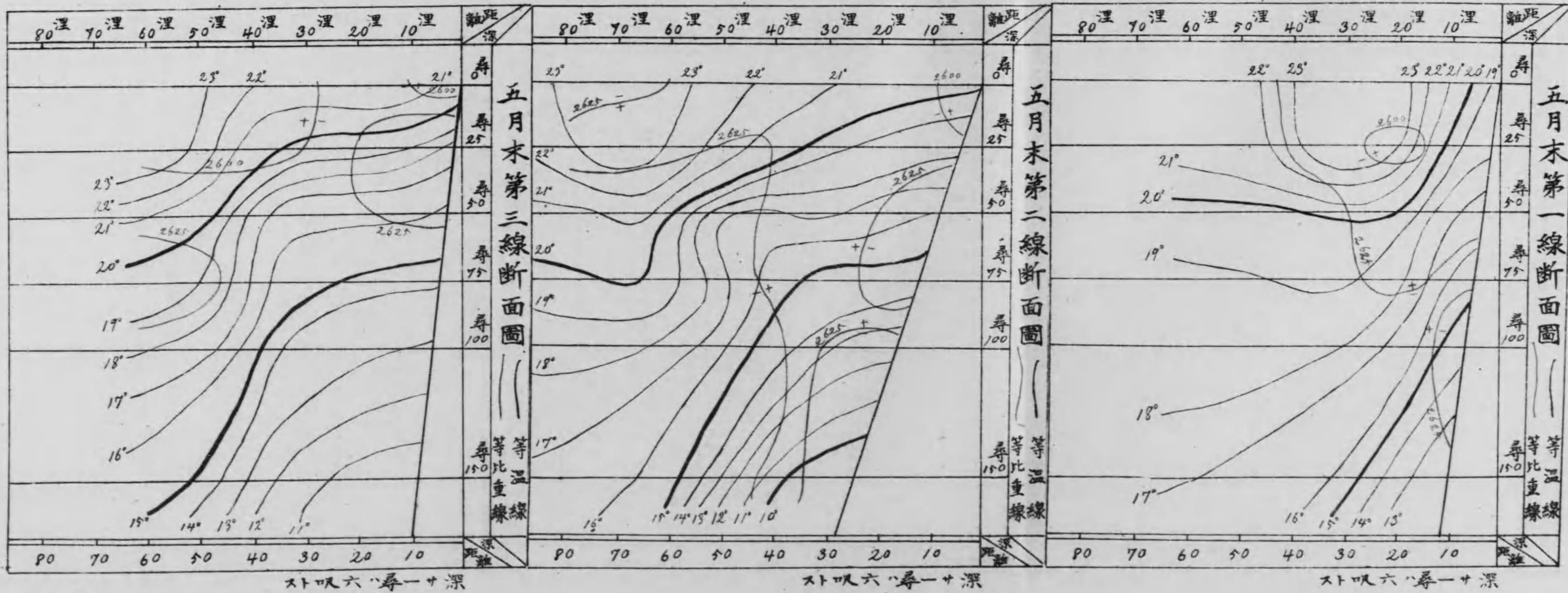


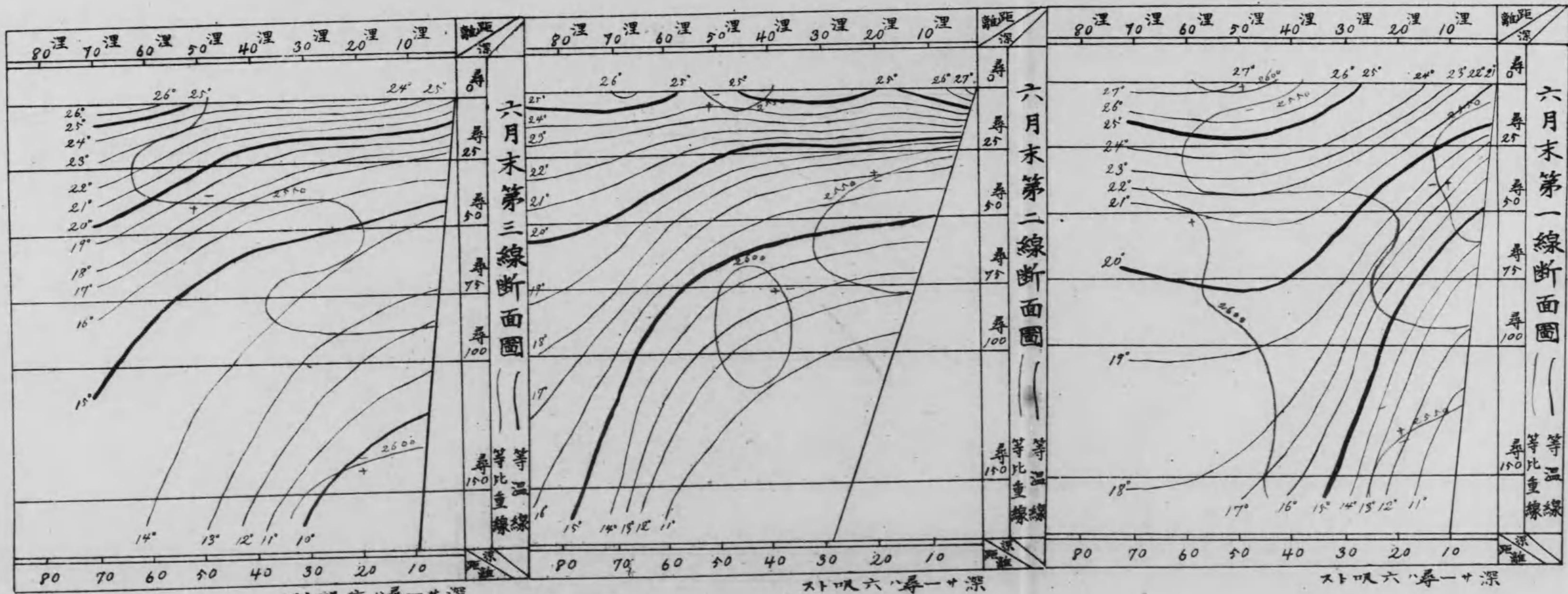
低下率ハ概ネ一定セルヲ察セラレ七十五尋層以上ニ於テハ
 本年ノ觀測ニヨル各層ノ年平均水温ニ最モ近キハ五月及十二月ニ於ケル平均水温ニシテ、五月ヨリ十二月迄ハ表層乃至
 七十五尋層間ノ水温ノ變化多ク、九月ニ於テ最モ著シ之レ表層著シク高温トナリタル結果ナリ、四月並ニ十二月ヨリ三
 月迄ノ各月ハ比較的水温ノ變化少ク特ニ二月ニ於テ表層ヨリ七十五尋層マテ殆ント變化ナシ

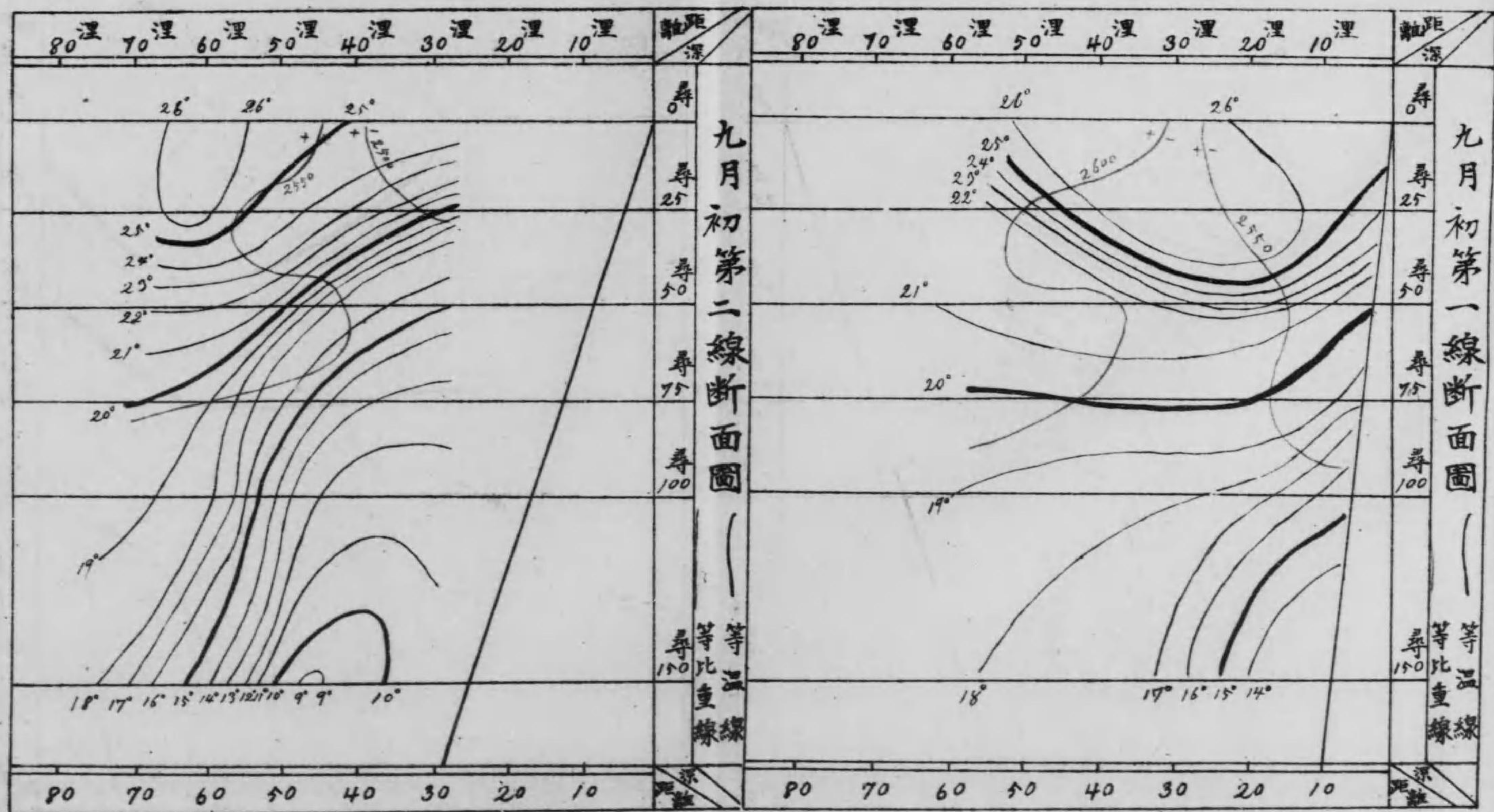


深一尋六呎

深一尋六呎







九月初第二線断面圖

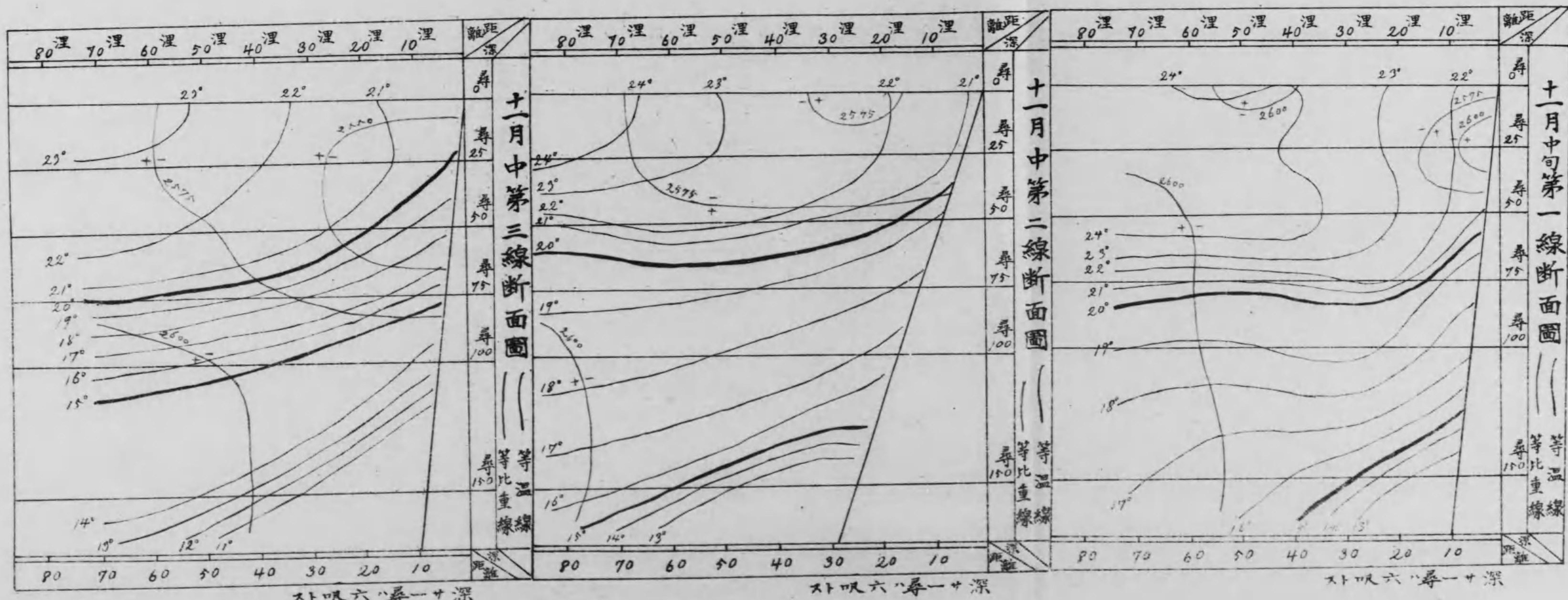
九月初第一線断面圖

等比重線

等比重線

深一十米六呎外

深一十米六呎外



十月中第三線断面圖

十月中第二線断面圖

十月中旬第一線断面圖

十月中第三線断面圖

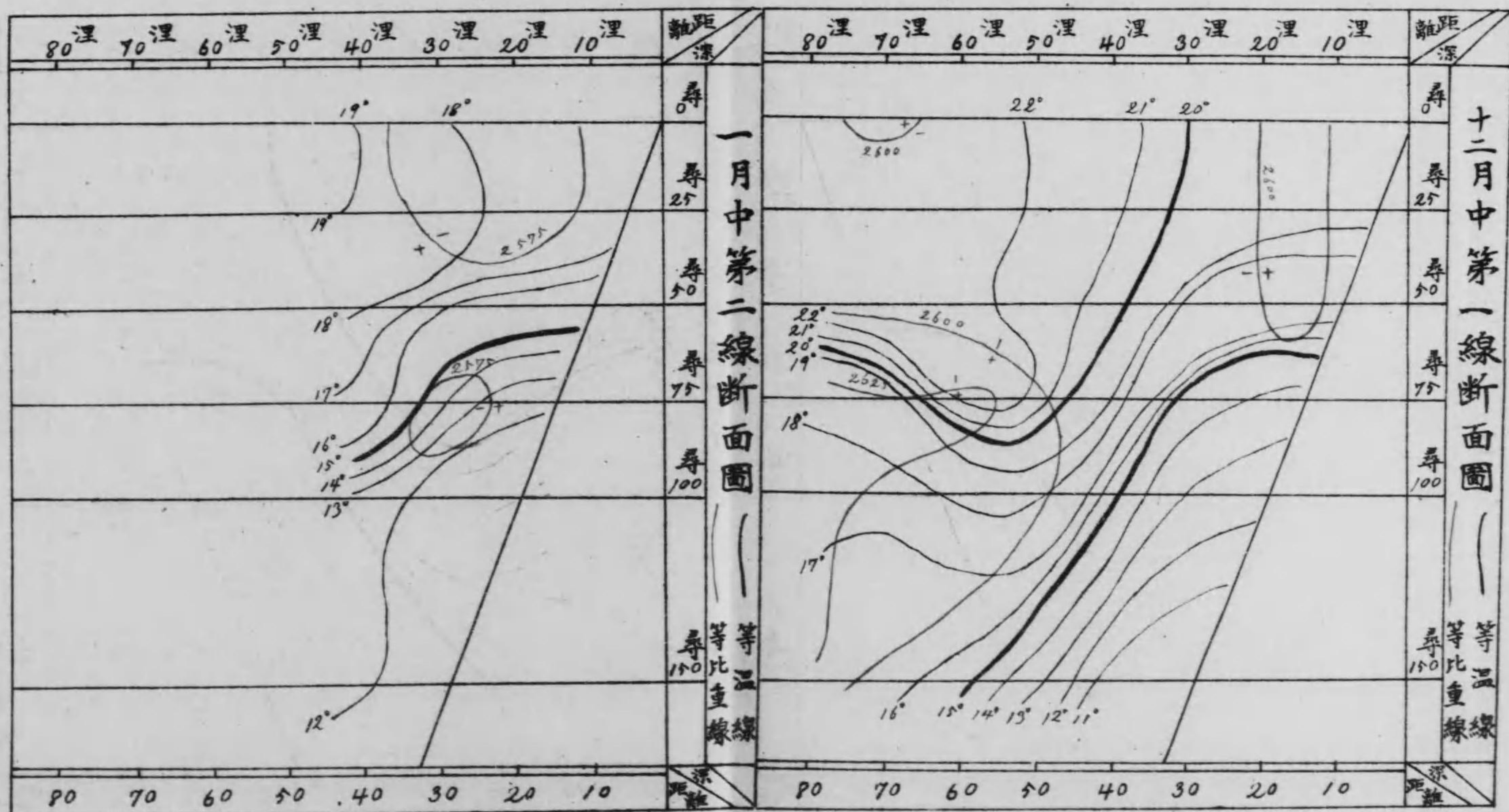
十月中第二線断面圖

十月中旬第一線断面圖

等温線
等比重線

等温線
等比重線

等温線
等比重線



一月中第二線断面圖

十二月中第一線断面圖

十二月第一線断面圖

一月中第二線断面圖

等溫線
等比重線

等溫線
等比重線

80 70 60 50 40 30 20 10 距離

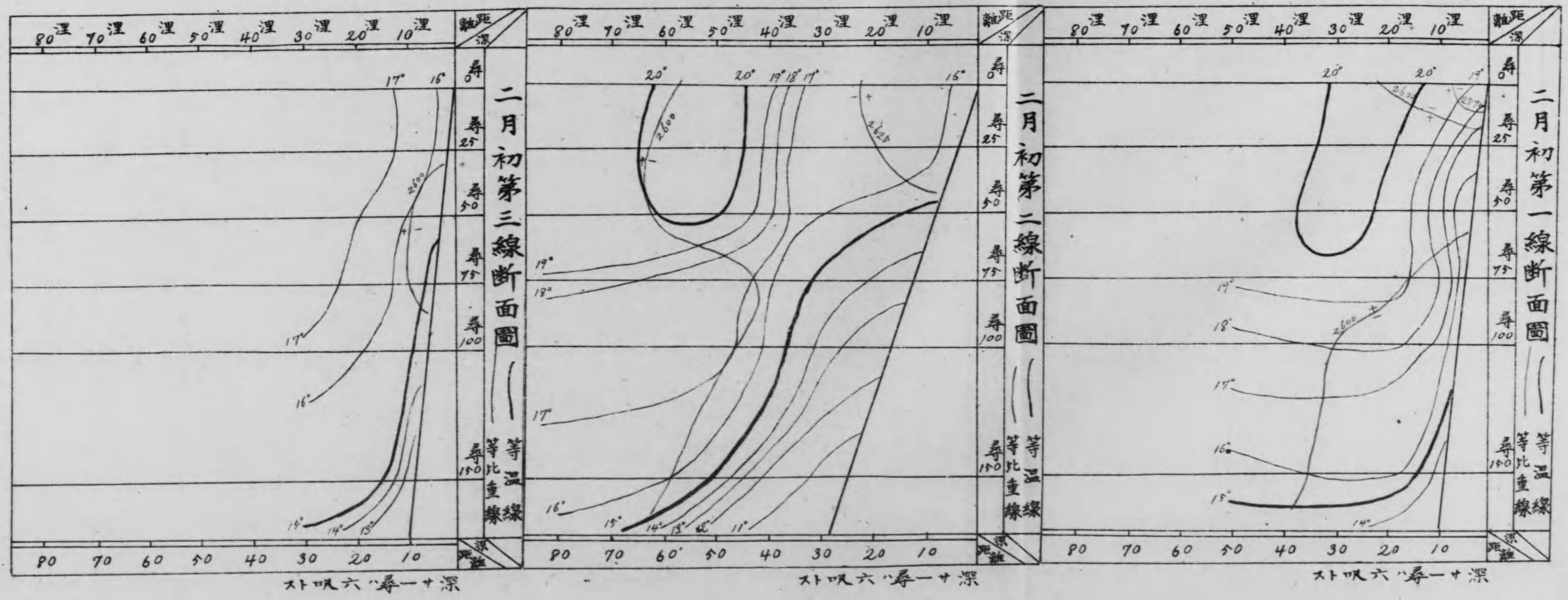
80 70 60 50 40 30 20 10 距離

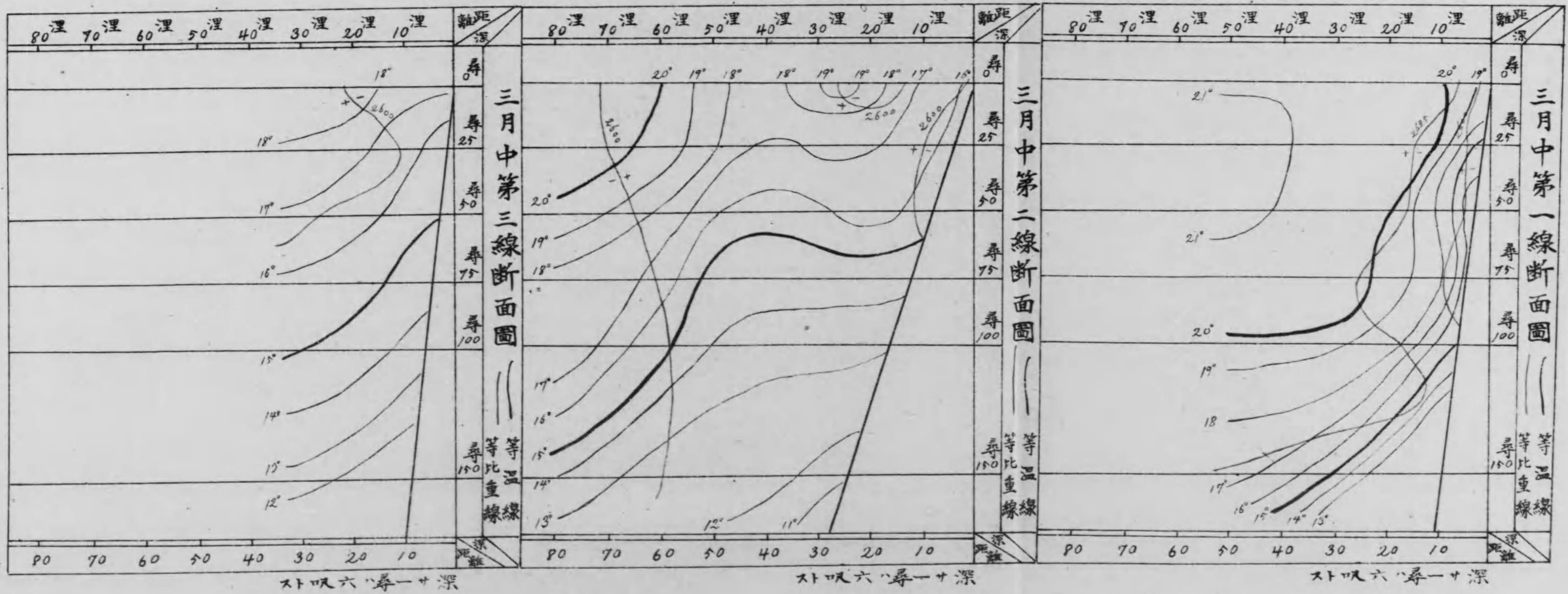
19° 18°
18°
17°
16°
15°
14°
13°
12°

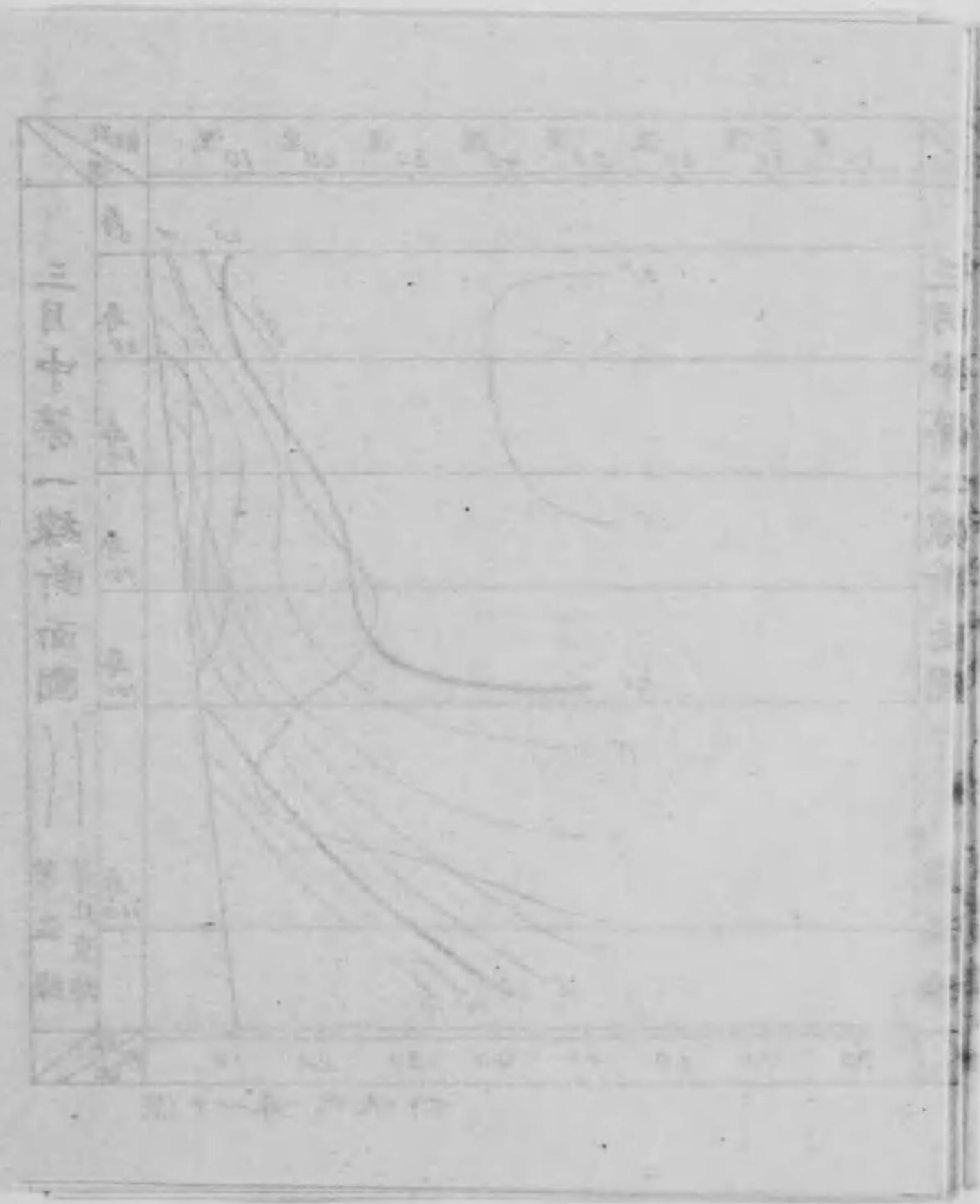
22° 21° 20°
22°
21°
20°
19°
18°
17°
16° 15° 14° 13° 12° 11°

第一線六呎深

第一線六呎深







(二) 水温示度ノ變化

本年度ノ海洋觀測九回施行セル内最モ陸岸ヨリ離レタルハ七月ニ於テ足摺崎南東八十湮ノ觀測ヲナシタル事ニシテ其他ハ種々ノ都合ノ爲毎回同一範圍内ノ全部ヲ觀測スルコト能ハサリシヲ以テ水温示度ノ變化ヲ比較研究スル事ハ其ノ當ヲ得サレドモ觀測シ得タル結果ノ全部ハ少クトモ全範圍ノ一部分ナルヲ以テ各月ノ觀測結果ヲ示度ノ變化ノ研究ノ材料トシテ之ヲ比較研究スル事トセリ

1. 一般示度ノ變化

本年度觀測ヲ通シテノ結果ニ依ルハ表層水温ハ最高二十八度二最低十五度ニ示ス、ヨリテ觀測區域内ノ表層水温ハ此ノ間ヲ上下シツ、アリシ事ヲ知ル、以下各層ハ最高最低共漸次低下シ百五十尋層最高ハ十八度九最低ハ八度六ヲ示ス、即チ表層ヨリ百五十尋層迄ハ二十八度二乃至八度六ノ間ヲ上下シツ、アリシ事ヲ知ル

2. 水平的示度ノ變化

イ、全範圍ニ亘ル各月毎ノ示度

四月 表層最高温度ハ足摺崎南東五十湮附近ニ於テ二十一度八ヲ示シ最低温度ハ須崎及柏島附近ニ於テ十七度五ヲ示セリ

全觀測水温中最低温度ハ百五十尋層ニ於テ柏島南方三十湮附近ニ於テ十度六ヲ示セリ

五月 表層最高温度ハ足摺崎東微南六十湮附近ニ於テ二十三度八ヲ示シ、最低温度ハ足摺崎北東十湮附近ニ於テ十八度六ヲ示セリ

全觀測水温中最低温度ハ百五十尋層ニ於テ室戸崎南二十湮附近ニ八度六ニシテ全年中全觀測結果ノ最低水温ヲ示セリ

六月 表層最高ハ足摺南東六十湮附近ニ於テ二十七度五ヲ示シ最低ハ足摺南東五湮附近ニ於テ二十一度三ヲ示セリ

全觀測中最低温度ハ百五十尋層ニ於テ室戸崎南方十湊附近及同崎北東十湊附近ニテ九度四ヲ示セリ
九月 表層最高ハ足摺崎南西二十湊附近ニ於テ二十八度ニシテ全年中最高温度ヲ示セリ
最低ハ足摺崎東微北四十湊附近ニ於テ二十五度三ヲ示セリ

全觀測水温中最低水温ハ百五十尋層ニ於テ足摺崎東方四十湊附近ニテ九度一ヲ示ス

十一月 表層最高温ハ足摺崎南微西五十湊附近ニ於テ二十四度四ヲ示シ最低ハ須崎灣口及室戸崎北東五湊附近ニ於テ二十度八ヲ示セリ、全觀測水温中最低ハ百五十尋層ニ於テ室戸崎南東三十湊附近ニテ十度一ヲ示セリ

十二月 表層最高温ハ足摺崎南東三十湊附近ニ於テ二十二度四ヲ示シ最低須崎灣口ニ於テ十九度四ヲ示セリ、全觀測中最低水温ハ五十尋層ニ於テ足摺崎東方二十五湊附近ニテ十度八ヲ示セリ

二月 表層最高温ハ足摺崎南微西三十湊附近ニ於テ二十度七ヲ示シ最低ハ浦戸灣口附近ニ於テ十五度二ニシテ一ケ年間ノ表層最低温度ヲ示セリ全觀測中最低温度ハ百五十尋層ニ於テ足摺崎北東三十湊附近ニテ十一度二ヲ示セリ

三月 表層最高温度ハ足摺崎南東二十湊附近ニ於テ二十度九ヲ示シ最低ハ與津崎南方十五湊附近ニ於テ十五度二ヲ示セリ、全觀測中最低水温ハ百五十尋層ニ於テ足摺崎東方三十湊附近ニテ九度九ヲ示セリ

ロ、一ケ年間ノ示度ノ變化
四月ニ於ケル表層最高温度ハ二十一度八ニシテ其後漸次温カトナリ七月及八月ニ於テ一ケ年間ノ最高トナリ九月初メニ二十八度ニ示セリ、其後漸次低温トナリ二月初メニ於テ最低十五度二ヲ示セリ、其後三月迄ハ大略其ノ狀況ヲ維持セルモ漸次高温ニ向ヒツ、アリシ事ヲ知ル

一ケ年ヲ通シテ最高最低温度ノ差最モ少キハ高温ノ極ニ達シタル時期ヨリ寒冷シツ、アル間即九月ヨリ十二月ニ到ル間ニシテ其差三度内外ヲ示ス、其差最モ大ナルハ寒冷ノ極ニ達シタル時ヨリ温暖ニ向ヒツ、アル間ニシテ其差五度乃至六度ヲ示ス

度ヲ示ス

3. 垂直的示度ノ變化

イ、月毎ノ示度ノ變化

四月 第一線ニ於テ距岸五十湊附近ニアリシ表層最高温度二十一度ノ水温ハ二十五尋層ニ及ヒ二十度ノ等温線ハ表層ニ於テ四十二三湊附近ニ存在セルモ七十湊沖合ニ於テ百尋層ニ及ヘリ各層平均水温ハ二十五尋層毎ニ一度乃至二度ノ差ヲ以テ降下セリ

五月 表層最高二十三度ノ水温ハ二十五尋層ニ及ヒ二十度ノ等温線ハ第一線ニ於テ距岸七八湊附近ニアリ二十湊附近ニ於テ五十尋層ニ達シ夫ヨリ沖合ハ低下セシ、第二第三線ニ於テハ表層ハ凡テ二十度以上ノ水温ニ覆ハレ二十度ノ等温線ハ二線共各七十湊沖合ニテ七十五尋層ニ及ブ、各層平均水温ハ二十五尋層ト五〇尋層ノ間ニ於テ著シク低下シ二度四ノ差ヲ見五〇尋層ト七五尋層ノ間ニ變化少ク〇、七度ノ差ヲ見ルノミ

六月 表層最高二十七度ノ水温ハ表層若干尋ノ深サニ止マリ二十度ノ水温ハ陸岸附近ニ於テ二十尋附近ニ沈下シ第一線距岸四十湊沖合附近ニテハ七十五尋層ニ達ス

各層平均水温ハ表層ヨリ二十五尋層マデニ二度八低下シ以下各層ニ到ル間ハ漸次低下率ヲ減ズ
九月 表層最高二十六度ノ水温ハ三十尋附近ニ及ビ二十度ノ水温ハ陸岸附近ニテ五十尋トニ沈下シ第一線二十湊沖合附近ニ於テハ七十五尋層ニ達ス、各層平均水温ハ二十五尋層ト五十尋層ノ間ニ於テ五度一ノ低下ヲ見ル

十一月 表層最高二十四度ノ水温ハ六十尋附近ニ及ビ二十度ノ水温ハ第一線陸岸附近ニ於テ五十四五尋ニ沈降シ距岸二十湊附近ニ於テ八十尋ニ沈降ヒリ、各層平均水温ハ二十五尋層ハ表層ヨリ〇、一度ヲ上昇シ其他ハ下層程低温ヲ示シ特ニ七十五尋層ハ五十尋層ヨリ二度七ノ低下ヲ見ル

十二月 表層最高二十二度ノ線ハ七十五尋層ニ及ヒ二十度線ハ第二線ニ於テ距岸三十哩ノ表層ニ離レ六十哩沖合ニ於テ八十尋ノ深サニ及ブ、各層平均水温ハ表層ヨリ五十尋層迄ハ著シキ低下ヲ見ズ、五十尋層ヨリ七十五尋層間ニ二度四ノ低下ヲ見ル

二月 表層最高二十度ノ水温ハ第一線ニ於テ距岸十二三哩ノ沖合表層ニ認めラレ三十哩附近ニ於テ六十尋層ニ及ブ、各層平均水温ハ表層ヨリ七十五尋層迄ハ著シキ低下ナク以下二十五尋毎ニ一度乃至二度ノ差ヲ以テ降下セリ

三月 表層最高二十度九ノ水温ハ二十五乃至五十尋層附近ニテハ二十一度ニ上昇シ二十度ノ水温ハ第一線ニ於テ十哩沖合表層ニアリ三十哩沖合ニテハ九十尋附近ニ沈下セリ各層平均水温ハ表層ヨリ七十五尋附近迄ハ稍低下シツ、アルモ著シキ低下ヲ見ス、以下ハ各二十五尋毎ニ一度乃至二度ノ低下ヲ見ル

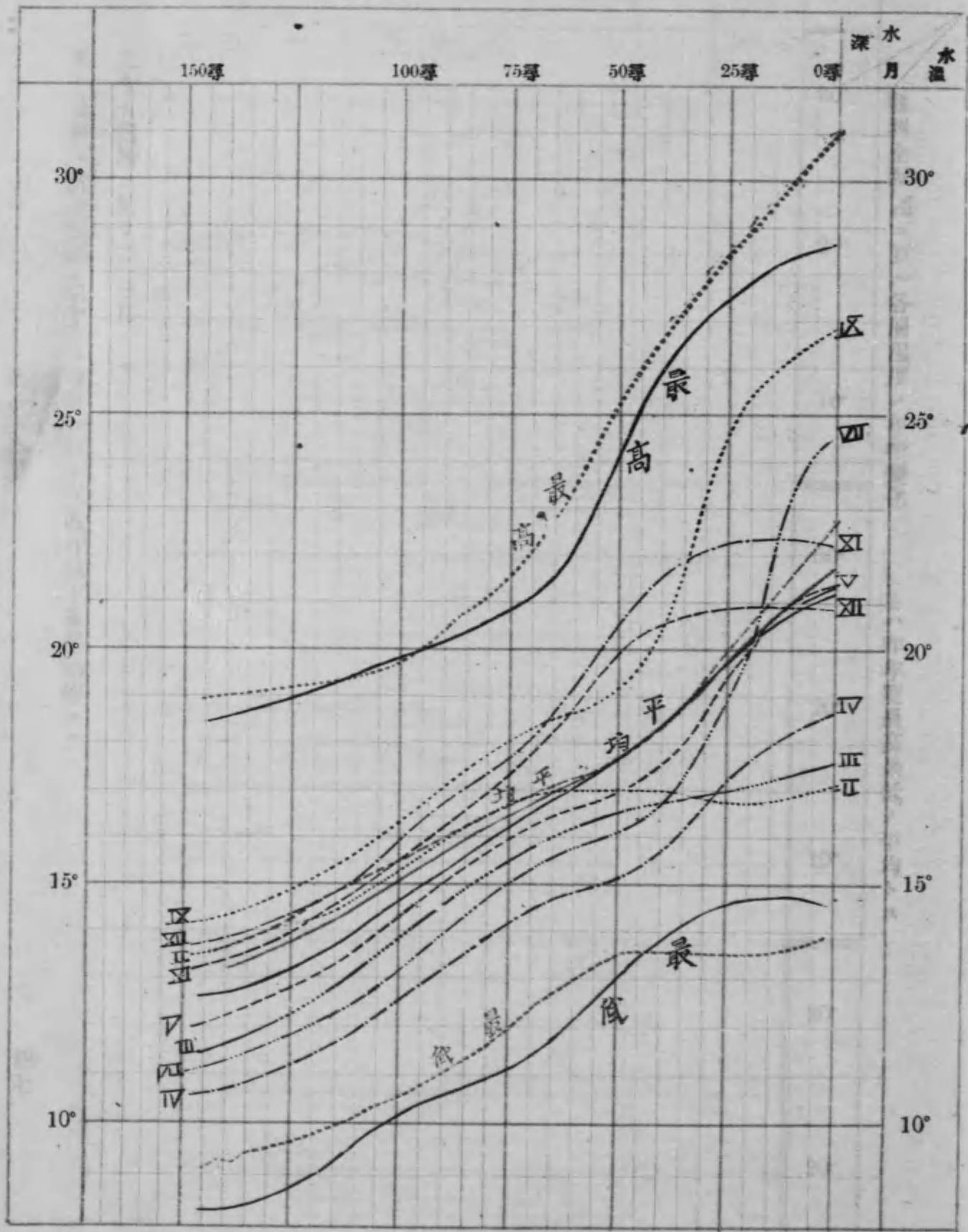
ロ、年中示度ノ變化

一ヶ年間観測表示水温ヲ見ルニ表層ニ於テハ最高二十八度二、最低十五度二ニシテ其差十三度〇ヲ示ス、二十五尋層ニ於テハ最高二十七度三最低十五度三ニシテ其差十二度〇ヲ示ス
 五十尋層ニ於テハ最高二十四度八最低十四度一ニシテ其差十度三ヲ示ス、七十五尋層ニ於テハ最高二十一度三最低十三度一ニシテ其差八度二ヲ示ス、百尋層ニ於テハ最高二十度三最低十一度三ヲ示シ其差九度ヲ示ス、百五十尋層ニ於テハ最高十八度九ニシテ最低九度一ニシテ其差九度八ヲ示ス即其差最大ナルハ表層ニシテ十三度ノ昇降アリ温度ノ變化最も多キヲ表ハス其差最も少キハ百尋層ニシテ九度ヲ示シ温度ノ變化最も少キヲ表ハス、尙表層最高ト二十五尋層ノ最低ノ差ハ十二度九、二十五尋層ノ最高ト五十尋層ノ最低ノ差ハ十三度二、五十尋層ノ最高ト七十五尋層ノ最低ノ差ハ十一度七、七十五尋層ノ最高ト百尋層ノ最低ノ差ハ十度、百尋層ノ最高ト百五十尋層ノ最低ノ差ハ十一度二、ニシテ表層ヨリ百五十尋層ニ亘ル間二十五尋毎各層間水温變化ノ最大ナルハ二十五尋層ト五十尋層ノ間ニシテ表層ト二十五尋層ノ間ヲ次

トシ五十尋層以下ハ各層毎順次ニ其ノ變化ノ度少シ年中観測水温表示温度ノ各層ニ於ケル平均水温ヲ見ルニ表層二十一度三、二十五尋層十九度九ニシテ其差一度四、五十尋層十八度ニシテ二十五尋層トノ差一度七、七十五尋層十七度ニシテ五十尋層トノ差一度二、百尋層十五度七ニシテ七十五尋層トノ差一度三、百五十尋層十三度三ニシテ百尋層トノ差二度四ヲ示ス、即チ各層平均水温ニ於テモ二十五尋層ト五十尋層ノ間ニ於テ水温ノ變化最も大ニシテ表層ト二十五尋層ノ間ノ變化其次ニ位スルヲ知ル

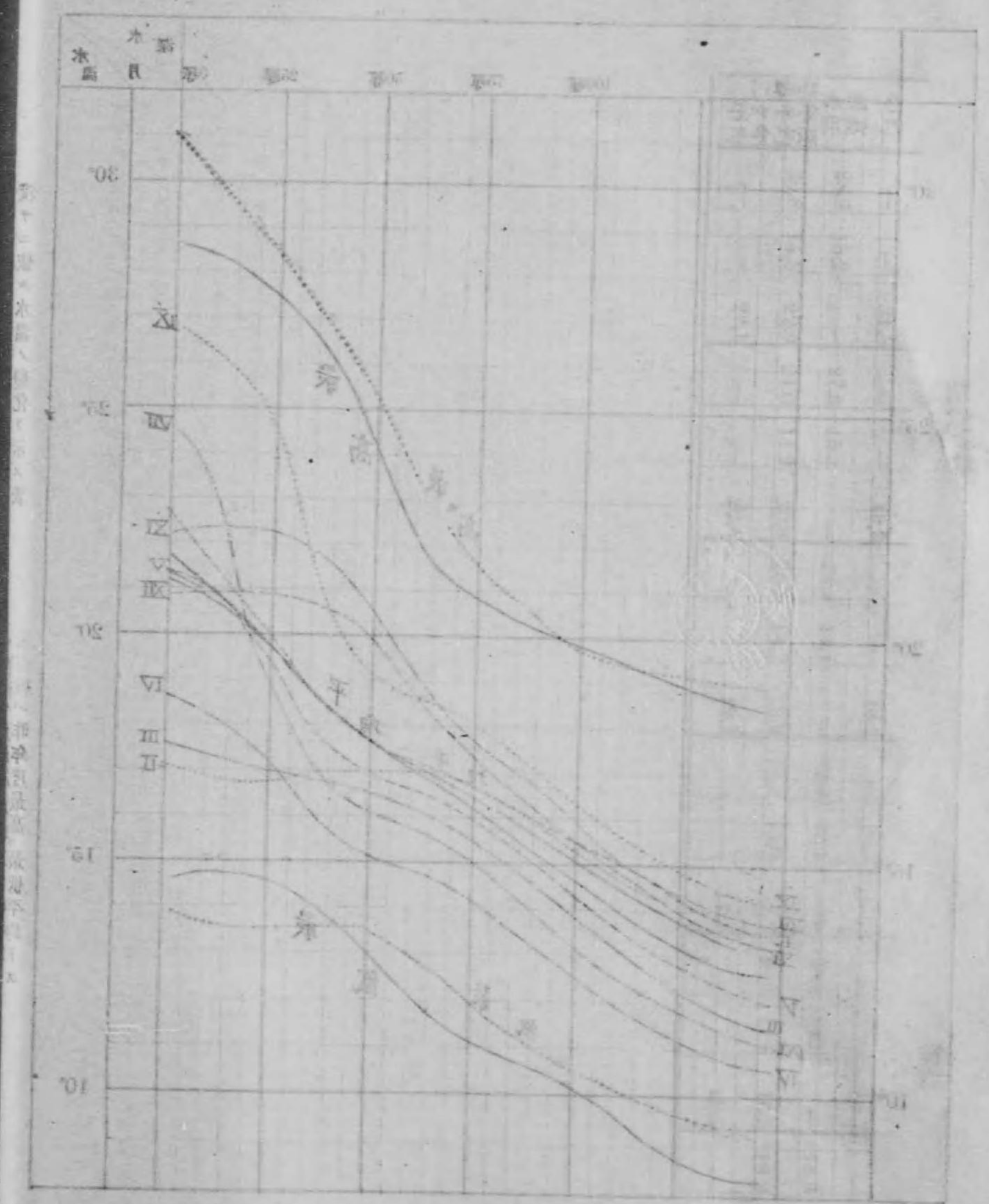
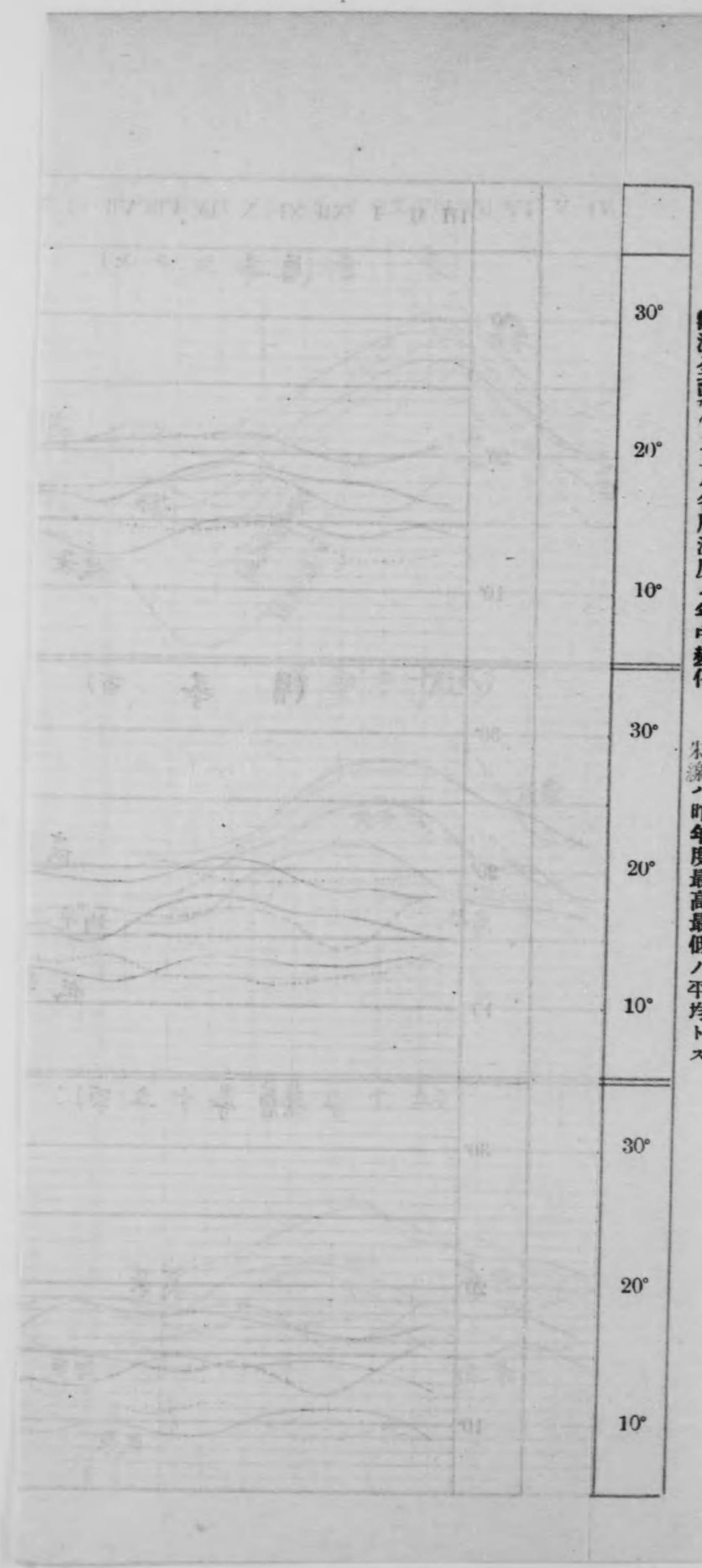
各月各層観測水温表 (最高、最低、平均)

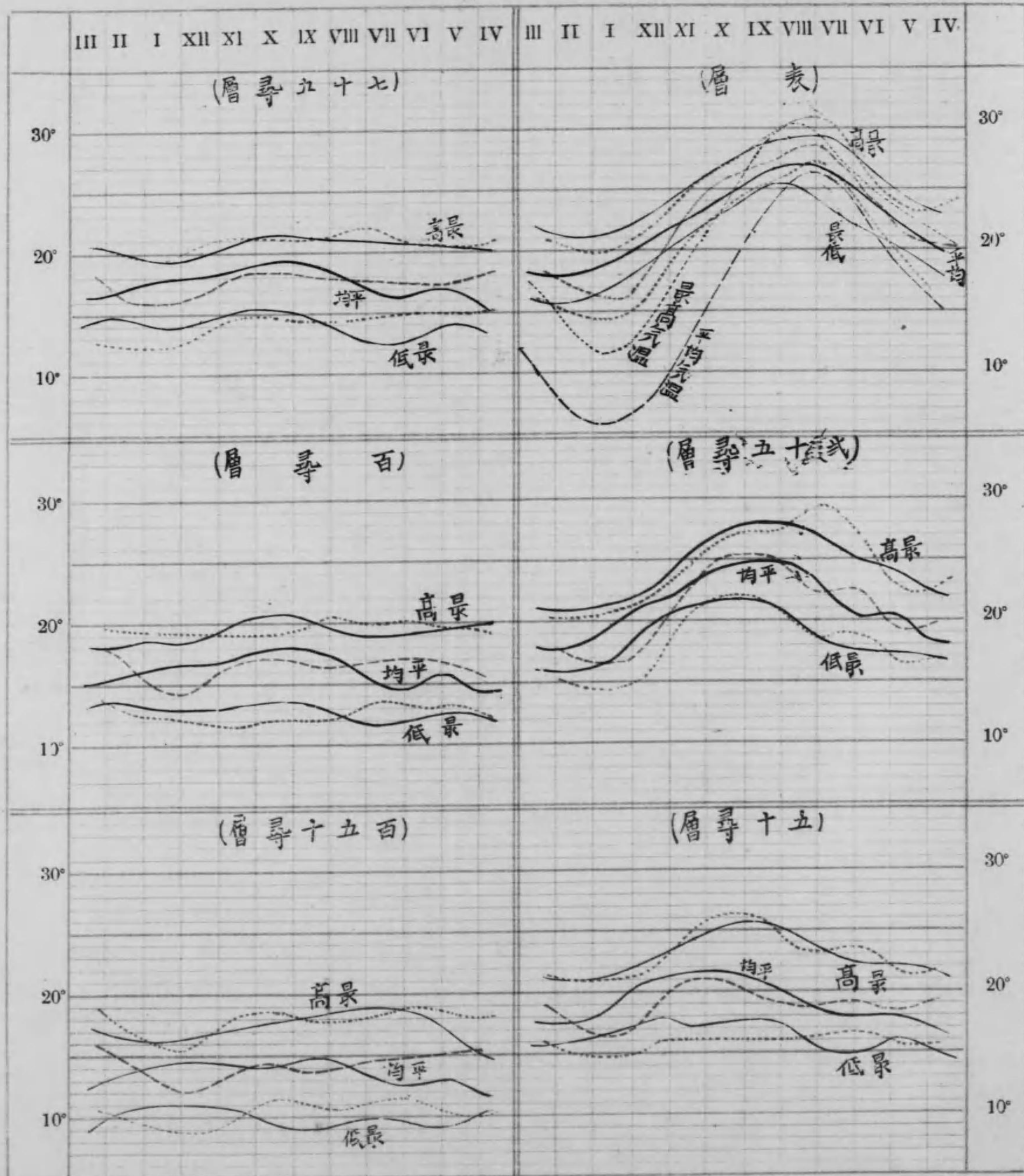
月	表層			二十五尋層			五十尋層			七十五尋層			百尋層			百五十尋層		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
IV	21.8	17.5	19.0	21.6	16.2	17.8	20.9	14.7	15.8	20.1	13.1	15.1	19.4	11.9	13.8	13.4	10.6	11.5
V	23.8	18.6	21.4	23.6	17.2	19.9	21.5	15.2	17.5	20.0	14.1	16.7	18.8	12.2	15.4	17.4	8.6	12.9
VII	27.5	21.3	24.5	24.3	16.8	19.7	21.5	14.1	16.8	20.5	12.2	15.9	19.0	11.5	14.4	18.9	9.4	12.1
IX	28.2	25.3	26.7	27.3	20.2	24.8	24.8	17.1	19.7	20.6	14.2	18.6	19.4	13.0	17.3	18.0	9.1	15.1
XI	24.4	20.8	22.2	24.5	20.7	22.3	23.9	17.0	21.1	21.3	15.4	18.4	20.3	13.5	17.0	17.3	10.1	14.1
XII	22.4	19.4	21.0	22.4	19.4	21.0	22.3	17.7	20.4	19.3	14.4	18.1	18.4	12.9	16.5	16.5	10.8	14.5
I	19.0	17.6	18.1	18.6	17.6	18.0	18.0	15.7	16.5	16.8	13.2	15.0	13.0	11.3	12.2	12.1	12.1	12.1
II	20.7	15.2	17.4	20.7	15.3	17.1	20.4	15.6	17.5	19.9	15.5	17.3	18.2	13.0	16.2	16.6	11.2	14.2
III	20.9	15.2	17.9	21.1	15.4	17.3	21.1	14.9	16.8	20.3	14.6	16.2	18.4	13.3	14.9	17.0	9.9	12.4



平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	
—	28.2	15.2	—	21.3	—	—	27.3	15.3	—	19.9	—	—	24.8	14.1	—	18.2	—	
—	14.5	—	22.1	—	—	24.0	14.2	—	20.4	—	—	25.8	14.2	—	18.2	—	22.3	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13.0
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17.2
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20.3
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11.6
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16.3
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19.2
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9.9
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14.1
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13.7

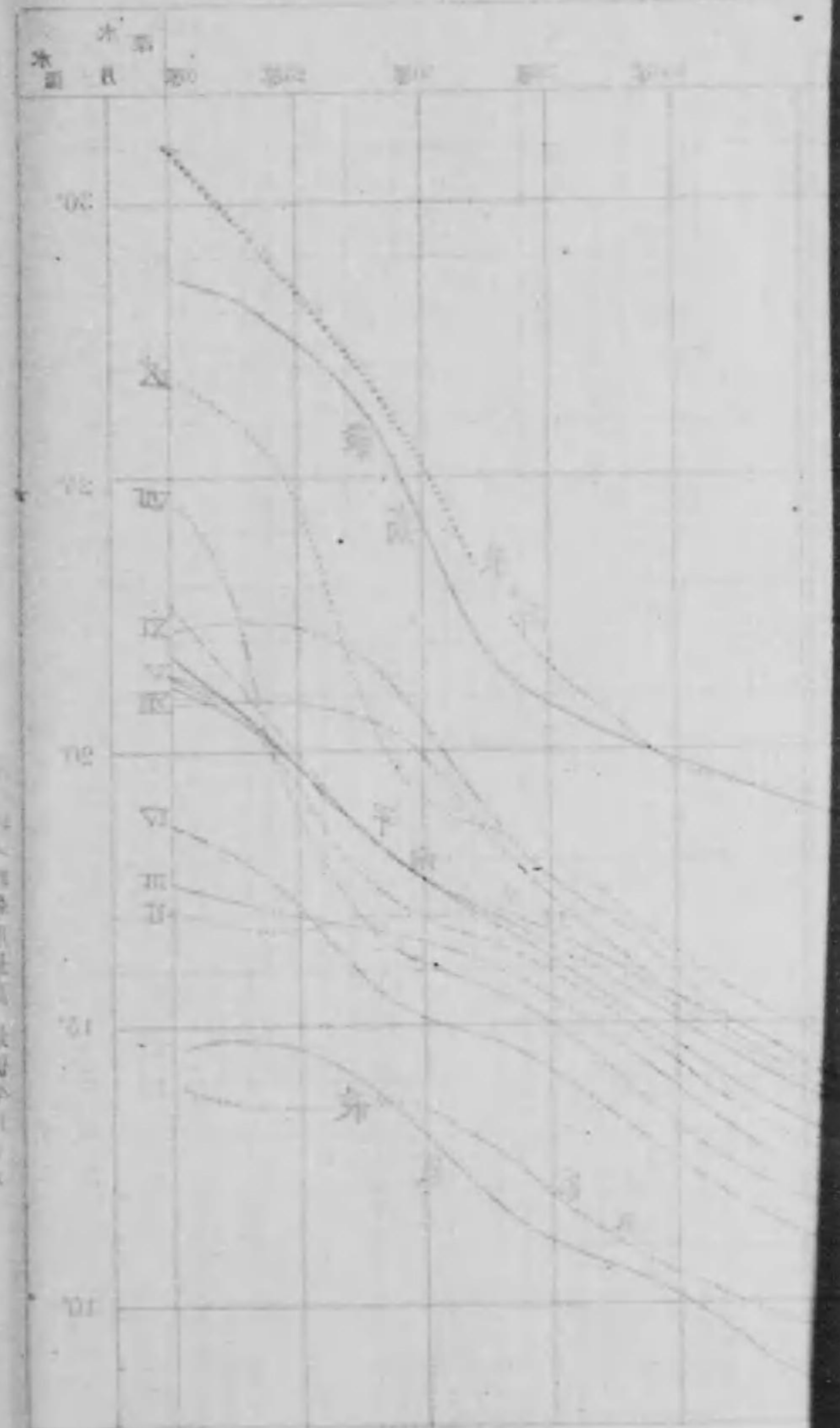
四六

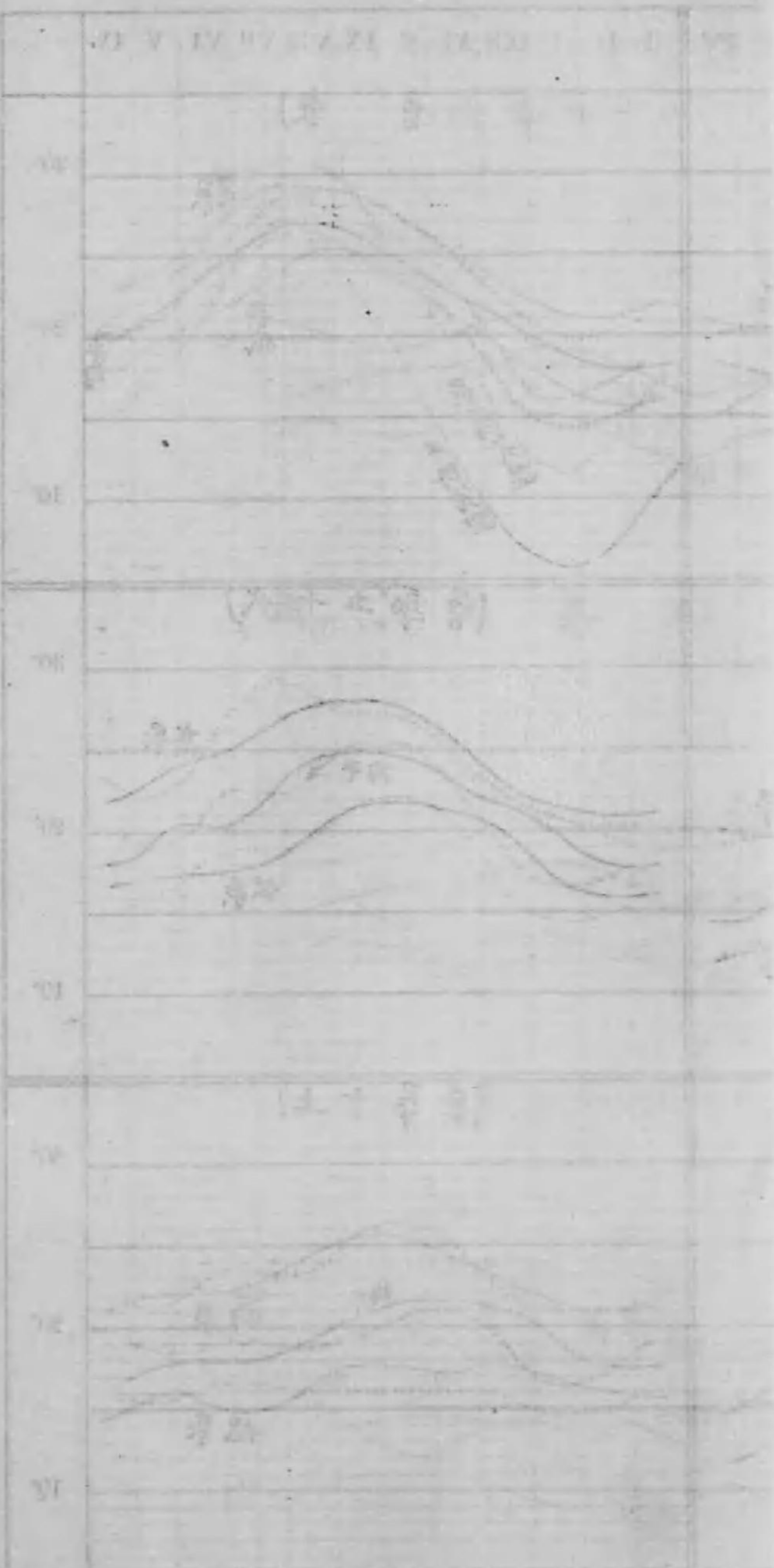




観測全面(直ニ巨ル各層温度ノ年中變化)

朱線ハ昨年度最高最低ノ平均トス





本縣沖合ニ於テ別紙圖ニ依ルA B C D E Fノ六點ヲ定メ各點ニ於ケル表層ヨリ百五十尋層ニ亙ル水温ノ年中變化ヲ以テ点該附近ニ於ケル海況ノ狀態及相互間ノ關係ヲ研究シ以テ本縣沖合全般ニ亙ル海洋狀態トヲ比較研究センヤス

(三) A B C D E F 点ニ於ケル水温ノ變化

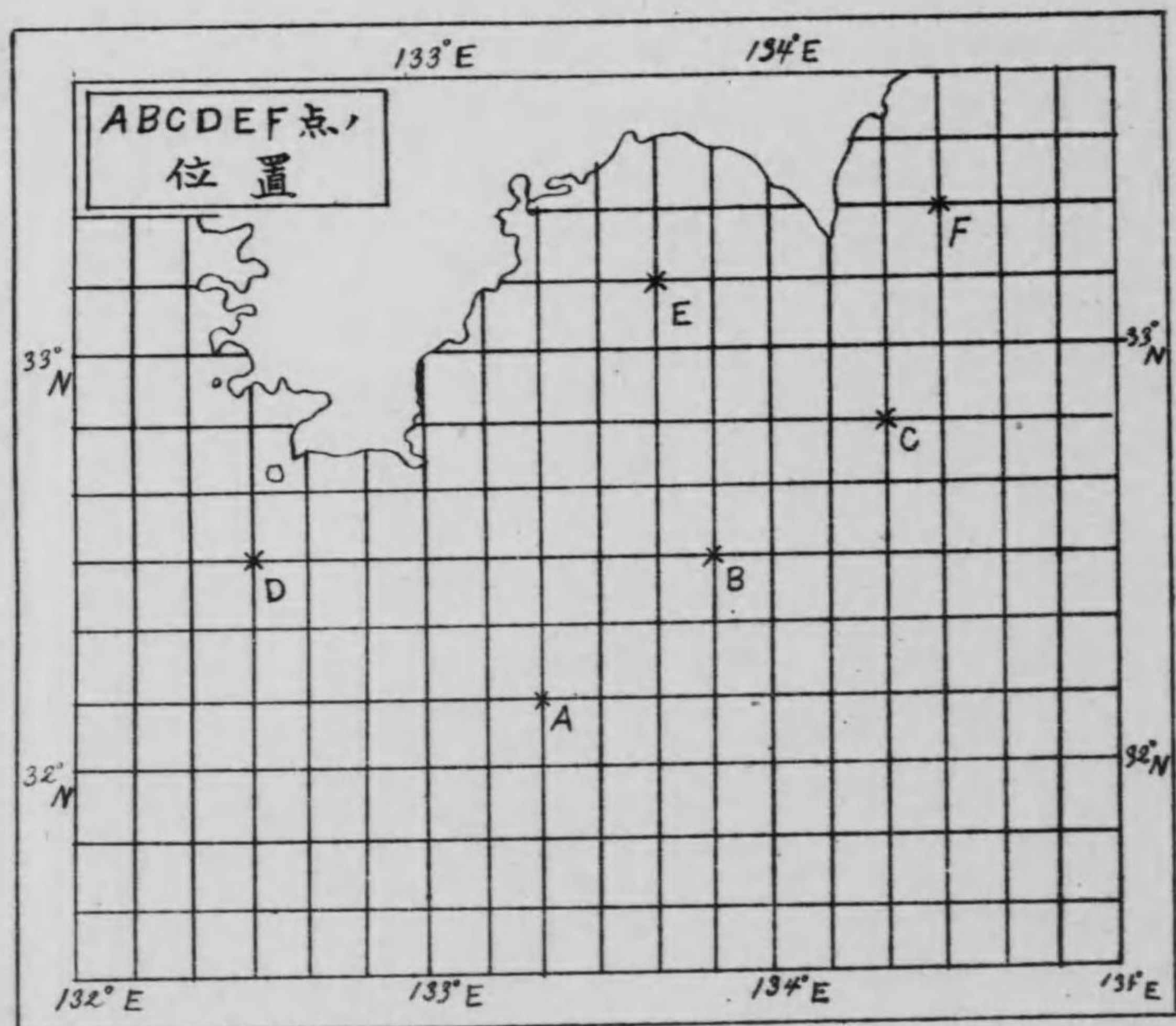
本縣沖合ニ於テ別紙圖ニ依ルA B C D E Fノ六點ヲ定メ各點ニ於ケル表層ヨリ百五十尋層ニ亙ル水温ノ年中變化ヲ以テ点該附近ニ於ケル海況ノ狀態及相互間ノ關係ヲ研究シ以テ本縣沖合全般ニ亙ル海洋狀態トヲ比較研究センヤス

イ、各点ノ比較(水平的研究)

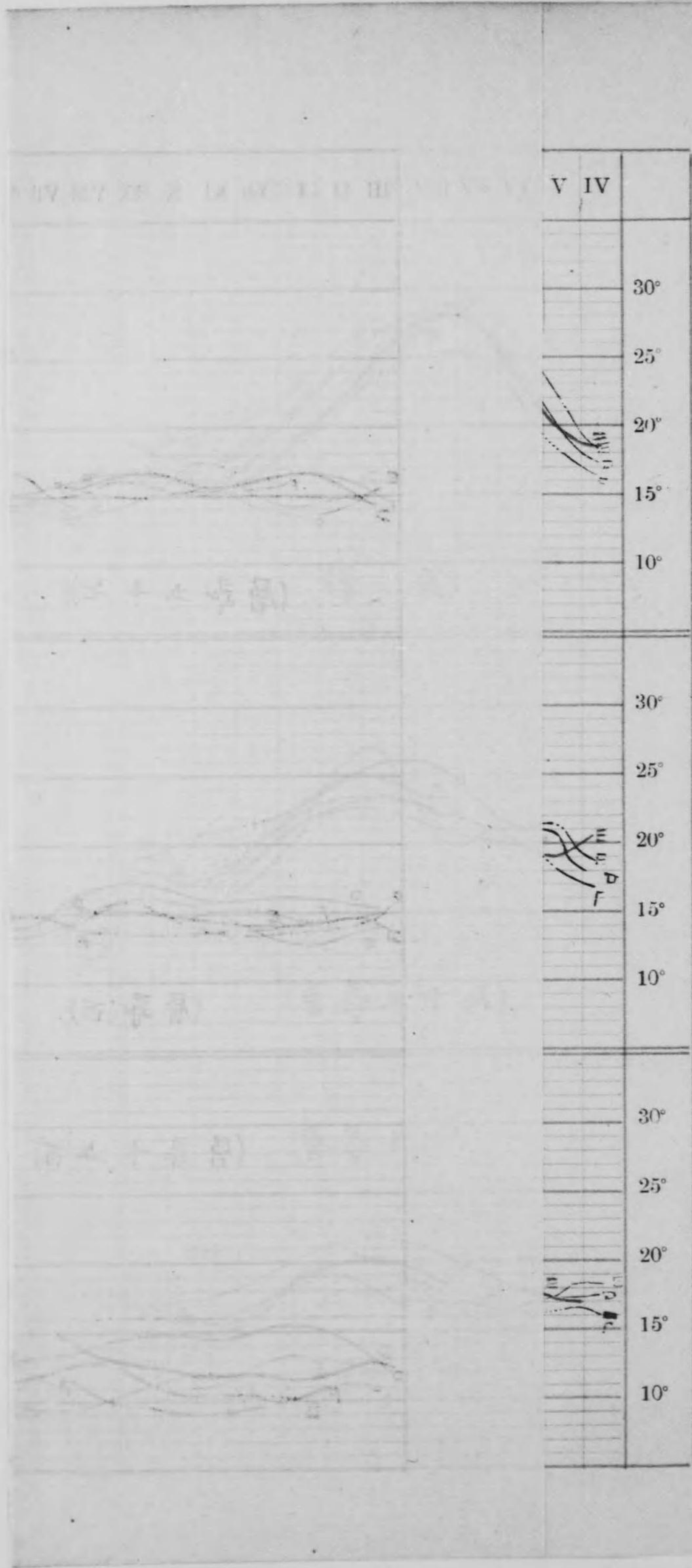
表層A、B、C点ハ其ノ順序ニ依リ稍々低温トナレルモ年中殆ンド大差ナキ水温ヲ示セリ而シテ全區域ニ亙ル最高温ト殆ンド一致ス即チコノ三点ハ常ニ沖合暖流區域内ニアリシ事ヲ知ル
 D、E、F点ハ低温時期(即チ四月及二、三月)ニ於テ三点大凡一致シ高温時期(七、八、九月)ニ於テ各点相互間約一度半乃至四度ノ差アリ即チE点ハ五六月ニ於テD点ハ其後ノ月ニ於テ高温ナリシヲ見ル即チ土佐海灣ニハ五六月頃西部方面ニハ八月ヨリ翌二月ニ亙リテ沖合暖流ノ影響多カリシヲ知ル、全區域ニ亙ル水温ト比較スレハD E点ハ五六月ニ於テ最高温ト一致シ其他時期ハ平均水温ト一致スF点ニ於テハ周年全區域水温ノ平均若クハ最低水温ト一致セリ、即チ是等三点ハ陸岸ニ近キヲ以テ沿岸、沖合兩水帶ノ影響ノ多少ニヨリ種々變化スルモノナルコトヲ示ス、尙F点ニハ沖合暖流ノ影響最少キコトヲ示ス

ロ、各層ノ比較(垂直的研究)

A B C 各点ニ於ケル各層温度ヲ比較スルニ表層ニ於テハ殆ント一致スルモ下層ハA、B、Cノ順序ニ稍低温ヲ示ス、然レ年中最高最低水温ヲ示ス時期ハ各点共略一致ス、即チ最高水温ハ表層ニ於テ七八月、二十五尋層ニ於テ八九月、五十尋層ニ於テ十、十一月七十五尋層ニ於テ十、十一月ニシテ以下各層殆ント明瞭ナラス、年中最低温度ハ表層ニ於テ二月二十五尋層ニ於テ二、三月
 五十尋層ニ於テ三四月七十五尋層ニ於テ三四月以下各層明瞭ナラス

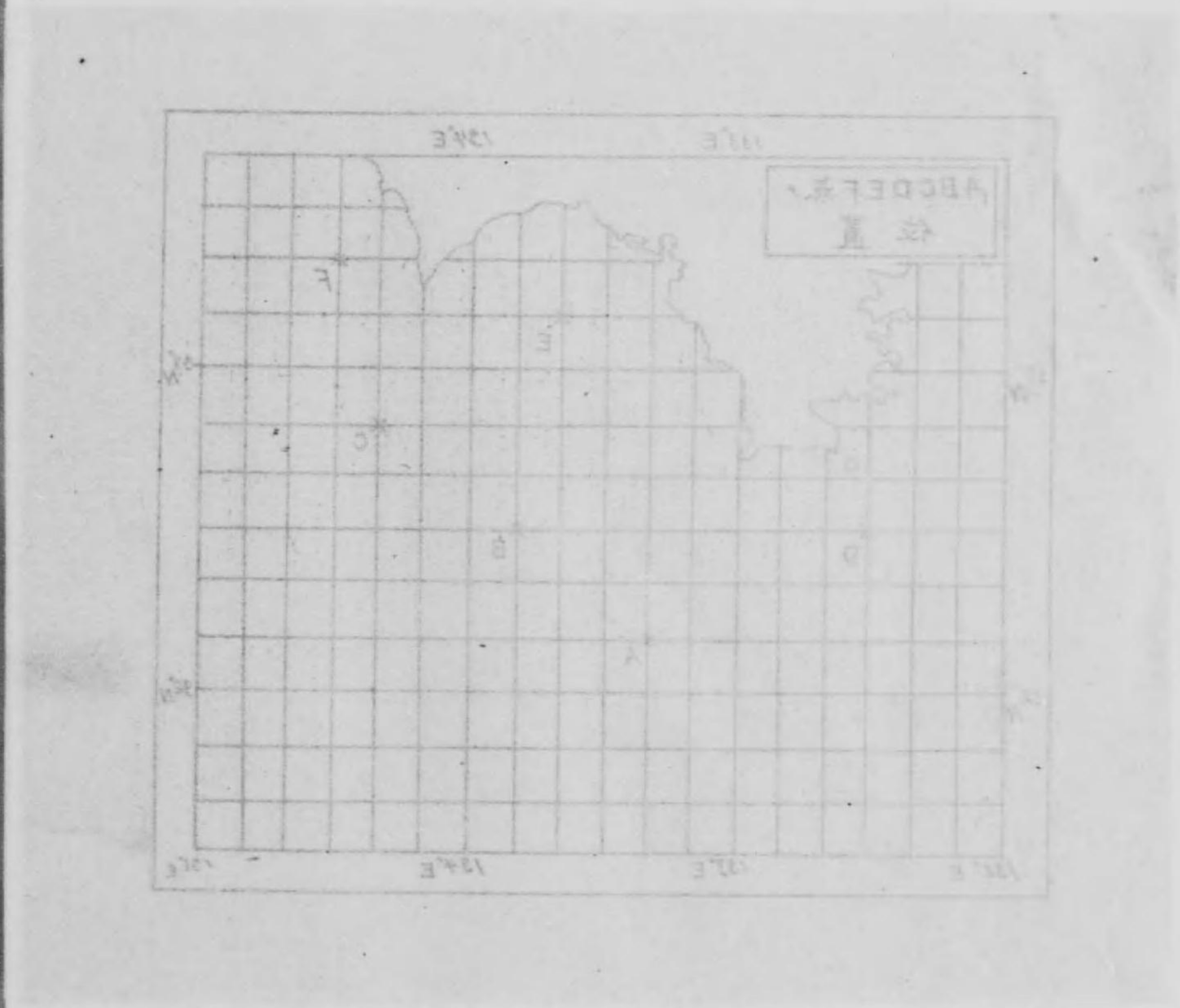


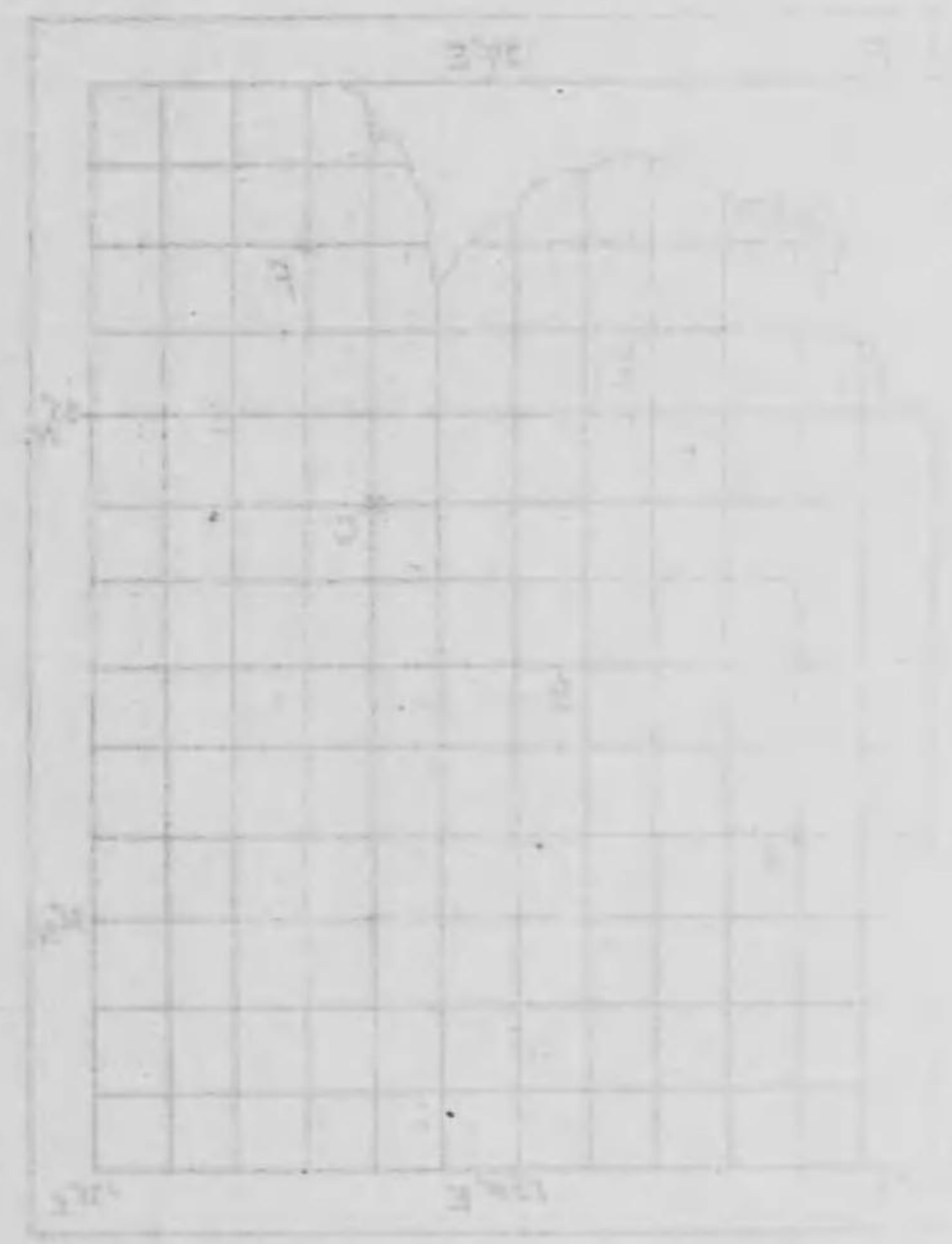
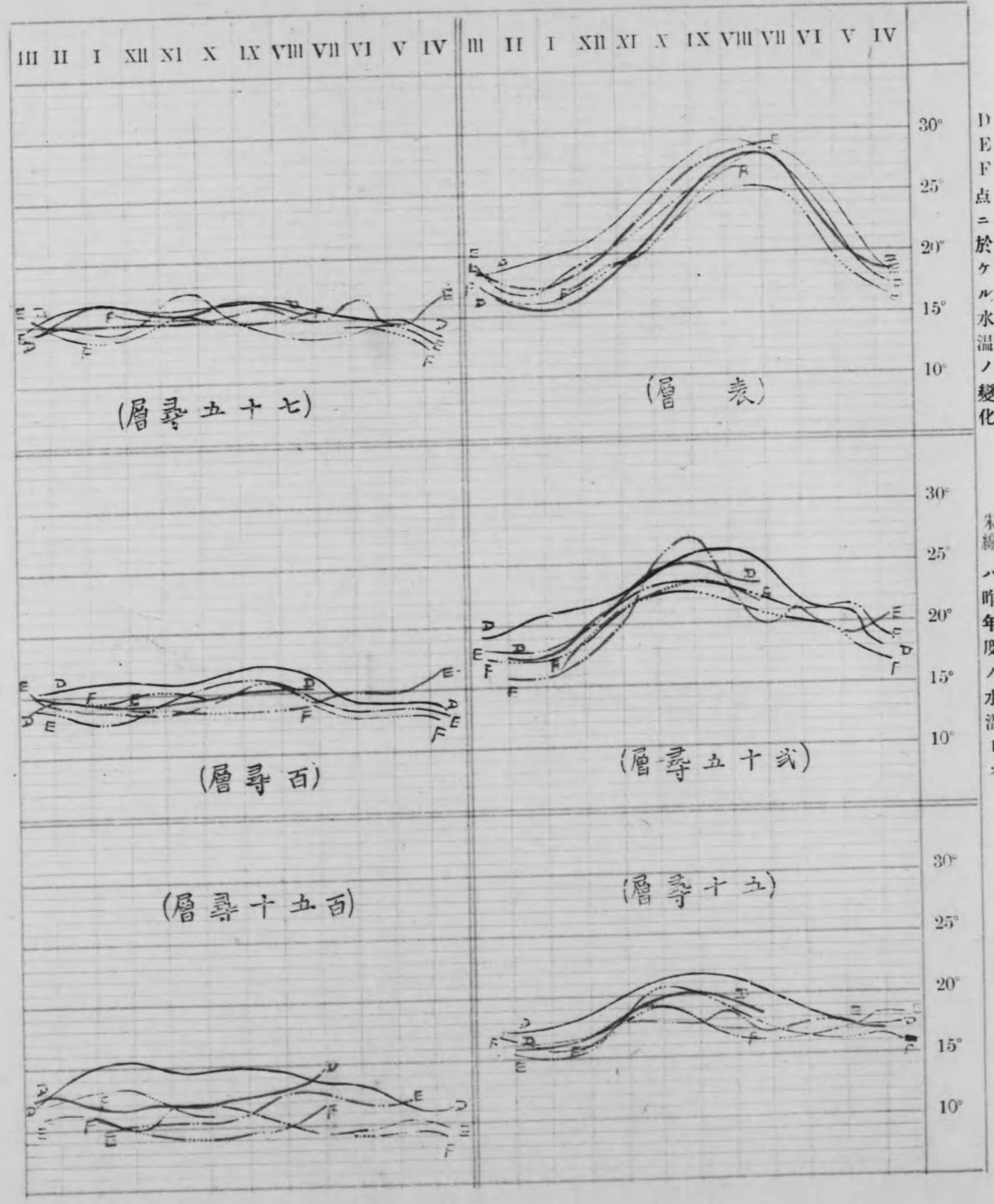
D、E、F 三点ハ年中最高最低ヲ示ス時期區々ニシテ一定セサルカ如シ、即チ最高温度ヲ示セル月ハ表層ニ於テDハ八月、
 E、Fハ七月、二十五尋層ニ於テハ八月、E、Fハ十月、五十尋層ニ於テDハ十月、E、Fハ十一月、以下各層殆
 ト明瞭ナラス、最低温度ヲ示セル月ハ表層ニ於テE、Fハ一月、二月Dハ三月二十五尋層ニ於テDハ三四月E、Fハ二月、五
 十尋層ニ於テ三四月、以下各層明瞭ナラス

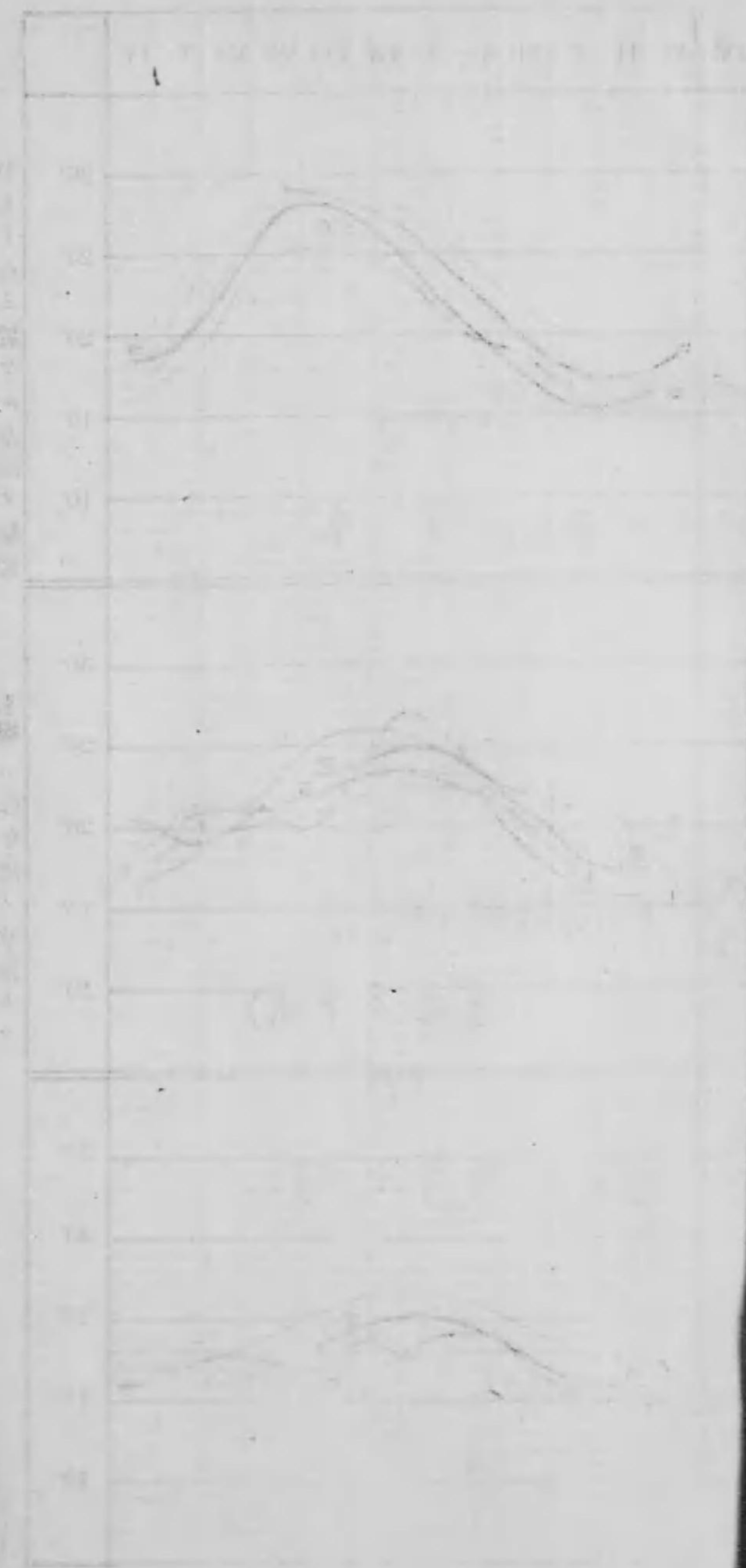
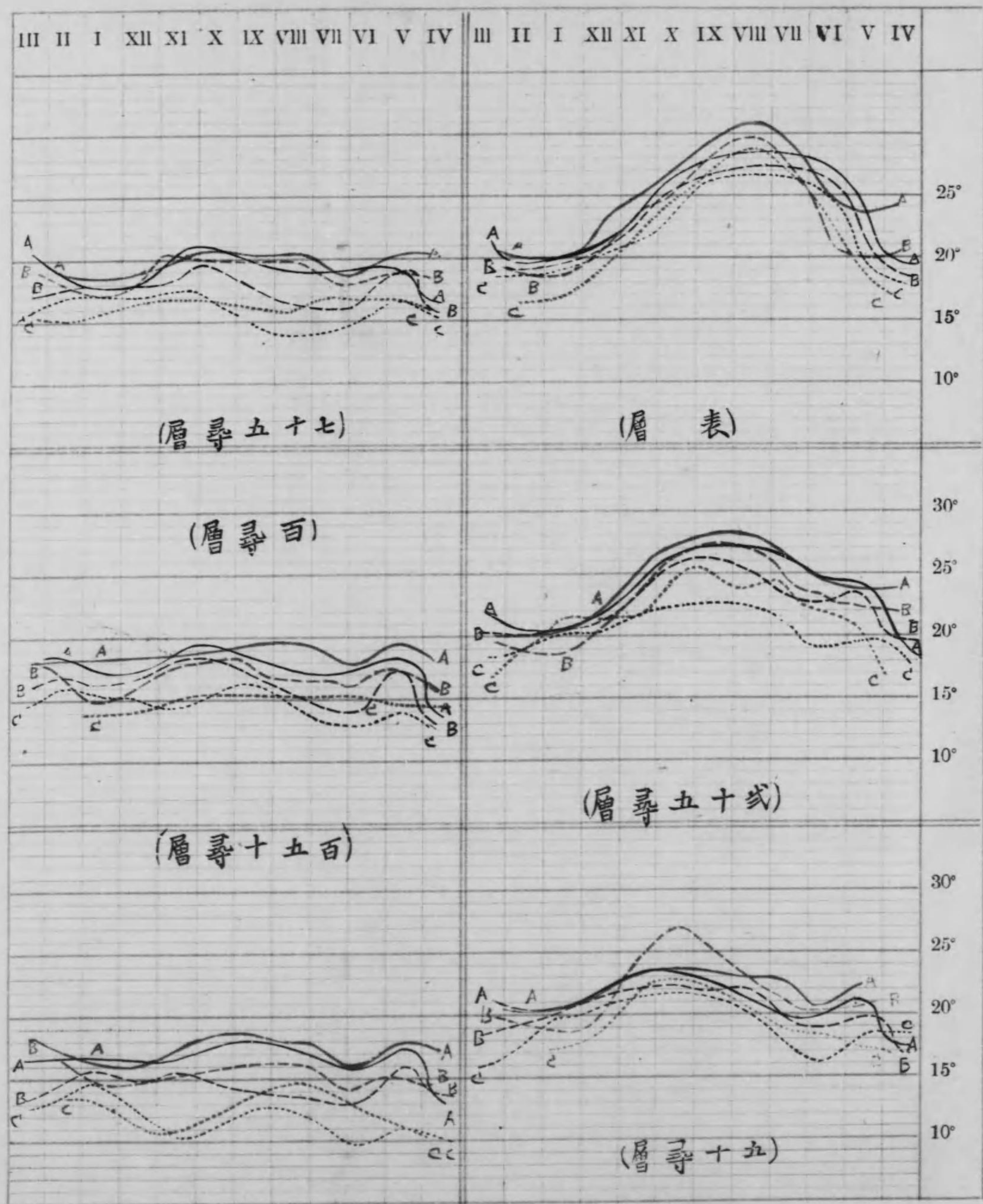


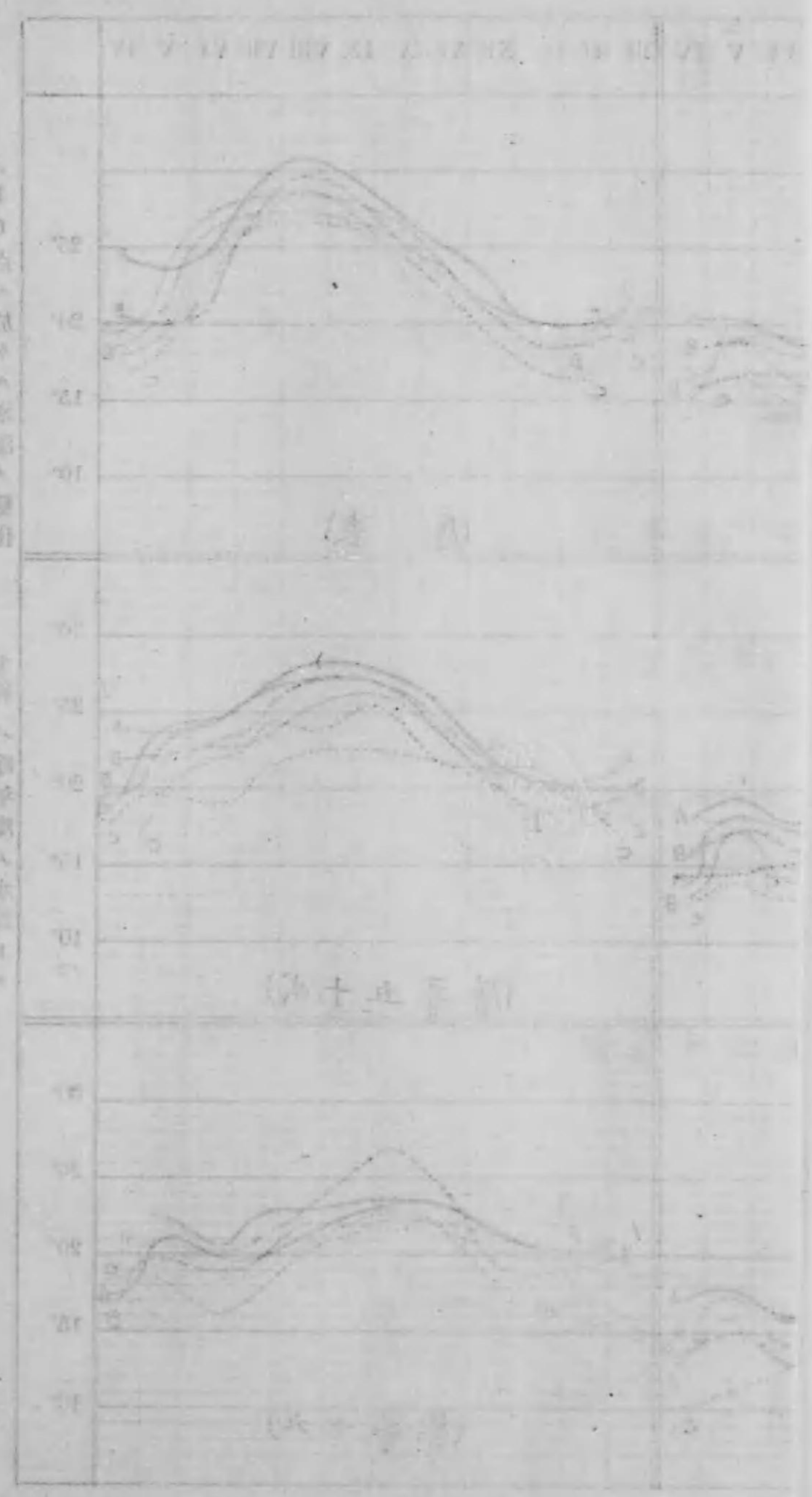
D E F 点ニ於ケル水温ノ變化

朱線ハ昨年度ノ水温トス









III 比重

(一) 分布状態

1. 一般分布状態

本縣沖合ニ於ケル比重分布状態ハ一般ニ沿岸ニ於テ少ナル比重ヲ示シ沖合ニ於テ大ナル比重ヲ示ス、大ナル比重ハ時期ニヨリ沿岸ニ遠近スト雖モ降雨時期ニ於テ最モ遠サカルヲ知ル
沿岸水帯ノ中土佐海灣内ニハ時ニ依リ比重大ナル水域ヲ認ムルコトアルモ紀伊水道及豊後水道方面ハ常ニ一般ニ比重少ナリ

2. 水平分布状態

1. 月毎分布状態

- 五月** 一般ニ沿岸ニ於テ比重小ニ沖合ニ到ルニ從ヒ比重大トナレリ
紀伊水道方面及豊後水道方面ニ於テ比重一、〇二六〇以下ノ水域廣ク足摺崎東方沖合十湮附近ニハ一、〇二六二五以上ノ比重ノ水域アルヲ見ル
- 六月** 沿岸一般ニ比重少ニシテ一、〇二五五〇以下ノ比重ヲ見特ニ紀伊水道方面ハ少ニシテ一、〇二五〇〇以下ノ比重ヲ見ル一、〇二六〇〇以上ノ比重ハ足摺崎南方六十湮沖合ニテ初メテ之ヲ見ル
- 九月** 六月同様一般ニ比重少ニシテ沿岸十湮乃至三十湮附近ニ到ル迄一、〇二四五〇ヲ示シ一、〇二六〇〇ノ比重ハ足摺崎南方四十湮附近ニ到リテ初メテ之ヲ見ル
- 十一月** 九月同様一般ニ比重少ナルモ西部方面即チ土佐海灣中部附近ヨリ豊後水道方面ニ亘リテ一般ニ比重比較的大ニシテ東部方面ニ於テ比較の少ナルヲ見ル一、〇二六〇ノ比重ハ足摺崎南方五十湮附近ニテ初メテ之ヲ見ル

二月 十一月ニ比シ著シク比重大トナリ、須崎灣口ヨリ足摺崎附近ニ到ル間ニ於テ一、〇二六二五以上ノ比重ヲ見、一、〇二六〇以下ノ比重ハ各沿岸僅カニ之ヲ見ルノミ、尙豊後水道方面ニハ少比重ノ水域卓越セルヲ見ル

三月 前月ニ比シ小比重ノ水域沿岸ニ於テ稍擴大セルヲ見ル、沿岸十乃至二十哩附近迄ハ凡テ一、〇二六〇以下ノ比重ヲ示シ特ニ土佐海灣西部方面ニハ一、〇二五七五以下ノ比重ヲ見ル、足摺崎南方二十哩沖合ニハ一、〇二六二五以上ノ比重ヲ見ル

ロ、一ヶ年間ノ變化狀態

以上ノ結果ヨリ見ルニ比重大ナル水域沿岸ニ最モ接近セルハ二月ニシテ沿岸近ク一、〇二六〇〇以上ノ比重ヲ見タリ其ノ前後ノ月ハ稍比重少ナル水域一般沿岸ニ認メラレ六月乃至十一月ニ於テハ一般ニ比重少ニシテ一、〇二四〇〇乃至一、〇二六〇〇ヲ示シ足摺崎南方四十哩乃至六十哩ニ於テ初メテ一、〇二六〇〇以上ノ比重ヲ見タリ各月ヲ通シテ豊後水道及紀伊水道方面ハ一般ニ比重少ナリ

3、垂直分布狀態

イ、各月毎分布狀態

四月末 年中ヲ通シテ一般ニ各層共比重大ニシテ殊ニ表層ヨリ五十尋層迄ハ著シキ變化ヲ見ス、五十尋層ト七十五尋層ノ間ニ於テ稍低下シ七十五尋層以下殆ント變化ナシ

第一線第二線共距岸七八哩ノ間ハ表層ヨリ七十五尋層迄稍比重少ナルヲ見ル

五月末 前月ト同様一般ニ比重大ナリト雖モ表層ヨリ五十尋層ニ亘リテ前月ヨリ稍少ニシテ七十五尋層以下前月ヨリ稍大ナリ

第一線第二線共距岸十二三哩ノ間表層附近ニ於テ稍比重大ナルヲ見ル

六月末 前月ニ比シ狀態一變シ年中ヲ通シ一般ニ比重最モ少ニシテ且ツ各層間ノ變化最モ大ナリ、即チ表層ニ最モ少ニシテ下層ニ行クニ從ヒ漸次増加シ七十五尋層ニ於テハ殆ント該層ノ年中平均比重ニ近キモ百尋層ニ於テ再ヒ低下シ百五十尋層ニ到リ漸ク變化ナキヲ見ル

九月初 表層ニ於テハ六月ヨリ稍低ク年中最低比重ヲ見ルモ下層ニ下ルニ從ヒ漸次比重大トナリ五十尋層附近ハ殆ント年中平均比重ト一致セルヲ見以下著シキ變化ナシ

十一月 表層ハ年中平均比重ニ近ク九月ヨリ著シク比重大トナル五十尋層迄ハ表層ト著シキ差ナシ五十尋層ヨリ七十五尋層迄ハ稍大トナルモ以下著シキ變化ヲ見ス

十二月 一般ニ前月ヨリ稍比重大トナリ概テ年中平均比重ト一致ス即チ表層二十五尋層間ニ變化ナク以下七十五尋層迄ハ稍大ナルト雖モ七十五尋層以下ハ殆ント變化ナシ

二月 前月ヨリ稍大トナリ變化狀態概テ年中平均比重ノ變化狀態ト大差ナシ即チ表層ヨリ五十尋層ニ亘リ漸次比重大トナリ以下殆ンド變化ナシ

三月 表層ヨリ百五十尋層迄殆ンド著シキ變化ヲ見ス年平均比重ニ比シ表層乃至二十五尋層ハ稍大ナルモ五十尋層以下ハ概テ一致ス

ロ、一ヶ年間ノ變化狀態

以上ノ結果ヨリ見ルニ垂直的比重ノ變化最モ多キハ表層ヨリ五十尋層ニ亘ル間ニシテ一般ニ表層ニ低クシテ下層ハ漸次大トナル五十尋層以下ハ月ニ依リ多少ノ相違アリト雖モ概テ比重一定セルヲ見ル本年ノ觀測ニヨル各層ノ年平均比重ニ最モ近キハ十二月ヨリ一月二月三月ノ間ニシテ四月五月ニ於テ最高比重ヲ示シ六月ニ入り急ニ少トナリ其後七月八月九月迄ハ最低比重ヲ示シ其後漸次平均比重ニ復スルヲ見ル

(二) 比重示數ノ變化

1、一般示數ノ變化

本年度觀測結果ヲ通シテ表層比重最大一、〇二七七〇 最小一、〇二〇九一ヲ示ス、ヨリテ全觀測區域内ノ表層ノ比重ハ其ノ差〇、〇〇六七九ノ間ヲ増減シツ、アリシ事ヲ知ル
以下各層ハ最大比重ニ於テ表層ト略一致セルモ最少比重ニ於テ表層ヨリ著シク大トナリ百尋層ニ於テ最大最少ノ差僅カニ〇、〇〇二二七アルノミ

2、月毎示數ノ變化

四月 表層最高比重一、〇二七七〇ニシテ年中表層比重ノ最大ヲ示シ二十五尋層最高比重一、〇二七七二ニシテ各層ニ亘ル年中比重ノ最大ヲ示ス

表層平均比重一、〇二六三三ニシテ下層ハ稍大トナリ五十尋層ニ到リ一、〇二六四二ヲ示シ夫ヨリ以下各層ハ漸次少トナリ百五十尋層ニ於テ一、〇二六一〇トナル即チ此ノ月ハ年中ニ於テ最モ比重大ナル月ニシテ五十尋層以上ニ於テ特ニ著シキヲ見ル

五月 表層最大一、〇二六四四ニシテ下層ニ到ルニ從ヒ大トナレル傾向ヲ有スルモ五十尋層迄ハ前月ヨリ低下セルヲ見七十五尋層以下ニ於テ前月ヨリ大トナレリ百五十尋層ニ於テ此月ノ最大比重一、〇二六八五平均比重一、〇二六四ヲ示ス

六月 表層最大一、〇二六六八 最小一、〇二三四七ニシテ前月ニ比シ著シク低下シ平均比重一、〇二五〇二ニシテ各層平均比重ノ最低ニ近シ各層平均比重ハ五十尋層迄ハ著シキ變化ヲ以テ比重大トナレドモ之ハ最低比重大トナレル爲メニシテ最大比重ハ反ツテ表層ヨリ低下セル傾向アリ

五十尋層ニ於ケル最大一、〇二六二四 最小一、〇二四八一ヲ示シ以下各層ハ最大最小著シキ變化ヲ認メス

九月 表層最高ハ一、〇二六八五ニシテ前月ヨリ稍大トナリ最小ハ一、〇二〇九一ヲ示シ年中示數最小比重ヲ示ス各層平均比重亦年中ノ各層平均比重ノ最小ニシテ一、〇二四九一ヲ示ス以下漸次大トナリ七十五尋層ニ於テ平均比重一、〇二六〇二ヲ示シ以下著シキ變化ナシ

十一月 表層最大一、〇二六一八ニシテ前月ニ比シ小トナレルモ最大ニ於テ一、〇二五三七ヲ示シ著シク大トナレルヲ以テ平均一、〇二五六八トナリ大トナレリ下層ニ到ルモ比重ノ示數ニ著シキ變化ナシ

十二月 前月ト著シキ相違ナキモ各層平均比重ハ稍大トナリ表層ニ於テ一、〇二五八五ヲ示シ以下各層共全層前月ト大ナル相違ナクホ、表層比重ハ相似タリ

二月 十二月ノ比重示數ト畧相似タルモノニシテ下層ニ到ル迄著シキ變化ナシ

三月 二月ニ比シ稍大ナルヲ見表層最大一、〇二六三三平均一、〇二五九九ヲ示シ百五十尋層ニ到ルマテ著シキ變化ヲ認メス

3、一年間示數ノ變化

一ケ年間觀測表示比重ヲ見ルニ表層ニ於テハ最大二七七〇 最小二〇九一ニシテ其差六七九ヲ示ス 二十五尋層ニ於テハ最高二七七二 最低二三三八 其差四三三ヲ示ス 五十尋層ニ於テハ最高二七四一 最低二五四〇 其差二一〇一ヲ示ス 七十五尋層ニ於テハ最高二六七六 最低二五二二 其差一五五ヲ示ス 百尋層ニ於テハ最高二六七六 最低二五三九 其差一三七ヲ示ス 百五十尋層ニ於テハ最高二六九二 最低二五〇八 其差一八四ヲ示ス即チ其差最モ大ナルハ表層ニシテ比重ノ變化最モ多キヲ示シ漸次下層ニ下ルニ從ヒ其差少キヲ見ル
次ニ表層ノ最高ト二十五尋層ノ最低ノ差ハ四三二 二十五尋層ノ最高ト五十尋層ノ最低ノ差ハ二三二 五十尋層ノ最高

ト七十五尋層ノ最低ノ差ハ二二〇 七十五尋層ノ最高ト百尋層ノ最低ノ差ハ一三七 百尋層ノ最高ト百五十尋層ノ最低ノ差ハ一六八ヲ示ス即チ表層ヨリ百五十尋層ニ亘ル間二十五尋毎各層間比重變化ノ最モ多キハ表層ト二十五尋層ノ間ニシテ漸次下層ニ行クニ從ヒ毎層相互間ノ差少トナレルヲ見ル

年中觀測表示比重ノ各層ニ於ケル平均比重ヲ見ルニ表層一、〇二五七二二

二十五尋層一、〇二五八五五ニシテ二十五尋層ハ表層ヨリ、〇〇〇一四三大ナリ

五十尋層ハ一、〇二五九九〇ニシテ二十五尋層ヨリ、〇〇〇一三五大ナリ

七十五尋層ハ一、〇二六〇一七ニシテ五十尋層ヨリ、〇〇〇〇二七大ナリ

百尋層ハ一、〇二五九九二ニシテ七十五尋層ヨリ、〇〇〇〇二〇少ナリ

百五十尋層ハ一、〇二六〇〇一ニシテ百尋層ヨリ、〇〇〇〇〇九大ナリ

即チ各層平均比重ニ於テハ表層最少ニシテ五十尋層ニ到ル迄ハ漸次大トナリ五十尋層以下ハ多少ノ上下ヲ見ルモ著シキ變化ナキコトヲ知ル

表層年平均比重ニ於テ最大ナルハ三、四、五月ニシテ其後急ニ少トナリ七、八、九月ニ於テ最少ヲ示ス而シテ十月以後十二、一月迄ハ漸次高比重ヲ示シツ、三月ニ到リ最大トナル

(三) A B C D E Fニ於ケル示數ノ變化

1、各点ノ比較(水平的研究)

A、B、C三点表層比重ハ年中ヲ通シテ大畧同一比重ヲ示セルモ八、九、十月ニ於テA、B、Cノ順序ニ比重小トナレルヲ見ル右三点ノ最高比重ヲ示セル時期ハ二、三、四、五月ニシテ最低時期ハ六、七、八、九月ニシテ略平均比重ト一致セルヲ見ル尙示數ニ於テモ表層平均比重ト略一致セルヲ見ル

D、E、F三点ハ最高時期及最低時期ハ各A、B、C三点ト同様大略表層平均比重ト一致セルモ示數ニ於テハ最高時期即チ二、三、四月ニ於テ平均比重ト大略一致シ最低時期即チ六、七、八、九月ニ於テ年最低比重ニ近キヲ見ル但シD点ハ平均比重ニ酷似セリ

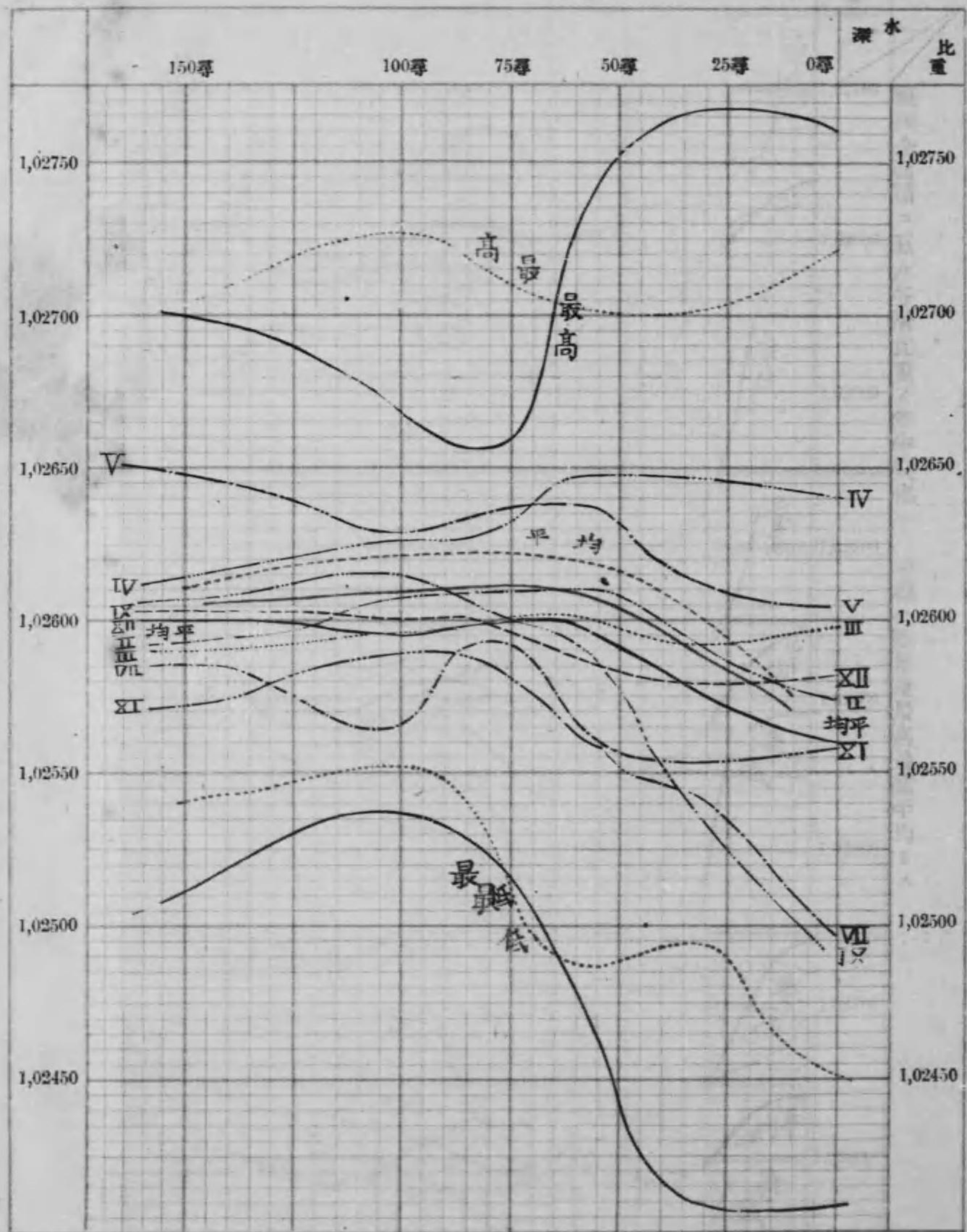
即チA、B、C、D四点ハ常に沖合水帯ノ中ニアリ沿岸水帯ノ影響少キヲ知リE、F二点ハ沿岸水帯ノ影響ヲ蒙ルコト多ク特ニ降雨時期即チ六、七、八、九月ニ於テ陸水ノ影響多カリシヲ知ル

2、各層ノ比較(垂直的研究)

A、B、C、D、E、F各点其表層ヨリ五十尋層ニ亘ル間比重最大時期即チ二、三、四、五月ニ於テ大凡一致シ比重最小時期即チ六、七、八、九月ニ於テ著シキ示數ノ相違アルヲ知ル然レドモ七十五尋層以下ハ六、七、八、九月ニ於テ著シキ差アルヲ認メス

各月各層比重觀測表(最高、最低、平均)

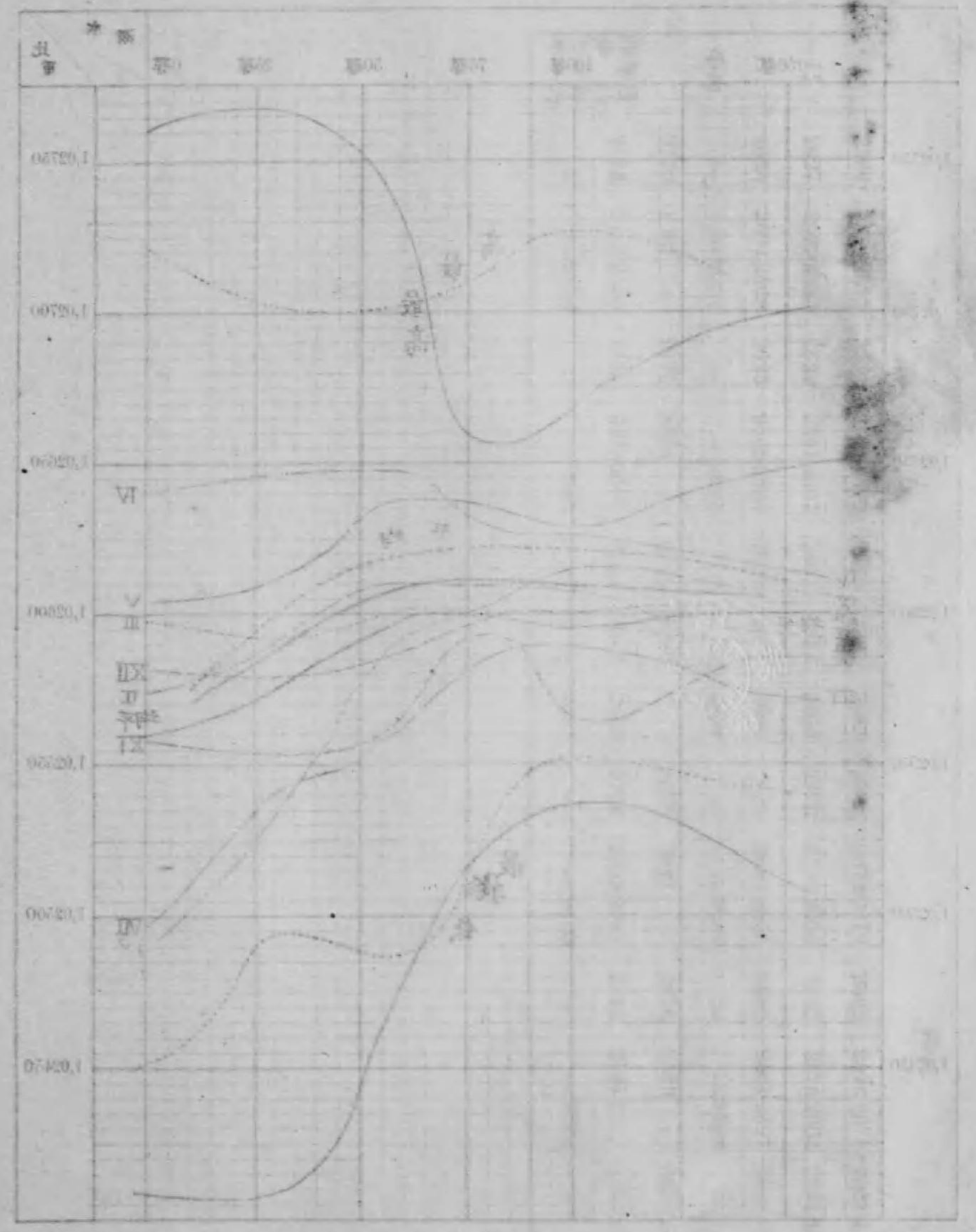
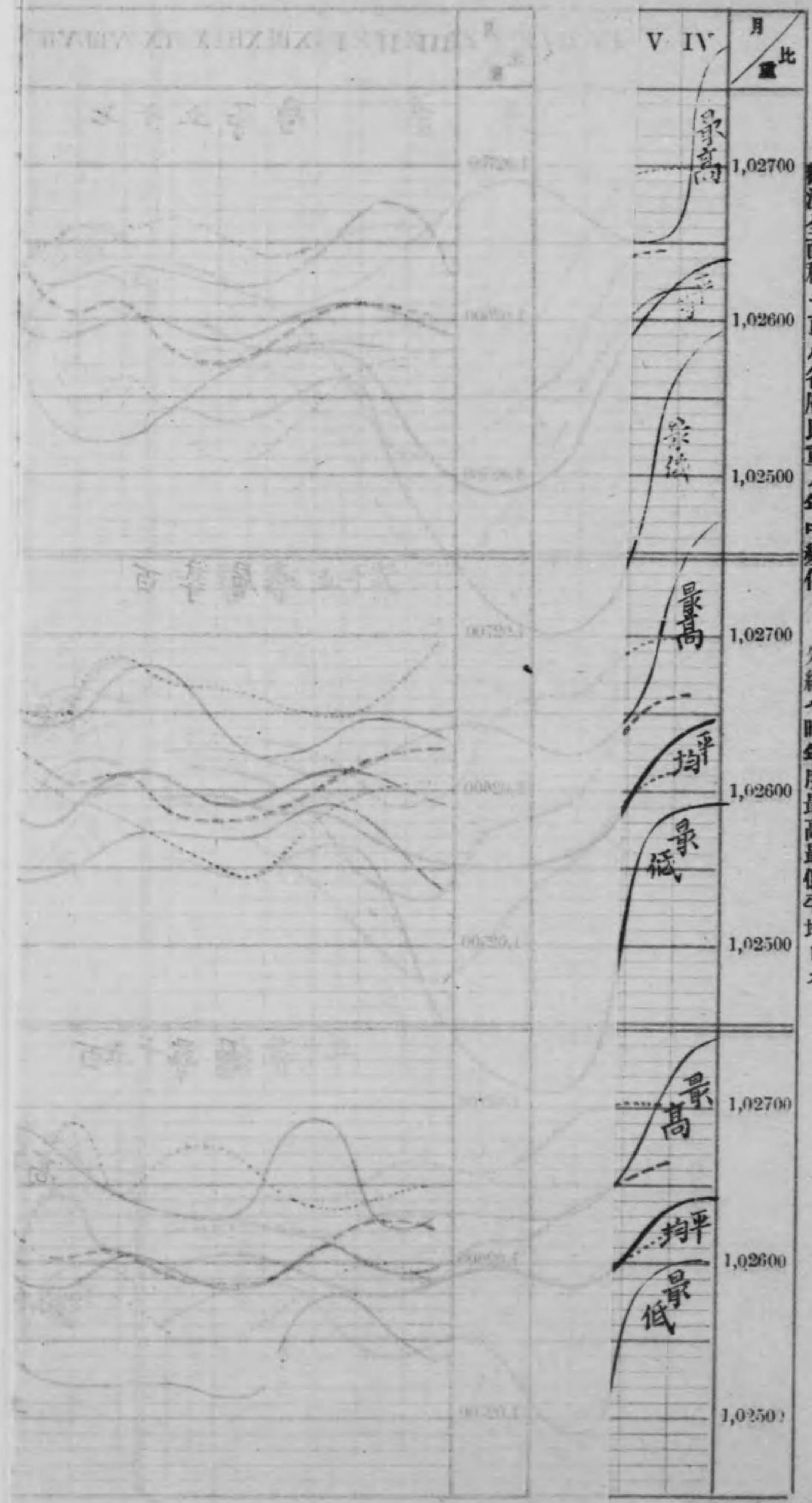
月	表層			二十五尋層			五十尋層			七十五尋層			百尋層			百五十尋層			
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	
IV	2770	2582	2635	2772	2593	2641	2741	2593	2642	2630	2650	2607	2622	2659	2606	2619	2639	2596	2610
V	2644	2525	2605	2654	2573	2612	2679	2592	2630	2659	2606	2626	2669	2580	2622	2685	2585	2646	
VII	2668	2347	2502	2622	2338	2552	2624	2481	2573	2516	2540	2596	2633	2539	2572	2689	2526	2591	
IX	2685	2091	2491	2641	2425	2561	2631	2548	2593	2631	2521	2602	2676	2580	2612	2641	2514	2604	
XI	2618	2357	2568	2616	2533	2564	2614	2540	2573	2618	2566	2585	2620	2566	2588	2625	2508	2579	
XII	2608	2566	2585	2602	2571	2585	2609	2580	2588	2629	2686	2600	2629	2584	2600	2692	2570	2608	

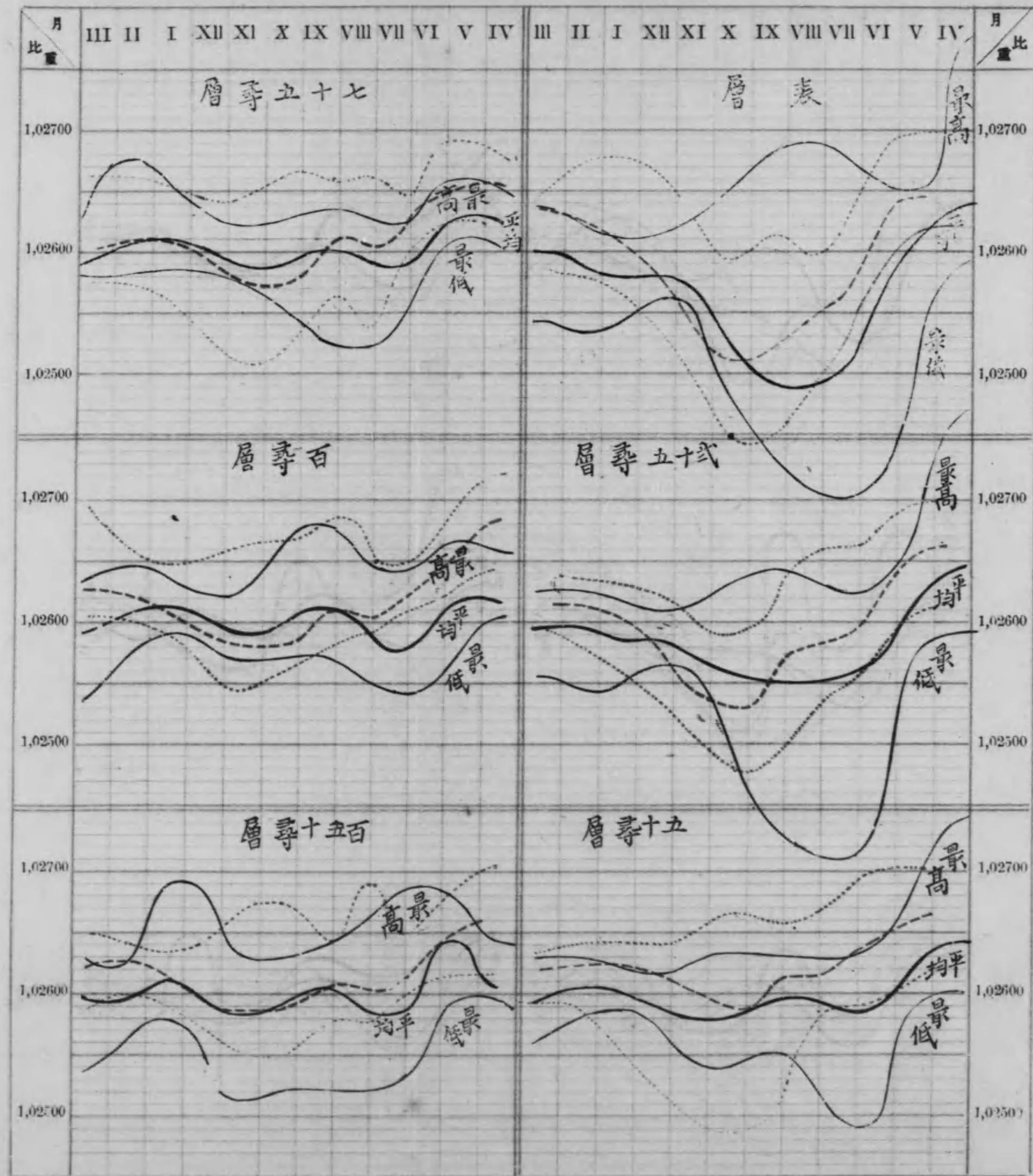


深サニ依ル比重ノ變化

本資料ハ大正六、七年二ヶ年平均トス
 赤点線ハ昨年度最高最低平均トス

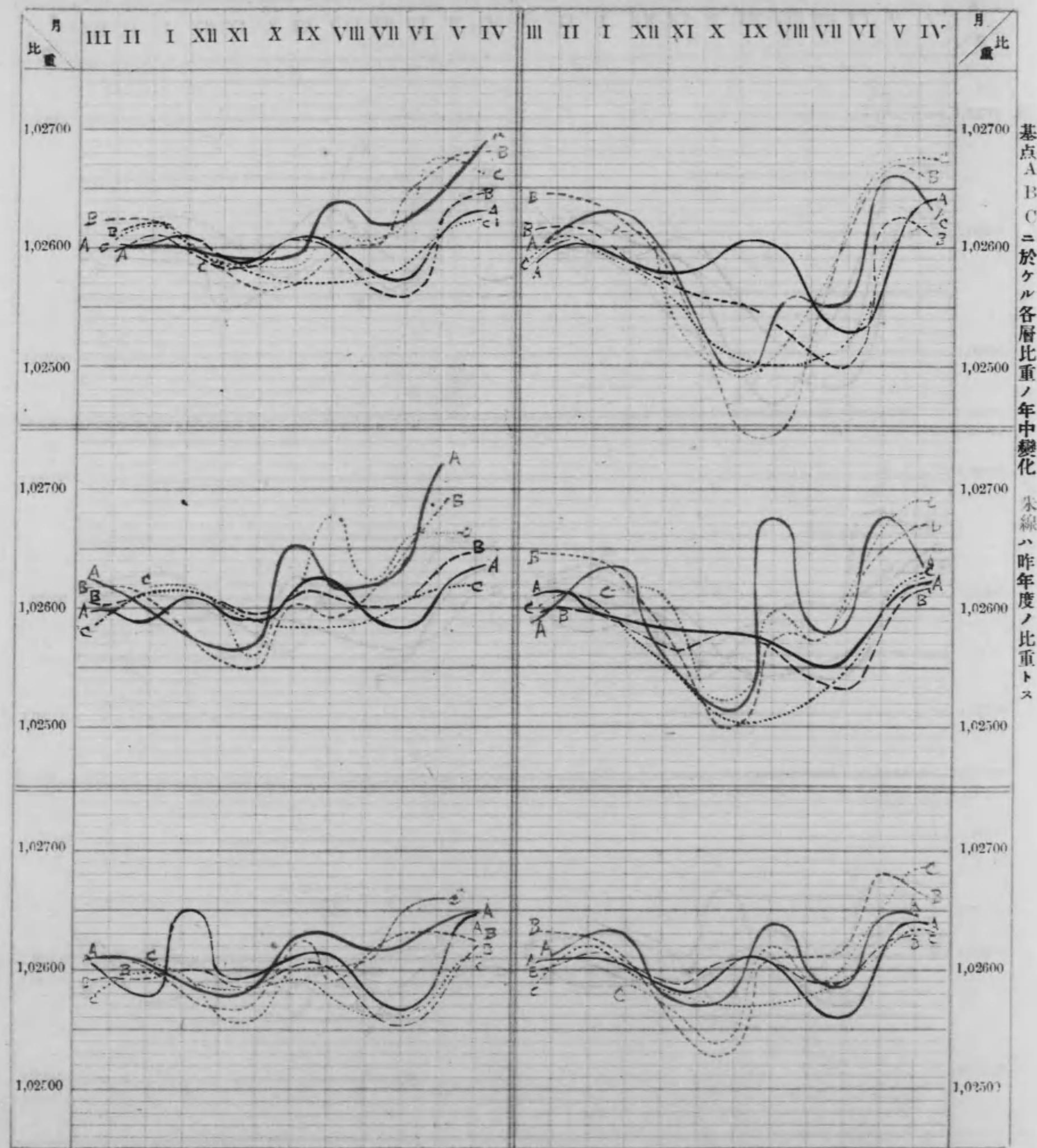
平均	III	II	I	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2713	2635	2627	2582	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2435	2534	2529	2569	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2770	2635	2627	2569	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2091	2534	2529	2569	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2772	2625	2622	2579	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2338	2556	2541	2561	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2474	2595	2597	2572	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2704	2630	2622	2583	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2467	2571	2576	2581	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2615	2600	2609	2583	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2708	2629	2676	2586	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2505	2584	2583	2572	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2618	2600	2606	2579	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2722	2632	2645	2582	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2541	2541	2576	2576	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2618	2597	2604	2579	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2703	3628	2621	2581	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2335	2534	2566	2581	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581
2613	2591	2591	2581	2576	2579	2572	2583	2585	2581	2583	2586	2572	2579	2582	2576	2579	2581	2581	2581



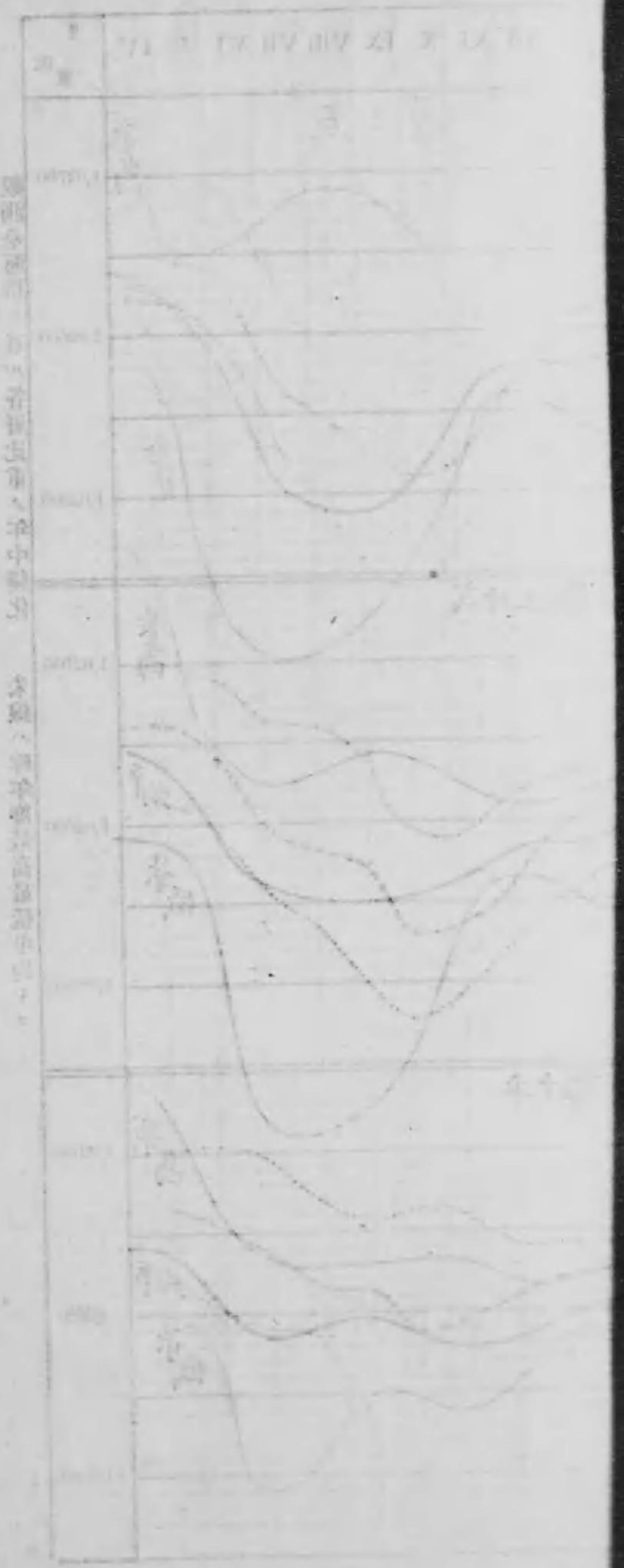


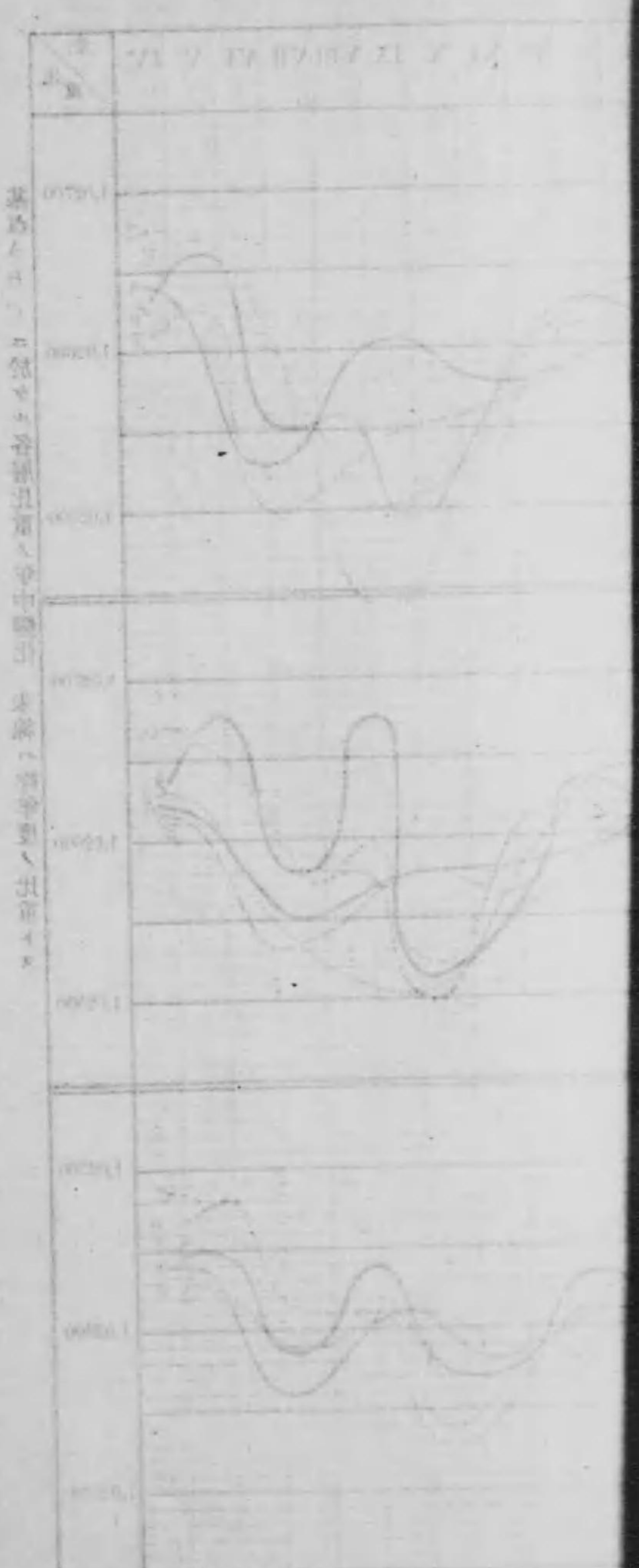
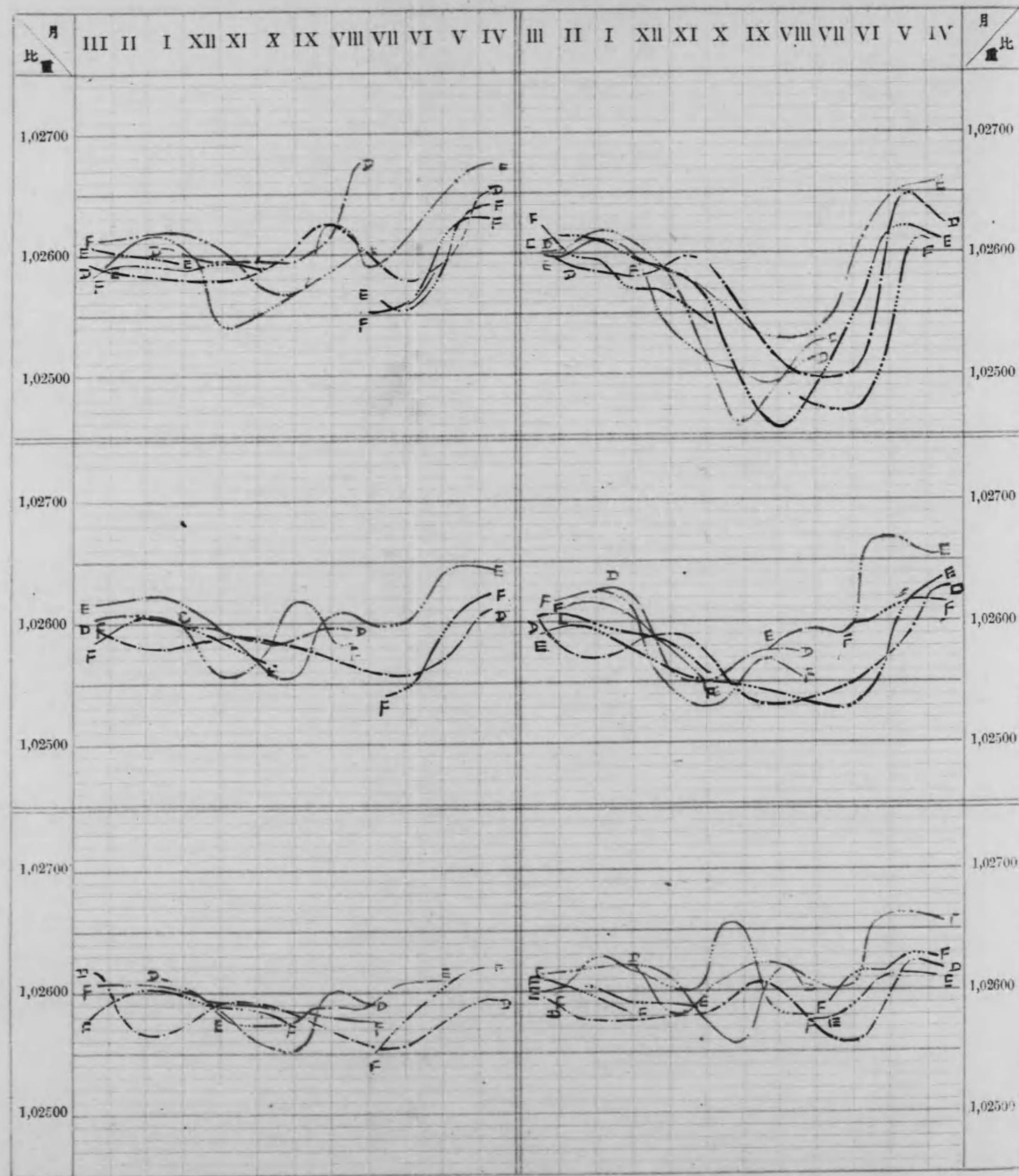
觀測全面積ニ亙ル各層比重ノ年中變化
 朱線ハ昨年度最高最低平均トス





基点 A B C に於ケル各層比重ノ年中變化
 朱線ハ昨年度ノ比重トス







III 浮游生物

大正七年度ニ於ケル本縣沖合ノ浮游生物ハ前年度ト同ジク動物性卓越シ就中撓脚類ハ其ノ大部分ヲ占メリ而シテ植物性ハ九月觀測ノ際全觀測區域ニ亘リ出現ヲ見タル外他ハ主トシテ幡多郡沿岸部ニ多少現ハレシヲ見タルノミ今浮游生物ノ各觀測時ニ出現セル狀態並ニ代表的ノモノヲ記スレバ次ノ如シ

觀測年月	出現ノ狀態	代表的浮游生物
大正七年四月	動物性多ク植物性少シ	夜光虫、撓脚類
全 五月	動物性多ク植物性極メテ少シ	全 前
全 六月	動物性多ク植物性少シ	撓脚類
全 九月	動物性ハ植物性ヨリ稍少シ	撓脚類トリコデスミュム
全 十一月	動物性多ク植物性少シ	撓脚類
大正八年二月	動物性多シ	全 前
全 三月	全 前	全 前

(一) 代表的浮游生物ノ出現狀態

代表的浮游生物ヲ撓脚類ヲ第一トシ次ニ夜光虫ナリ其ノ出現狀況ハ次ノ如シ

(イ) 撓脚類……周年出現ヲ見ルコト前年度ニ全ジ而シテ其狀況ハ四月ニ於テ最モ優勢ヲ極メ本縣全沿岸及ビ沖合ヲ占メ夜光虫ノ勢力増加スルト同時ニ其勢力ハ沖合ニ移リ夜光虫ノ衰ハタル後再ビ全觀測區域ヲ占領セルガ如キ觀アリ

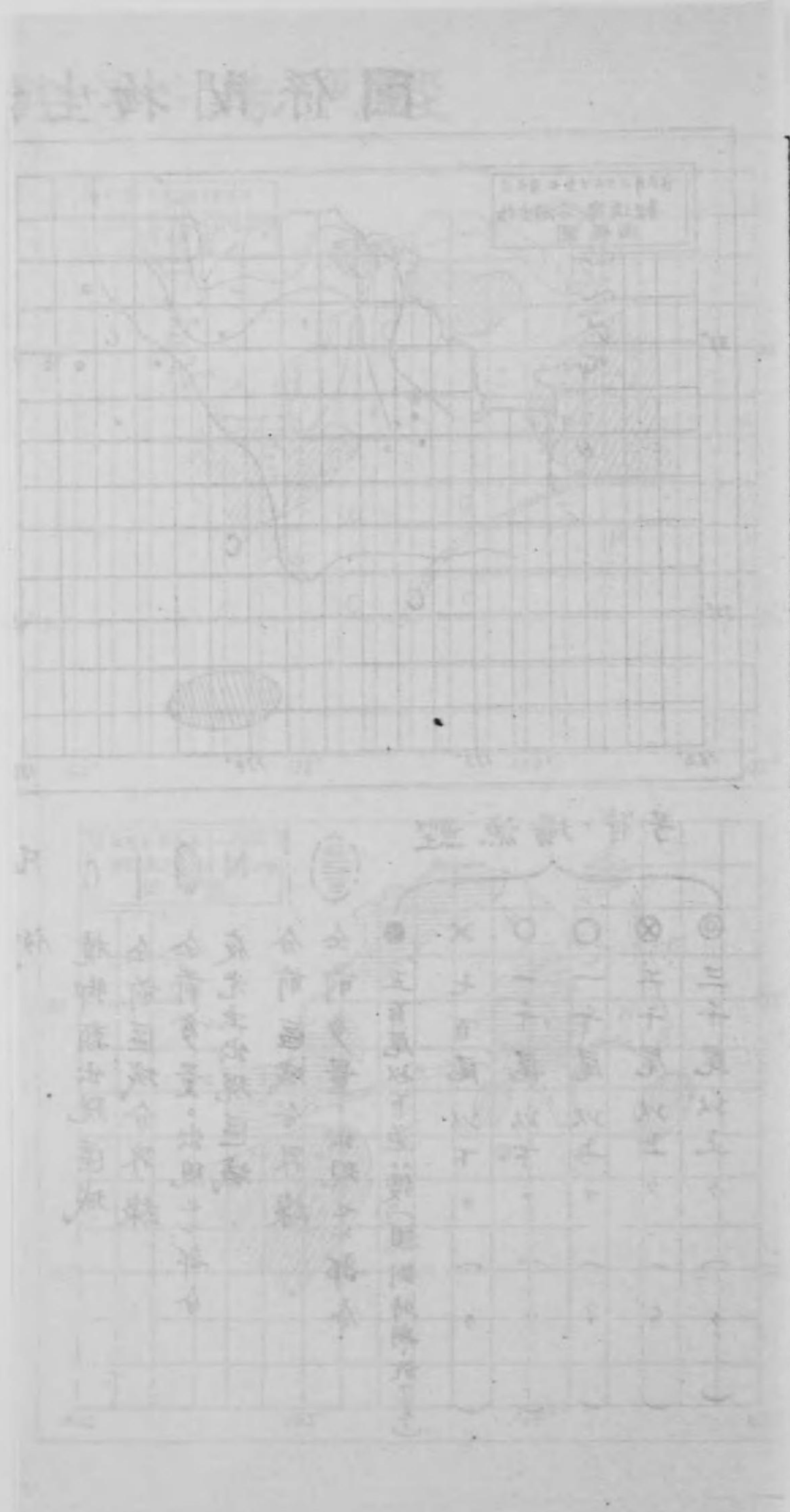
(ロ) 夜光虫……夜光虫ノ出現ハ四月ニ於テ浦戸沖南方約九十哩附近ヨリ全南東約七十哩附近ニ亘リ出現シ居タレ五
月ニ於テハ陸岸ニ接近シ全沿岸沖合ヲ占領シタル觀ヲ呈シ最モ優勢ヲ極メシモ六月ニ至リテハ急ニ勢力減衰シ幡多郡

極西沖合ニ少ナル分布ヲナセシノミ而シテ九、十一月ニ於テハ幡多郡中部ニ少許ノ出現アリ二月ニ至リテハ全ク其影ヲ見ズ三月ニ至ツテ極少量ノ出現ヲセリ要スルニ本年度ニ於ケル出現ノ狀況ハ前年度ト異リ沖合ヨリ起リテ漸次陸岸ヲ襲ヒ急激ナル繁殖ヲナシテ全沿岸ヲ風靡シ俄ニ勢力ヲ減ジ本縣西部沖合ニ移リ其影ヲ收メタルガ如シ

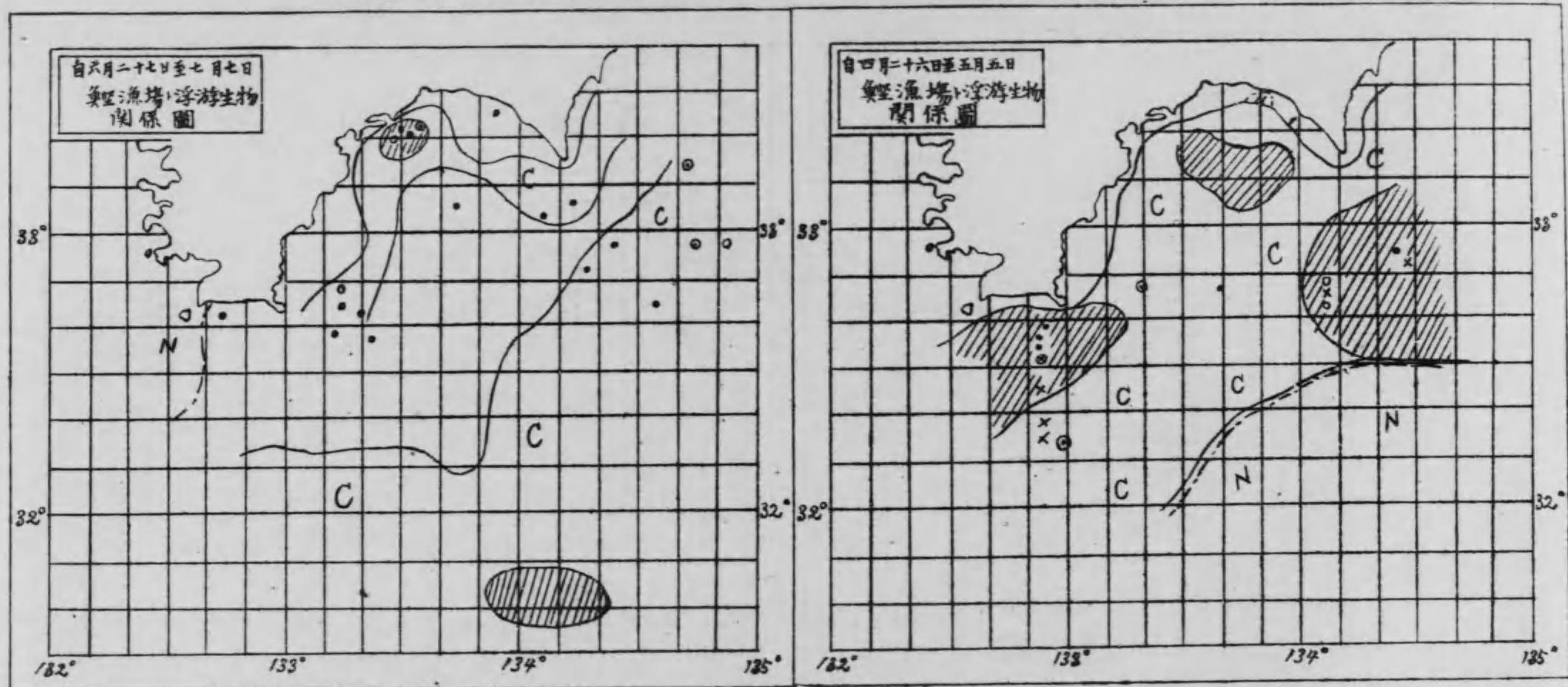
(二) 浮游生物ト鯉漁場

今四、五、六ノ三ヶ月間ニ於テ觀測時ニ於ケル鯉漁場ト浮游生物トノ關係ヲ見ルニ該漁場ハ同時期ニ於テ撓脚類或ハ夜光虫ノ出現區域ニ相當セリ故ニ此ノ兩者間ニハ或ハ密接ノ關係アルニハ非ザルカ尙他日ノ研究ニ待タン

(圖参照)

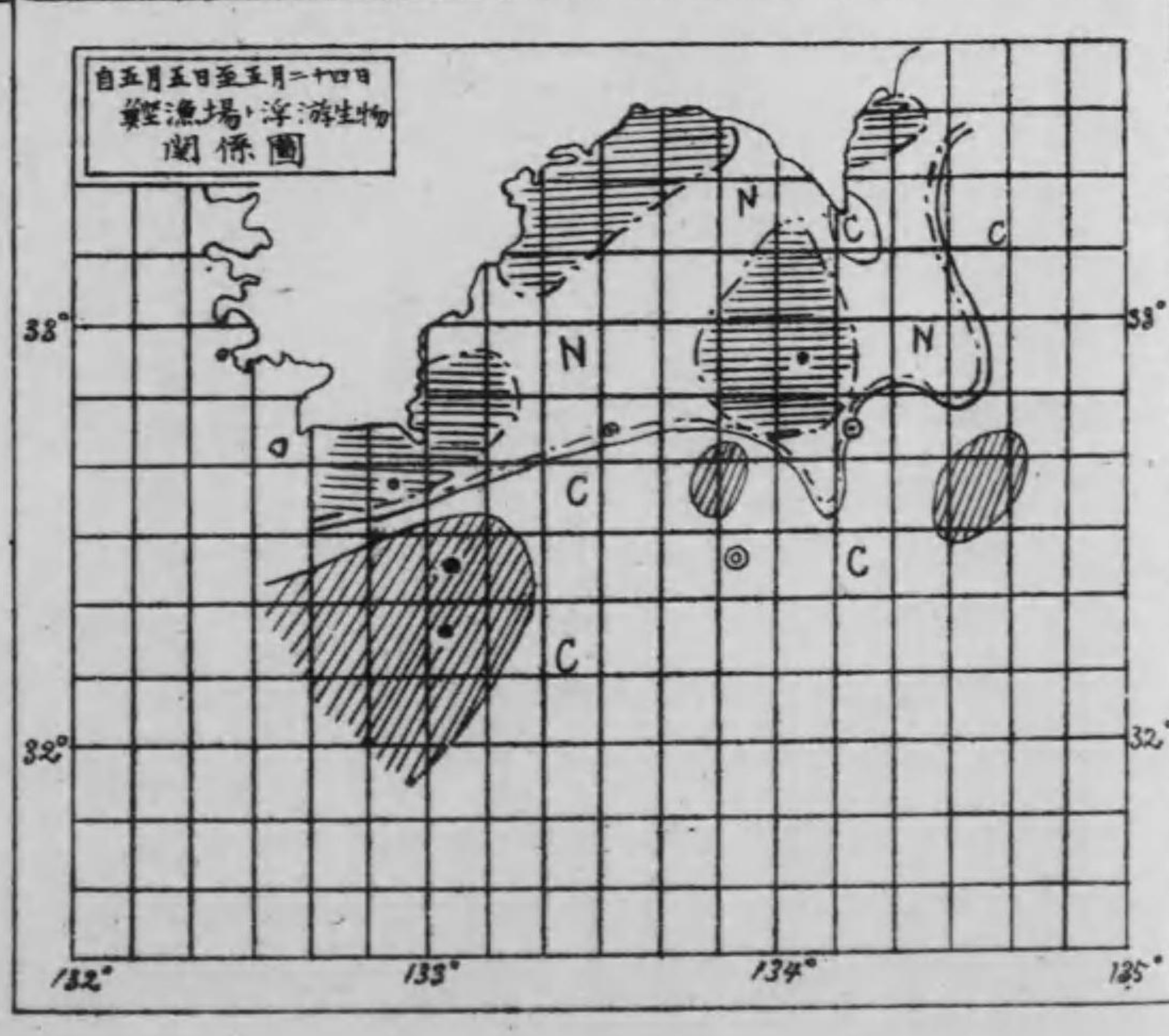


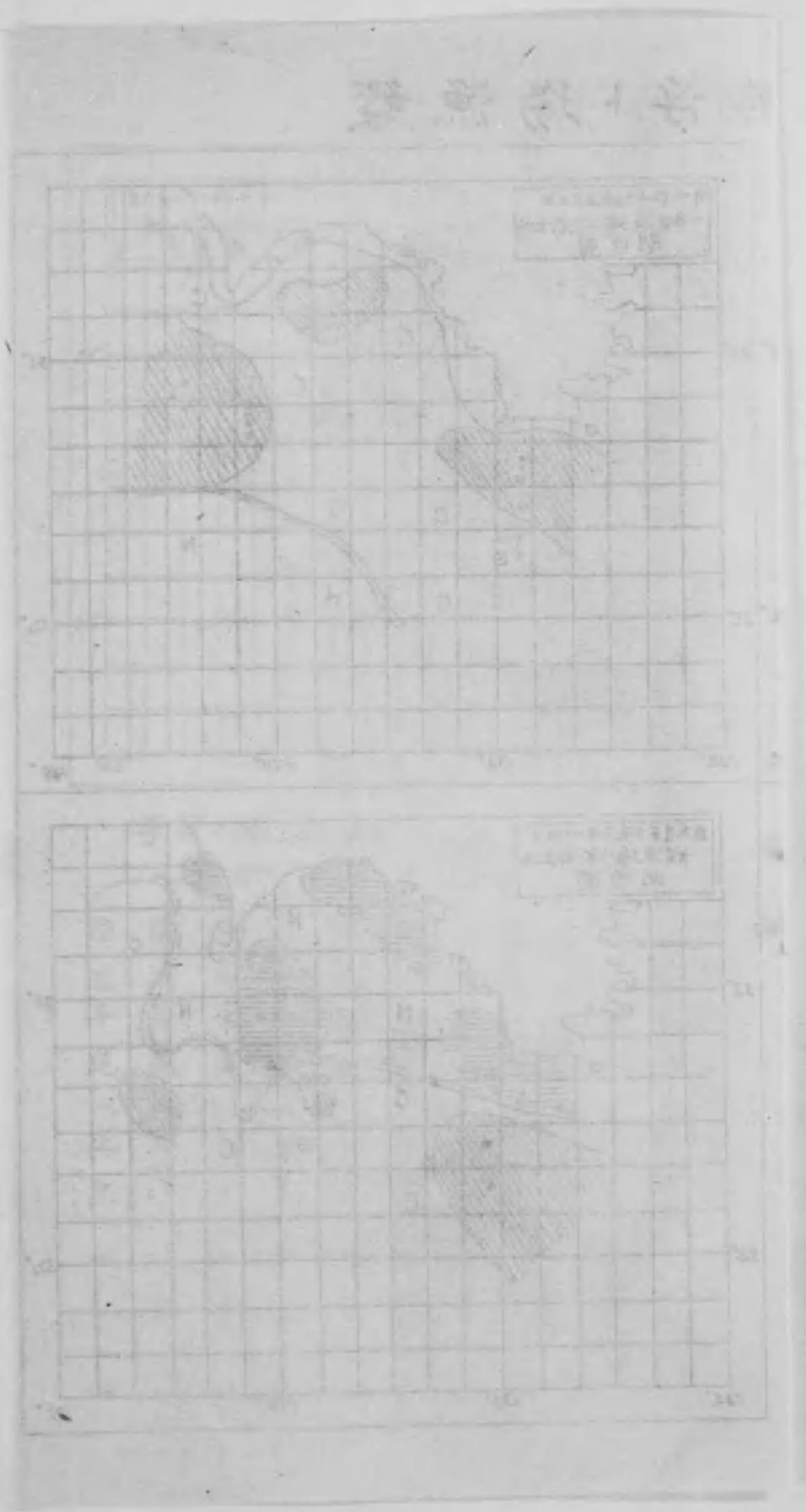
鯉魚場浮游生物關係圖



鯉魚場符號

◎	⊗	○	○	×	●	⊖	⊕	⊖	⊕	凡例
三千尾以上	二千尾以上	一千尾以上	一千尾以下	七百尾以下	五百尾以下漁獲(觀測時期於此)	分前區域分界線	全前多量出現セル部分	全前多量出現セル部分	全前區域分界線	橈脚類出現區域
⌋	⌋	⌋	⌋	⌋						
⌋	⌋	⌋	⌋	⌋						





第四章 漁況通信

一、趣旨

海洋観測ヲ如何ニ精細ニ施行シ漁場探検如何ニ數々行フモ其ノ場合ニ於ケル漁況ノ全般ヲ了知シ之ト相對照シ相互聯絡ノ妙奧ヲ究ムルニアラサレハ遂ニ之レ靈ナキ木像ニ等シク全ク活用ノ道ナシ依テ本場ハ主要漁業タル鯉、鮪、鱒ノ三者ニ關シ廣ク漁況ヲ探知シ魚族來去回游ノ狀況ト之カ海洋及氣象トノ關係ヲ闡明ニシ以テ一方時々刻々ニ漁況ノ推移ノ大勢ヲ營業者ニ通報シ漁場ノ選定、漁期ノ限定、根據地ノ變更等ニ對シ臨機應變ノ所置ヲ取ルノ準備ヲ得セシムルト共ニ一面漁況豊凶ノ原因探査ニ力メ將來ニ於テハ遂ニ年々ノ豊凶ノ豫斷ヲナシ得ルノ程度ニ達セシメンカタメ本漁況通信ヲ施行セリ

二、方法

報告地報告者ヲ特定シ所定ノ報告用紙ヲ配布シ定期的ニ通信セシメ更ニ本場ノ漁場ノ探検、海洋観測等ノ結果ヲ綜合シ縣外ノ漁況ヲ参照シ漁況報告ヲ製作シ縣下主要漁村ニ報告セリ

三、漁況

今左ニ鯉及鮪ニ關シ全年ノ經過ヲ月別ニ記述セムトス（コノ成績ハ甲浦、室戸、宇佐、須崎、清水ノ五個所ノ通信ニ依ルモノナレハ縣下全体ノモノトハ多少差異アリト雖全体ノ趨勢ヲ推知スルニハ充分ノ資料ト思惟ス）
 （尚鱒ニ關シテハ別ニ大正八年年度鱒漁業報告ニ譲レルヲ以テ同部参照アリタシ）

鯉 漁 況

四月中ノ漁況 表層水温二十度内外ノ區域ニハ前月來多數ノ大群ヲ認メ漸ク漁期ニ入りシカ本月ニ入り暖流甚ク沖合

ニ遠カリシヲ以テ表層二十度内外ノ水域亦遠カリ足摺崎南東五十哩ヨリ北東微東ニ亘ル線ヨリ沖合水温二十度以上ノ區域ニシテ鯉ノ漁獲ヲ見ル室戸岬沖四十五哩ノ附近最モ好漁場タリ

幡多郡沖合ハ年々本季節ニ於テ鯉漁場トシテ最モ好適所ナルカ本年全ク不振ノ理由ハ一ニ暖流カ遠ク五十哩ノ沖合ニ去リタルニ歸因スルモノト思惟セラル

五月中漁況 前月ハ暖水帯ノ沖合ニ遠カリシヲ以テ例年ニ比シ稍寡タリシト雖モ本月ニ及ヒ海況漸ク順調トナリ表層二十二三度ノ水帯一般ニ好漁場ニシテ殊ニ土佐海灣中央部沖合二十哩乃至五十哩ノ範圍ニ亘リ頗ル活況ヲ呈シ中旬ヨリ所謂春漁ノ最盛期ニ入りタリ中旬初頭ヨリ平均一隻七百尾ニシテ最少ト雖モ又三四百尾ヲ下ラス

日々千尾以上ノ漁獲ヲ爲ス船多ク五月十六日ノ如キ三千四百九十尾(二千四百餘圓)ノ大漁ヲ爲セルモノアルヲ見下旬ニ入りテモ此ノ好況ヲ持續シ宇佐方面ニテハ五月二十八日ニハ距岸二、三十哩ニテ一隻平均二千二百尾ノ漁獲ヲ見二十九日ニ至リ稍遠カリ一隻平均五六百乃至七八百尾ノ漁獲ヲナス三十一日ニハ室戸岬東方約三十哩附近ニテ一隻平均千三百尾ノ漁獲ヲ見タリ然レトモ幡多郡沖合ハ依然トシテ閑散ヲ以テ經過シタルハ沿岸水帯(豊後水道ヨリ)ノ卓越ニヨリ暖水帯ノ遠ク沖合ニ在リシカ爲ナリト推惟セラル又室戸岬以東方面モ本月中ニ於テハサシタル盛況ヲ見サリシハ蓋シ紀伊水道方面ヨリ冷水帯カ其勢力ヲ得シ爲沖合暖水帯ノ遠サカリシハ其主因タルヘシ

魚体ハ七百尾乃至九百尾内外ノモノ多數ヲ占メ魚價ハ一貫二圓内外ニシテ平均一尾七八十錢ヨリ一圓二三十錢ヲ稱ヘタリ餌料ハ一般ニ缺乏シ小べら、きびなご、小鯖等ニシテ一鉢四五圓ヲ稱ス野見灣附近ヨリ供給セリ

六月中漁況 前月ニ引續キ好況ヲ維持シ漁場ハ漸次東方ニ移リ室戸岬四五十哩ノ沖合ヨリ紀州沖ニ亘リテ水温二十三度ノ水帯好漁場タリ就中土佐灣附近最モ賑振ヲ極ム

初旬ニ於テハ室戸岬以東ハ沿岸五六哩ヨリ二、三十哩ノ沖合ニカケテ一隻千五百尾乃至二千五六百ノ漁獲ヲ爲シ室戸港

ニハ毎日五千餘尾ノ水揚アリテ近年稀ナル大漁ナリキ魚群又濃厚ニシテ前途頗ル有望ナリキ中央部宇佐方面ニ在リテハ距岸十哩以内ニ和船ヲ以テ出漁スルモノヲ見日日三十尾内外ノ漁獲ヲナス中旬モ亦上旬ト殆ンド變化ナク同一状態ノ下ニ好況ヲ持續シタリト雖モ漁場ハ漸次沿岸ニ近迫シ距岸四、五哩乃至七八哩ノ附近ニ於テ日々七八百尾乃至千餘尾ノ漁獲ヲ見ルニ至レリ然レトモ中海ハ水温比較的低キ餌料ノ乏シキ爲殆ント魚群ヲ見ス然レトモ其沖合水温二十六七度(加領郷正南七十哩沖)ノ附近ニハ大ナル鯉ノ魚群ヲ認メタリ室戸方面ヨリハ紀州沖四十哩ノ沖合ニ出漁シ一隻平均五六百尾ノ漁獲ヲナセルモノモアリ魚体ハ六七百乃至九百尾ノモノ最モ多ク魚價ハ一尾平均五十錢ヲ稱ス餌料ハ小鱈、きびなご、こまめ等ニシテ須崎及伊豫方面ヨリ供給シ一鉢貳圓乃至五圓ヲ稱ス

幡多郡方面ハ依然トシテ閑散ナリシヲ以テ該方面ノ漁船ハ多ク室戸方面ニ出漁セリ

七月中漁況 初旬首ニ於テハ未タ土佐灣附近ニ於テ出漁船ヲ見タルモ旬央ヨリ漁場全ク沿岸ニ近迫シ與津、佐賀、須崎宇佐、加領郷沖合十哩附近ニ出漁シ日々六七百尾ノ漁獲ヲナセリ此ノ附近ノ水温ハ二十六七度潮流ハ偏西ニシテ緩ナリ魚群ハ大ナルモ爾來漸ク終期末トナリ日々和船ノ出漁ヲ見ルノミ餌付一般ニ不良ニシテ閑散トナリ魚体五六百尾ノモノ多ク魚價一尾五六十錢内外餌料一般ニ缺乏ノ状態ナリ

八月中ノ状況 漁場ハ依然沿岸ニシテ與津、佐賀、須崎、宇佐ノ沿岸十哩内外ナルヲ以テ和船ノ出漁ヲ見ルノミニシテ一般ニ閑散ヲ以テ經過ス所謂漁間ナリ

九月中漁況 海況ハ極メテ順調ト爲リ夏ノ海ヨリ方ニ秋ノ海ト變化シツツアリ而シテ上旬ヨリ中旬ニ亘リテ殆ンド荒天續キノミニシテ出漁ニ適スル日モ無ク僅カニ沿岸ニ和船ノ出漁ヲ見シノミニシテ極メテ振ハサリシカ下旬(二十三日)ニ至リ幡多郡佐賀十哩ノ附近ニテ須崎ノ出漁船ハ千三百九十一尾ノ漁獲ヲ爲セリ爾來須崎沖合五六哩乃至十哩附近ヨリ與津沖十哩内外ノ附近ニテ水温二十四度乃至二十五度ノ範圍ニ於テ日々八、九百尾ノ漁獲ヲナシ秋漁ノ盛期ニ入レリ

魚体ハ六百内外ノモノ最モ多ク魚價ハ一尾平均壹圓十錢内外ナリ餌料ハ餌床鯷ヲ主トシ又野見港ニハ餌料鯷豊カナリ

一鉢二圓乃至三圓ヲ稱フ又須崎及與津ノ沿岸ニハ和船ノ出漁ヲ見日々二十尾内外ノ漁獲ヲ爲ス

十月中漁況

漁場ハ足摺崎東方十湊附近ヨリ須崎沖十湊ノ附近ヲ主トシ室戸岬沖二十湊附近モ亦活況ヲ呈セリ旬首ニ

於テハ日々二三百尾ノ漁獲ニシテ振ハサリシガ旬末ニ至リ五六百乃至七百尾ノ漁獲ヲ見中旬ニ至リ五六百尾乃至千二百

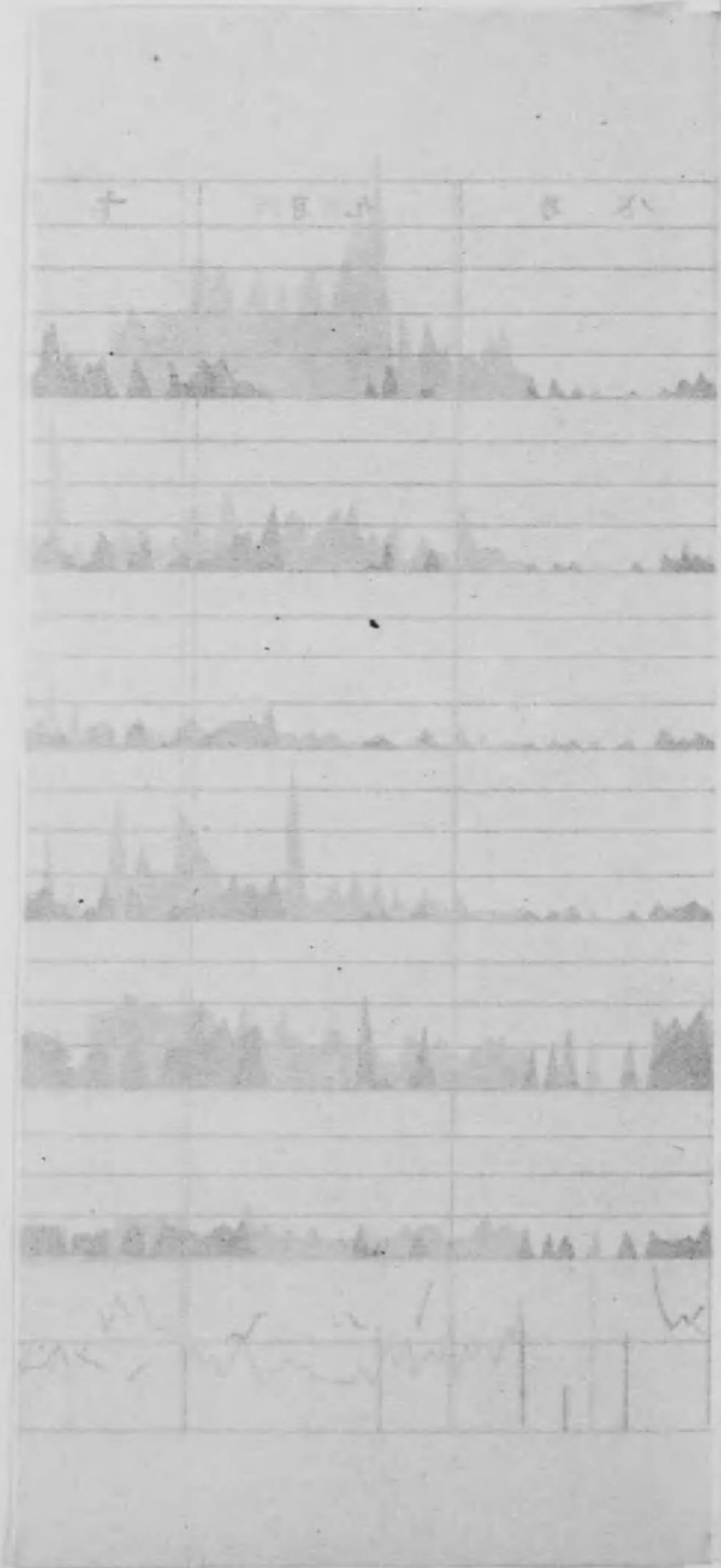
尾餘ノ漁獲ヲナシ稍振ヘリ下旬ニ至リテハ二、三百尾ノ漁獲持續セリ魚体ハ五六百乃至七八百ノモノ最モ多ク魚價

ハ平均六七十錢ヲ稱ス餌料ハ鯷、さびなニシテ一鉢二圓五十錢乃至三圓ヲ稱ス

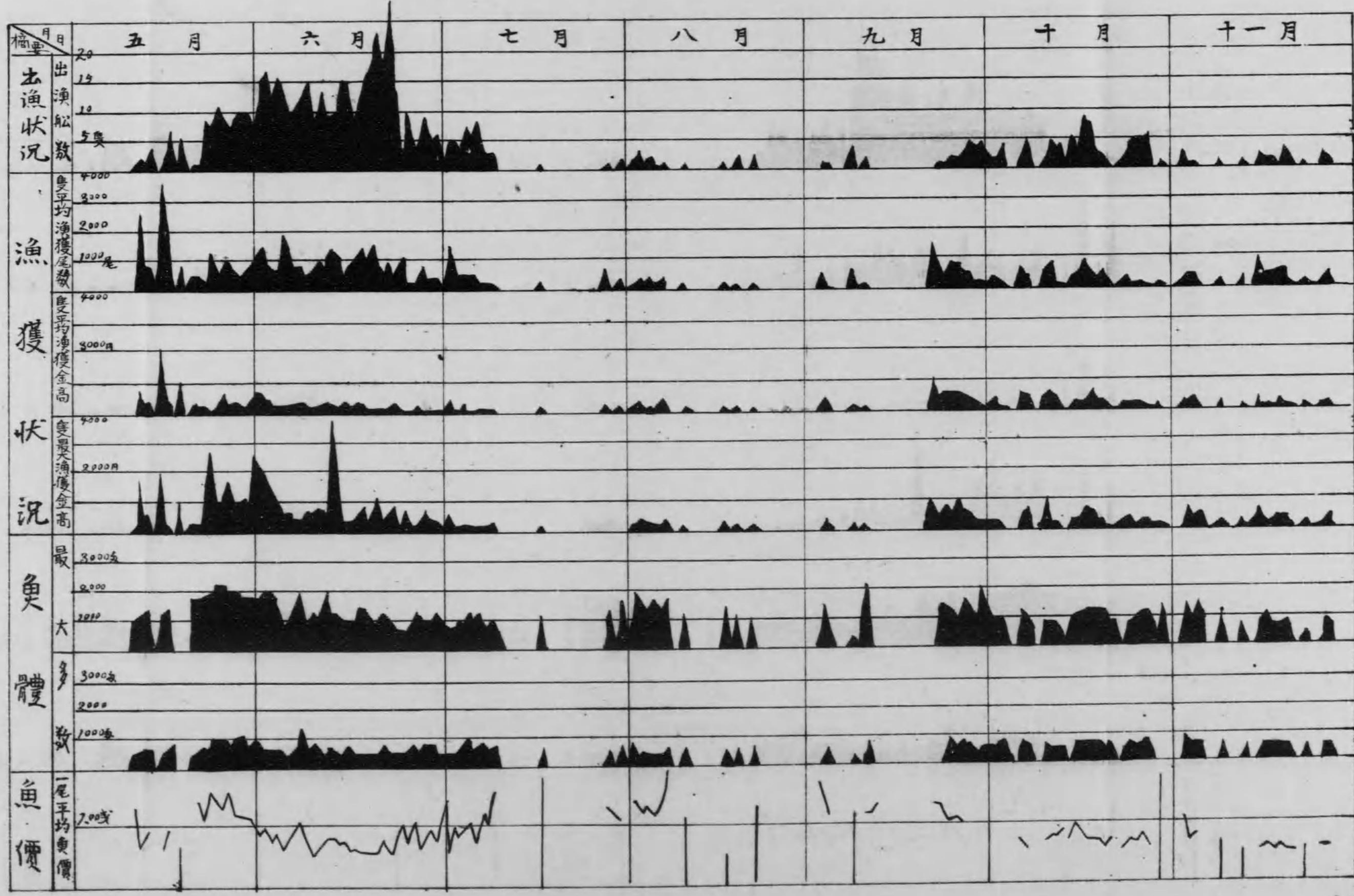
十一月中漁況

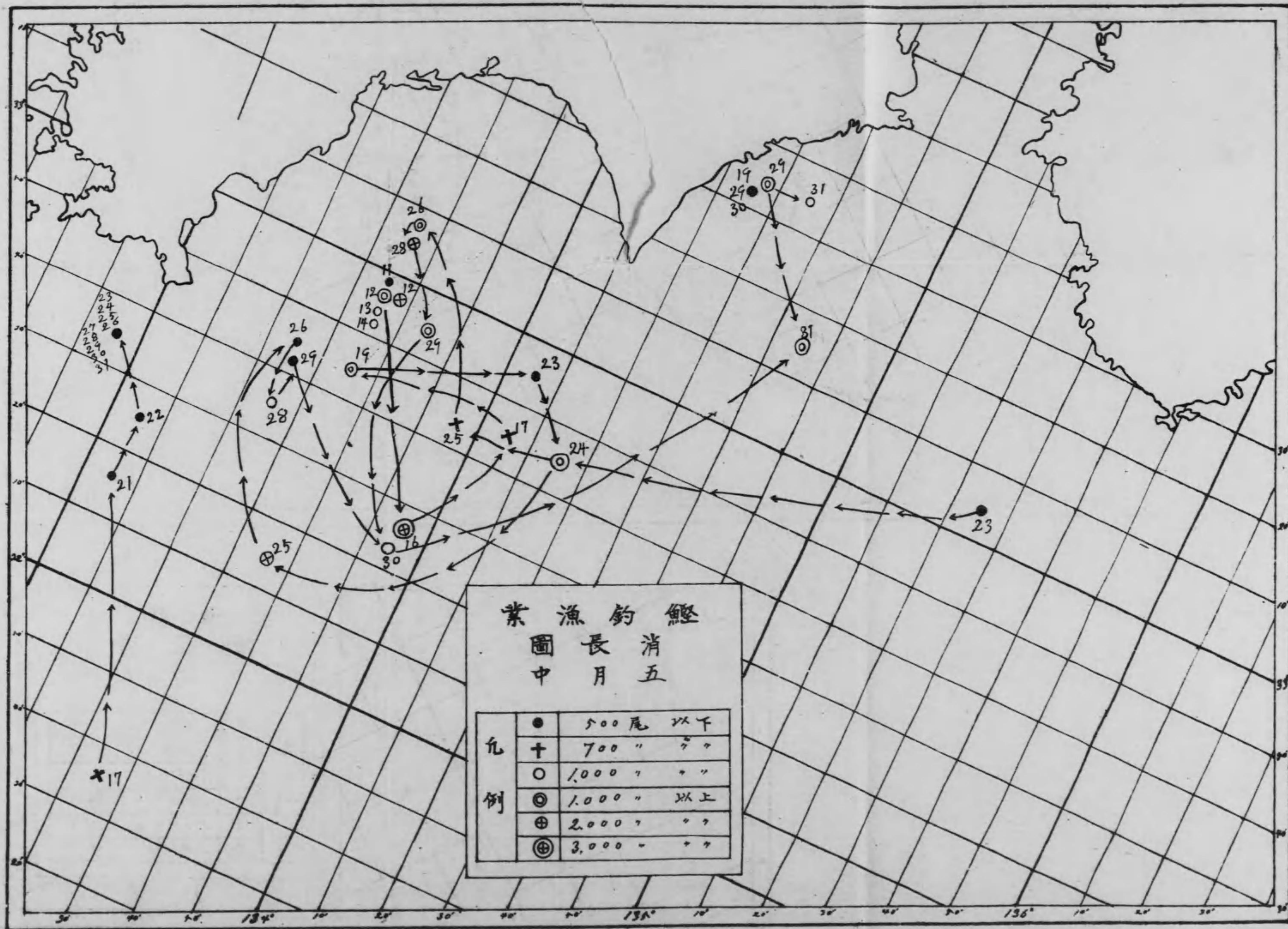
漁場ハ主トシテ足摺崎南東十湊附近ニシテ上旬中央頃及中央末ヨリ下旬ニ亘リテ日々二三百尾乃至四五百

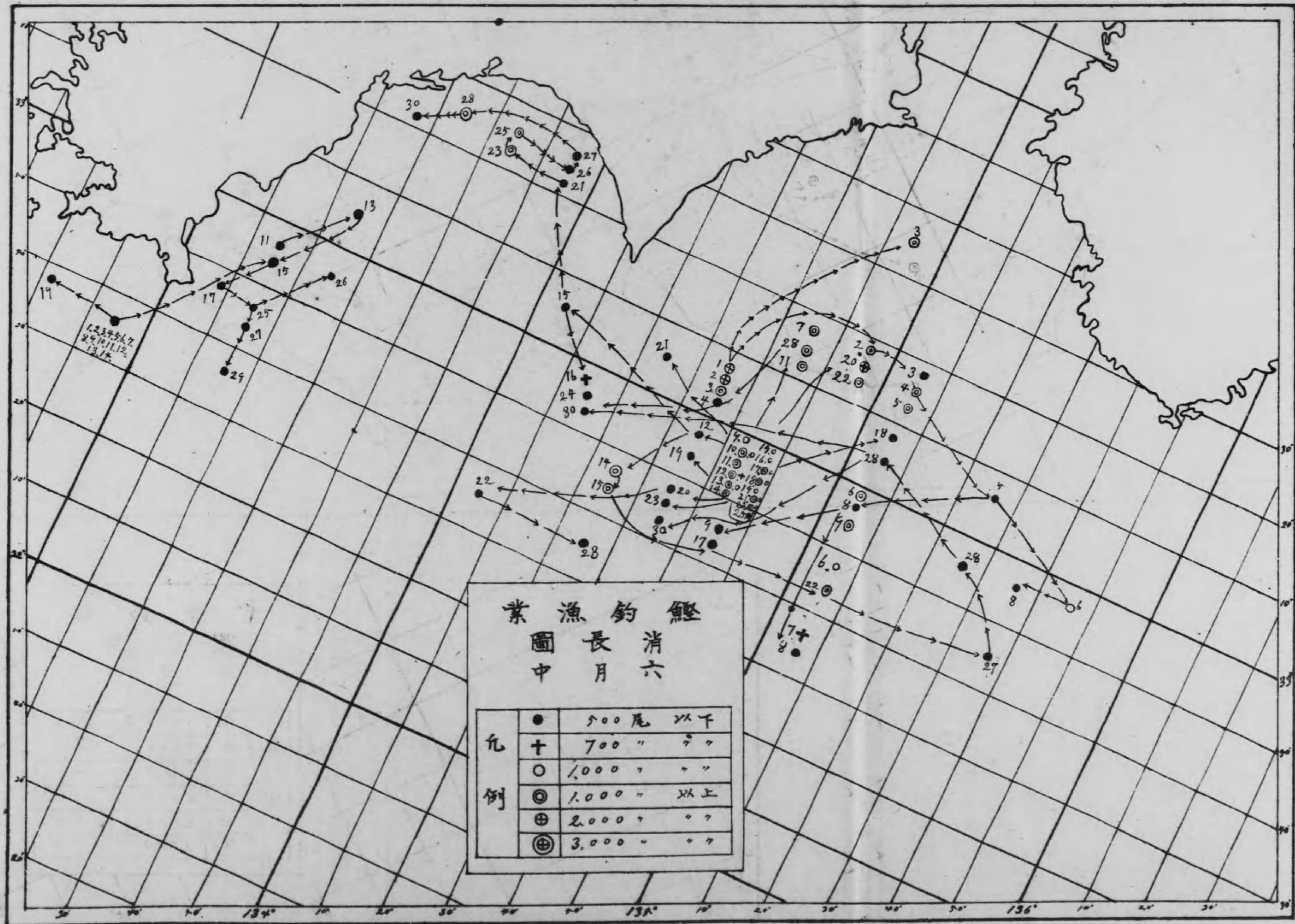
尾ノ漁獲ヲ見ル魚体ハ四五百乃至七八百ノモノ多ク一尾平均五六十錢ヲ稱ス餌料ハさびな、鯷等ヲ使用ス

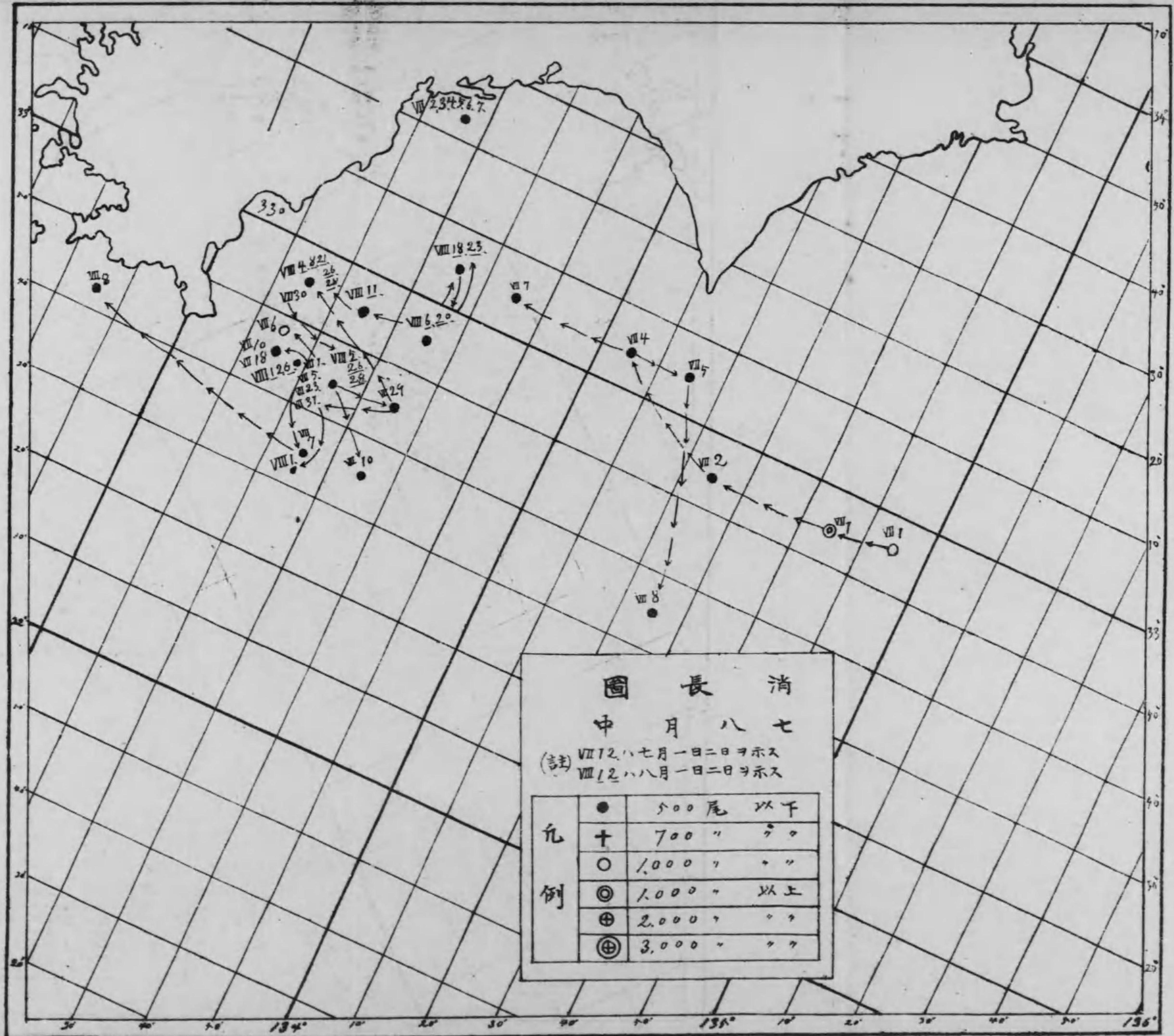


鯉漁況圖



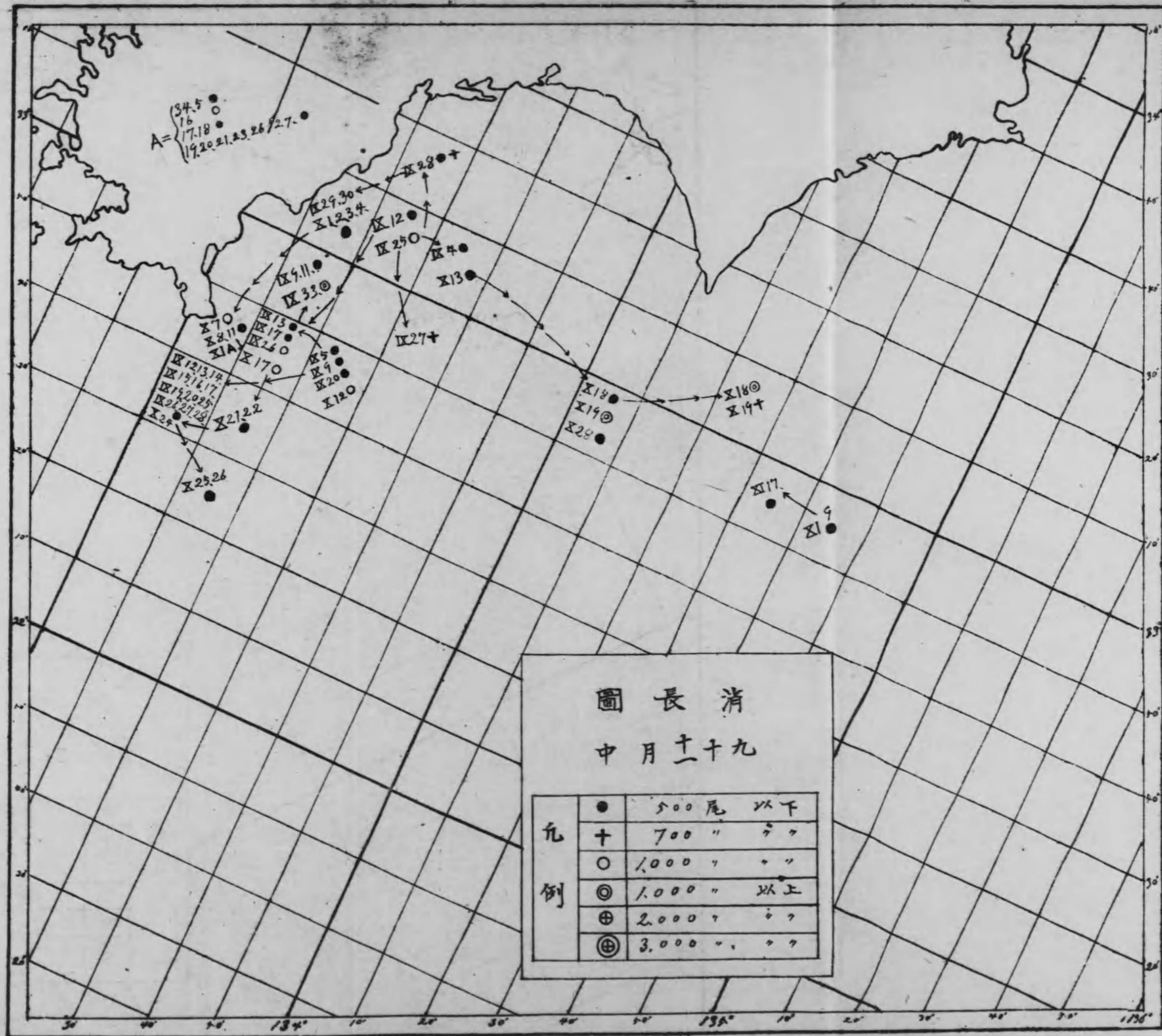


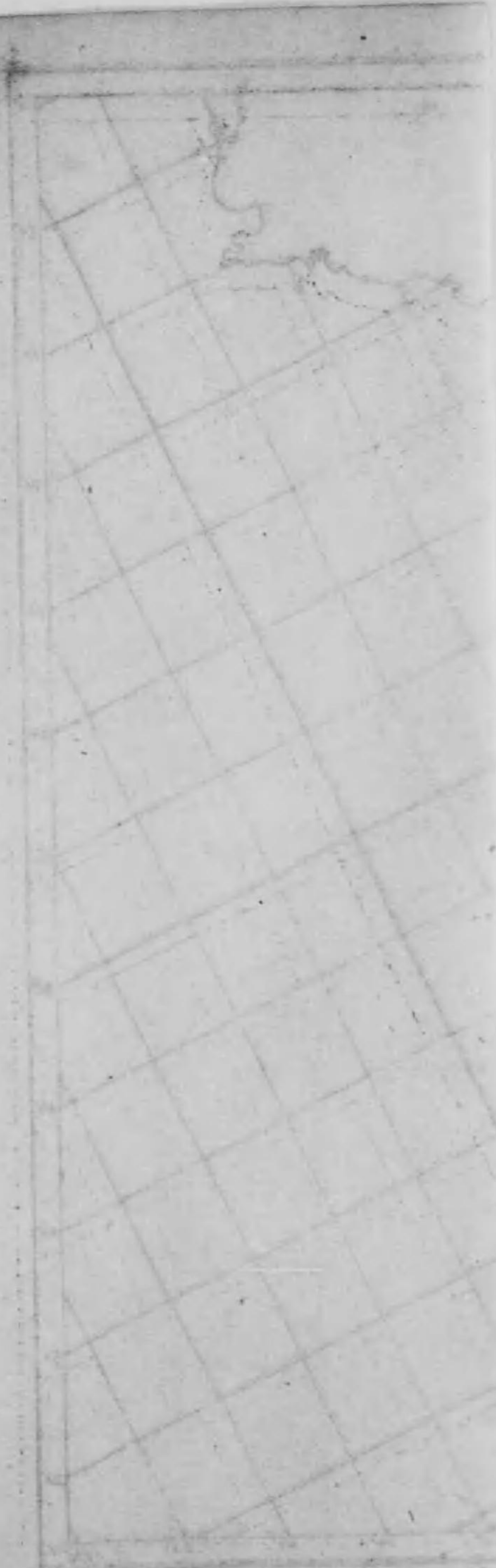




消 長 圖
 七 月 八 月
 (註) VII 2、ハ七月一日二日ヲ示ス
 VIII 2、ハ八月一日二日ヲ示ス

例	●	500尾 以下
	+	700 " " "
	○	1,000 " " "
	⊙	1,000 " 以上
	⊕	2,000 " " "
	⊗	3,000 " " "





鮪漁況

十一月 十月末ニ於テ室戸岬正南三四十湮附近ヨリ紀州沖合ニ亘リ一尾平均六七貫ノびんがノ漁アリ一隻ニ付五六百貫リノ漁獲ヲ擧ケタルモノアリシモ十一月ニ入テハ足摺崎沖合十湮附近ニ於ケル「めぢか」ノ好漁アリシ爲メ縣下鮪延繩漁船ハ其後本月末ニ到ル迄殆ント出漁スルモノナカリキ

十二月 初旬以來漁場足摺崎南方二十四五湮乃至五十湮附近ニ亘リテ漁獲高一日一隻百貫外内ヲ擧ケ出漁船一日最多十隻ニ及ヘリ漁獲物ハ一尾平均十二三貫最大二十四五貫ノきはだ、めぢかヲ主トシ中旬以來一尾平均四貫最大七貫内外ノごんばヲ混ヘタリ

魚價買二圓七八十錢乃至三圓五六十錢ヲ稱ヘ餌料ハ主トシテめぢかヲ使用セリ

一月 漁場ハ足摺崎南徹西十五六湮附近ヨリ南々東四十湮附近ニ亘リテ日々五六隻乃至十五六隻ノ出漁船ヲ見漁獲高一隻最高二百五十貫ニ上レリ漁獲物ハ尾平均十二三貫最大二十三貫ノきはだ、めぢかヲ主トシ尾平均五六貫ノごんばヲ交ヘタリ

魚價平均三圓内外ニシテ月末ニ到リ二圓六七十錢トナレリ
餌料ハ主トシテめぢか及いかヲ使用セリ

二月 漁場ハ主トシテ足摺崎南徹西二十四五湮附近ヨリ南東二十湮附近ニ亘ル範圍内ニシテ出漁船暴風ノ日多ク休業日多カリシモ最多十五隻平均五六隻ノ出漁ヲ見タリ

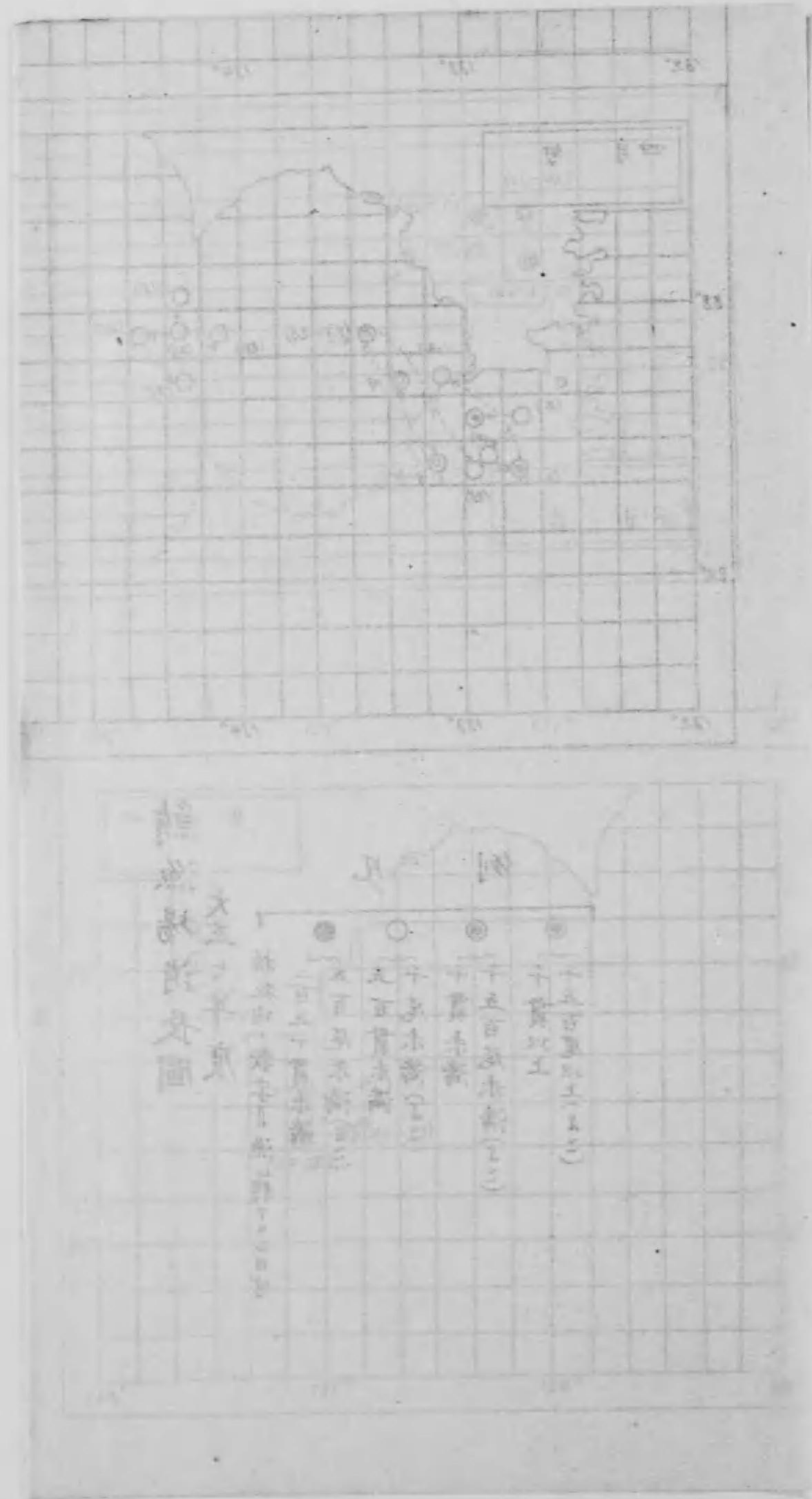
漁獲物ハ尾平均十貫最大二十二貫ノきはだ、めぢかヲ主トシ尾平均四五貫ノごんばヲ交ヘタリ漁獲高一艘平均二三百貫最高五百貫ニ上レリ魚價きはだ、めぢかハ貫平均二圓六七十錢ごんばハ貫二圓内外ヲ稱ヘタリ餌料ハ主トシテいかり使用セリ

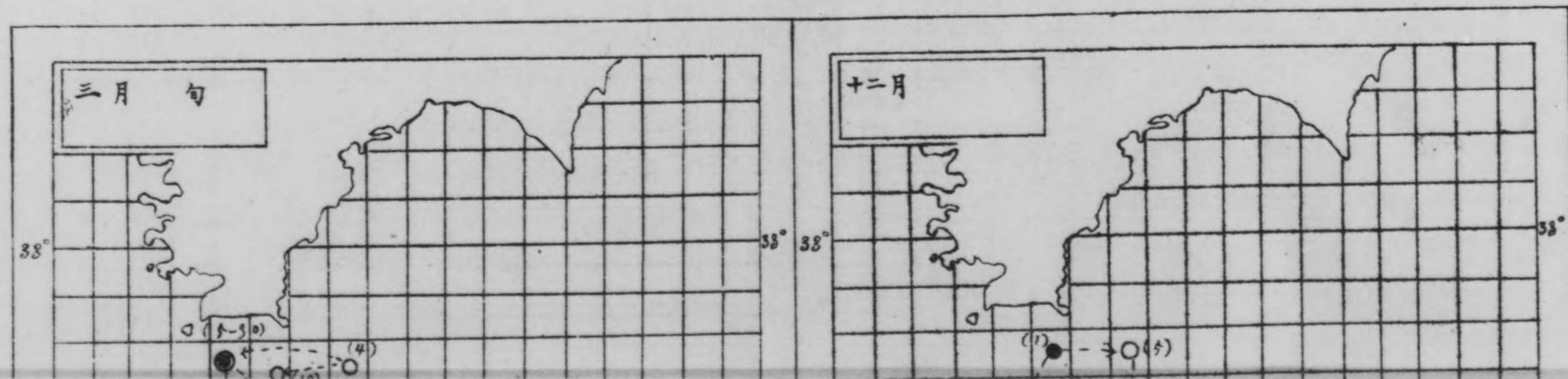
三月 漁場足摺崎南西二十四五湮附近ヨリ全崎南東二十湮附近ニ亙ル範圍内ニシテ出漁船毎日平均十七八艘最多二十
 五艘ニ及ビ漁獲物ハ中旬迄ハ一尾五貫平均ノんばヲ主トシ中旬下旬ニ於テ一尾五百匁乃シ一貫匁ノ「よこ」ヲ漁獲セリ
 漁獲最高最々んば千二百貫漁獲セル漁船及ビよこ千九百尾漁獲セル漁船ニシテ一航海一艘平均七八百圓最多千百圓ヲ舉
 ケタリ

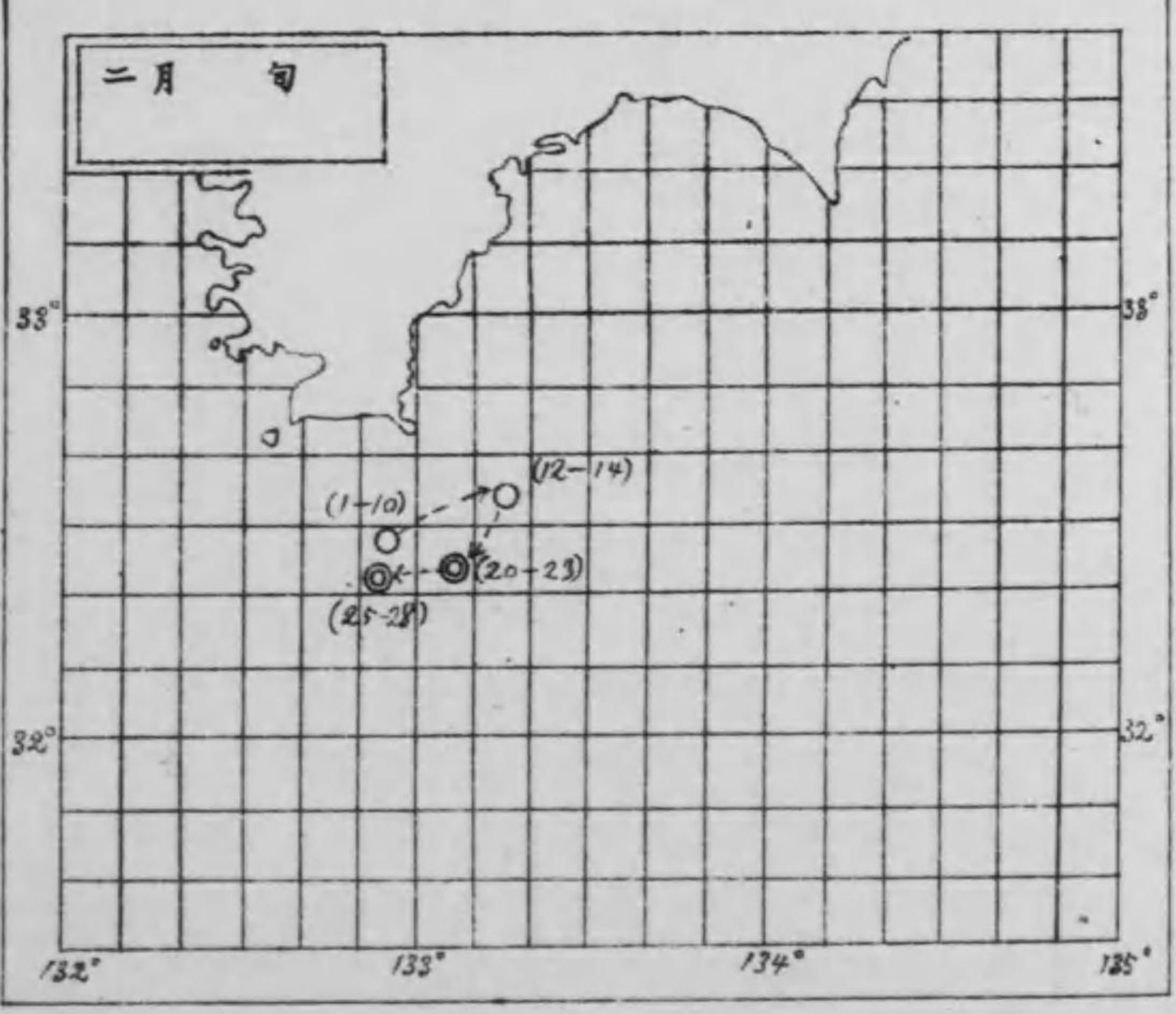
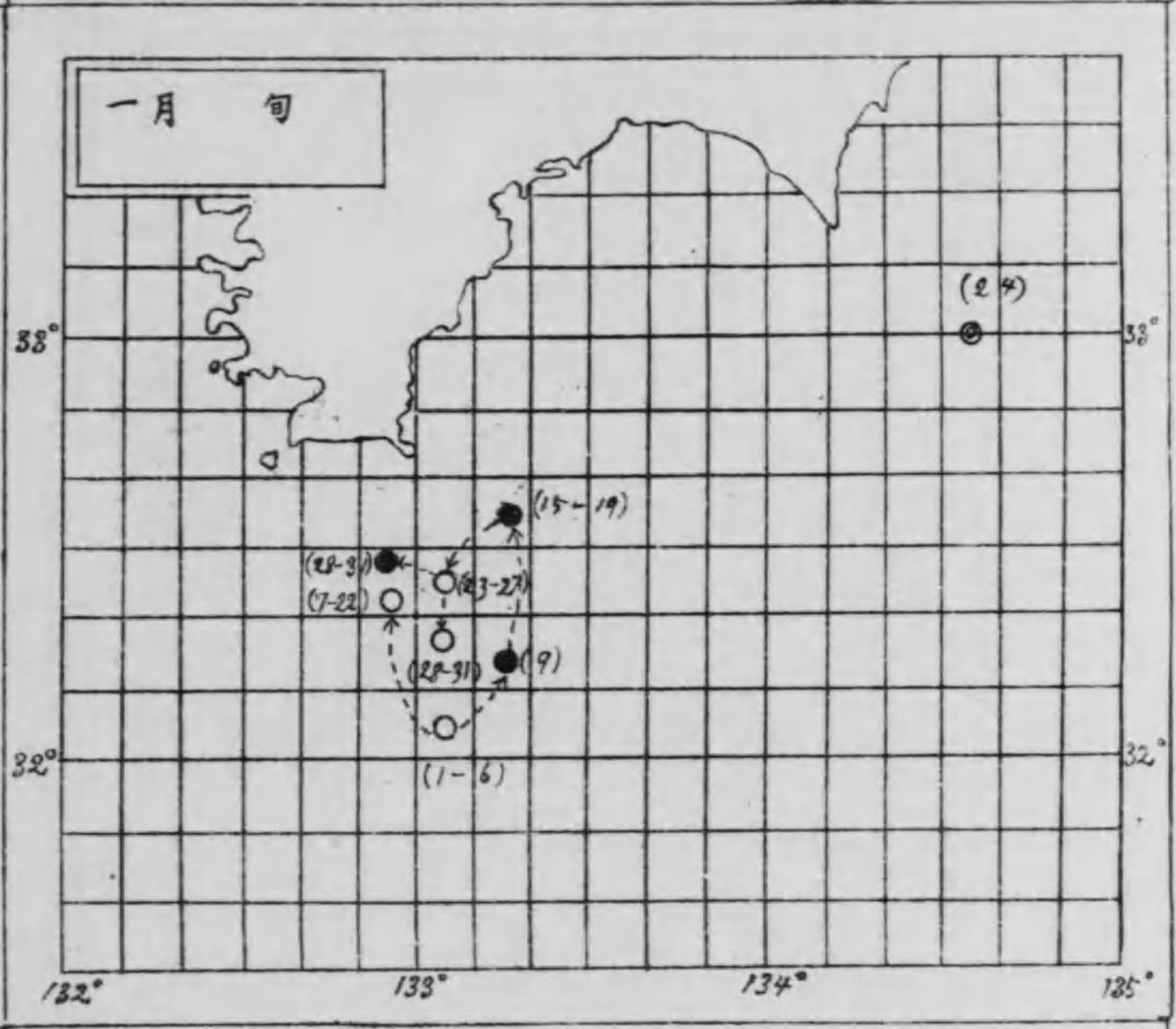
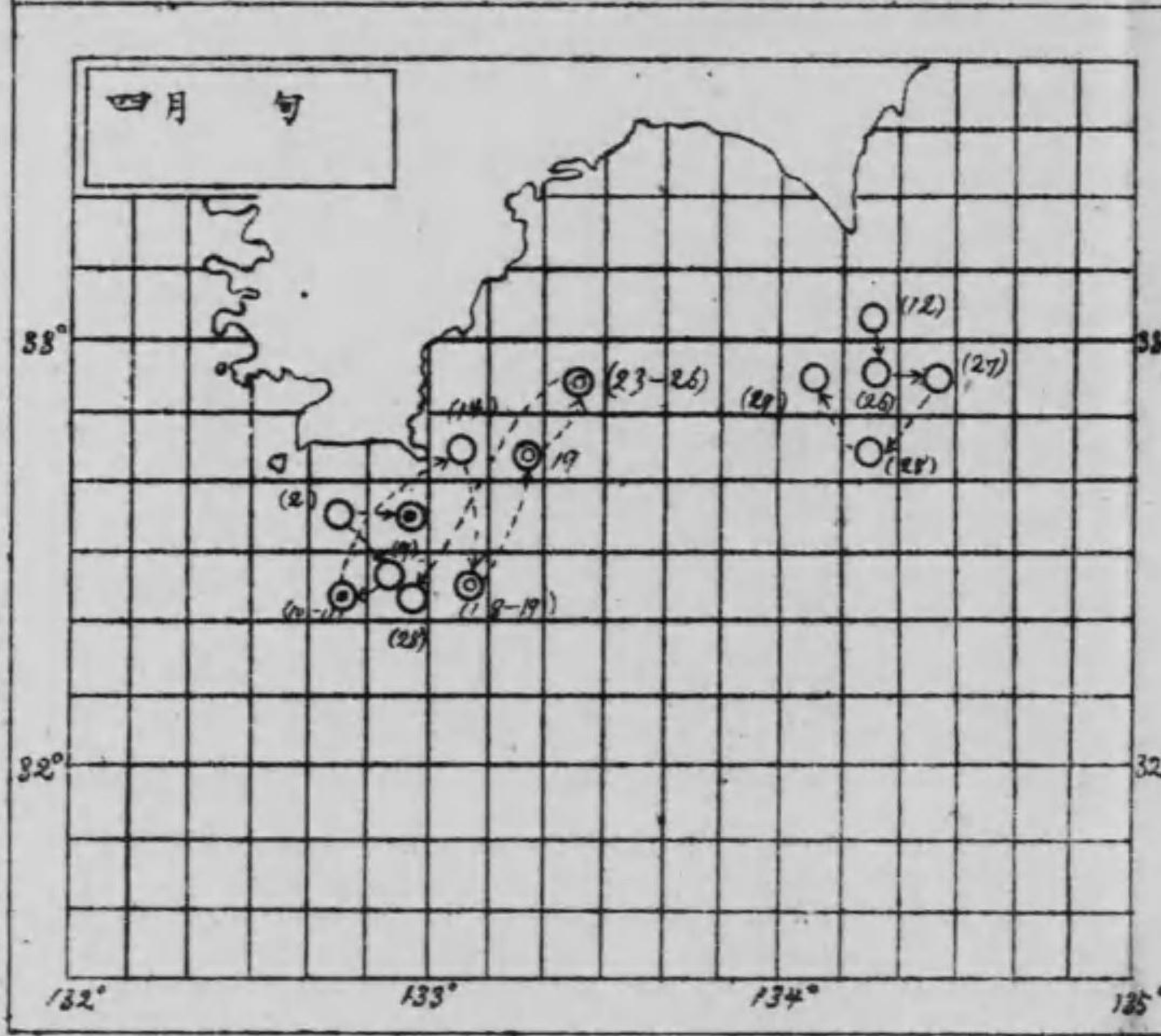
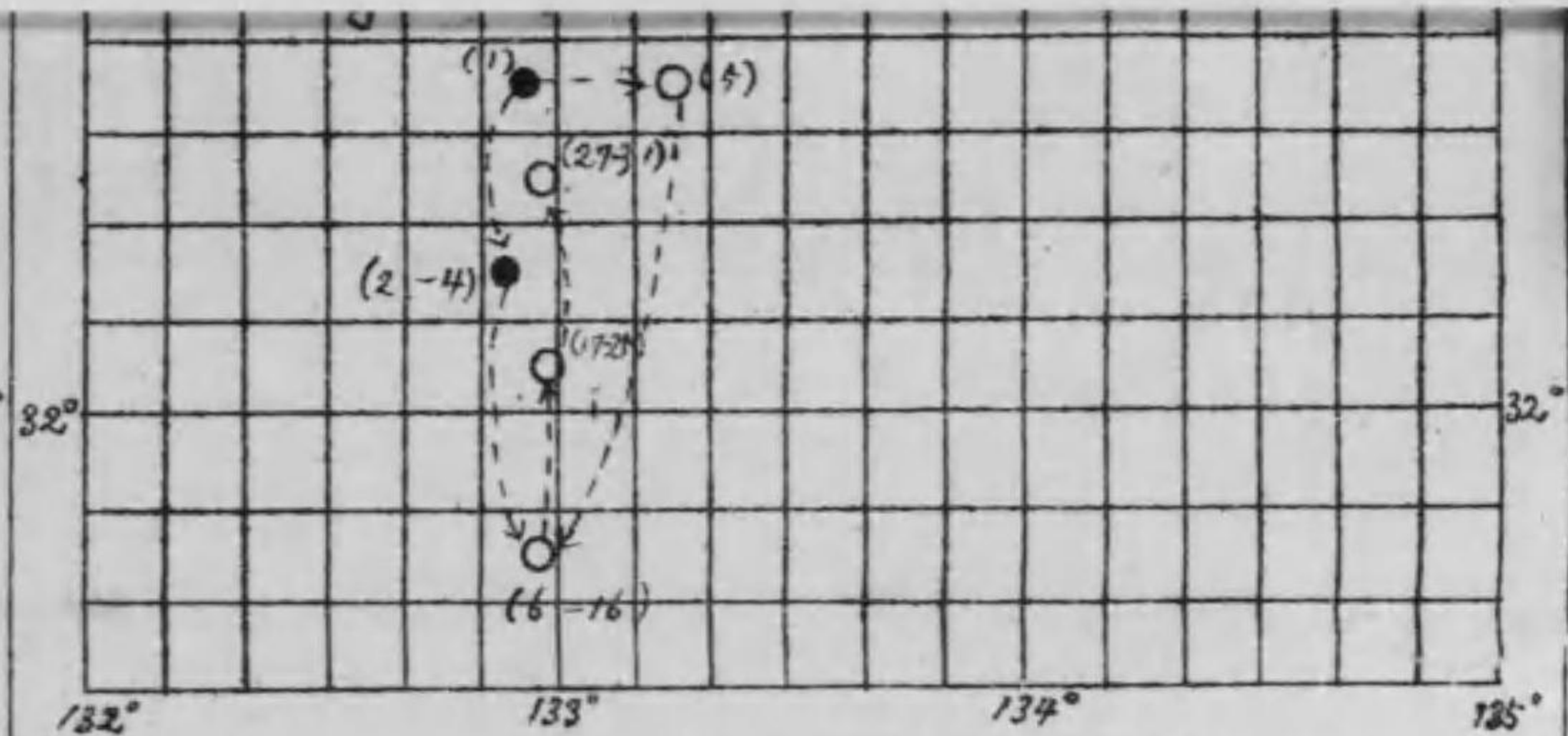
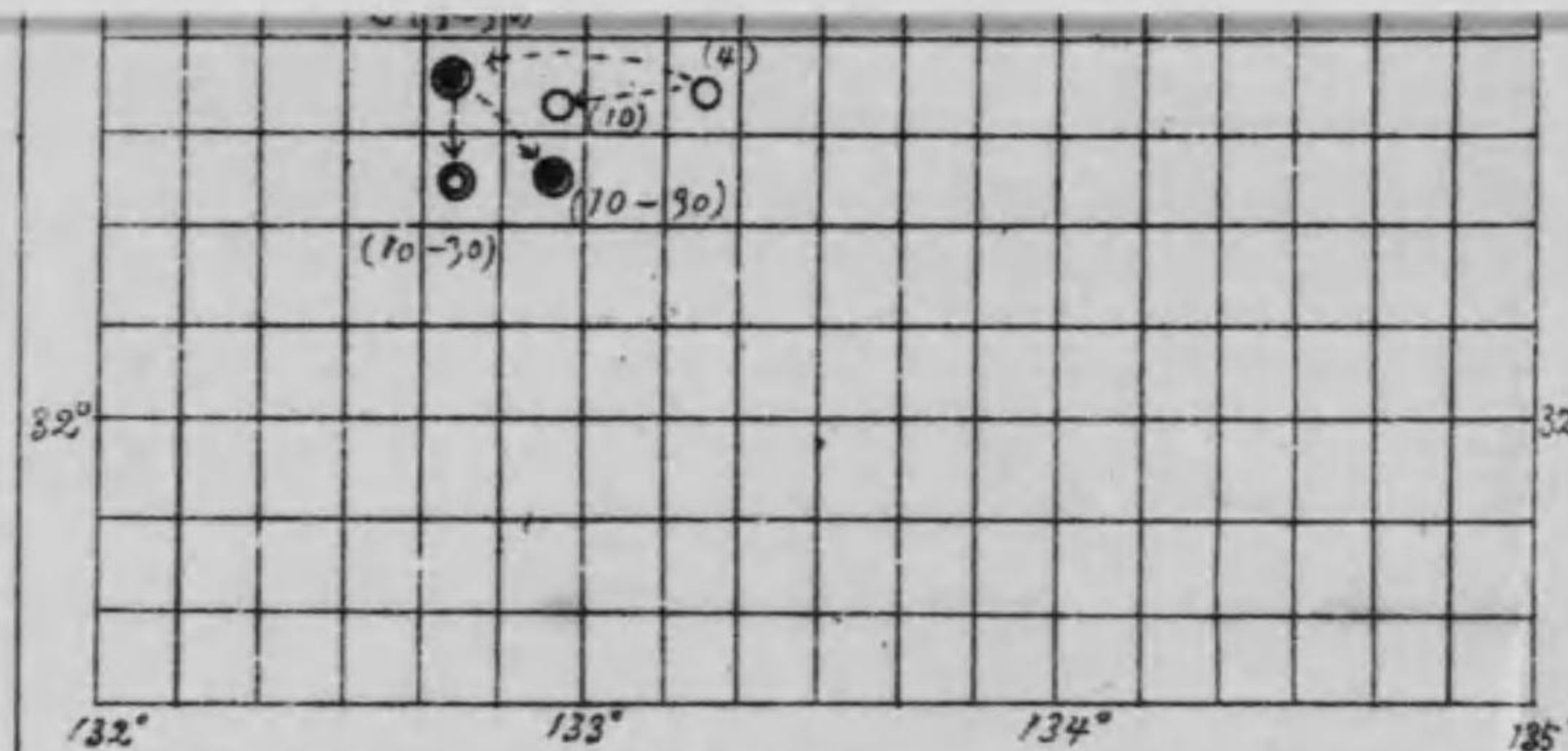
魚價とんば一貫ニ付一圓五十錢内外よこ一尾平均七八十錢

餌料ハ主トシテ鯧及小鯖ヲ使用セリ

四月 漁場足摺崎南西二十四五湮附近ヨリ全崎南方二十湮附近ノ範圍内並ニ全崎東方二十湮附近及ビ室戸崎南方十湮
 附近ヨリ三十湮附近ニ亙ル範圍内出漁船五六艘乃至二十五六艘漁獲物ハきはだ、めばち、とんば、よこ各種ニシテきは
 だ、めばちハ一尾十貫内外最大十五六貫ニシテとんばハ三四貫乃至五貫よこハ一尾七八百匁ノモノ多シ漁獲高此月ハ殆
 ント全月ニ互リテ各種ノ漁獲多ク初旬ニ於テめばち其他合計千七百貫ヲ漁獲セル船アリ一航海ニテ少クモ三四百圓最多
 二千六百圓ニ上レルモノアリ魚價めばち貫二圓内外とんば貫一圓内外よこ一尾七八十錢内外ヲ稱ヘタリ餌料ハいか及小
 鯖ヲ使用セリ





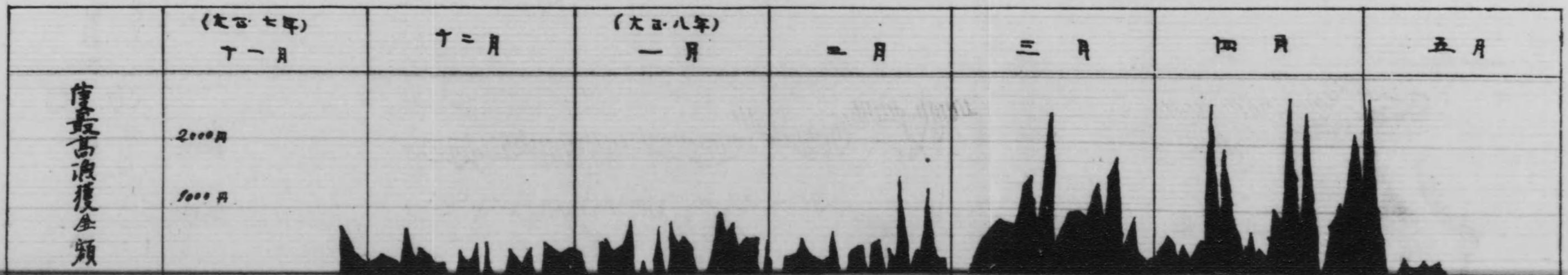


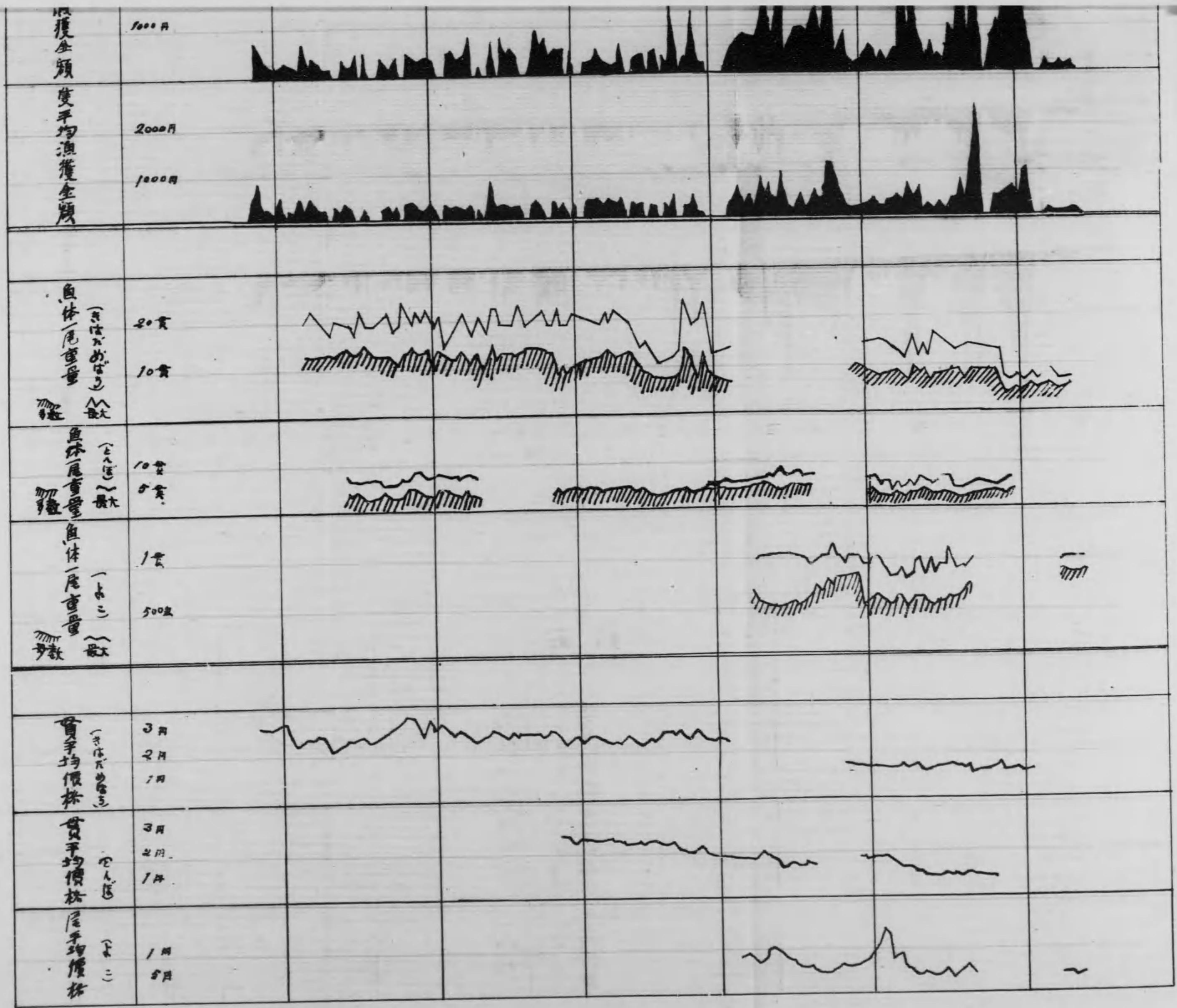
鮪魚場消長圖

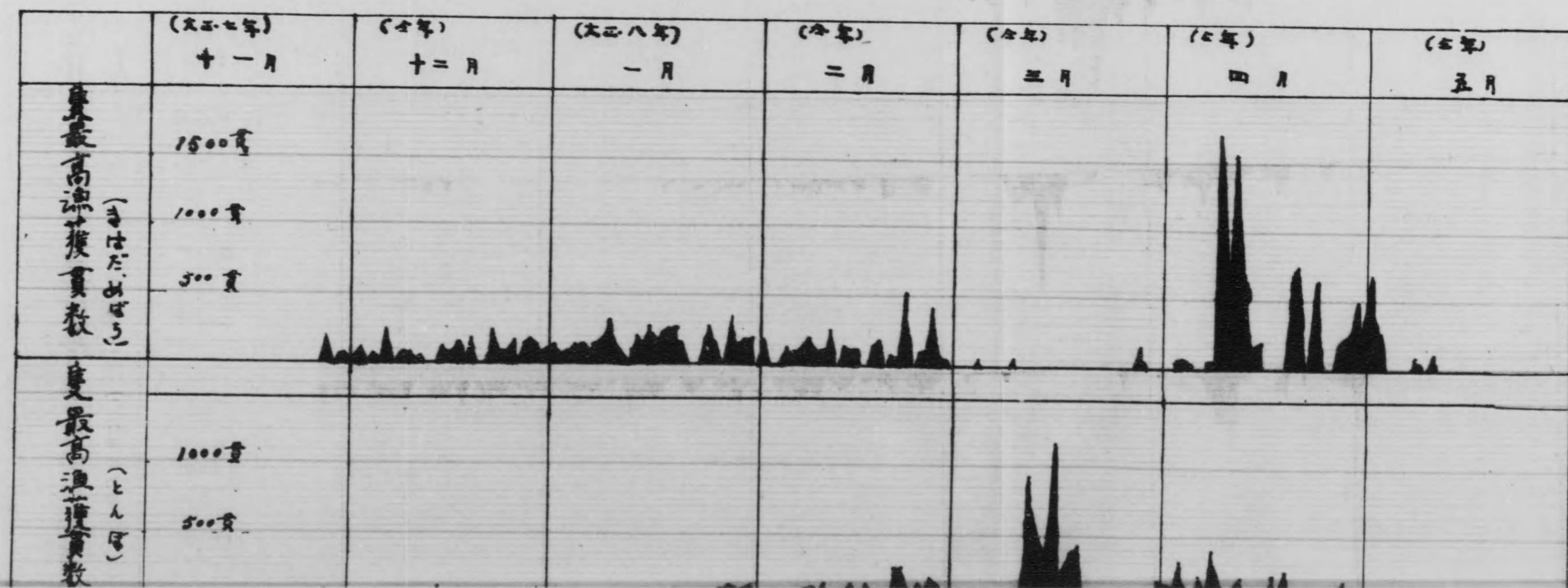
大正七年度

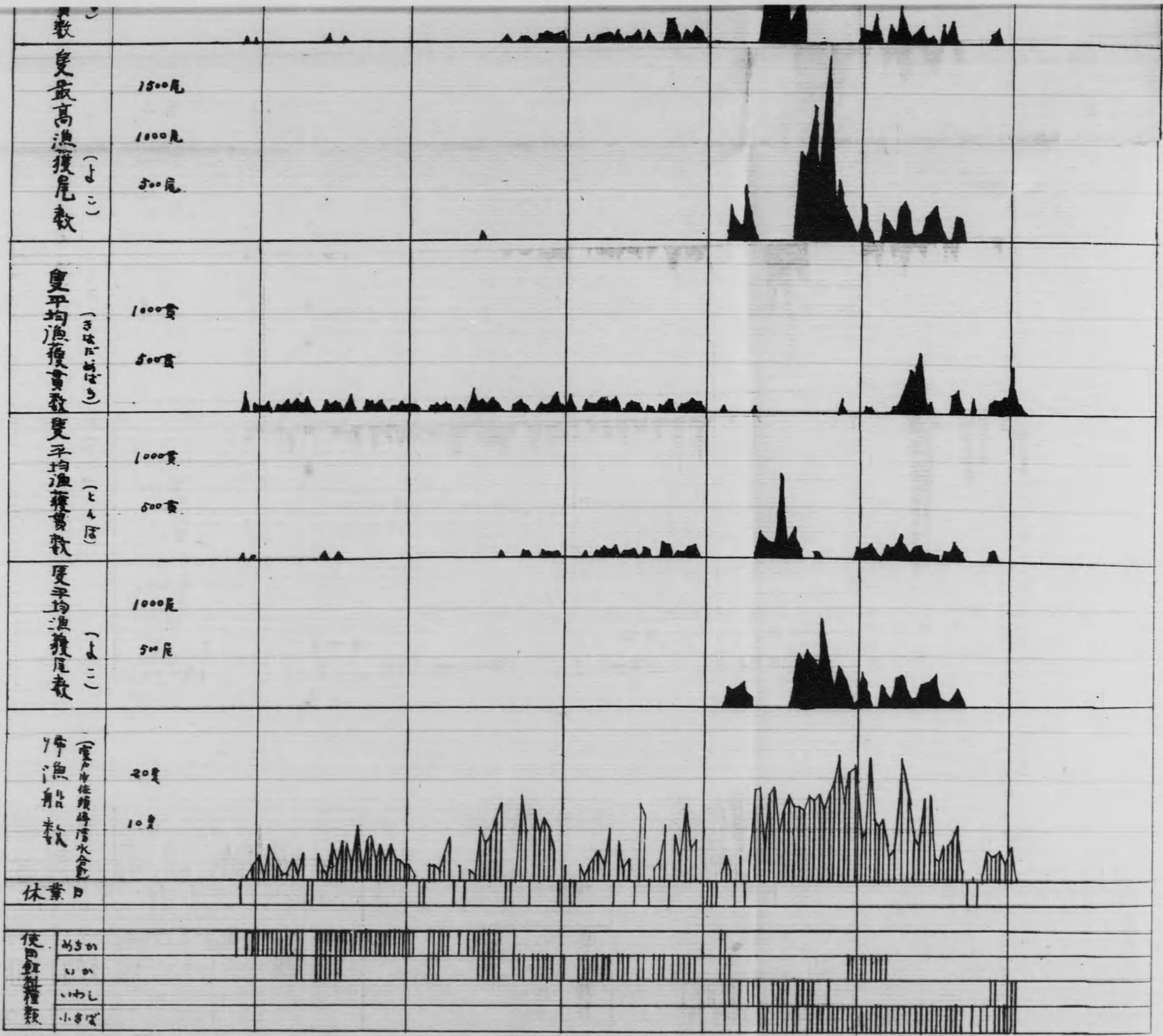
例 凡

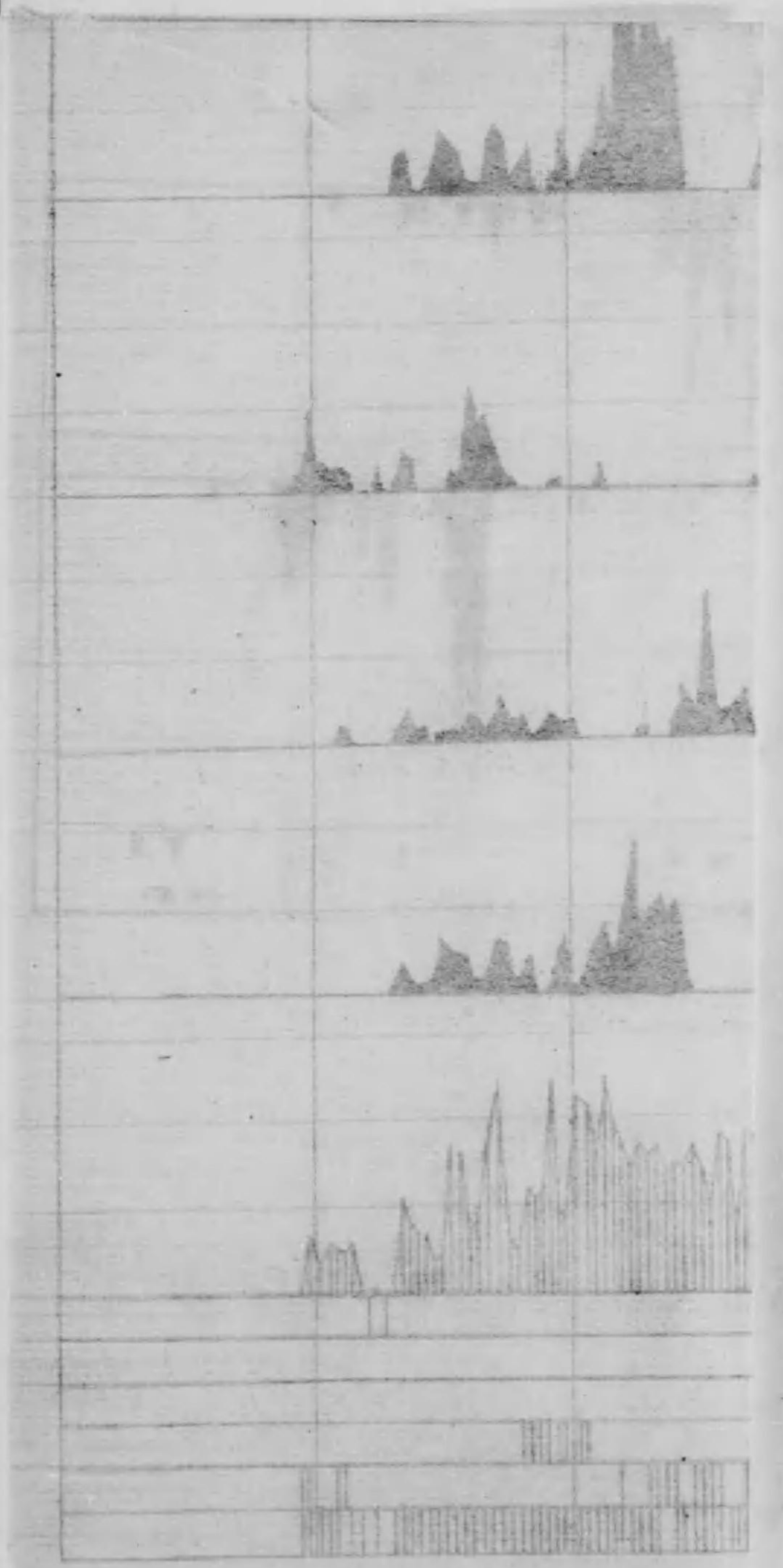
- 二百五十貫未満
 - 五百貫未満
 - 千尾未満
 - 千貫未満
 - 十五百尾未満
 - 十五百貫以上
- 括弧内ノ数字ハ漁獲アリシ日付











第五章 珊瑚新礁探検

一、趣 旨

現今縣下ノ珊瑚ハ次第二荒廢ノ傾向ヲ有スルヲ以テ新礁ヲ探検シ漁場ヲ擴張セムトス

二、經 過

本場所屬漁船高鵬丸ヲ以テ之ヲ施行シ大正七年七月十三日出帆準備ニ着手シ七月十七日須崎港ヲ出帆シタルモ途中天候危惡トナリシヲ以テ幡多郡古満目港ニ避難セシニ打テ續キテノ荒天ノ爲同月二十三日漸ク豊後水道南部ノ漁場ニ到達シ探検ニ從事セリ爾來七月三十一日迄連續探検ニ從事セシカ時恰モ鯉漁期ニシテ該漁場探検ノ必要ニ迫ラレシ爲己ム無ク八月九日迄鯉漁場探検並ニ海洋觀測ニ從ヒ八月十日ヨリ再ビ新礁探検ヲ開始シ八月二十六日ヲ以テ本事業ヲ終了セリ即チ作業期間ハ前後ヲ通シテ三十六日間トス

本年ハ例年ニ稀ナル荒天多キ年ニシテ且ツ霧甚ダ深ク位置測定シ難ク尙風潮反對ニシテ作業不能ノ日多ク爲メニ出漁日數甚タ些ク僅カニ拾貳日ニ過キササルハ誠ニ遺憾ニ堪エサル所ナリトス

三、探 檢 方 法

本年ハ高鵬丸ノミニヨリ之ヲ施行セムトセシカ當業者ノ熱心ナル希望ニヨリ珊瑚漁場關係並ニ珊瑚漁業ニ精通セル幡多郡沖ノ島村弘瀬、小川熊吉ヲ七月二十四日ヨリ七月三十日マテ乗船セシメ更ニ八月十二日ニハ川添傳馬、増本梅猪、山下三次郎、小川熊吉、小川芳吉及三浦訓高、澤近悦馬、小川馬八、島本吉之助四人ノ各所有珊瑚漁船ヲ曳航シ八月十四日ニハ吉川長次島原菊馬ノ二名ヲ、八月十五日ニハ細川良馬、小川寅八ノ二名ヲ、八月十六日ヨリ十八日マテハ小川壽太郎、山下楠馬ヲ乗船セシメ各彼等ノ希望ト有望ト認メラルル漁場ヲ探検セリ而シテ左ニ示スカ如キ多少有望ナル新礁

ヲ發見スルコトヲ得タリ

四、結 果

俗稱「沖ノ瀬」附近鵜來島ヨリ南西四分一南ニ七厘四分ノ三（東徑百三十二度二十三分三十五秒北緯三十二度四十一分五十五秒）ニ於テ從來ハ珊瑚ヲ見サリシモ白珊瑚ノ小ナルモノヲ發見セリ然レトモ再三再四精査セシ結果ニ依レハ此ノ附近ハ底質介殼或ハ小ナル礫石ナルヲ以テ大ナル岩礁ナキカ如シ從テ大ナル珊瑚モ少ナキニアラサルカ尙鵜來島ヨリ北二十六度東へ三厘四分ノ三俗稱鼻前沖三厘半ニ於テ白珊瑚ノ落木（元口徑四分）ヲ發見セリ本位置ハ未タ曾テ珊瑚ヲ全ク見サリシ所ナルガ底質ノ岩ナルヨリ察スレハ或ハ有望ニ非サルカ、鵜來島ヨリ大分縣猪之串ニ至ル間ニ於テ其ノ底質海深等ヲ探檢セシカ時恰モ偏南風卓越シ時々颶風ヲ見潮流ハ上下相反シテ漁具ノ操縦ヲ不能ナラシメ天候ハ濃霧ニ加フルニ曇雨多ク爲ニ陸上ノ目標ノ見エサルコトニヨリテ充分ナル調査ヲ爲シ得サリシト雖本船ノ探檢セシ結果ト水深ノ概況及既知ノ底質トニヨレハ豊後水道中央部以西ニハ殆ト有望ナル所無キカ如ク察セラル然レモ豊後水道中央部以東ニ於テハ附近一般ノ地勢ヨリ察スルニ或ハ此ノ附近海底ニ於テ沖ノ島附近ニ類似セルカ如キ有望ナル岩礁ノ存在スルニアラサルカ一方珊瑚新礁探檢船トシテ高鵬丸ハ稍過大ナルト探檢漁具ノ不完全ナルトハ大ニ探檢ノ能率ヲ減少セシヲ以テ更ニ小型發動機船ト底延繩漁具等ノ一層探檢ニ適スル方策ニ依リ精査セバ或ハ沖ノ島附近ニ劣ラサル有望ナル新礁ノ隠在スルニアラサルカヲ思フ、尙大分縣深島南方九厘ノ附近ヲ探クリシモ前記諸種ノ關係ヨリ何等新礁ヲ發見セサリシト雖底質及生物ノ種類ヨリ推察スルニ更ニ充分探檢ノ價值アル海區ナリト認メラレタリ

之ヲ要スルニ豊後水道中央以西ニハ有望ナル新礁ナキカ如クナルモ中央以東及深島南方沖合ハ更ニ適當ノ方策ニヨリ精細ナル探檢ノ價值アルモノト推定セラル

珊瑚新礁探檢日誌

高鵬丸

自七月十七日
至八月二十六日

月日	天候	風向	風力	平温均	記	事
七月十七日	C.	E	1	26.5	午前九時七分須崎港ヲ出帆ス 午後一時三十分多郡白田川村伊田ニ寄港ス全二時全地出帆全七時天候危惡ノ爲古満目港ニ投錨ス	
十八日	R.	E	1	26.0	天候不真ニシテ海上荒浪操業ナシ離キ爲休業	
十九日	R.Q.	ESE	2	25.66	荒天ニ付休航ス 午前十時雙錨泊トナス	
二十日	G.Q.	ESE	3	26.33	荒天ニ付休航ス 午後五時東方ノ風強烈トナリシヲ以テ同錨泊トナス	
廿一日	C.	NE	1	27.0	荒天休航	
廿二日	R.	ENE	1	26.83	海上静穏ナラス日雨天ノ爲憂慮クシテ位置ノ側定困難ノ爲休航	
廿三日	C	E	1	27.00	午前七時五十分古満目港出帆ス今九時沖ノ島ニ達ス全十一時三十分探檢場ニ於テ珊瑚網ヲ使用セシモ潮流速ク風力強ク波浪高クノ爲沖ノ島ニ向フ 午後四時三十分沖ノ島弘瀬ニ假泊ス此日白珊瑚小枝一ヲ獲ル	
廿四日	C	NE	3	24.66	午前六時三十分廣瀬ヲ出帆シNo.1ニ向テ全七時三十分到達シ投網シ全八時十五分No.2ニ於テ揚網ス全八時五十分No.3ニ於テ投網ス全九時三十分No.4ニ於テ揚網ス海上高浪ノ爲深浦ニ向フ 午後一時三十分深浦ニ錨泊ス	
廿五日	G.Q.	E	2	25.16	荒天休航	

十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日
C.	C.	B.	B.C	B.C	B.	C.P	C.P	C	B.C	B.C
VAR.	SE	S	S	S	SSW	SSE	ESE	S	S	E
1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1
26.66	27.83	28.33	29.33	27.50	29.00	24.83	24.00	27.00	27.33	27.00
午前七時四十分安納地港ヲ出帆シ沖ノ島ノ沖ヲ探檢ス	午前六時廣瀬港ヲ出帆シ探檢場ニ向フ諸点ヲ探檢ス	午前六時廣瀬港ヲ出帆シ探檢場ニ向フ諸点ヲ探檢ス	午後五時三十分廣瀬港ニ碇泊ス	午後五時三十分廣瀬港ニ碇泊ス	午後五時三十分廣瀬港ニ碇泊ス	午後五時三十分廣瀬港ニ碇泊ス	午後五時三十分廣瀬港ニ碇泊ス	午前九時南風強ク爲柏島港ヲ出帆シ安納地港ニ避難ス	前日來ノ南風烈シク休航	午前七時二十五分柏島出帆後水道中央部ニ向ヒ新嶺探檢ニ從テ潮流烈シク網使用ニ適セス

廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	三十日	卅一日	八月	十日	十一日	十二日	十三日					
R.	C.	B.	B.C	B.	B.	C.	C.	C.	R.	R.					
E	S	S	S	S	SSW	NE	E	E	SW	W					
2	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1					
25.16	25.33	25.83	26.16	27.00	26.75	27.5	26.66	24.16	22.83	22.83					
荒天休航	午前九時三十分深浦ヲ出帆ス海上未タ靜穩ナラス船越ニ向テ全十時船越ニ碇泊ス	午前八時三十分船越ヲ出帆ス全九時三十分No.5ニ達ス三回ニ九網ヲ使用シテ白珊瑚小枝ヲ獲ル	午後二時四十分No.6ニ向テ全三時No.6ニ達シ直チニNo.7ニ向テ全三時三十分No.7ニ到リシモ底質見込ナキ爲No.8ニ向テ全四時三十分No.8ニ達シ二回投網シ白珊瑚小枝一個ヲ獲ル全六時十五分廣瀬港ニ碇泊ス	午前六時廣瀬港ヲ出帆ス 聖島沖ノ諸点ヲ探檢シ午後四時二十分深島沖ニ向テ	午後四時三十分深島沖探檢ヲ了シ猪ノ串港ニ向テ全七時五十分猪ノ串港ニ碇泊ス	午前六時四十分猪ノ串港ヲ出帆ス全八時四十分探檢場ニ着ス	午後二時四十分探檢場ヲ引キ揚ケ沖ノ島ニ向テ全二時三十分同島ニ着シ淡水ヲ積ミトリ清水港ニ向テ	午後二時須崎港ニ碇泊ス	午前六時五十分清水港ヲ出帆シ須崎港ニ向テ	八月一日ヨリ同月九日マテ總漁場探檢ニ海洋観測ニ從事ス	清水港ニ碇泊中本場ヨリ珊瑚新嶺探檢ニ從事ノ命ヲ受ク	午前六時三十分清水港ヲ出帆シ沖ノ島ニ向テ全十時三十分沖ノ島ニ着シ探檢準備ヲナス	午前五時沖ノ島ヲ出帆シ諸点ヲ探檢シ	午後四時三十分安納地港ニ碇泊ス	雨天ノ爲休航

廿五日	B.	S	1	25.33	午前六時十分安藤川港出帆新礁探検ニ從テ潮流烈シク不順ニシテ事業困難ニ且ツ偏南風早感シテ常ニ上 午湖ト反シ網使用ニ適セズ 午後一時清水港ニ碇泊ス
廿六日	B.	NE	1	26.33	午前七時移礁探検ノ爲移礁場ニ向テ潮流不順ニシテ採取不可能 全十時三十分清水港ニ入ル 本日ヲ以テ本年度ノ珊瑚新礁探検ヲ終了ス

註記

七月二十四日漁場位置

七月二十八日漁場位置

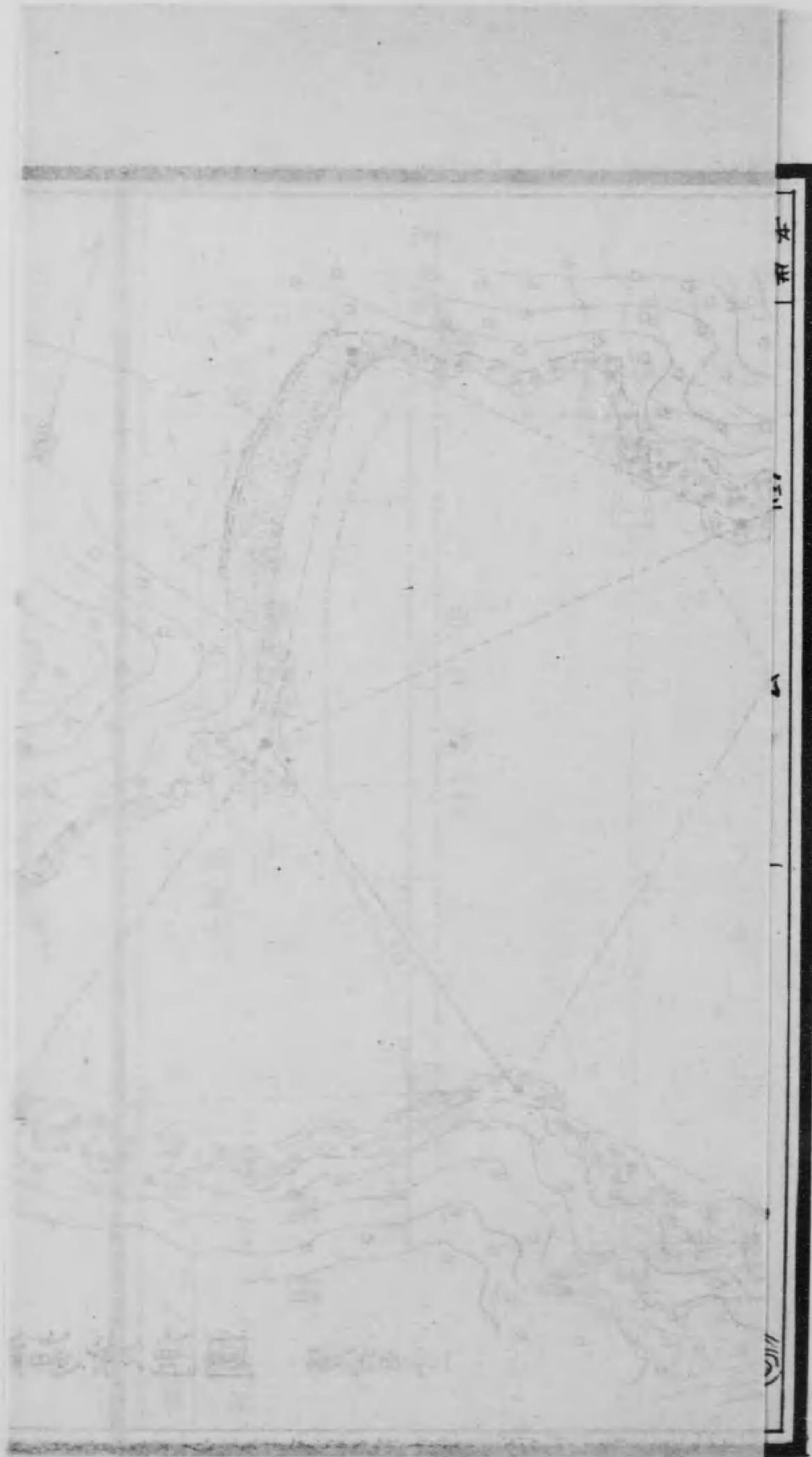
番號	經度(東)	緯度(北)
No.1	一三三度二二分	三三度四二分四五
No.2	一三三度二二分二五	三三度四三度〇〇
No.3	一三三度二〇分三〇	三三度四三度四〇
No.4	一三三度一九分五〇	三三度四三度一七

番號	經度(東)	緯度(北)
No.5	一三三度二七分〇〇	三三度五一分〇〇
No.6	一三三度二六度〇〇	三三度四九度〇五
No.7	一三三度二五度二〇	三三度四九度〇〇
No.8	一三三度二八度一五	三三度四六度一五

第六章 立切網使用鰻著養試驗

一、趣意

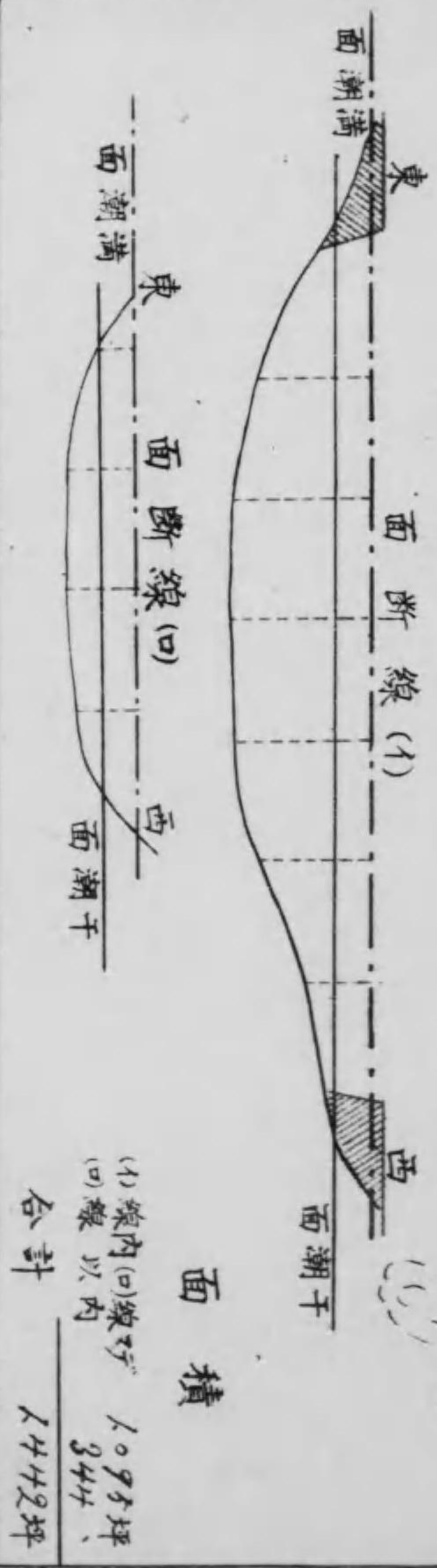
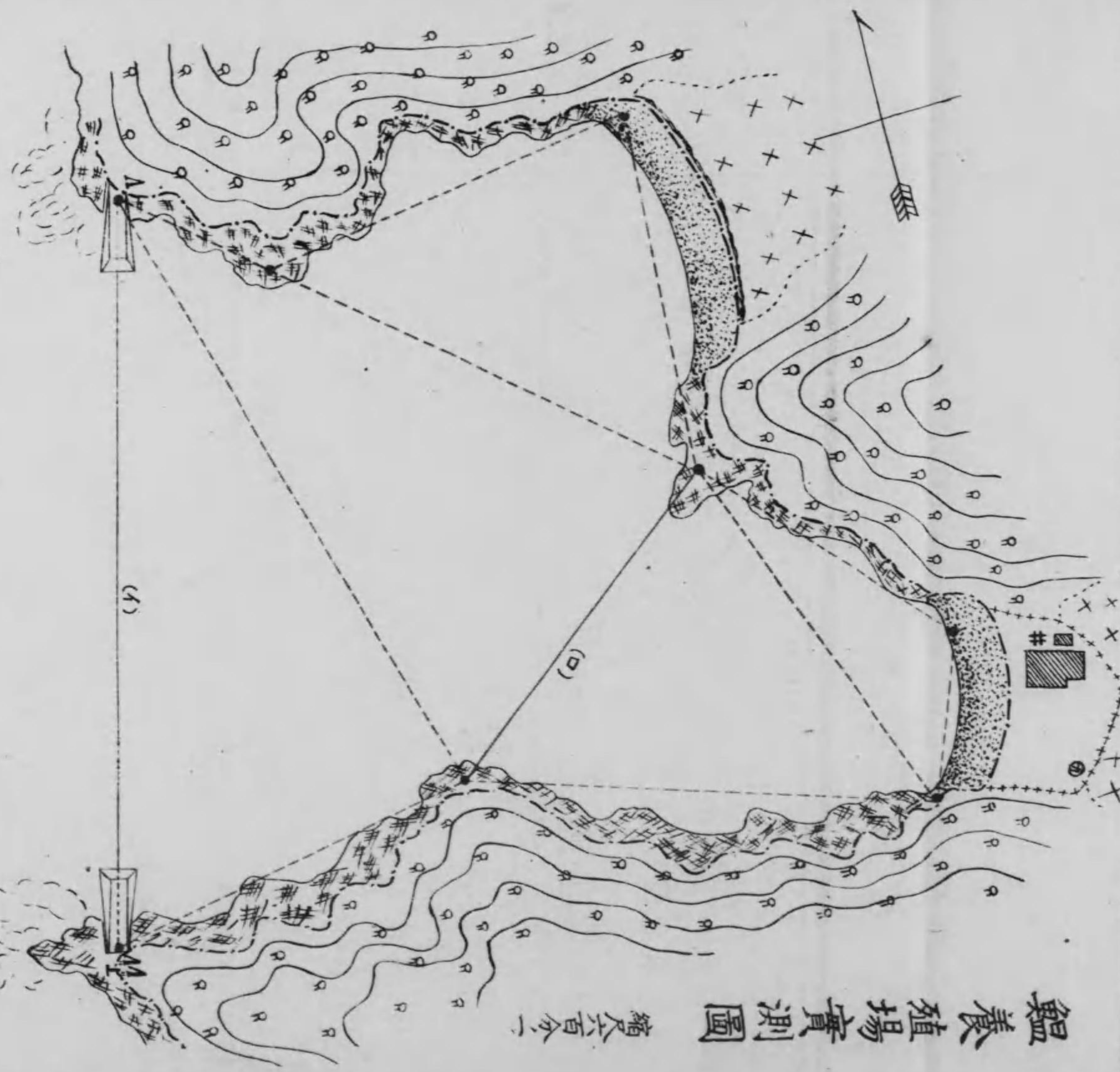
鯉漁業ト鰻トハ密接ノ關係アリ而シテ近時該漁業發動機付漁船ヲ使用スルノ結果漁場ノ範圍擴張セラレ從ツテ其餌料タル鰻ノ需要益増加セリ然ルニ鰻ノ不漁ハ其供給ノ圓滑ヲ欠キ鯉群ノ來游ヲ知ルモ餌料鰻欠乏ノ爲メ空手傍觀ノ止ムヲ得ザルニ到ルコト屢々ナリ斯ノ如キハ實ニ縣下鯉漁業ノ發達上甚ダ遺憾トスル所ナリ茲ニ於テ本場ハ之ガ救済ノ途ハ獨リ餌料鰻ノ著養ニアルヲ認メ該事業ニ關シ其設備方法等ニツキ試驗ヲ施行シテ之ガ普及ヲ圖リ以テ鯉漁業ノ圓滿ナル發達ヲナサシメントスルニアリ



ザルニ到ルコト屢々ナリ斯ノ如キハ實ニ縣下鯉漁業ノ發達上甚ダ遺憾トスル所ナリ茲ニ於テ本場ニ於テ
 餌料船ノ著養ニアルヲ認メ該事業ニ關シ其設備方法等ニツキ試驗ヲ施行シテ之ガ普及ヲ圖リ以テ鯉漁業ノ圓滿ナル發達
 ヲナサシメントスルニアリ



- 凡例
- ◻ 看守場敷地
 - ◻ 石堤
 - ◻ 看守場舎
 - 岩礁
 - # 井
 - ④ 深網場
 - 櫛葉樹林
 - △ 老松樹
 - 1 井上真球養殖場標坑
 - K 間六尺
 - S 尺
- 備考
 本圖面点線長、測定之依リテ製出
 最上水深尺以下亦最高測面ヨリ計ル
 最高最低潮差七尺





一、位置及面積

試驗池ハ高岡郡浦内村大字福良姥ヶ懐ト稱スル所ニシテ高岡郡浦内灣内福良灣口ニ面シタル面積壹千四百四拾壹坪ノ灣澳ナリ

二、試驗池周圍ノ狀態

試驗池ハ南東北ニ雜木山ヲ負ヒ沿岸ハ岩礁ニシテ殆ント平坦ナル個所ナク僅カニ東北部及南東部ニ約六十坪内外ノ畑地アリ之ノ部分ノ海濱ノミ砂質ニシテ地水ノ多少ハ此部分ヨリ滲出スレトモ他ニ淡水ノ注入スルモノナシ

三、交通ノ便否

試驗池附近ニハ人家ナク南方福良迄陸路約十三町他ハ殆ント海路ニヨルノ外ナク郵便局所在地高岡郡宇佐村迄海路約三哩アリ總テノ入用品ノ供給ハ海路最短距離約二哩最長距離約四哩ノ地ヨリ仰ガザルベカラズ而シテ浦内灣口ヨリノ距離約四哩アリ全灣口附近ハ砂ノタメ漸次水深ヲ減ズル傾向アリト雖モ小型發動機付漁船ノ交通ニハ差支ナシ然レドモ大ニ於テ交通至便ナル地ナリト云フヲ得ズ

四、水深、干満ノ差及潮流

水深最深部ニ於テ滿潮時三十五尺ニ達シ干満ノ差七尺ニ及ブ潮流ノ流通及其速度ハ甚シカラズ

五、底質及底形

底質ハ沿岸ニ近キ部分ハ岩礁ナレモ他ハ殆ント泥砂ヨリ成ル底形ハ灣口ニ於テハ其距離四十六間アリ其北突角ノ岩礁ヲ離レテ砂泥底ノ部ニ入り南方十二間ノ間ハ傾斜ヲナシ又南突角暗礁ヨリ十二間ノ處ヨリハ砂泥ニシテ此ノ間傾斜ヲナスコト北方ニ同ジ中央部ニ於テハ南北兩岩礁ヲ離レテ後ハ傾斜殆ントナシ

六、水 質

全部鹹水ニシテ夏期最高水温表面三十度五、全下層二十九度五ニ八月觀測ニ達シ冬期最低水温表面五度八、全下層六度(一月觀測)ニ至ル海水比重ハ最高二、〇二七二最低一、〇〇四三ナレモ普通一、〇二〇内外ヲ示セリ

七、生物ノ種類

主ナル生物ノ種類ハ次ノ如シ

(イ)魚 類

- ふ ぐ はたてだひ
- う な ぎ かぶかきだい
- あ な ぎ め じ な(方言グレ)
- ち の め あ ぢ
- ほ ら む つ(方言モツ)
- す しゃ き まい わ し(方言コベラ)
- し ま い さ き(方言スミヒキ) かたくりいわし(方言マイワシ)
- や が ら ん ぎんいそいわし(方言トンゴロイワシ)
- ね い り た い わ ん ぎ ん ば
- わ か な い ざ り う を
- お こ せ こ ば ん あ ぢ(方言アメノウオ?)
- ひ い ら ぎ(方言ニロヤ) は せ

きびなご

等其主ナルモノナリ

(ロ)甲 殻 類

- こ ゑ び か ま す
- も く が に(方言ツガニ) く る ま ね び
- ど が り あ ふ ぎ が に(方言スモウトリ) べ に あ ふ ぎ が に(方言サルガニ)
- が ざ み(方言トワタリ) ふ た は た ら み た

等ナリ

(ハ)腹 足 類

- あ か に し れ い し
- い し だ ぐ み 等

(ニ)斧 足 類

- ひ あ ふ ぎ(方言チヨウタロガヒ) に し き が ひ(方言イワチヨウタロガヒ)
- き く ざ る い た や が い
- め ん が い か き
- け が き あ こ や が い
- あ さ り お に あ さ り(方言シホフキ)
- か り が ね た い ら ぎ 屬(方言サイトウガヒ)等

(ホ) 頭足類

まいか

以上ノ外ウに類海綿類水母類生息ス

八、天然餌料ノ多寡

天然餌料ハ豊富ニシテ夏期ニ於ケル主ナル種類ハ *Labiocera*, *Chaetoceros*, *Certhium*, *Tintinopsis* 及び斧足類腹足類ノ幼虫等ナリ而シテ就中 *Labiocera* ハ量ニ於テ最も多ク *Chaetoceros* ハ之ニ次ゲリ

九、水害赤潮ノ有無

之等ノ恐レナシ

一〇、害敵及其種類

ふぐ、うなぎ、ちぬ、ばら、すゞき、しまいさき、さば、はせ、かます等ナリ

三、設 備

蓄養池ヲ造ルニハ灣澳ノ内外ヲ區劃スル必要アリ其區劃ニハ立切網ヲ用ヒ立切網ハ之ヲ灣澳ノ兩岸ニ取付ケザルベカラズ而シテ其必要上灣澳ノ口ニ於テ北突角及ビ南突角ニ石堤ヲ造レリ

一、石堤ノ構造

石堤ハ灣澳口ノ南北兩突角ニ大正六年度ニ於テ築造セリ兩堤共ニ延長各四間高サ平均一間一分馬路巾一間鏡通りノ高サ一間八分ニシテ全部三分法ヲ以テ築ケリ之ニ使用セル材料ハ割石三十六石ニテ角石ハ長サ一尺八寸巾一尺高サ八寸ノモノヲ用ヒ内部ハ栗石詰トセリ而シテ鏡通りノ中央ニハ立切網ノ結付ニ便ナラシムル爲メ網持石トシテ長サ五尺五寸巾一尺厚サ五寸ノ切石ヲ二本續トシテ築石面ヨリ外部ニ二寸ヲ顯シ内部ニ八寸ヲ築キ込ミ裏込コンクリートニヨリ充分ニ付

着セシメ其顯出部ノ兩側ニハ約五分ノ穴ヲ一尺五寸間隔ニ穿テリ而シテ鏡通り及ビ角石、角脇ハコンクリート裏込トセリ石堤ハ前記ノ如ク築造セルモ大正七年七月十二日ノ大暴風雨ニ際シ浦内灣内ニ未曾有ノ最大滿潮面ヲ現ハシ爲メニ海水ハ石堤上二尺ニ達シ不慮ノ損害ヲ來セルヲ以テ大正八年度ニ於テ其增高工事ヲナシ更ニ高サ三尺ヲ増加セリ

二、立切網

立切網ハ全部コールター染トナシ二種ヲ調製セリ一種ハ第一立切網ニシテ灣澳ノ口ヲ立切ルニ用フルモノニシテ他ノ一種ハ第二立切網ニシテ灣内ノ内部ニ於テ必要ニ應ジ立切ニ用フルモノニシテ細目ナル網ニテ造レリ而シテ各網共ニ換網一網宛準備セリ

(イ) 第一立切網ノ構造……………網ハ圓ノ如ク横縫トナシ上底兩部ニハ返網ヲ附セリ之ニ使用セル網地ハ大正六年度ニ於テハ網ノ上端ヨリ(返網ヲ除ク)四反迄ハ貳號綿糸六本合百掛二十三節トシ其レ以下ノ八反及返網ハ二十節ヲ用ヒ大正七年度ニ於テハ全部二十二節ニテ製作セリ而シテ兩者共ニ浮子肩出來上リ延長四十三間網立ノ出來上リ最長部八間二尺ニシテ兩端狭ク沈子肩出來上リ延長四十五間二尺トシ尙取扱ニ便ナラシムルガ爲メ全網ヲ二分シ得ル様ニ作レリ大正八年度ニ於テハ大正六、七兩年度ノ經驗ニヨリ害敵稚魚ノ侵入ヲ防止スルニハ成ルベク細目ナルヲ可トスルヲ認メ全部八六百掛ノ縦織ヲ用ヒ返網ノミハ廿二節以テシ尙全網ヲ三分シ得ル構造トナシ網立ハ石堤ノ高サヲ増シタルニヨリ最長部九間ニ仕上ゲタリ

附屬材料ノ種類及大サ

- (一) 綠糸及方糸……………九十本合綿糸ヲ用ヒ綠糸ハ網ノ周圍全接續部及返網ノ周圍ニ方糸ハ大正六、七兩年度ニ於テハ上下間ニ二筋、二部分間ニ五筋ヲ入レタレモ大正八年度ニ於テハ上下間ニ四筋三部分間ニ四筋ヲ入レタリ
- (二) 沈子及ビ沈子網……………主沈子ハ二寸五分角長サ五寸ノ人造石ニテ造リ其上下兩面ノ中央ニハ溝ヲ穿テ沈子網ヲ此ノ

溝ニ嵌メ込ミテ沈子ノ脱落スルヲ防グリ下部返網ニ付スル小沈子ハ壹個二十夕内外ノ瓦製ヲ用ヒタリ
主沈子ニ用フル沈子網ハ五分徑ノ藁網ヲ以テシ主沈子ヲ嵌込ミタル兩側ハ棕櫚小繩ヲ以テ結ベリ而シテ主沈子ノ間
隔ハ壹間ニツキ三個ノ割合トセリ

小沈子ニ用フル沈子網ハ四分徑ノ藁繩ヲ用ヒ沈子ノ間隔ハ壹尺トセリ

(三) 浮子及浮子網……浮子ハ直徑三寸乃至四寸内外ノ竹ヲ長サ五尺ニ切斷セルモノヲ以テシ浮子網ハ八分徑棕櫚網ヲ
用ヒタリ而シテ浮子竹二本ヲ結ビ合セテ二間ニ壹個ノ割合ヲ以テ浮子網ニ結付セリ

(四) 立切網兩袖ノ結付方法……立切網兩袖ハ松丸太ヲ二割シテ造リタル袖木ニ取リ付ケ此袖木ヲ石堤ノ網持石ニ結ベ
リ

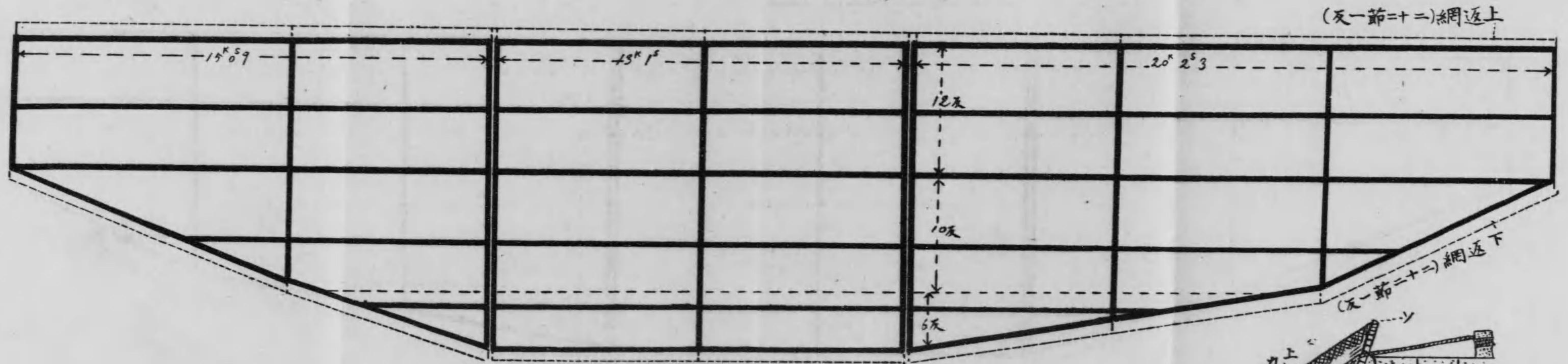
(ロ) 第二立切網ノ構造……材料ハ縲織ヲ用ヒタル外構造ハ第一立切網ト大差ナク其大サハ浮子肩出來上リ延長二十八間
四尺網立ノ出來上リ最長部三間四尺トシ沈子肩出來上リ延長廿九間三尺トナシ全網ハ之ヲ二分シ取扱ヒニ便ニセリ

三、看守人住宅及物置

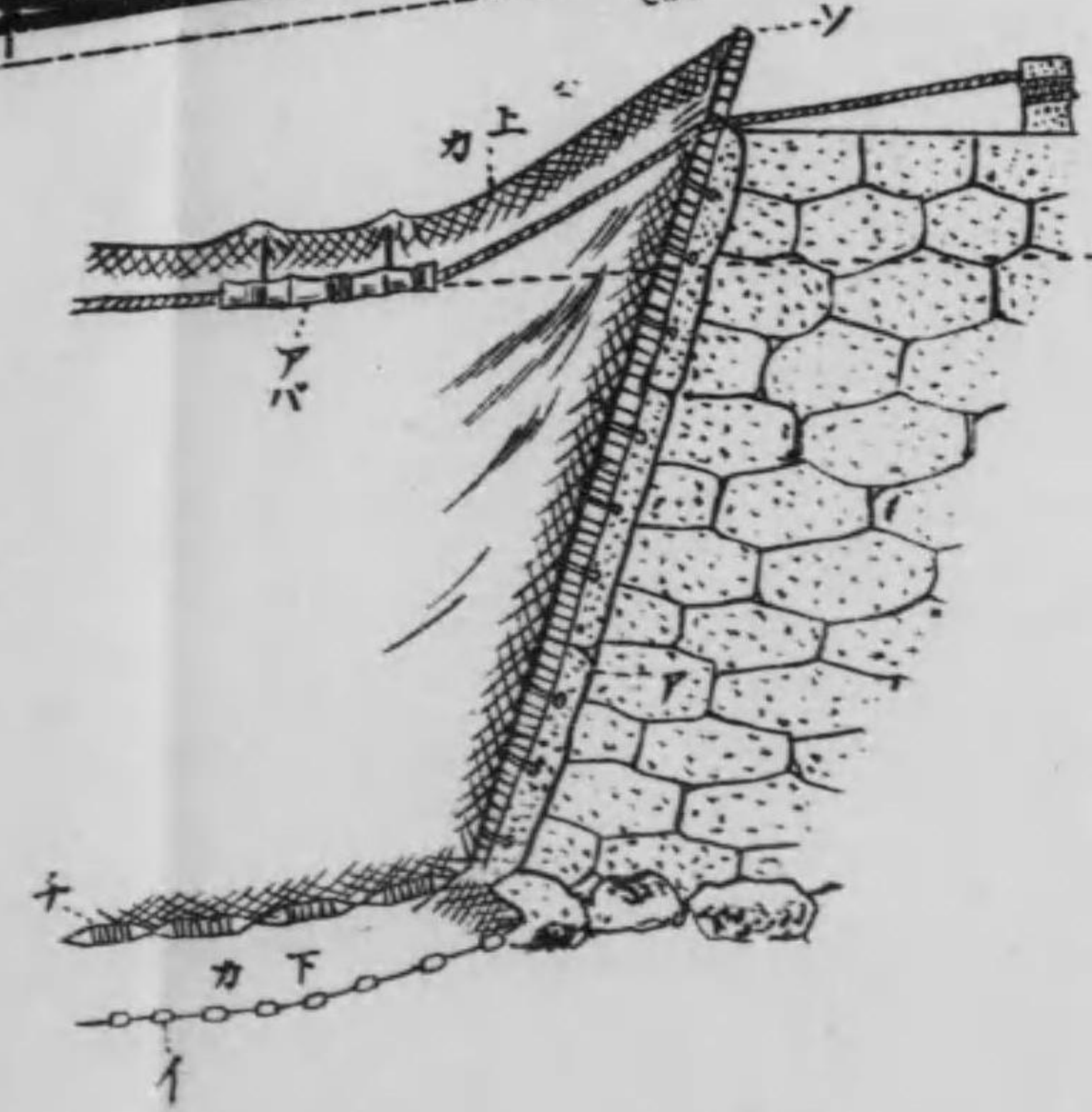
看守人住宅ハ木造平家建屋根切妻造リ杉皮葺一棟ニシテ看守人ハ試驗期間中此ノ家屋内ニ住居スルヲ得セシメタリ物置
ハ看守人住宅ニ接續シ梁行貳間桁行貳間半ノ大サニ建築セリ而シテ之等ノ總建坪ハ六坪五合ヲ要セリ



第壹圖



第貳圖



圖解

第壹圖

第壹立切網、構造

大正八年度使用セルモノ
圖中大線ハカ糸及緑糸
ナリ

第貳圖

第壹立切網、取付ヲ示ス

- ソ……袖木
- 上カ……上返網
- 下カ……下返網
- アハ……竹浮子
- ア……網持石
- チ……主沈子
- イ……カラツイワ